

平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

地域包括ケアにおける介護職員の専門性に着目した
多様なキャリアパスと人材確保に関する調査研究

報 告 書

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人

介護人材キャリア開発機構

はじめに

今後人口の高齢化がさらに進む中で、社会保障国民会議のシミュレーションでは、2025年に必要となる介護職員は212～255万人と見込まれており、今後100万人程度の増加が必要とされている。地域包括ケアのもとでは、地域で暮らし続けることを支援するために、状態像に応じた継続的なケアが想定され、自宅・地域での活動や参加の維持・向上を達成するためのケアの専門性がより要求されるとともに他職種や地域のさまざまな人と連携をとっていく力が必要である。地域包括ケアの普及のためには、このような新たな専門性を持った人材を必要としており、介護職員全体の必要人数を掲げた人材確保策では、必要な人材を確保できないというミスマッチが生じる可能性がある。とくに、身体ケアと療養ケアの両方を必要とする重度の要介護者や中・重度の認知症高齢者が、地域で暮らすことを支援するためには、短時間の支援場面での関わりの中で個々の生活課題を観察、アセスメントし、社会的関係の調整等を含む総合的な支援を実施し、医療等の多職種と共通言語でつなぐ力が求められるなど、より高い能力が必要とされる。現在のサービスでは、小規模多機能型居宅介護、複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）や定期巡回・随時対応型訪問介護看護にこのような包括的な支援が期待される。地域包括ケアの成功には、こうした包括的な機能を持つ介護サービスが不可欠であり、それを支える高い能力を持つ介護人材を一定数以上育成し、その専門性に応じた評価を行うことで職場に定着させる方策が必須であろう。

本調査研究事業では、小規模多機能型居宅介護を中心とした地域での包括的ケアを担うサービスで必要とされる介護職の行動や能力について明らかにすることを目的とした。そのために、複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のほかに、施設において中・重度者へのケアを担っている介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、昼間のケアを中心に行っている通所介護、訪問介護を対象として、介護職員に求められる行動や能力の違いを比較し、その結果から、地域包括ケアの下でのケアにおいて求められる介護人材の能力を提案し、その養成のために求められる教育上の課題に関する提言をまとめたものである。

本調査研究事業の成果が、地域包括ケアにおける介護人材の育成の推進に寄与できれば幸いである。

特定非営利活動法人介護人材キャリア開発機構
理事長 山田尋志

目次

はじめに

第1章 本調査研究事業における調査の概要

1. 調査研究事業の目的-----	1
2. 研究事業の枠組み-----	1
3. 調査の概要と方法-----	3
4. 事業の実施体制 -----	6

第2章 全国事業所・施設調査

1. 調査方法-----	9
2. 調査結果-----	9
3. まとめ-----	25

第3章 業務遂行と背景要因に関する調査

1. 調査方法-----	27
2. 調査結果（1）事業所・施設の属性-----	29
3. 調査結果（2）調査に回答した介護職員の属性-----	34
4. 調査結果（3）業務遂行と達成に関する項目-----	39
5. 調査結果（4）背景要因-----	56
6. 調査結果（5）業務達成度と背景要因の関連-----	77
7. まとめ-----	87

第4章 業務量に関する調査

1. 業務量に関する観察調査

(1) 目的	89
(2) 調査対象者	89
(3) 方法	90
(4) 結果	92
(5) 考察	100

2. 業務量に関する質問紙調査

(1) 目的	101
(2) 調査対象者	101
(3) 方法	101
(4) 回収状況	102
(5) 結果1 事業所・施設の属性	103
(6) 結果2 回答した介護職員の属性	110
(7) 結果3 業務量の状況	113
(8) 業務量の分析と比較	132

3. まとめ

	141
--	-----

第5章 ヒアリング調査

1. 目的	143
2. 方法	143
3. 結果	145
4. まとめ	155

第6章 まとめと提言

1. 調査結果の概要	157
2. まとめと提言	168

資料	171
----	-----

第1章 本調査研究事業における調査の概要

1 調査研究事業の目的

地域包括ケアの構築においては、身体ケアと療養ケアの両方を必要とする重度の要介護者や中・重度の認知症高齢者が、可能な限り地域で暮らすことを支援することにチャレンジしていく必要がある。それを可能とするためには、短時間の支援場面での関わりの中で個々の生活課題を把握し、社会的関係の調整等を含む総合的な支援を実施し、医療等の多職種と共通言語でつなぐ力が求められるなど、より高い能力が必要とされる。現在の介護サービスでは小規模多機能型居宅介護・複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）や定期巡回・随時対応型訪問介護看護にこのような役割が特に期待されるところであり、地域包括ケアの成功には、このようなサービスにおいて、高い能力を持つ介護人材を一定数以上育成し、その専門性に応じた評価を行い、職場に定着させる方策が必要である。

本調査研究事業では、地域で中・重度の要介護者向けに総合的支援を提供する役割を担うことが期待される小規模多機能型居宅介護を中心とした地域での包括的ケアを担うサービスで、必要とされる介護職の行動や能力について明らかにすることを目的とした。そのために、施設において中・重度者へのケアを担っている介護老人福祉施設、昼間のケアを中心に行っている通所介護、訪問介護を対象として、介護職員の業務内容および求められる行動や能力の違いを比較する。その結果から、地域包括ケアの下でのニーズに応じて介護職員に求められる能力を明らかにし、求められる教育の課程に関する提言を行う。

2 研究事業の枠組み

（1）調査研究事業の枠組み

本研究は、小規模多機能型居宅介護事業所や定期巡回・随時対応型居宅介護事業所などの、地域包括ケアにおいて中核となるようなサービスを担う介護職員の介護業務とそれを支えるコンピテンシーや職場環境について、明らかにすることを目的とした。小規模多機能型居宅介護事業所や定期巡回・随時対応型居宅介護事業所では、要介護者が地域で暮らし続けるために24時間態勢で頻回に支援を実施し、また、地域での人間関係の継続を念頭に置くなどのこれまであまり見られなかった新しいサービス内容を含んでいると考えられる。

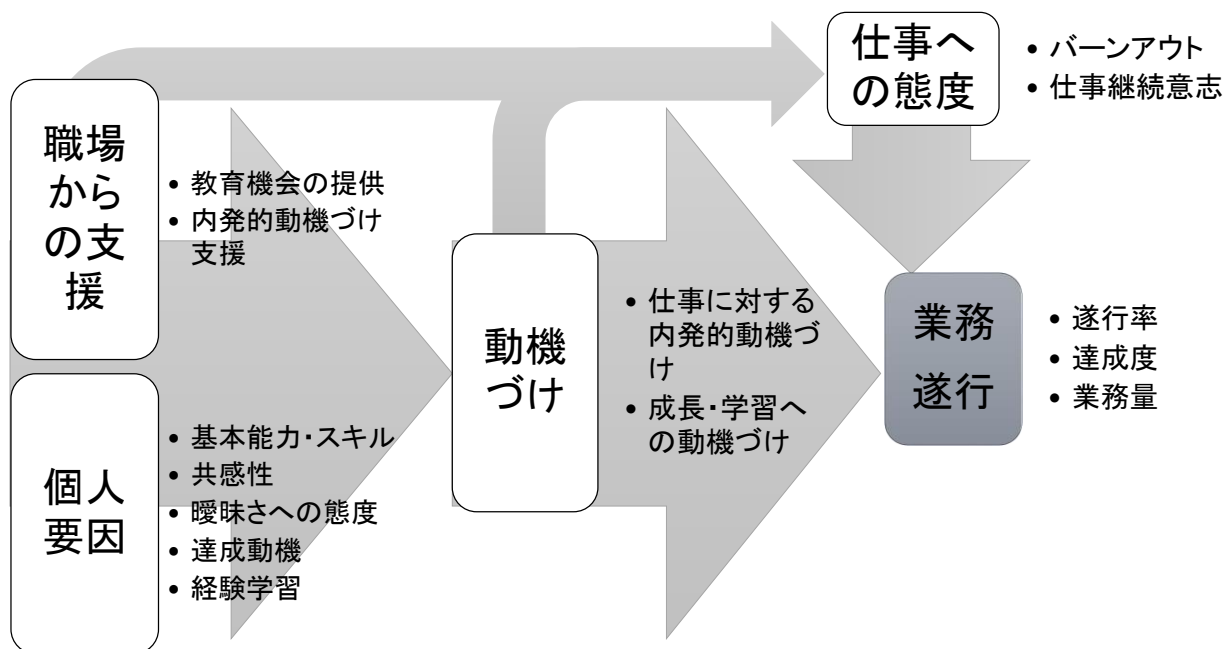
そこで、本研究事業では、方法としては、質問紙調査、観察調査、ヒアリング調査等によって、小規模多機能型居宅介護事業所（複合型サービスを含む）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の介護業務およびそれを担う介護職員の特性等を多面的に明らかにすることを目指す。そのために介護老人福祉施設、通所介護事業所、訪問介護事業所との比較を通じて、地域包括ケアシステムの中で中核となる小規模多機能型居宅介護事業所（複合型サービスを含む）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の地域包括ケアのなかで必要とされるケアの遂行と背景となるコンピテンシーの関係と介護職員が担う業務内容の特徴を明らかにする。

(2) ケアの遂行とコンピテンシーの関係に関する仮説モデル

本調査研究事業では、図表1-1のように、業務遂行に影響を及ぼす要因として、能力・スキルについては、まず「個人要因」として、仕事に対する基本能力・スキル、共感の特性・体験（利用者、職員間）、曖昧さへの態度、達成動機の強さ、経験学習への取り組みを、「環境要因（職場からの支援）」として、教育機会の提供、内発的動機づけへの支援を構成要素として考えた。また、そこから影響を受ける仕事に対する内発的動機-外発的動機の傾向、成長・学習への動機づけを「動機づけ要因」として取り上げ、さらにバーンアウト、仕事継続意思を「仕事への態度」として取り上げた。

また、業務遂行の評価については、特に小規模多機能型居宅介護を念頭において、必要とされる業務に関して、①WHOが刊行した慢性期のケアに必要とされるコンピテンシーのうち「患者中心ケア」に含まれる4要素（効果的な声かけとコミュニケーション・健康関連行動変容への働きかけ・セルフマネジメントへの支援・プロアクティブアプローチ）、②厚生労働省ジョブ・カード制度における「職務遂行のための基本的能力」をそれぞれ反映した項目を作成した。

この仮説モデルに沿って、質問紙調査を設計するとともに、ヒアリング調査等を実施することとした。



図表 1-1 本研究事業における仮説モデル

(3) 介護職員が担う業務内容の調査

本調査研究事業では、小規模多機能型居宅介護事業所（複合型サービスを含む）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の介護業務の特徴を明らかにするために、介護職員の業務内容について、自己記入によって、調査を行うこととした。

3 調査の概要と方法

(1) 全国事業所・施設調査（結果は第2章）

小規模多機能型居宅介護事業所、複合型サービス事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所、介護老人福祉施設、通所介護事業所、訪問介護事業所を対象に介護職員調査への協力依頼を行うことを主たる目的として、事業所の概況、介護職員の状況、利用者の状況、介護職員の採用・人材育成・キャリアパスの状況等の事業所・施設の特性について質問紙調査を郵送調査にて実施した。

調査対象となる事業所・施設のサンプリングは以下の手順で行った。平成26年6月末日時点で各都道府県の介護サービス情報公表システムに登録された小規模多機能型居宅介護事業所、複合型サービス事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の全数を調査対象とした。また、平成26年6月末日時点で各都道府県の介護サービス情報公表システムに登録された介護老人福祉施設、通所介護事業所、訪問介護事業所から各1000事業所を下記の基準（図表1-2）で無作為抽出を行い、調査対象事業所・施設を決定した。合計7582事業所・施設を全国事業所・施設調査の調査対象とした。都道府県別の調査対象事業所・施設数を図表1-3に示した。

図表1-2 全国事業所・施設調査における無作為抽出の基準

事業所・施設種別	抽出基準
介護老人福祉施設	定員が50人以上100名以下で、かつユニット型の施設を都道府県別に抽出し、都道府県あたりの抽出事業所数が均等になるように配分した。ただし、事業所規模やシステム登録が少ない県等においては、抽出数が他県と均等な数に満たないことから、抽出しきれなかった場合は、他の都道府県から抽出した。
通所介護事業所	定員が20人以上30人以下の事業所を都道府県別に均等に抽出した。
訪問介護事業所	在籍する訪問介護員数が49人以下の事業所を都道府県別に均等に抽出した。

図表 1-3 全国事業所・施設調査の対象事業所・施設数（都道府県・サービス種別）

	小規模 多機能	複合型	定期巡回	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
北海道	241	10	29	24	22	22
青森	28	2	0	19	21	21
岩手	64	1	0	23	21	21
宮城	40	0	0	23	21	22
秋田	64	1	0	18	21	21
山形	88	3	2	21	21	21
福島	94	4	6	23	21	21
茨城	63	0	0	24	22	21
栃木	76	0	0	23	21	21
群馬	96	2	3	23	21	21
埼玉	91	1	17	24	22	22
千葉	89	1	8	23	22	22
東京	144	6	51	23	22	22
神奈川	225	8	28	24	22	22
新潟	149	4	7	24	22	21
富山	63	0	5	21	21	21
石川	67	0	4	23	21	21
福井	71	0	7	23	21	21
山梨	16	0	0	18	21	21
長野	63	0	0	23	21	21
岐阜	73	0	4	24	21	21
静岡	114	1	6	24	22	21
愛知	148	4	15	24	22	22
三重	54	1	3	24	21	21
滋賀	50	0	0	23	21	21
京都	105	0	2	23	21	21
大阪	150	2	7	24	22	22
兵庫	149	0	0	24	22	22
奈良	33	1	5	23	21	21
和歌山	36	1	1	23	21	22
鳥取	53	4	7	17	21	21
島根	65	1	0	17	21	21
岡山	152	0	1	23	21	21
広島	183	4	12	23	22	22
山口	68	0	2	23	21	21
徳島	29	1	0	8	21	21
香川	39	1	2	21	21	21
愛媛	102	2	0	17	21	21
高知	28	0	0	10	21	21
福岡	236	7	11	24	22	22
佐賀	42	2	1	19	21	21
長崎	103	2	3	23	21	21
熊本	133	1	6	23	21	22
大分	39	1	4	23	21	21
宮崎	46	0	0	18	21	21
鹿児島	99	1	10	24	21	21
沖縄	71	1	0	4	21	21
合計	4232	81	269	1000	1000	1000

(2) 介護職員を対象とした全国調査（結果は第3・4章）

全国事業所・施設調査の調査票とともに、所属の介護職員のうち、常勤者と非常勤で週に概ね20時間以上勤務している者を対象とした調査について、調査概要説明、調査協力承諾書とともに調査協力依頼書を同封した。その結果、568事業所から、職員調査への協力の同意を得ることができた（内訳は図表1-4を参照）。

1) 業務遂行と背景要因に関する調査（1回目調査）

同意を得た事業所・施設の中から、「業務遂行と背景要因に関する調査」の対象とする事業所・施設について、当初計画に沿って244事業所・施設を無作為に抽出した。各事業所・施設からの調査対象となる介護職員数の申告に基づき、調査票をまとめて送付し、施設・事業所ごとに回収後に返送することを依頼した。送付した調査票数は3471名分であった。

2) 業務量に関する調査

次に、1)の調査の対象とならなかった事業所・施設の中から、「業務量に関する調査」の対象とする事業所・施設について、当初計画より対象を増やして110事業所・施設を無作為に抽出した。各事業所・施設からの調査対象となる介護職員数の申告に基づき、調査票をまとめて送付し、施設・事業所ごとに回収後に返送することを依頼した。送付した調査票数は1683名分であった。

3) 業務遂行と背景要因に関する調査（2回目調査）

職員調査への同意を得た事業所・施設が予定よりも大幅に多かったため、さらに「業務遂行と背景要因に関する調査」を214事業所・施設を対象として実施した。各事業所・施設からの調査対象となる介護職員数の申告に基づき、調査票をまとめて送付し、施設・事業所ごとに回収後に返送することを依頼した。送付した調査票数は2924名分であった。

以上の手続きにより、業務遂行と背景要因に関する調査については458事業所・施設（配布調査票数：6395名分）、業務量に関する調査については110事業所・施設（配布調査票数：1683名分）を対象とした調査を全国介護職員調査として実施した。調査の内訳は図表1-4に示した。

図表1-4 調査別の調査対象事業所・施設数

事業所・施設種別	追加調査承諾		全国職員調査				業務量調査	
			職員調査1回目送付		職員調査2回目送付			
	事業所数	職員数*	事業所数	職員数*	事業所数	職員数*	事業所数	職員数*
介護老人福祉施設	70	2721	34	1256	21	815	15	650
小規模多機能型居宅介護事業所	317	3376	124	1318	148	1544	45	514
通所介護事業所	63	509	31	233	17	160	15	116
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	40	513	19	238	6	114	15	161
複合型サービス事業所	10	124	4	43	1	10	5	71
訪問介護事業所	68	835	32	383	21	281	15	171
全体	568	8078	244	3471	214	2924	110	1683

* 職員数は調査票送付時までに事業所・施設からの申し出に応じて送付した調査票数であり配布数とは異なる。

(3) 業務量に関する観察調査（結果は第4章）

前述の介護職員を対象とした「業務量に関する調査」の実施に先立ち、業務内容を整理するためのコードを作成・確認することを目的として、各種の事業所・施設において、介護職員の業務内容・時間に関する観察調査を実施した。

調査を実施した事業所・施設は、本法人の理事が所属する法人が運営する小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、通所介護事業所および介護老人福祉施設それぞれ2か所、訪問介護事業所1か所の合計9事業所・施設であった。それぞれの事業所・施設で、中堅以上の熟達した介護職員から調査を承諾した1名を観察対象者として選定することと、各事業所・施設に所属する職員から観察対象者および利用者の状況を把握している1名を観察調査の観察者として選定することを依頼した。観察者は、観察対象者の1日の勤務時間内のケア内容および時間を観察し、記録を行った。その結果をもとに、業務量調査のケアコードを決定した。

(4) ヒアリング調査（結果は第5章）

小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所のなかで、特徴的なサービス提供を行っている事業所を訪問し、管理職および中堅以上の熟達した介護職員それぞれ1名ずつを対象としてサービス・業務の現況や課題、必要とされる行動・能力等について聞き取り調査を実施した。調査対象としたのは、小規模多機能型居宅介護事業所4事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所1事業所であった。

4 事業の実施体制

(1) 研究委員会の設置

地域包括ケアにおいて必要とされる介護職員の行動・能力について議論を行い、調査結果をもとにして、必要とされる介護職員像と求められる教育・育成に関する提言をまとめた。

<委員会の構成>

- 委員長 田中博一（びわこ学院大学教授）
- 外部委員 堀田聡子（独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員）
- 外部委員 藤井賢一郎（上智大学総合人間科学部准教授）
- 外部委員 杉原優子（京都府介護福祉士会会長）
- 外部委員 北村世都（日本大学文理学部助教）
- 委員 山田尋志（法人理事長）
- 委員 長根祐子（法人理事・研究委員会担当）
- 委員 内藤佳津雄（法人理事・調査研究担当）
- 委員 宮島 渡（法人理事）
- 委員 小山 剛（法人理事）
- 委員 西元幸雄（法人理事）

(2) 作業部会の設置

調査の実施・分析に関する事項（調査内容、結果分析等）についての検討を行い、調査結果の取りまとめを行った。

<委員会の構成>

部会長 内藤佳津雄（法人理事）
委員 長根祐子（法人理事）
外部委員 杉原優子（京都府介護福祉士会会長）
外部委員 北村世都（日本大学文理学部助教）
助言者 山田尋志（法人理事長）

第2章 全国事業所・施設調査

1 調査方法（調査対象の決定については第1章を参照）

調査対象事業所は、平成26年6月末日時点で各都道府県の介護サービス情報公表システムに登録された小規模多機能型居宅介護事業所、複合型サービス事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の全数、ならびに介護老人福祉施設、通所介護事業所、訪問介護事業所から各1000事業所を無作為抽出によって選出した。

調査は郵送で調査票を送付し、同封した返信用封筒にて郵送で回収した。事業所調査の記入は、管理者または事業所全体の状況を把握している人が記入することを求めた。

調査内容は以下の通りであった。（調査票は巻末の資料を参照）

- (1) 事業所・施設の概要：属性・運営状況
- (2) 利用者の状況：人数・要介護度・認知症度
- (3) 介護職員の状況：人数・勤務形態・介護福祉士資格有無
- (4) キャリア支援の状況：キャリアパス・研修
- (5) 管理者による介護職員の業務遂行に対する評価

2 調査結果

(1) 回収の状況

調査票は7582事業所・施設に送付し、1452事業所・施設から回収した（19.2%）。このうち、記入ミス、漏れ等が多かった23事業所・施設を除いた1429事業所・施設を分析の対象とした。事業所・施設種類別の内訳を図表2-1に示した。また、回答のあった事業所・施設の都道府県別分布を図表2-2に示した。

図表2-1 調査票の発送・回収状況

事業所・施設数	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
発送数	4232	81	269	1000	1000	1000	7582
回収数	793	33	58	188	181	176	1429
回収率	18.7%	40.7%	21.6%	18.8%	18.1%	17.6%	18.8%

図表 2-2 都道府県別の回収状況

	小規模多 機能居宅 介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	特養	通所介護	訪問介護	合計
北海道	48	3	11	8	6	7	83
青森	9	0	0	2	8	8	27
岩手	21	2	0	8	2	5	38
宮城	8	1	0	4	1	1	15
秋田	12	1	0	0	6	7	26
山形	14	3	1	5	5	3	31
福島	21	2	1	5	3	5	37
茨城	5	0	0	2	5	2	14
栃木	8	0	0	6	3	4	21
群馬	13	1	1	5	1	2	23
埼玉	15	1	1	6	0	2	25
千葉	15	0	1	5	3	2	26
東京	19	1	9	2	2	3	36
神奈川	26	3	0	4	3	7	43
新潟	36	1	2	6	4	5	54
富山	20	0	4	4	4	4	36
石川	16	0	0	1	3	6	26
福井	16	0	3	7	5	5	36
山梨	3	0	0	3	5	4	15
長野	14	0	0	6	3	6	29
岐阜	20	1	1	4	4	2	32
静岡	19	1	0	4	3	3	30
愛知	20	2	2	2	4	5	35
三重	9	0	2	5	5	2	23
滋賀	12	0	0	6	5	2	25
京都	16	0	2	11	6	3	38
大阪	33	1	1	2	4	7	48
兵庫	27	3	0	3	1	2	36
奈良	4	0	0	5	5	2	16
和歌山	3	0	1	5	1	0	10
鳥取	11	1	0	4	5	2	23
島根	17	0	0	3	5	5	30
岡山	17	0	0	3	1	2	23
広島	35	0	5	3	6	2	51
山口	12	0	1	4	3	3	23
徳島	7	0	0	2	5	1	15
香川	6	1	0	4	1	2	14
愛媛	15	2	0	3	3	1	24
高知	7	0	0	0	7	4	18
福岡	43	0	3	2	6	2	56
佐賀	8	0	0	0	3	5	16
長崎	20	0	0	3	6	4	33
熊本	32	0	1	6	7	3	49
大分	9	1	2	4	3	8	27
宮崎	6	0	0	4	4	3	17
鹿児島	27	1	3	4	3	8	46
沖縄	18	0	0	2	3	4	27
不明	1	0	0	1	0	1	3
合計	793	33	58	188	181	176	1429

(2) 基本属性

1) 事業所開設年および母体法人の介護事業への参入年

事業所開設年および母体法人の介護事業への参入年について、図表 2-3、2-4 に示した。
また、運営法人の種別の分布を図表 2-5 に示した。

図表 2-3 事業所開設年

事業所・施設の開設年		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
事業所・ 施設数	～2005年	68	4	1	128	110	115	426
	2006～2007年	250	1	1	17	19	19	307
	2008～2010年	253	4	2	15	25	20	319
	2011年～	208	23	53	23	22	13	342
	全体	779	32	57	183	176	167	1394
%	～2005年	8.7%	12.5%	1.8%	69.9%	62.5%	68.9%	30.6%
	2006～2007年	32.1%	3.1%	1.8%	9.3%	10.8%	11.4%	22.0%
	2008～2010年	32.5%	12.5%	3.5%	8.2%	14.2%	12.0%	22.9%
	2011年～	26.7%	71.9%	93.0%	12.6%	12.5%	7.8%	24.5%
	全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 2-4 法人の介護事業へ参入年

法人の介護事業への 参入年		小規模多機能居宅 介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
事業所・ 施設数	～1989年	153	7	17	70	40	37	324
	1990～1999年	129	12	12	51	24	18	246
	2000～2004年	247	6	11	36	56	57	413
	2005～2009年	143	7	12	13	40	35	250
	2010年～	54	0	4	12	11	9	90
	全体	726	32	56	182	171	156	1323
%	～1989年	21.1%	21.9%	30.4%	38.5%	23.4%	23.7%	24.5%
	1990～1999年	17.8%	37.5%	21.4%	28.0%	14.0%	11.5%	18.6%
	2000～2004年	34.0%	18.8%	19.6%	19.8%	32.7%	36.5%	31.2%
	2005～2009年	19.7%	21.9%	21.4%	7.1%	23.4%	22.4%	18.9%
	2010年～	7.4%	0.0%	7.1%	6.6%	6.4%	5.8%	6.8%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 2-5 運営法人種別

法人の介護事業への参入年		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
事業所・ 施設数	社会福祉法人	271	6	17	184	74	61	613
	医療法人	92	14	7	0	9	6	128
	NPO法人	67	0	0	0	7	9	83
	営利法人	324	10	31	0	80	80	525
	その他	33	3	2	2	9	17	66
		787	33	57	186	179	173	1415
%	社会福祉法人	34.4%	18.2%	29.8%	98.9%	41.3%	35.3%	43.3%
	医療法人	11.7%	42.4%	12.3%	0.0%	5.0%	3.5%	9.0%
	NPO法人	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	5.2%	5.9%
	営利法人	41.2%	30.3%	54.4%	0.0%	44.7%	46.2%	37.1%
	その他	4.2%	9.1%	3.5%	1.1%	5.0%	9.8%	4.7%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) 利用者（登録者数）と介護職員数

利用者（登録者数）と介護職員数のそれぞれの平均値を図表 2-6 に示した。その特徴を示すために各事業所・施設ごとに男性職員の比率、非常勤職員の比率、常勤職員の中の介護福祉士の保有率を算出し、その平均値を算出した。その結果、男性職員の比率は介護老人福祉施設で最も高く、訪問介護で小さかった。また、訪問介護では非常勤職員の比率が高く、介護老人福祉施設で比率が低かった。常勤職員の介護福祉士保有率は、訪問介護が最も高く、小規模多機能型居宅介護が最も低かった。

（3）採用と人材育成の状況

1) 介護職員の採用状況

介護職員の採用状況について、採用者の人数と充足率について質問した。採用者の平均値を図表 2-7 に示した。また、傾向を示す指標として大学卒業者の採用比率、新卒者の採用比率、介護業務の未経験者の採用比率、新規採用者中の介護福祉士の比率の平均値をそれぞれ算出した。

その結果、大卒比率は、介護老人福祉施設、通所介護の順で 17～19%程度と高かった。新卒者比率については、介護老人福祉施設では平均が 50%を超えており、通所介護が約 40%と次いでいた。未経験者の採用比率は、訪問介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護で平均が 40%を超えていた。新規採用者中の介護福祉士の比率では、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が約 47%で最も高く、介護老人福祉施設が約 43%、複合型サービスで約 36%と次いで高かった。

次に、介護職員の採用における当初の予定に対する人数および採用形態（種別）の充足について質問した。その結果を図表 2-8 に示した。人数が希望通りであった割合（「人数種別も希望通り」と「人数は希望通り種別は食い違い」の合計）は介護老人福祉施設では約 42%と最も高かった。以

下、通所介護では約 39%、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では約 38%、小規模多機能型居宅介護では約 34%、複合型サービスでは約 33%であったが、訪問介護では約 18%と低い結果であった。

図表 2-6 登録者および介護職員数の平均値

人数	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
登録者利用者人数	19.63	35.42	31.60	112.88	57.40	80.15	41.81
介護職員数	14.65	20.71	30.74	42.56	10.30	18.40	19.24
女性	11.14	15.21	24.35	29.59	8.43	16.75	14.65
男性	3.46	5.11	7.22	12.79	2.27	2.17	4.70
常勤職	8.92	13.19	15.28	33.96	6.52	6.14	12.14
女性	6.30	9.18	10.09	22.02	4.76	5.00	8.29
男性	2.75	3.85	5.42	11.90	2.03	1.52	3.98
非常勤職	5.97	6.26	21.34	8.61	4.83	13.20	7.72
女性	5.16	5.35	19.02	7.52	4.57	12.60	6.92
男性	0.95	1.19	1.69	1.08	0.63	0.91	0.97
常勤のうち介護福祉士	4.34	7.82	8.84	21.49	3.34	4.14	6.73
非常勤のうち介護福祉士	1.44	1.72	8.86	2.80	1.53	4.40	2.33
男性職員比率	24.2%	25.8%	24.2%	30.7%	22.1%	11.3%	23.6%
非常勤比率	37.5%	33.6%	42.9%	19.4%	41.1%	66.1%	38.6%
常勤の介護福祉士保有率	50.7%	61.8%	69.5%	61.7%	55.1%	74.6%	56.6%

図表 2-7 介護職員の採用状況（1）採用者数の平均値

採用者人数	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
大卒採用	0.08	0.10	0.20	0.36	0.12	0.06	0.13
専門卒採用	0.08	0.06	0.06	0.72	0.10	0.01	0.16
高卒採用	0.20	0.19	1.80	0.77	0.18	0.37	0.37
経験あり転職採用	1.31	2.65	3.07	1.86	0.92	0.83	1.39
経験なし転職採用	0.64	0.48	0.91	0.93	0.50	0.46	0.65
その他採用	0.08	0.06	0.02	0.10	0.05	0.03	0.07
採用者中の介護福祉士	0.60	1.45	1.94	1.80	0.54	0.41	0.82
採用者数	2.39	3.55	6.06	4.75	1.87	1.75	2.78
採用者中の介護福祉士	0.67	1.50	2.10	2.02	0.62	0.88	0.97
大卒採用比率	9.9%	2.5%	3.7%	17.1%	18.8%	7.2%	11.5%
新卒採用比率	28.4%	22.1%	34.5%	55.0%	40.3%	24.3%	36.7%
未経験者採用比率	42.6%	34.2%	23.7%	29.7%	44.4%	45.5%	39.1%
新採用者介護福祉士保有率	33.5%	36.3%	47.1%	42.8%	34.3%	29.4%	35.8%

図表 2-8 介護職員の採用状況（2）充足度

採用充足度	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
人数種別も希望通り	23.0%	24.2%	27.6%	31.4%	32.0%	14.8%	24.4%
人数希望通り種別は食い違い	11.3%	9.1%	10.3%	10.1%	6.6%	3.4%	9.5%
人数7～8割	11.0%	15.2%	13.8%	20.7%	7.2%	7.4%	11.5%
人数5～6割	7.7%	0.0%	10.3%	15.4%	3.3%	5.7%	7.8%
人数3～4割	2.6%	6.1%	3.4%	8.5%	1.7%	4.0%	3.6%
人数3割未満	12.1%	18.2%	13.8%	8.0%	5.5%	16.5%	11.5%
その他	32.3%	27.3%	20.7%	5.9%	43.6%	48.3%	31.6%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) キャリアパスの整備状況

キャリアパスについて、有無について質問するとともに、キャリアパスの内容として、規定されている内容について質問した。

キャリアパスの有無についての結果を図表 2-9 に示した。定期巡回・随時対応型訪問介護看護はキャリアパスがある割合が 80% を超えており、介護老人福祉施設の約 71% が次いでいた。通所介護は約 45% と低かったが、その他のサービスでは 50～60% であった。

次にキャリアパスにおける規定内容について、複数回答で該当するものを質問した。キャリアパスがあると回答した事業所・施設の中でそれぞれの内容を規定している割合について、図表 2-10 に示した。業務の内容や 8 割内外の事業所・施設がキャリアパスに定めていた。一方で、年齢、経験年数、勤続年数を要件として定めている割合はそれほど高くはなかった。その他の内容については概ね 60～70% 台であり、サービス種別による顕著な差は見られなかった。

図表 2-9 介護職員のキャリアパス（1）キャリアパスの有無

キャリアパスの有無		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計
人数	あり	445	20	48	134	81	93	821
	なし	339	13	9	53	97	80	591
	無回答	9		1	1	3	3	17
	全体	793	33	58	188	181	176	1429
%	あり	56.1%	60.6%	82.8%	71.3%	44.8%	52.8%	57.5%
	なし	42.7%	39.4%	15.5%	28.2%	53.6%	45.5%	41.4%
	無回答	1.1%	0.0%	1.7%	0.5%	1.7%	1.7%	1.2%
	全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 2-10 介護職員のキャリアパス（2）規定内容

キャリアパス規定内容 (規定されている率)	小規模多機能 住宅介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	793	33	58	188	181	176
業務の内容	75.5%	80.0%	83.3%	76.9%	72.8%	81.9%
必要とされる能力	56.6%	60.0%	66.7%	76.1%	64.2%	59.6%
求められる役割	64.7%	65.0%	75.0%	75.4%	65.4%	67.0%
必要な資格や研修	66.3%	75.0%	66.7%	67.2%	70.4%	70.2%
年齢要件	13.9%	25.0%	10.4%	6.7%	9.9%	12.8%
介護福祉職としての経験年数	31.9%	40.0%	22.9%	39.6%	42.0%	33.0%
法人勤続年数	29.2%	40.0%	29.2%	35.8%	29.6%	25.5%
給与賞与	69.0%	75.0%	60.4%	63.4%	59.3%	58.5%

3) 人材育成の状況

介護職員のキャリアアップやスキルアップに資する人材育成について、キャリア・スキルアップ支援の研修内容（明文化されている割合）、外部研修への派遣状況（常勤、非常勤）、内部研修の状況（開催頻度、出席状況）について質問した。

まず、キャリア・スキルアップ支援の研修内容として明文化されている割合を図表 2-11 に示した。新人向け研修については、概ね 80%以上が明文化していた。とりわけ定期巡回・随時対応型訪問介護看護では約 91%となっており最も高い割合であった。現任者向け研修では 60~70%の割合であった。しかし、資格取得、専門研修、管理職研修は概ね 30~40%台になっており、中堅以上の職員研修が課題となっていることが窺われた。しかし、その中でも複合型サービスと定期巡回・随時対応型訪問介護看護では管理職研修は 50%を超えており、またキャリアアップのための教育研修計画の作成も相対的に割合が高かった。一方で、昇進のための OJT やキャリアアップのための相談はどこでも 10~20%台であり、個別のキャリアアップ支援やとくにリーダーに昇進する際の教育方法は今後考慮すべき課題と考えられる。

次に介護職員の研修派遣の状況について検討した。結果は、常勤職員の研修派遣率について図表 2-12 に示した。常勤職員については、「ほぼ全員派遣」という割合は訪問介護が高く、約 32%であった。7~8割以上（ほぼ全員を含む）の割合でみると、訪問介護が約 46%、次いで小規模多機能型住宅介護が約 37%と高かった。逆に 3割未満（外部研修なしを含む）の割合は、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が約 47%、次いで通所介護が約 44%と高かった。

また、非常勤職員の外部研修への派遣状況について常勤者と比較した状況を図表 2-13 に示した。常勤者と同じ条件で派遣しているのは、小規模多機能型住宅介護、複合型サービスであったが、それでも 20%台であった。一方で派遣なしという割合は、定期巡回・随時対応型訪問介護看護で約 57%、介護老人福祉施設で約 55%と高く、次いで通所介護が約 49%であった。

さらに、内部研修・勉強会の実施頻度についての結果を図表 2-14 に示した。定期巡回・随時対応型訪問介護看護、介護老人福祉施設、複合型サービスでは月 1 回以上の実施率が 50%を超えてお

り、それに次ぐ小規模多機能型居宅介護や訪問介護では50%弱であった。一方で通所介護では約37%に留まっていた。年に7回以上（2か月に1回以上）でみると、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の約84%、介護老人福祉施設の約75%、訪問介護の約70%をはじめとして、小規模多機能型居宅介護、複合型サービスも60%を超えていたが、通所介護では約55%となっていた。

最後に、内部研修の参加の状況に関する質問について、その結果を図表2-15に示した。内部研修にほぼ全員出席という割合は、訪問介護が54.6%、通所介護が53.1%と高い割合であった。

図表2-11 介護職員の人材育成（1）キャリアアップ・スキルアップ支援内容

キャリアアップ・スキルアップ支援 (実施されている率)	小規模多 機能居宅 介護 n=	複合型 サービス 33	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護 58	介護老人 福祉施設 188	通所介護 181	訪問介護 176
新人向け研修	84.6%	86.2%	90.7%	86.7%	75.6%	81.3%
現認者向け研修	61.6%	69.0%	70.4%	62.7%	60.0%	70.1%
資格取得のための研修	40.8%	51.7%	37.0%	44.7%	38.5%	41.0%
専門研修	33.9%	44.8%	37.0%	44.7%	30.4%	26.9%
管理職研修	40.1%	55.2%	50.0%	35.3%	31.1%	27.6%
昇進のためのOJT	17.5%	24.1%	22.2%	21.3%	12.6%	10.4%
キャリアアップのための教育研修計画作成	24.5%	31.0%	40.7%	24.0%	15.6%	14.9%
キャリアアップの相談	17.7%	24.1%	22.2%	11.3%	15.6%	14.9%

図表2-12 介護職員の人材育成（2）常勤職の外部研修派遣

常勤者の外部研修派遣		小規模多 機能居宅 介護	複合型 サービス 33	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護 58	介護老人 福祉施設 188	通所介護 181	訪問介護 176
人数	ほぼ全員派遣	156	2	9	12	39	56
	7～8割程度派遣	133	6	4	22	18	25
	5～6割程度派遣	140	8	5	53	22	19
	3～4割程度派遣	129	5	12	50	21	18
	3割未満派遣	191	10	20	49	55	45
	外部研修なし	26	1	7	1	26	12
	合計	775	32	57	187	181	175
	不明・無回答	18	1	1	1		1
	全体	793	33	58	188	181	176
%	ほぼ全員派遣	20.1%	6.3%	15.8%	6.4%	21.5%	32.0%
	7～8割程度派遣	17.2%	18.8%	7.0%	11.8%	9.9%	14.3%
	5～6割程度派遣	18.1%	25.0%	8.8%	28.3%	12.2%	10.9%
	3～4割程度派遣	16.6%	15.6%	21.1%	26.7%	11.6%	10.3%
	3割未満派遣	24.6%	31.3%	35.1%	26.2%	30.4%	25.7%
	外部研修なし	3.4%	3.1%	12.3%	0.5%	14.4%	6.9%

図表 2-13 介護職員の人材育成（3）非常勤職の外部研修派遣

非常勤職の外部研修派遣		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
人数	常勤者と同じ条件で派遣	166	6	4	14	31	29
	常勤者より頻度は少ないが派遣	304	10	19	66	49	63
	派遣なし	276	12	31	98	78	76
	合計	746	28	54	178	158	168
	不明・無回答	47	5	4	10	23	8
全体	793	33	58	188	181	176	
%	常勤者と同じ条件で派遣	22.3%	21.4%	7.4%	7.9%	19.6%	17.3%
	常勤者より頻度は少ないが派遣	40.8%	35.7%	35.2%	37.1%	31.0%	37.5%
	派遣なし	37.0%	42.9%	57.4%	55.1%	49.4%	45.2%

図表 2-14 介護職員の人材育成（4）内部研修実施頻度

介護職員の施設内研修		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
人数	月1回以上	367	18	38	103	66	84
	年に7～11回	139	3	10	38	31	39
	年に4～6回	145	6	4	30	36	20
	年に2～3回	105	4	4	13	30	23
	年に1回	15	1	1	2	11	8
	開催していない	9	1		1	6	2
	合計	780	33	57	187	180	176
	不明・無回答	13		1	1	1	
全体	793		58	188	181		
%	月1回以上	47.1%	54.5%	66.7%	55.1%	36.7%	47.7%
	年に7～11回	17.8%	9.1%	17.5%	20.3%	17.2%	22.2%
	年に4～6回	18.6%	18.2%	7.0%	16.0%	20.0%	11.4%
	年に2～3回	13.5%	12.1%	7.0%	7.0%	16.7%	13.1%
	年に1回	1.9%	3.0%	1.8%	1.1%	6.1%	4.5%
	開催していない	1.2%	3.0%	0.0%	0.5%	3.3%	1.1%

図表 2-15 介護職員の人材育成（5）内部研修参加者割合

介護職員の勉強会出席状況		小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
人数	ほぼ全員出席	338	14	18	60	94	95
	半数以上出席	335	17	27	84	67	63
	半数以下出席	112	2	13	42	16	16
	合計	785	33	58	186	177	174
	不明・無回答	8			2	4	2
	全体	793	33	58	188	181	176
%	ほぼ全員出席	43.1%	42.4%	31.0%	32.3%	53.1%	54.6%
	半数以上出席	42.7%	51.5%	46.6%	45.2%	37.9%	36.2%
	半数以下出席	14.3%	6.1%	22.4%	22.6%	9.0%	9.2%

(4) 利用者の状況

利用者の状況について、認知症高齢者の日常生活自立度別の要介護度分布、世帯の状況、居住の状況について質問した。

1) 認知症高齢者の日常生活自立度別の要介護度分布

図表2-16の上段にそれぞれに該当する平均人数を、下段にそれぞれの該当者が各事業所・施設の登録者中に占める割合の平均値を示した。

まず、認知症に関わらず、要介護度についてみると、各該当人数の平均値でみると、要介護3以上の割合は、介護老人福祉施設 81%、複合型サービス 52%、小規模多機能型居宅介護 40%、定期巡回・随時対応型訪問介護看護 38%、通所介護 29%、訪問介護 26%となっていた。各事業所・施設の登録者中に占める割合の平均値（合計）でみると、介護老人福祉施設は要介護3以上で割合の平均値が高く、複合型サービス、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護は要介護1～5に分布していた。

次に認知症自立度Ⅱ以上の人の割合を各事業所・施設の登録者中に占める割合の平均値でみると、介護老人福祉施設では約90%、小規模多機能型居宅介護や複合型サービスでは約70%、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では約60%、通所介護では約50%、訪問介護では約40%を占めていた。

2) 登録者の世帯状況

図表2-17に結果を示した（介護老人福祉施設については、入居前の状況）。一人暮らしの利用者の割合は、定期巡回・随時対応型訪問介護看護で65%、訪問介護で50%であったが、その他のサービスでは23～29%となっていた。

3) 登録者の居住の状況

図表2-18に結果を示した（介護老人福祉施設を除く）。利用者数の平均値において、利用者が日常生活圏域内である割合は、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では89%と最も高かった。それ以外のサービスでは60%台であった。一方で市町村外の割合は広域的サービスの通所介護、訪問介護であっても3.5%、2.2%であり、地域密着型サービスでは概ね1%以下であった。日常生活圏域内でサービス付き高齢者向け住宅に居住の者の割合は、利用者数の平均値において、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では全利用者数の29%と最も高く、複合型サービスが22%と次いでいた。その他のサービスでは10%以下であった。

図表 2-16 登録者の要介護度の分布

	要介護度 認知症度	小規模多 機能居宅 介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護	合計	
		N	772	33	58	178	170	162	1373
人数	認知症なし 認知症日常 生活自立度 I 以下 (人)	支援1	0.7	1.3	1.2	0.7	4.1	7.1	1.9
		支援2	0.9	1.2	1.5	0.7	6.1	8.5	2.5
		介護1	1.6	2.7	4.9	1.7	8.5	7.7	3.4
		介護2	1.2	2.9	3.7	1.8	6.6	6.6	2.7
		介護3	0.7	1.9	2.3	1.8	3.6	3.3	1.6
		介護4	0.4	1.1	1.8	1.7	1.8	2.2	1.0
		介護5	0.2	0.7	0.9	1.0	0.9	1.5	0.6
	合計	6.0	12.5	20.5	10.5	33.0	40.1	15.0	
	認知症日常 生活自立度 II 以上 (人)	支援1	0.1	0.1	0.2	0.0	0.3	0.6	0.2
		支援2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.5	1.5	0.4
		介護1	2.7	3.2	3.8	1.8	5.3	5.2	3.3
		介護2	3.6	4.8	4.1	5.1	6.1	4.7	4.3
		介護3	3.2	4.6	3.1	13.2	4.5	3.4	4.7
		介護4	2.2	4.6	2.7	20.6	3.1	2.8	4.8
		介護5	1.4	4.2	1.7	20.4	1.8	2.7	4.2
	合計	13.6	21.6	16.9	63.0	23.8	24.1	22.9	
	全体 (人)	支援1	0.8	1.4	1.4	0.7	4.4	8.1	2.1
		支援2	1.1	1.4	1.7	0.8	6.7	10.4	2.9
		介護1	4.1	5.8	7.6	3.7	13.9	13.3	6.6
		介護2	4.5	7.7	7.0	7.2	12.8	12.7	7.0
		介護3	3.6	6.5	5.1	15.1	8.1	7.1	6.2
介護4		2.5	5.7	4.1	22.3	5.0	5.2	5.8	
介護5		1.6	5.6	2.6	21.5	3.1	5.1	4.9	
合計	19.3	34.0	31.0	72.5	55.3	66.3	37.3		
利用者全数を母数にした時の平均%	認知症なし 認知症日常 生活自立度 I 以下 (%)	支援1	3.4%	1.3%	1.4%	0.3%	7.1%	10.2%	4.1%
		支援2	4.9%	1.2%	1.2%	0.4%	10.4%	13.3%	5.7%
		介護1	8.0%	8.9%	9.6%	1.1%	13.5%	11.0%	8.2%
		介護2	5.8%	7.3%	8.0%	2.0%	10.6%	10.1%	6.5%
		介護3	3.4%	4.8%	6.7%	2.3%	5.5%	5.4%	3.9%
		介護4	2.0%	3.8%	5.2%	2.3%	2.9%	4.1%	2.6%
		介護5	0.9%	2.8%	3.4%	1.2%	1.0%	2.9%	1.3%
	合計	30.8%	32.1%	45.1%	11.2%	53.2%	63.0%	35.6%	
	認知症日常 生活自立度 II 以上 (%)	支援1	0.7%	0.1%	0.8%	0.0%	0.5%	0.9%	0.6%
		支援2	0.9%	0.3%	0.2%	0.0%	0.9%	2.0%	0.9%
		介護1	14.4%	8.4%	15.3%	2.2%	11.1%	8.0%	11.4%
		介護2	18.7%	15.6%	14.7%	6.6%	13.1%	8.0%	14.9%
		介護3	16.5%	13.8%	12.0%	18.3%	9.3%	5.7%	14.3%
		介護4	11.3%	14.6%	10.1%	30.2%	6.6%	4.9%	12.5%
		介護5	7.2%	16.8%	7.4%	30.1%	3.8%	4.7%	9.7%
	合計	71.5%	69.4%	65.0%	90.1%	50.3%	40.7%	67.7%	
	全体 (%)	支援1	4.1%	1.4%	2.2%	0.4%	7.6%	11.3%	4.8%
		支援2	5.6%	1.5%	1.4%	0.5%	11.4%	15.4%	6.6%
		介護1	21.5%	17.3%	24.3%	3.5%	24.8%	19.0%	19.3%
		介護2	23.2%	22.9%	22.5%	9.0%	23.9%	18.5%	20.8%
		介護3	18.8%	18.6%	18.5%	20.8%	15.1%	11.3%	17.7%
介護4		12.7%	18.4%	15.2%	32.6%	9.5%	9.1%	14.7%	
介護5		8.0%	20.0%	10.6%	31.5%	5.4%	8.7%	11.2%	

*事業所における%の平均を計算したため、合計は100%にならない

図表 2-17 登録者の世帯状況

世帯状況 (平均該当者数)	小規模多 機能居宅 介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
一人暮らし	5.4	7.3	21.7	17.4	12.2	32.1
夫婦のみ	2.6	6.1	5.4	11.1	9.6	13.5
子供と同居	9.3	16.4	4.0	31.6	25.9	14.2
その他	1.5	1.5	2.3	10.5	4.7	5.0
回答率	97.7%	100.0%	100.0%	87.2%	93.9%	88.6%

図表 2-18 居宅サービス・地域密着型サービスにおける登録者の居住状況

居住状況 (平均該当者数)	小規模多 機能居宅 介護	複合型 サービス	定期巡回 随時対応 型訪問介 護看護	通所介護	訪問介護
住居:日常生活圏域内自宅	11.9	16.9	27.7	32.7	39.7
内住居:サ高住	1.9	5.8	9.0	3.8	6.1
住居:市町村内	6.0	7.8	3.2	18.5	19.0
住居:市町村外	0.3	1.1	0.2	3.5	2.2
回答率	98.0%	93.9%	61.1%	97.8%	75.4%

（５）業務の遂行・達成に関する評価

小規模多機能型居宅介護のケア・業務等を念頭に置き 39 項目の業務に関する項目を作成し、その遂行の状況と達成の状況について、管理者・管理職からみた事業所・施設の評価として求めた。遂行の状況については、「行う必要がない・行っていない」または「行っている」の選択を求め、達成の状況については、「行っている」場合の選択肢として、「達成できていない」「どちらかと言えば達成できていない」「どちらかと言えば達成できている」「達成できている」の 4 件法で回答を求めた。

その結果から、まず遂行の状況については、項目ごとに「行っている」のいずれかの選択肢を選択した事業所・施設の割合を「業務実施率」とした。（図表 2-19）

次に、達成の状況については、項目ごとに、「行っている」を選択した事業所・施設のうち、「どちらかと言えば達成できている」または「達成できている」を選択した事業所・施設の割合を「業務達成率」とした（図表 2-20・21）

なお、項目の理解しやすさを促進するために、業務項目をいくつかのグループにまとめるために因子分析を行った（最尤法、プロマックス回転解）。因子分析は、小規模多機能型居宅介護のデータのみを対象として、「達成できていない」から順に 1～4 点を付与して行い、「行う必要がない・行っていない」と回答した場合には解析から除外した。そのため、除外例数も多く、あくまで理解の促進のために行ったものである。因子分析の結果は、7つのグループに分けるのが妥当であると結論し、図表の項目名の先頭に F1～F7 のようにグループ別を付した（因子ごとの項目は図表 2-19、20 を参照）。

1）業務遂行率の結果（図表 2-19）

小規模多機能型居宅介護多機能型では、遂行率は概ね 90% を超えていたが、地域ケア会議への参加、市町村の政策決定の会議への参加が 80% 台、終末期ケアの実施や参加が 70% 台とやや遂行率が低かった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護でも、遂行率は概ね 90% を超えていたが、機能訓練に関する項目では遂行率は 30% 台とかなり低かった。また、地域での連携や地域での会議への参加および終末期ケアへの参加や実施については 80% 台とやや遂行率が低かった。

他のサービス種類でも、概ね遂行率が高い項目がほとんどであったが、訪問介護では定期巡回・随時対応型訪問介護看護と同様に「機能訓練」に関する項目で、通所介護で終末期ケアへの参加の遂行率がそれぞれ低かった。介護老人福祉施設は、ほとんどの項目で遂行率が高く、地域での会議への参加や居宅（居室）での環境整備が 70% 台と相対的にやや低いだけであった。

2）業務達成率の結果（図表 2-20～21）

業務達成率については、グループごとの結果を図表 2-20 に、小規模多機能型居宅介護における達成率の順番に並べ替えをした結果を図表 2-21 に示した。小規模多機能型居宅介護においては、39 項目中 18 項目で達成率が 80% 以上であった。達成率が 60% 未満であったのは、機能訓練に関する項目、人材育成に関する項目、IT 活用、地域の人との交流の場としての活用、地域の会議への参加、終末期ケアへの参加であった。他サービスとの比較については、次節のまとめで述べる。

図表 2-19 事業所・施設における業務遂行率（因子ごとに分類）

業務の項目	業務遂行率					
	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
F1業務1入浴や排泄の際に利用者が転倒しないように注意する	99.6%	100.0%	98.3%	99.5%	98.3%	99.4%
F1業務2介護の方針に、利用者の希望や嗜好を配慮する	99.6%	97.0%	100.0%	100.0%	98.3%	99.4%
F1業務3利用者に疾病や怪我が発生したときには、すぐに対応する	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%	100.0%
F1業務4食事や入浴などについて、利用者のベースに応じた介護を行う	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	96.7%	98.3%
F1業務5食事や入浴などについて、利用者の選択を取り入れた介護を行う	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	96.1%	97.2%
F1業務6利用者が受けている医療や服用している薬剤に配慮した介護を行う	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	98.3%	98.3%
F1業務7過剰な介護をしないで、自立を重視した介護を行う	99.7%	100.0%	98.3%	100.0%	98.3%	99.4%
F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	98.6%	100.0%	100.0%	98.9%	96.7%	98.9%
F1業務9利用者の自立性を高めるような働きかけやコミュニケーションを行う	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	99.4%
F1業務10利用者が信頼・安心できるコミュニケーションを行う	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%	100.0%
F1業務11入浴や排泄の際に利用者のプライバシーを守る	99.6%	100.0%	100.0%	99.5%	98.9%	99.4%
F2業務12利用者の希望や能力に応じたレクリエーションやアクティビティを実施する	99.6%	100.0%	37.9%	99.5%	96.7%	40.3%
F2業務13利用者の日常生活機能の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	97.0%	97.0%	37.9%	99.5%	97.2%	33.0%
F2業務14利用者の体力や筋力の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	96.0%	93.9%	34.5%	98.4%	93.9%	30.7%
F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	99.6%	97.0%	65.5%	99.5%	95.6%	53.4%
F2業務25催し物等を開催して、介護職員同士の交流や人間関係作りを図る	98.2%	100.0%	81.0%	99.5%	97.2%	80.1%
F2業務34事業所・施設を利用者と地域の人との交流の場としている	97.1%	93.9%	69.0%	98.4%	90.6%	50.0%
F3業務35新任職員への人材育成を計画的に実施している	96.3%	97.0%	94.8%	99.5%	91.2%	94.3%
F3業務36中堅職員の人材育成を計画的に実施している	97.5%	100.0%	98.3%	100.0%	95.0%	94.9%
F3業務37リーダー・管理職の人材育成を計画的に実施している	96.7%	100.0%	98.3%	100.0%	92.8%	93.8%
F3業務38介護職員の定着を図るための取り組みをしている	97.7%	100.0%	96.6%	100.0%	94.5%	96.6%
F3業務39PC等を活用して、IT(情報技術)による介護に関する情報管理を行っている(請求事務を除く)	92.3%	90.9%	96.6%	96.8%	89.5%	91.5%
F4業務23利用者の介護に関して、地域の医療機関との情報共有や連携を日頃から行う	98.4%	100.0%	100.0%	96.8%	95.0%	95.5%
F4業務24利用者の介護に関して、市町村や地域包括支援センターとの情報共有や連携を日頃から行う	96.8%	100.0%	100.0%	89.4%	94.5%	95.5%
F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る	97.9%	87.9%	93.1%	72.9%	74.0%	92.6%
F4業務29利用者の終末期のケアを実施する。またはそのチームに参加する	72.3%	87.9%	86.2%	93.6%	49.7%	76.7%
F4業務30介護やサービスを拒否する利用者への積極的な関わりを継続する	95.2%	93.9%	93.1%	94.1%	87.8%	94.3%
F4業務31利用者の介護について、地域ケア会議等の外部での会議に参加し、意見を言う	87.3%	87.9%	89.7%	78.2%	76.8%	83.5%
F4業務32市町村の高齢者福祉・介護の政策・方針を協議する会議に参加し、意見を言う	84.0%	87.9%	81.0%	79.8%	67.4%	71.6%
F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている	98.4%	97.0%	81.0%	97.9%	87.8%	69.3%
F5業務15認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じたときに、利用者が落ち着くような対応をする	99.5%	100.0%	98.3%	100.0%	97.2%	91.5%
F5業務16認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じないように、事前に予防的な対応をする	99.1%	100.0%	96.6%	100.0%	96.1%	88.1%
F5業務17認知症の人が日常生活を自立的に行うことを支援して、生活上の機能低下を防ぐ	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	92.0%
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする	99.5%	97.0%	100.0%	100.0%	97.2%	95.5%
F6業務20個別支援計画をモニタリング・評価して、計画の定期的見直しを行う	99.7%	97.0%	100.0%	100.0%	97.2%	98.3%
F6業務27利用者の介護方針について、カンファレンスや事例検討を行う	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.3%	97.7%
F7業務21利用者の介護に関して、介護職同士の情報共有や連携を日頃から行う	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%	98.3%
F7業務22利用者の介護に関して、介護職と他の職種の情報共有や連携を日頃から行う	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.7%
F7業務26利用者や家族からの苦情対応・解決を円滑に図る	98.0%	93.9%	98.3%	99.5%	98.9%	96.6%

図表 2-20 事業所・施設における業務達成率（因子ごとに分類）

業務の項目	業務達成率					
	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
F1業務1入浴や排泄の際に利用者が転倒しないように注意する	98.6%	97.0%	100.0%	96.3%	97.8%	100.0%
F1業務2介護の方針に、利用者の希望や嗜好を配慮する	93.5%	90.6%	98.3%	88.3%	94.9%	97.1%
F1業務3利用者に疾病や怪我が発生したときには、すぐに対応する	99.6%	100.0%	100.0%	97.9%	99.4%	98.3%
F1業務4食事や入浴などについて、利用者のペースに応じた介護を行う	96.2%	87.9%	94.8%	89.4%	93.7%	97.1%
F1業務5食事や入浴などについて、利用者の選択を取り入れた介護を行う	85.0%	84.8%	89.7%	71.8%	92.0%	97.1%
F1業務6利用者が受けている医療や服用している薬剤に配慮した介護を行う	96.2%	97.0%	93.1%	92.0%	96.6%	94.8%
F1業務7過剰な介護をしないで、自立を重視した介護を行う	87.6%	87.9%	84.2%	76.1%	90.4%	88.0%
F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	62.8%	72.7%	81.0%	54.8%	80.6%	83.9%
F1業務9利用者の自立性を高めるような働きかけやコミュニケーションを行う	80.5%	87.9%	81.0%	62.8%	92.7%	88.0%
F1業務10利用者が信頼・安心できるコミュニケーションを行う	91.8%	90.9%	93.1%	81.4%	96.1%	98.3%
F1業務11入浴や排泄の際に利用者のプライバシーを守る	94.4%	90.9%	96.6%	96.3%	95.5%	96.6%
F2業務12利用者の希望や能力に応じたレクリエーションやアクティビティを実施する	71.0%	69.7%	50.0%	49.2%	80.6%	62.0%
F2業務13利用者の日常生活機能の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	54.1%	68.8%	45.5%	58.3%	75.0%	46.6%
F2業務14利用者の体力や筋力の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	51.0%	71.0%	55.0%	46.5%	74.1%	40.7%
F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設の環境を整える	80.4%	65.6%	63.2%	68.4%	69.9%	71.3%
F2業務25催し物等を開催して、介護職員同士の交流や人間関係作りを図る	75.5%	78.8%	61.7%	75.9%	79.5%	61.0%
F2業務34事業所・施設を利用者と地域の人の交流の場としている	56.6%	38.7%	45.0%	56.2%	50.6%	37.5%
F3業務35新任職員への人材育成を計画的に実施している	61.0%	65.6%	76.4%	75.9%	66.1%	65.7%
F3業務36中堅職員の人材育成を計画的に実施している	52.9%	60.6%	63.2%	48.9%	52.3%	56.3%
F3業務37リーダー・管理職の人材育成を計画的に実施している	49.7%	45.5%	56.1%	52.7%	49.4%	55.8%
F3業務38介護職員の定着を図るための取り組みをしている	59.4%	45.5%	50.0%	59.0%	60.2%	65.9%
F3業務39PC等を活用して、IT(情報技術)による介護に関する情報管理を行っている(請求事務を除く)	53.1%	63.3%	76.8%	64.8%	58.6%	56.5%
F4業務23利用者の介護に関して、地域の医療機関との情報共有や連携を日頃から行う	77.8%	81.8%	77.6%	70.9%	59.3%	69.6%
F4業務24利用者の介護に関して、市町村や地域包括支援センターとの情報共有や連携を日頃から行う	71.1%	54.5%	74.1%	54.8%	69.0%	80.4%
F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る	77.6%	75.9%	68.5%	59.1%	54.5%	84.7%
F4業務29利用者の終末期のケアを実施する、またはそのチームに参加する	56.5%	72.4%	76.0%	81.3%	48.9%	81.5%
F4業務30介護やサービスを拒否する利用者への積極的な関わりを継続する	83.3%	71.0%	79.6%	88.1%	80.5%	86.7%
F4業務31利用者の介護について、地域ケア会議等の外部での会議に参加し、意見を言う	55.9%	44.8%	46.2%	57.1%	59.7%	70.1%
F4業務32市町村の高齢者福祉・介護の政策・方針を協議する会議に参加し、意見を言う	46.7%	41.4%	38.3%	49.3%	39.3%	49.2%
F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている	66.2%	56.3%	57.4%	64.1%	53.5%	41.8%
F5業務15認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じたときに、利用者が落ち着くような対応をする	89.1%	78.8%	82.5%	76.6%	88.6%	92.5%
F5業務16認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じないように、事前に予防的な対応をする	73.5%	69.7%	64.3%	53.7%	78.2%	80.0%
F5業務17認知症の人が日常生活を自立的に行うことを支援して、生活上の機能低下を防ぐ	81.8%	75.8%	79.3%	67.6%	78.5%	84.6%
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする	76.9%	84.4%	82.8%	86.7%	80.7%	86.9%
F6業務20個別支援計画をモニタリング・評価して、計画の定期的見直しを行う	81.3%	90.6%	94.8%	91.5%	86.4%	84.4%
F6業務27利用者の介護方針について、カンファレンスや事例検討を行う	83.8%	90.9%	74.1%	93.6%	83.7%	87.2%
F7業務21利用者の介護に関して、介護職同士の情報共有や連携を日頃から行う	91.7%	93.9%	91.4%	87.8%	97.2%	96.5%
F7業務22利用者の介護に関して、介護職と他の職種の情報共有や連携を日頃から行う	85.3%	87.9%	87.9%	85.1%	93.4%	90.7%
F7業務26利用者や家族からの苦情対応・解決を円滑に図る	96.0%	96.8%	93.0%	96.3%	100.0%	96.5%

図表 2-21 事業所・施設における業務達成率（小規模多機能型居宅介護の達成率順）

業務の項目	業務達成率					
	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
F1業務3利用者に疾病や怪我が発生したときには、すぐに対応する	99.6%	100.0%	100.0%	97.9%	99.4%	98.3%
F1業務1入浴や排泄の際に利用者が転倒しないように注意する	98.6%	97.0%	100.0%	96.3%	97.8%	100.0%
F1業務6利用者が受けている医療や服用している薬剤に配慮した介護を行う	96.2%	97.0%	93.1%	92.0%	96.6%	94.8%
F1業務4食事や入浴などについて、利用者のベースに応じた介護を行う	96.2%	87.9%	94.8%	89.4%	93.7%	97.1%
F7業務26利用者や家族からの苦情対応・解決を円滑に図る	96.0%	96.8%	93.0%	96.3%	100.0%	96.5%
F1業務11入浴や排泄の際に利用者のプライバシーを守る	94.4%	90.9%	96.6%	96.3%	95.5%	96.6%
F1業務2介護の方針に、利用者の希望や嗜好を配慮する	93.5%	90.6%	98.3%	88.3%	94.9%	97.1%
F1業務10利用者が信頼・安心できるコミュニケーションを行う	91.8%	90.9%	93.1%	81.4%	96.1%	98.3%
F7業務21利用者の介護に関して、介護職同士の情報共有や連携を日頃から行う	91.7%	93.9%	91.4%	87.8%	97.2%	96.5%
F5業務15認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じたときに、利用者が落ち着くような対応をする	89.1%	78.8%	82.5%	76.6%	88.6%	92.5%
F1業務7過剰な介護をしないで、自立を重視した介護を行う	87.6%	87.9%	84.2%	76.1%	90.4%	88.0%
F7業務22利用者の介護に関して、介護職と他の職種の情報共有や連携を日頃から行う	85.3%	87.9%	87.9%	85.1%	93.4%	90.7%
F1業務5食事や入浴などについて、利用者の選択を取り入れた介護を行う	85.0%	84.8%	89.7%	71.8%	92.0%	97.1%
F6業務27利用者の介護方針について、カンファレンスや事例検討を行う	83.8%	90.9%	74.1%	93.6%	83.7%	87.2%
F4業務30介護やサービスを拒否する利用者への積極的な関わりを継続する	83.3%	71.0%	79.6%	88.1%	80.5%	86.7%
F5業務17認知症の人が日常生活を自立的に行うことを支援して、生活上の機能低下を防ぐ	81.8%	75.8%	79.3%	67.6%	78.5%	84.6%
F6業務20個別支援計画をモニタリング・評価して、計画の定期的見直しを行う	81.3%	90.6%	94.8%	91.5%	86.4%	84.4%
F1業務9利用者の自立性を高めるような働きかけやコミュニケーションを行う	80.5%	87.9%	81.0%	62.8%	92.7%	88.0%
F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	80.4%	65.6%	63.2%	68.4%	69.9%	71.3%
F4業務23利用者の介護に関して、地域の医療機関との情報共有や連携を日頃から行う	77.8%	81.8%	77.6%	70.9%	59.3%	69.6%
F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る	77.6%	75.9%	68.5%	59.1%	54.5%	84.7%
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする	76.9%	84.4%	82.8%	86.7%	80.7%	86.9%
F2業務25催し物等を開催して、介護職員同士の交流や人間関係作りを図る	75.5%	78.8%	61.7%	75.9%	79.5%	61.0%
F5業務16認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じないように、事前に予防的な対応をする	73.5%	69.7%	64.3%	53.7%	78.2%	80.0%
F4業務24利用者の介護に関して、市町村や地域包括支援センターとの情報共有や連携を日頃から行う	71.1%	54.5%	74.1%	54.8%	69.0%	80.4%
F2業務12利用者の希望や能力に応じたレクリエーションやアクティビティを実施する	71.0%	69.7%	50.0%	49.2%	80.6%	62.0%
F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている	66.2%	56.3%	57.4%	64.1%	53.5%	41.8%
F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	62.8%	72.7%	81.0%	54.8%	80.6%	83.9%
F3業務35新任職員への人材育成を計画的に実施している	61.0%	65.6%	76.4%	75.9%	66.1%	65.7%
F3業務38介護職員の定着を図るための取り組みをしている	59.4%	45.5%	50.0%	59.0%	60.2%	65.9%
F2業務34事業所・施設を利用者と地域の人との交流の場としている	56.6%	38.7%	45.0%	56.2%	50.6%	37.5%
F4業務29利用者の終末期のケアを実施する、またはそのチームに参加する	56.5%	72.4%	76.0%	81.3%	48.9%	81.5%
F4業務31利用者の介護について、地域ケア会議等の外部での会議に参加し、意見を言う	55.9%	44.8%	46.2%	57.1%	59.7%	70.1%
F2業務13利用者の日常生活機能の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	54.1%	68.8%	45.5%	58.3%	75.0%	46.6%
F3業務39PC等を活用して、IT(情報技術)による介護に関する情報管理を行っている(請求事務を除く)	53.1%	63.3%	76.8%	64.8%	58.6%	56.5%
F3業務36中堅職員の人材育成を計画的に実施している	52.9%	60.6%	63.2%	48.9%	52.3%	56.3%
F2業務14利用者の体力や筋力の維持・向上に着目した機能訓練を実施する	51.0%	71.0%	55.0%	46.5%	74.1%	40.7%
F3業務37リーダー・管理職の人材育成を計画的に実施している	49.7%	45.5%	56.1%	52.7%	49.4%	55.8%
F4業務32市町村の高齢者福祉・介護の政策・方針を協議する会議に参加し、意見を言う	46.7%	41.4%	38.3%	49.3%	39.3%	49.2%

注：表中の区切り線は、小規模多機能型居宅介護での達成率が80%以上、60%以上80%未満、60%未満を示す。

3 まとめ

業務達成率について、小規模多機能型居宅介護での達成率を中心にして、他サービスとの比較を行うこととした。図表2-21に示した達成率の3区分での比較を行い、小規模多機能型居宅介護よりも他サービスで達成率が低い項目を図表2-22に、小規模多機能型居宅介護よりも他サービスで達成率が高い項目を図表2-23に示した。ただし、複合型サービスは回答した事業所数が少なかったため、解析から除外した。

まず、小規模多機能型居宅介護の達成率が高かった項目については、小規模多機能型居宅介護の強みや特徴は含まれていると考えられる。定期巡回・随時対応型訪問介護看護に対しては、カンファレンスや事例検討の実施、サービス拒否の利用者への関わり、認知症に配慮した事業所環境整備、行事や防災での地域連携で、小規模多機能型居宅介護の方が達成率が高かった。介護老人福祉施設に対して小規模多機能型居宅介護の達成率が高かった項目の中には、ケアに関する項目もいくつか該当していたが、これは介護老人福祉施設の入居者に高介護度が高い人が多く、認知症の人の割合も多いことによる介護の難しさも起因していると考えられる。しかし、例えば、自立支援や利用者の選択の確保については、小規模多機能型居宅介護の達成率が高いことを評価できると考えられる。通所介護に対しては、認知症の人の自立に向けた支援や環境整備について小規模多機能型居宅介護の達成率が高かった。また、居宅での自立を促進するような環境整備や地域の医療機関との連携については、訪問機能を持つ小規模多機能型居宅介護の強みであるが、通所介護における今後の課題でもあるともいえよう。訪問介護では、事業所の環境整備や地域での防災等の連携について、小規模多機能型居宅介護の達成率が高く、通所機能を拠点として地域との調整も含む訪問機能を持つ小規模多機能型居宅介護の特徴が示されたとも言えよう。

次に、小規模多機能型居宅介護の達成率が高かった項目については、今後の小規模多機能型居宅介護の課題が含まれていると考えられる。まず、通所介護以外に共通しているのが、終末期ケアへの参加であった。この項目は小規模多機能型居宅介護での遂行率も低かったことから、小規模多機能型居宅介護において、終末期ケアへの参加は今後取り組むべき大きな課題であると考えられる。また、アセスメントから生活目標を明確にするという項目も他のサービスと比べ、小規模多機能型居宅介護でやや低かった。包括的支援において、目標を明らかにして共有することが重要なことであり、今後充実すべき課題であると考えられる。また、いくつかのサービスと比べて、「的確・迅速な介護」が小規模多機能型居宅介護の方が低く、介護技術のあり方を考えることも1つの課題であると考えられる。

図表 2-22 小規模多機能型居宅介護が他のサービスと比較して達成率が高い項目

小規模多機能型居宅介護で80%以上達成 他のサービスで80%未満	小規模多機能型居宅介護で60~80%達成 他のサービスで60%未満
定期巡回	
F6業務27利用者の介護方針について、カンファレンスや事例検討を行う F4業務30介護やサービスを拒否する利用者への積極的な関わりを継続する F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている
介護老人福祉施設	
F5業務15認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じたときに、利用者が落ち着くような対応をする F1業務7過剰な介護をしないで、自立を重視した介護を行う F1業務5食事や入浴などについて、利用者の選択を取り入れた介護を行う F5業務17認知症の人が日常生活を自立的に行うことを支援して、生活上の機能低下を防ぐ F1業務9利用者の自立性を高めるような働きかけやコミュニケーションを行う F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る F5業務16認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じないように、事前に予防的な対応をする F4業務24利用者の介護に関して、市町村や地域包括支援センターとの情報共有や連携を日頃から行う F2業務12利用者の希望や能力に応じたレクリエーションやアクティビティを実施する F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う
通所介護	
F5業務17認知症の人が日常生活を自立的に行うことを支援して、生活上の機能低下を防ぐ F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	F4業務23利用者の介護に関して、地域の医療機関との情報共有や連携を日頃から行う F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている
訪問介護	
F2業務18認知症の人の特性に配慮した事業所・施設的环境を整える	F4業務33行事や防災などについて、地域の人や団体との連携をしている

図表 2-23 小規模多機能型居宅介護が他のサービスと比較して達成率が低い項目

小規模多機能型居宅介護で70~80%達成 他のサービスで80%以上	小規模多機能型居宅介護で60%未満達成 他のサービスで70%以上
定期巡回	
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	F4業務29利用者の終末期のケアを実施する、またはそのチームに参加する F3業務39PC等を活用して、IT(情報技術)による介護に関する情報管理を行っている(請求事務を除く)
介護老人福祉施設	
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする	F4業務29利用者の終末期のケアを実施する、またはそのチームに参加する
通所介護	
F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする F2業務12利用者の希望や能力に応じたレクリエーションやアクティビティを実施する F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	F4業務29利用者の終末期のケアを実施する、またはそのチームに参加する F2業務14利用者の体力や筋力の維持・向上に着目した機能訓練を実施する
訪問介護	
F4業務28利用者の居宅における自立を促進するために、生活環境の整備・改善を図る F6業務19個別支援計画の作成過程で、アセスメントの結果から生活の目標を明確にする F5業務16認知症の人のBPSD(周辺症状)が生じないように、事前に予防的な対応をする F4業務24利用者の介護に関して、市町村や地域包括支援センターとの情報共有や連携を日頃から行う F1業務8高い介護技術による的確で迅速な介護を行う	F4業務31利用者の介護について、地域ケア会議等の外部での会議に参加し、意見を言う

第3章 業務遂行と背景要因に関する調査

1 調査方法

(1) 調査票の配布と回収の状況

全国事業所・施設調査に回答し、介護職員への調査に協力の意向を示した事業所・施設のうち、458事業所・施設を対象として、常勤の介護職員および週20時間以上勤務する非常勤の介護職員を対象として実施した（送付した事業所・施設の内訳は1章の図表1-4に示した）。

事業所・施設調査における介護職員調査への協力承諾書に常勤および週20時間以上勤務する非常勤介護職員の人数の記載を求め、その人数分の調査票を事業所・施設あてにまとめて送付し、改めて該当する職員への配布・回収を依頼した（合計6395名分の調査票を配布）。調査票の回収にあたっては、回答者である職員が記入済みの調査票を封筒に厳封し、事業所・施設でとりまとめて返送することを依頼した。

また、事業所・施設の状況を把握するために、管理者または事業所全体の状況を把握している人に対して、事業所・施設票への記入を求め、職員向けの調査票とともに返送を求めた。その結果、図表3-1に示した事業所から調査票を回収することができた。

図表3-1 事業所種別の回収状況

	配布 事業所数	回答 事業所数	回収率	配布した 職員調査票	回収した 職員調査票	職員調査票 の 回収率	1事業所 あたりの 平均 回答者数 (人)
小規模多機能型居宅介護	272	216	79.4%	2862	1703	59.5%	7.9
複合型サービス	5	5	100.0%	53	42	79.2%	8.4
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	25	20	80.0%	352	215	61.1%	10.8
介護老人福祉施設	55	53	96.4%	2071	1551	74.9%	29.3
通所介護	48	38	79.2%	393	224	57.0%	5.9
訪問介護	53	44	83.0%	664	393	59.2%	8.9

注：職員調査票の配布数は事業所・施設の申告数に基づいているため、職員調査票の回収率は参考値である

(2) 調査内容

介護職員調査の調査内容は以下の通りであった。（調査票は巻末の資料を参照）

- (1) 所属する事業所施設の概要：種別・所在地・法人種
- (2) 回答者の属性と経歴：性別・年齢・経験年数・役職・勤務形態・勤務したことのある高齢者介護関連事業所・資格・資格取得ルート・研修受講日数
- (3) 業務遂行状況と達成度評価：業務65項目についての実施および達成度
- (4) 業務遂行への背景要因
 - 1) 職場からの支援：教育機会の提供・内発的動機づけ支援

- 2) 個人要因：基本能力とスキル・共感性・あいまいさへの態度・達成動機・経験学習
- 3) 動機づけ：仕事に対する内発的動機づけ・成長学習への動機づけ
- 4) 仕事への態度：バーンアウト・仕事継続意志

また、事業所・施設票の調査内容は以下の通りであった。（調査票は事業所の種別によって異なる。巻末の資料を参照）

- (1) 事業所・施設の属性
- (2) 加算の状況
- (3) 利用者・登録者の状況：登録者・利用者・世帯状況・住居の状況
- (4) 介護職員の状況：勤務形態別人数・介護福祉士資格保有状況

2 調査結果（１） 事業所・施設の属性

事業所・施設の基本属性に関する事業所・施設票が回収できたのは、小規模多機能型居宅介護 190 件、複合型サービス 4 件、定期巡回・随時対応型訪問介護看護 19 件、介護老人福祉施設 46 件、通所介護 34 件、訪問介護 38 件であった。以下に項目ごとの集計結果を示した。

（１） 事業所・施設の基本属性

1) 加算の状況

事業所種別ごとの加算状況を図表 3-2 から図表 3-7 に示した。

図表 3-2 小規模多機能型居宅介護の加算状況

小規模多機能型居宅介護	回収調査票	190
	加算あり 事業所数	%
1. 看護職員配置加算(Ⅰ)	50	26.3%
2. 看護職員配置加算(Ⅱ)	51	26.8%
3. サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	65	34.2%
4. サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	52	27.4%
5. サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	7	3.7%
6. 認知症加算(Ⅰ)	162	85.3%
7. 認知症加算(Ⅱ)	131	68.9%
8. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	165	86.8%
9. 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	8	4.2%
10. 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	3	1.6%

図表 3-3 複合型サービスの加算状況

複合型サービス	回収調査票	4
	加算あり 事業所数	%
1. 緊急時訪問看護加算	3	75.0%
2. サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	3	75.0%
3. サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	0	0.0%
4. サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	0	0.0%
5. 認知症加算(Ⅰ)	4	100.0%
6. 認知症加算(Ⅱ)	3	75.0%
7. 特別管理加算(Ⅰ)	3	75.0%
8. 特別管理加算(Ⅱ)	3	75.0%
9. ターミナルケア加算	3	75.0%
10. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	4	100.0%
11. 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	0	0.0%
12. 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0%

図表 3-4 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の加算状況

定期巡回随時対応型訪問介護看護	回収調査票	19
	加算あり 事業所数	%
1. 緊急時訪問看護加算	1	5.3%
2. 特別地域定期巡回随時対応型訪問介護看護加算	0	0.0%
3. 中山間地域等における小規模事業所加算	1	5.3%
4. 中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	1	5.3%
5. 特別管理加算(Ⅰ)	1	5.3%
6. 特別管理加算(Ⅱ)	1	5.3%
7. ターミナルケア加算	0	0.0%
8. サービス提供体制強化加算Ⅰ	7	36.8%
9. サービス提供体制強化加算Ⅱ	0	0.0%
10. サービス提供体制強化加算Ⅲ	1	5.3%
11. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	18	94.7%
12. 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	1	5.3%
13. 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0%

図表 3-5 介護老人福祉施設の加算状況

介護老人福祉施設	回収調査票	46
	加算あり 施設数	%
1. 日常生活継続支援加算	33	71.7%
2. 看護体制加算(Ⅰ)イ	20	43.5%
3. 看護体制加算(Ⅰ)ロ	17	37.0%
4. 看護体制加算(Ⅱ)イ	15	32.6%
5. 看護体制加算(Ⅱ)ロ	14	30.4%
6. 夜勤職員配置加算(Ⅰ)イ	10	21.7%
7. 夜勤職員配置加算(Ⅰ)ロ	8	17.4%
8. 夜勤職員配置加算(Ⅱ)イ	9	19.6%
9. 夜勤職員配置加算(Ⅱ)ロ	10	21.7%
10. 準ユニットケア加算	1	2.2%
11. 常勤専従医師配置加算	1	2.2%
12. 精神科医師定期的療養指導	4	8.7%
13. 障害者生活支援体制加算	0	0.0%
14. 口腔機能維持管理体制加算	17	37.0%
15. 在宅復帰支援機能加算	0	0.0%
16. サービス提供体制強化加算Ⅰ	7	15.2%
17. サービス提供体制強化加算Ⅱ	3	6.5%
18. サービス提供体制強化加算Ⅲ	0	0.0%
19. 個別機能訓練加算	24	52.2%
20. 若年性認知症利用者受入加算	1	2.2%
21. 退所前訪問相談援助加算	0	0.0%
22. 退所後訪問相談援助加算	0	0.0%
23. 退所時相談援助加算	0	0.0%
24. 退所前連携加算	1	2.2%
25. 栄養マネジメント加算	38	82.6%
26. 経口移行加算	3	6.5%
27. 経口維持加算(Ⅰ)	3	6.5%
28. 口腔機能維持管理加算	6	13.0%
29. 療養食加算	31	67.4%
30. 看取り介護加算	17	37.0%
31. 在宅・入所相互利用加算	0	0.0%
32. 認知症専門ケア加算Ⅰ	3	6.5%
33. 認知症専門ケア加算Ⅱ	4	8.7%
34. 認知症行動・心理症状緊急対応加算	0	0.0%
35. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	41	89.1%
36. 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	0	0.0%
37. 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0%

図表 3-6 通所介護の加算状況

通所介護	回収調査票 34	
	加算あり 事業所数	%
1. サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	17	50.0%
2. サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	8	23.5%
3. サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	0	0.0%
4. 延長加算	2	5.9%
5. 中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	3	8.8%
6. 入浴介助加算	31	91.2%
7. 個別機能訓練加算Ⅰ	12	35.3%
8. 個別機能訓練加算Ⅱ	13	38.2%
9. 若年性認知症利用者受入加算	1	2.9%
10. 栄養改善加算	0	0.0%
11. 口腔機能向上加算	5	14.7%
12. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	28	82.4%

図表 3-7 訪問介護の加算状況

訪問介護	回収調査票 38	
	加算あり 事業所数	%
1. 特定事業所加算(Ⅰ)	2	5.3%
2. 特定事業所加算(Ⅱ)	9	23.7%
3. 特定事業所加算(Ⅲ)	1	2.6%
4. 延長加算	0	0.0%
5. 特別地域訪問介護加算	2	5.3%
6. 中山間地域等における小規模事業所加算	1	2.6%
7. 中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	0	0.0%
8. 緊急時訪問介護加算	9	23.7%
9. 初回加算	27	71.1%
10. 生活機能向上連携加算	1	2.6%
11. 介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	33	86.8%
12. 介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	1	2.6%
13. 介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0%

2) その他の事業所・施設属性

定期巡回・随時対応型訪問介護看護における一体型・連携型の別、介護老人福祉施設における従来型・ユニット型の平均定員数、通所介護事業所における定員規模を図表 3-8 から図表 3-10 に示した。

図表 3-8 定期巡回・随時対応型訪問介護看護における一体型・連携型の別

タイプ	施設数	%
一体型	3	15.0%
連携型	16	80.0%

図表 3-9 介護老人福祉施設における施設規模等

定員	平均
施設定員	65.64
居室タイプの定員	
多床室	14.09
従来型個室	3.83
ユニット型準個室	0.00
ユニット型個室	43.47

図表 3-10 通所介護における事業所規模

事業所規模	施設数	%
小規模	10	26.3%
通常規模	24	63.2%
大規模	0	0.0%
不明	4	10.5%

(2) 事業所・施設における利用者・登録者の状況

1) 利用者数（登録者数）および要介護度・認知症日常生活自立度

利用者数（登録者数）および要介護度、認知症の日常生活自立度Ⅲ以上にそれぞれ該当する平均人数を図表 3-11 に示した。また、特徴を検討するため、利用者中の認知症の利用者の割合および要介護度 3 以上に該当する利用者の割合を算出した。その結果、認知症の利用者の割合は介護老人福祉施設で最も高く、次に複合型サービス、小規模多機能型居宅介護の順で高かった。また、要介護 3 以上の者の割合は、介護老人福祉施設で最も高く、次に複合型サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の順で高かった。

図表 3-11 利用者・登録者数

要介護度 認知症度	事業所・施設数	小規模多機能	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
		190	4	19	46	34	38
登録者数 平均該当者数 (人)	支援1	0.9	0.0	2.0	0.0	3.9	7.7
	支援2	1.1	0.0	2.2	0.0	7.9	9.8
	介護1	4.6	3.0	5.3	2.0	15.7	17.0
	介護2	5.0	4.8	4.4	6.2	14.8	17.4
	介護3	3.9	3.0	4.3	13.9	8.7	10.1
	介護4	2.6	4.0	2.9	21.4	4.9	6.6
	介護5	1.9	5.5	1.6	23.0	2.5	5.5
合計	19.7	20.3	22.7	63.7	58.3	74.1	
うち 認知症日常生活自立度Ⅲ以上 (人)	支援1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	支援2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
	介護1	1.1	1.3	0.4	0.7	2.4	1.2
	介護2	1.7	1.3	1.3	2.0	2.8	1.5
	介護3	2.2	1.5	1.5	7.3	2.4	1.9
	介護4	1.7	3.3	1.1	14.6	1.7	1.6
	介護5	1.3	3.8	0.7	18.2	1.5	1.6
合計	7.63	11.00	4.84	43.20	9.88	7.97	
利用者中認知症者の割合		38.6%	53.5%	19.9%	68.4%	19.7%	14.3%
利用者中要介護3以上の割合		42.3%	61.9%	51.2%	88.2%	27.5%	32.7%

2) 世帯状況

介護老人福祉施設以外の居宅サービス・地域密着型サービスにおける利用者（登録者）の世帯類型ごとの平均人数を図表3-12に示した。小規模多機能型居宅介護、複合型サービス、通所介護では「子供と同居」が最も多く、訪問介護は「1人暮らし」、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では「その他」「1人暮らし」が多かった。

図表3-12 利用者・登録者の世帯状況

世帯状況 平均該当者数	小規模多機能 居宅介護	複合型 サービス	定期巡回随 時対応型訪 問介護看護	通所介護	訪問介護
1人暮らし	5.4	4.0	6.2	10.1	29.4
2人暮らし	2.9	3.5	2.2	9.3	12.9
子どもと同居	9.6	7.3	2.2	30.6	9.4
その他	2.1	5.5	6.5	8.4	10.3

3) 居住地の状況

介護老人福祉施設以外の居宅サービス・地域密着型サービスにおける利用者（登録者）の居住地の状況について、それぞれの平均人数を図3-13に示した。いずれの事業所でも日常生活圏域内の利用者が多かったが、通所介護と訪問介護は日常生活圏域外の市町村内の利用者も多かった。一方で、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用者はほとんど日常生活圏域内に集中していた。また、複合型サービスおよび定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、隣接・近隣のサービス付き高齢者住宅に居住する利用者割合が高かった。

図表3-13 利用者・登録者の住居の状況

住居状況 平均該当者数	小規模多機能 居宅介護	複合型 サービス	定期巡回随 時対応型訪 問介護看護	通所介護	訪問介護
住居:日常生活圏域内自宅	12.6	11.8	15.4	30.5	33.1
内住居:サ高住	1.3	8.3	7.1	4.0	2.8
住居:市町村内	7.4	8.5	0.7	21.4	26.2
住居:市町村外	0.4	0.0	0.2	2.6	4.9

(3) 事業所・施設における介護職員数

それぞれの事業所・施設に所属する介護職員数の平均を図表3-14に示した。その特徴を示すために、非常勤職員の比率および常勤職員の中の介護福祉士の資格保有率を算出した。非常勤比率は訪問介護および定期巡回・随時対応型訪問介護看護で高く半数を超えていた。常勤職員における介護福祉士の資格保有率では、複合型サービスで約8割、小規模多機能型居宅介護で約5割、その他の事業所・施設種別ではおおむね7割前後であった。

図表3-14 介護職員数

介護職員数	小規模多機能	複合型サ ービス	定期巡回随 時対応型訪 問介護看護	介護老人福 祉施設	通所介護	訪問介護
常勤(人)	8.1	6.3	11.5	32.3	4.8	6.5
非常勤(人)	4.1	3.0	21.6	5.4	2.6	10.6
非常勤比率	32.0%	34.5%	50.6%	14.1%	34.2%	60.4%
常勤者の介護福祉士保有率	50.8%	81.5%	73.8%	64.2%	62.8%	69.5%

3 調査結果（2） 調査に回答した介護職員の属性

次に介護職員が回答した調査票に基づき、回答者の属性についての結果を示した。

（1） 介護職員の基本属性

1) 性別

介護職員の性別ごとの人数および割合を図表3-15に示した。男性職員は複合型サービスおよび介護老人福祉施設で多く、それぞれ約40%、約33%であった。小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、および通所介護はおおむね25%前後であった。訪問介護は約12%であり、他の事業所・施設種別と比べて、男性職員比率が少なかった。

図表3-15 介護職員の性別

性別	女		男		不明	合計
	人数	割合	人数	割合		
小規模多機能型居宅介護	1271	74.6%	430	25.2%	2	1703
複合型サービス	25	59.5%	17	40.5%		42
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	166	77.2%	48	22.3%	1	215
介護老人福祉施設	1036	66.8%	511	32.9%	4	1551
通所介護	167	74.6%	57	25.4%		224
訪問介護	345	87.8%	46	11.7%	2	393

2) 年齢

回答者の平均年齢を図表3-16に示した。

平均年齢は、訪問介護が最も高く50歳を超えており、介護老人福祉施設が36.9歳でもっとも若かった。他の事業所・施設の平均年齢は40歳代であった。

図表3-16 介護職員の平均年齢

	年齢(歳)					
	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
人数	1690	42	213	1539	222	390
平均値	44.1	40.8	46.5	36.9	42.0	50.6
標準偏差	13.1	11.4	12.4	12.2	11.8	11.3

3) 介護職としての経験（経験月数・現在の事業所の勤続月数・勤務経験のある事業所施設）

介護に関する経験について図表3-17から図表3-19に示した。

介護に関する経験期間は、訪問介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護が100か月（約8年）を超えており、やや長かったが、他の事業所・施設でも平均でおよそ90か月（約7年）であった。同様に現在の事業所への平均勤続月数も、訪問介護がもっとも長くおよそ7年、通所介護と介護老人福祉施設、定期巡回・随時対応型がおよそ5～6年、小規模多機能と複合型サービスはおよそ4年であった。

勤務経験のある事業所・施設では、設問では、現在の事業所・施設を除いて回答を求めたが、現在所属している事業所・施設と同じ種類の事業所・施設での勤務経験率が極めて高い傾向が得られ、現在の事業所・施設を含めて回答している可能性を否定できなかった。その上で、それぞれの事業所・施設について、異なる種類の事業所・施設での経験をみると、多くの事業所で施設での勤務経験があるという職員は相対的に多かった。ただし、訪問介護の職員は、施設勤務の経験率が低かった。

図表 3-17 介護に関する仕事の経験月数

	経験月数(ヶ月)					
	小規模多機能型 居宅介護	複合型サ ービス	定期巡回・随 時対応型訪 問介護看護	介護老人福 祉施設	通所介護	訪問介護
人数	1670	42	210	1522	217	386
平均値	89.7	94.8	105.4	90.3	92.0	115.5
標準偏差	72.6	105.7	64.6	65.5	71.2	72.9
最小値	0	7	0	0	0	3
最大値	540	647	360	456	356	403

図表 3-18 現在の事業所・施設の勤続月数

	勤続月数(ヶ月)					
	小規模多機能型 居宅介護	複合型サ ービス	定期巡回・随 時対応型訪 問介護看護	介護老人福 祉施設	通所介護	訪問介護
人数	1651	42	206	1519	218	369
平均値	48.6	46.5	66.1	65.1	68.4	84.1
標準偏差	43.9	33.7	58.7	54.7	64.5	70.5
最小値	0	3	0	0	1	1
最大値	369	163	247	398	416	403

図表 3-19 勤務経験のある事業所・施設

勤務経験のある事業所・施設	小規模多機能型 居宅介護	複合型サ ービス	定期巡回・随 時対応型訪 問介護看護	介護老人福 祉施設	通所介護	訪問介護
有効数	1594	37	201	1498	212	363
不明・無回答	109	5	14	53	12	30
合計	1703	42	215	1551	224	393
特養(従来型)	20.5%	18.9%	17.9%	46.1%	19.3%	8.5%
特養(ユニット型)	11.0%	13.5%	12.4%	72.2%	9.4%	5.5%
老健(従来型)	11.2%	18.9%	16.4%	10.1%	9.0%	5.0%
老健(ユニット型)	1.2%		2.5%	2.3%	0.5%	1.1%
特定施設	6.6%	10.8%	8.5%	4.2%	12.3%	11.6%
グループホーム	16.9%	16.2%	13.9%	6.6%	9.0%	5.2%
通所介護事業所	19.3%	21.6%	17.4%	7.5%	78.8%	20.7%
小規模多機能	81.7%	64.9%	9.0%	2.2%	6.1%	4.1%
訪問介護	11.8%	8.1%	57.2%	4.8%	9.0%	78.2%
居宅介護支援	4.0%	2.7%	10.9%	1.3%	1.9%	6.9%
地域包括支援センター	0.3%		5.0%	0.5%		0.3%
病院・診療所	13.1%	16.2%	10.9%	7.5%	11.8%	8.3%
その他	4.6%	16.2%	12.9%	3.1%	3.3%	5.2%

注：設問では現在所属の事業所を除いて回答することを求めたが、回答の傾向から、相当数が現在所属の事業所を含めて回答している可能性を否定できない。

4) 現在の役職と勤務形態

現在の職場での役職を複数回答で求め、結果を図表3-20に示した。いずれの事業所・施設においても介護職員の割合が最も多く、6～8割を占めていた。

また、勤務形態について、結果を図表3-21に示した。訪問介護では約32%、小規模多機能居宅介護居宅事業所および複合型サービスでは約19%が非常勤職員であった。

図表3-20 現在の役職・職務（複数回答・就いている割合）

現在の役職	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効数	1694	42	212	1544	223	391
不明・無回答	9	0	3	7	1	2
合計	1703	42	215	1551	224	393
管理者	4.7%	4.8%	6.6%	0.6%	4.9%	6.9%
介護職リーダー	8.0%	9.5%	8.0%	15.4%	6.3%	5.6%
介護職サブリーダー	3.0%	4.8%	3.8%	7.5%	3.1%	2.0%
介護職員	84.0%	85.7%	65.6%	78.6%	82.1%	75.7%
生活相談員	0.6%			1.2%	22.4%	2.3%
機能訓練指導員	0.2%		0.5%	0.1%	2.2%	
介護支援専門員	5.2%	2.4%	2.4%	2.4%	0.4%	3.3%
計画作成担当者	3.9%	4.8%	13.7%	0.6%	4.0%	1.0%
サービス提供責任者	0.7%		14.6%	0.2%	0.4%	19.9%
その他	5.1%	2.4%	9.4%	2.5%	6.3%	5.9%

図表3-21 現在の勤務形態

勤務形態	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効	1680	42	213	1540	223	389
不明・無回答	23	0	2	11	1	4
合計	1703	42	215	1551	224	393
常勤(正社員)	59.4%	78.6%	66.2%	76.2%	56.1%	46.5%
常勤(契約・嘱託職員等)	16.8%	2.4%	8.9%	13.8%	22.4%	17.2%
非常勤職員	19.0%	19.0%	15.5%	7.7%	16.6%	31.9%
その他	4.8%	0.0%	9.4%	2.3%	4.9%	4.4%

5) 保有している資格

保有している資格を複数回答で求め、図表3-22に示した。

介護福祉士の保有率は、いずれの事業所・施設種別でも5割を超えていたが、介護老人福祉施設と複合型サービスでは7割を超えていた。一方、ヘルパー2級については、介護職員が「訪問介護員」

である必要がある訪問介護で 75.7%、定期巡回・随時対応型訪問介護看護で 67.8%と他の種別と比べて高い割合であった。介護福祉士の保有率とあわせると、訪問介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、ヘルパー 2 級のみ保有して勤務する職員も多いことが推測される。

介護福祉士の資格保有者の資格取得ルートを図表 3-23 に示した。実務経験ルートが、事業所・施設種別にかかわらずもっとも多い割合を示したが、訪問介護では 9 割近くが実務経験ルートであるのに対して、介護老人福祉施設では実務経験ルートは 55.9%にとどまり、一方で専門学校または短大で取得した職員が 3 割を占めた。

図表 3-22 所有資格

所有している資格	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効数	1474	41	211	1408	203	391
不明・無回答	229	1	4	143	21	2
合計	1703	42	215	1551	224	393
ヘルパー2級	52.1%	48.8%	67.8%	39.2%	47.8%	75.7%
ヘルパー1級	4.1%	4.9%	10.4%	3.1%	2.0%	8.2%
介護職員基礎研修	12.6%	14.6%	8.1%	7.9%	10.3%	9.0%
介護職員実務者研修	10.0%	12.2%	6.6%	5.0%	4.4%	3.3%
介護福祉士	54.5%	70.7%	59.2%	72.8%	57.1%	50.9%
社会福祉士	1.6%	2.4%	0.9%	1.8%	2.5%	0.5%
精神保健福祉士	0.4%		0.5%	0.2%		
准看護師	2.9%		2.4%	0.4%	3.0%	3.6%
看護師	2.3%		0.9%	0.2%	2.5%	0.3%
社会福祉主事	9.5%	14.6%	3.8%	14.0%	16.3%	2.8%
介護支援専門員	10.6%	12.2%	11.4%	7.0%	10.3%	6.6%
主任介護支援専門員	0.3%			0.1%		1.3%

図表 3-23 介護福祉士の資格取得ルート

介護福祉士の資格取得ルート	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	
介護福祉士有資格者数	804	29	125	1025	116	199	
有効回答を母数にした%	実務経験→受験→取得	74.5%	79.3%	86.4%	55.9%	73.3%	88.4%
	福祉系高卒→受験→取得	2.5%	0.0%	1.6%	3.5%	0.0%	1.5%
	高卒→養成施設(専門学校)→取得	12.2%	20.7%	8.0%	23.5%	13.8%	5.5%
	高卒→養成施設(短大)→取得	2.9%	0.0%	0.8%	6.0%	0.9%	0.5%
	大卒→養成施設→取得	1.9%	0.0%	0.8%	2.2%	1.7%	1.0%
	福祉系大卒→取得	1.1%	0.0%	0.0%	2.8%	3.4%	0.5%
	福祉系大卒→養成施設→取得	2.1%	0.0%	1.6%	2.4%	1.7%	1.0%
	保育士資格取得→養成施設→取得	1.2%	0.0%	0.0%	2.0%	1.7%	0.5%
	その他	1.1%	0.0%	0.0%	1.2%	3.4%	1.0%
不明・無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	

6) 研修・勉強会の状況

平成 26 年 1 月から 10 月において参加した研修や勉強会の参加日数についての結果を図表 3-24 に示した。その結果、平均値としては、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が最も多く 11.5 日、ついで小規模多機能型居宅介護が 9.7 日で多かった。ただし、小規模多機能型居宅介護であっても、最頻値は 0 回、中央値は 5 回であり、また標準偏差も 18.3 と大きいことから、研修・勉強会等の参加状況にはばらつきが大きいことが示唆された。

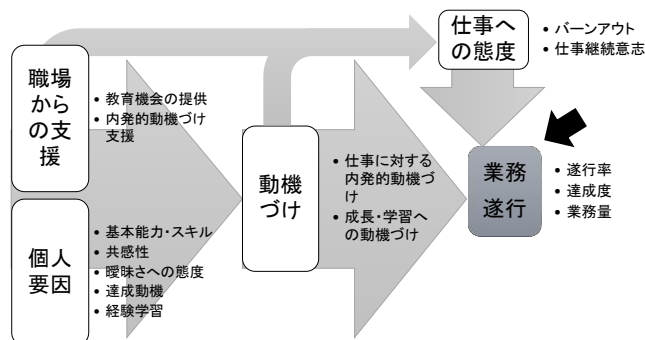
図表 3-24 研修・勉強会参加日数

研修・勉強会参加日数	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効	1518	35	207	1315	194	339
不明・無回答	185	7	8	237	30	54
平均値	9.7	6.3	11.5	8.1	6.2	8.3
中央値	5	5	10	5	5	6
最頻値	0	0	10	0	0	10
標準偏差	18.3	5.7	15.2	12.3	5.3	13.5

4 調査結果（3） 業務遂行と達成に関する項目

本節では、介護職員の業務遂行における遂行率および達成度についての分析結果を示す。

特に小規模多機能型居宅介護事業所における各種業務の遂行率と達成度の状況を中心に明らかにすることを目指した。



（1）質問項目の作成

地域において24時間の生活を支える介護業務の評価を行うために、業務遂行に関する質問項目を新たに作成した。項目作成にあたっては、WHOが示している慢性期ケアに当たる人に必要とされるコンピテンシーのうち「患者中心ケア」に含まれる4要素（効果的な声かけとコミュニケーション・健康関連行動変容への働きかけ・セルフマネジメントへの支援・プロアクティブアプローチ）および協働・質の向上を中心的な概念として用い、厚生労働省ジョブ・カード制度における「職務遂行のための基本的能力」および介護プロフェッショナルのキャリア段位制度の評価基準に用いられている内容を参考にしながら、業務内容の大分類・中分類・小分類（およびWHOのコンピテンシー上の位置づけ）を構成し、小規模多機能型居宅介護のサービス提供を念頭に置いた65項目を作成した。

各項目については、過去3か月の間に各業務を行ったかどうか質問し、「行なわなかった・担当ではない」か「行なった」のいずれかを選択させた。「行なった」場合には、その達成度について「うまくできなかった」「どちらかといえばうまくいかなかった」「どちらかといえばうまくできた」「うまくできた」の4つの選択肢から最もあてはまるものを選択させた。得点化するために、達成度については、順に1～4点を付与した。

（2）調査対象職員の職位による解析対象の層別

担当する職務内容に違いが予想されることから、職員の職務・役職に関する項目において、「一般職員」にのみ該当する者を『一般介護職員』とした。また、「管理者」「介護職のリーダー」「介護職のサブリーダー」、「生活相談員」「介護支援専門員」「計画作成担当者」「サービス提供責任者」のいずれかに該当する者および「機能訓練指導員」と「介護職員」に重複して該当する者を『リーダー層』とした。なお、「機能訓練指導員」のみに該当する者はこの分析からは除外した。

（3）質問項目の尺度化

得られた回答については、小規模多機能型居宅介護の職員のデータを用いて、尺度化を行った。

まず、小規模多機能型居宅介護の一般介護職員における業務遂行率（「行なった」の回答割合）を算出し、業務遂行率80%以上の43項目と80%未満の22項目に分類した（図表3-37参照）。

遂行率80%以上の43項目について、その業務を「行なわなかった」回答については（「行なったが」うまくできなかった」と同じ1点を付与して、最尤法・プロマックス回転による探索的因子分析を行った。遂行率80%未満の22項目については、リーダー層における業務遂行率を算出したところ、すべて50%を超えていた。そこでリーダー層だけを対象として、業務を「行なわなかった」回

答については「うまくできなかった」と同じ1点を付与して、最尤法・プロマックス回転による探索的因子分析を行った。因子分析の結果から一般介護職員では7因子、リーダー層では4因子を最適解として抽出し、それぞれの因子ごとに因子負荷量0.45以上を基準として所属項目の選択を行った。その結果、合計47項目を用いた業務遂行の下位尺度を構成した。因子ごとに採用した項目を図表3-25に示した。

図表 3-25 採択された業務遂行の項目 (A1~7 および B1~4 は因子をあらわす)

項目		
一般介護職員の業務遂行	A1	入浴や排泄の際に転倒しないよう環境を確認する 入浴や排泄の介護の前に、利用者の様子をよく観察する 手際よくオムツを交換する 食事の際に、うまく呑み込めているかを確認しながら介助する 利用者の苦痛がないよう、スムーズに移乗を行う 入浴の際に、皮膚の状態から病気や異常の有無を確認する 本人のペースや希望に沿って入浴や食事の介護をする
	A2	介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に発見する 認知症の利用者が普段と異なる様子のときは、その原因を探す 認知症の人が今の生活をできる限り自立して続けられるよう、工夫して支援し続ける 担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く 介護記録を分かりやすい表現で正確に書く 自分のかかわりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する 利用者の家族と良好な信頼関係を形成する
	A3	現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める 介護が受け入れてもらえない時でも、何度でも受け入れてもらえるように工夫して関わり続ける 機能向上や自立できることについて、見通しを持ちながら支援する 介護をする前に利用者の意思や希望の確認をする 介護の方法や内容について本人が選択できる場合には選んでもらう 意欲のない利用者に対して、やる気を高めるように声をかける
	A4	できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。 利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする
	A5	認知症の利用者の不安を低減させるために、穏やかな表情や動作をする 認知症の利用者が介護を拒否するときでも、怒ったり困ったりしないでかかわり続ける 利用者に安心してもらえるように穏やかな態度で声をかける
	A6	事業所・施設内の介護職どうして利用者の状態について日頃から情報交換する 事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する
	A7	利用者が自分でできそうなことは、自分で行うように励ます 利用者が少し頑張ればできることは、利用者が自分で行えるように支援する
リーダー職の業務遂行	B1	支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する 支援の計画に沿った介護が実践されているかを確認する 利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する 利用者の情報をまとめて、生活を続ける上での課題と対策を明らかにする 認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する
	B2	地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する
	B3	介護職員の育成計画を作成する 部下と面談して目標を定め、客観的に部下を評価する 部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る 後輩が理解できるように、ていねいに現場での指導を行う
	B4	終末期にある利用者の全身状態を、医療職と連携して情報共有する 終末期にある利用者の意志を、家族や医療関係者と協力して尊重して支援する

(4) 因子名の検討

次に、図表3-25に示した各因子について、それぞれの因子ごとに選択した項目から、因子の表す意味と因子名について、項目作成時に作成した大分類・中分類・小分類およびWHOの慢性疾患ケアのためのコンピテンシーをもとに検討した。

1) 一般介護職員における第1因子A1「安全・健康を維持する基本的ケア」

第1因子に含まれる7項目を図表3-26に示した。すべての項目が大分類では「基本介護の遂行」に分類され、中分類からいわゆる三大介護の領域であることがわかる。主に基本介護の内容だが、安全確保や健康維持のための基本介護であるところが特徴である。

そこで一般介護職員の第1因子は「安全・健康を維持する基本的ケア」と命名した。

図表3-26 一般介護職員第1因子「安全と健康を維持する基本的ケア」の項目

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A1	入浴や排泄の際に転倒しないよう環境を確認する	基本介護の遂行	入浴・排泄	安全確保	
	入浴や排泄の介護の前に、利用者の様子をよく観察する	基本介護の遂行	入浴・排泄	観察	
	手際よくオムツを交換する	基本介護の遂行	排泄	介護技術の実践	
	食事の際に、うまく呑み込んでいるかを確認しながら介助する	基本介護の遂行	食事	安全確保	
	利用者の苦痛がないよう、スムーズに移乗を行う	基本介護の遂行	移乗	介護技術の実践	
	入浴の際に、皮膚の状態から病気や異常の有無を確認する	基本介護の遂行	入浴	健康の維持	
	本人のペースや希望に沿って入浴や食事の介護をする	基本介護の遂行	入浴・食事	自己決定	セルフマネジメント

2) 一般介護職員における第2因子A2「観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア」

第2因子に含まれる9項目を図表3-27に示した。ここには「認知症ケア」にかかわる項目が多く含まれ、大項目では「基本能力・スキル」と「専門的ケア」に分類される項目が多く、専門的ケアについては「認知症ケア」に該当する。またWHO慢性疾患ケアコンピテンシーでは「セルフマネジメント」「プロアクティブ」「連携」が含まれている。このような内容からは、アセスメント、観察・記録などの基本的なスキルを用いて、状況を分析し、見通しを持ってケアを実践することを示す因子と考えられる。そこで、一般介護職員の第2因子は「観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア」と命名した。

図表3-27 一般介護職員第2因子「観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア」の項目

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A2	介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に発見する	基本能力・スキル	職業人としての基本能力	分析力	プロアクティブ
	認知症の利用者が普段と異なる様子のときは、その原因を探す	専門的ケア	認知症ケア	BPSD	プロアクティブ
	認知症の人が今の生活をできる限り自立して続けられるよう、工夫して支援し続ける	専門的ケア	認知症ケア	支援の継続	セルフマネジメント
	担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する	基本的能力・スキル	職業人としての基本能力	職場内	協働
	認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える	専門的ケア	認知症ケア	見通し	セルフマネジメント
	事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く	基本能力・スキル	職業人としての基本能力	記録	協働
	介護記録を分かりやすい表現で正確に書く	基本能力・スキル	職業人としての基本能力	文章表現力	協働
	自分のかかわりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する	専門的ケア	認知症ケア	見通し	プロアクティブ
	利用者の家族と良好な信頼関係を形成する	地域包括ケア	協力・調整	家族	協働

3) 一般介護職員における第3因子A3「継続的支援のためのコミュニケーション」

第3因子に含まれる7項目を図表3-28に示した。ここには大分類として「基本介護の遂行」と「専門的ケア」が含まれ、専門的ケアの内容としては支援の継続が難しい「困難事例への対応」となっている。WHO慢性疾患ケアの分類では「患者中心ケア」の「プロアクティブ」「コミュニケーション」「行動変容」が多く含まれている因子である。また、小分類では「支援の継続」「目標・見通し」「自己決定」「動機づけ支援」「意思確認」となっていることから、見通しを持ち、利用者を目指に向けて動機づけるように継続的にかかわる支援を指す因子であると考えられる。そこで第3因子を「継続的支援のためのコミュニケーション」と命名した。

図表3-28 一般介護職員第3因子「継続的支援のためのコミュニケーション」の項目

項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける	専門的ケア	困難事例への対応	支援の継続	プロアクティブ
利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める	基本介護の遂行	支援の方針	目標・見通し	プロアクティブ
介護が受け入れられない時でも、何度でも受け入れてもらえるように工夫して関わり続ける	専門的ケア	困難事例への対応	支援の継続	コミュニケーション
A3 機能向上や自立できることについて、見通しを持ちながら支援する	基本介護の遂行	支援の方針	目標・見通し	プロアクティブ セルフマネジメント
介護をする前に利用者の意思や希望の確認をする	基本介護の遂行	支援の方針	意思確認	コミュニケーション
介護の方法や内容について本人が選択できる場合には選んでもらう	基本介護の遂行	支援の方針	自己決定	コミュニケーション
意欲のない利用者に対して、やる気を高めるように声をかける	基本介護の遂行	動機づけ支援	意欲への働きかけ	行動変容

4) 一般介護職員における第4因子A4「生活機能向上への働きかけ」

第4因子に含まれる4項目を図表3-29に示した。ここには機能訓練に関する項目が多く含まれ、WHO慢性疾患ケアコンピテンシーでは「セルフマネジメント」が多く、機能向上を通して自発的な社会参加や活動を維持するための働きかけを表す因子である。そこで第4因子を「生活機能向上への働きかけ」と命名した。

図表3-29 一般介護職員第4因子「生活機能向上への働きかけ」の項目

項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A4 できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる	基本介護の遂行	機能訓練	身体機能訓練	セルフマネジメント
利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。	基本介護の遂行	機能訓練	レクリエーション	セルフマネジメント
利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する	基本介護の遂行	機能訓練	生活機能訓練	セルフマネジメント
利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする	基本介護技術	介護過程	アセスメント	プロアクティブ

5) 一般介護職員における第5因子A5「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」

第5因子に含まれる3項目を図表3-30に示した。「認知症ケア」と「コミュニケーション」が含まれる因子であり、穏やかな態度で利用者を安心させ落ち着きを取り戻してもらうための働きかけを指している。そこで第5因子は「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」と命名した。

図表3-30 一般介護職員第5因子「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」の項目

項目		大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A5	認知症の利用者の不安を低減させるために、穏やかな表情や動作をする	専門的ケア	認知症ケア	病気配慮	コミュニケーション
	認知症の利用者が介護を拒否するときでも、怒ったり困ったりしないでかわり続ける	専門的ケア	認知症ケア	支援の継続	コミュニケーション
	利用者に安心してもらえるように穏やかな態度で声をかける	基本介護の遂行	コミュニケーション	安心	コミュニケーション

6) 一般介護職員における第6因子A6「事業所内情報交換」

第6因子に含まれる2項目を図表3-31に示した。いずれの項目も、事業所・施設内での介護職および他の専門職との連携のための情報交換にかかわる項目であった。第6因子を「事業所内情報交換」と命名した。

図表3-31 一般介護職員第6因子「事業所内情報交換」の項目

項目		大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A6	事業所・施設内の介護職どうして利用者の状態について日頃から情報交換する	連携・協力	情報共有	事業所内介護職	協働
	事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する	連携・協力	情報共有	事業所内他職種	協働

7) 一般介護職員における第7因子A7「自立への働きかけ」

第7因子に含まれる2項目を図表3-32に示した。いずれの項目も、「セルフマネジメント」を目指した「自立への働きかけ」であった。第7因子を「自立への働きかけ」と命名した。

図表3-32 一般介護職員第7因子「自立への働きかけ」の項目

項目		大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
A7	利用者が自分でできそうなことは、自分で行うように励ます	基本介護の遂行	動機づけ支援	自立への働きかけ	行動変容
	利用者が少し頑張ればできることは、利用者が自分で行えるように支援する	基本介護の遂行	動機づけ支援	自立への働きかけ	行動変容

8) リーダー層における第1因子B1「自立の見通しをもった支援計画」

リーダー層における第1因子に含まれた5項目を図表3-33に示した。ここには、「介護過程」の実践に必要な「アセスメント」「プランニング」「モニタリング」が含まれるとともに、WHO慢性疾患ケアコンピテンシーでは「プロアクティブ」と「セルフマネジメント」を包摂している。そこでこの第1因子を「自立の見通しをもった支援計画」と命名した。

図表3-33 リーダー層における第1因子「自立の見通しをもった支援計画」

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
B1	支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する	ケアマネジメント	介護過程	プランニング	プロアクティブ
	支援の計画に沿った介護が実践されているかを確認する	ケアマネジメント	介護過程	モニタリング	プロアクティブ
	利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する	ケアマネジメント	介護過程	プランニング	セルフマネジメント
	利用者の情報をまとめて、生活を続ける上での課題と対策を明らかにする	ケアマネジメント	介護過程	アセスメント	セルフマネジメント
	認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する	専門的ケア	認知症ケア	プランニング	プロアクティブ

9) リーダー層における第2因子B2「地域との交流と提案」

リーダー層における第2因子に含まれた4項目を図表3-34に示した。ここには「地域包括ケア」に求められる地域との連携に関する情報共有や調整等が含まれていた。WHO慢性疾患コンピテンシーでは「協働」にあたる。しかし、仕事上の上での直接的連携よりも、日常的な情報交換や交流を指したものが多く、第2因子を「地域との交流と提案」と命名した。

図表3-34 リーダー層第2因子「地域との交流と提案」

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
B2	地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	地域包括ケア	情報共有	市町村・包括センター	協働
	地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ	地域包括ケア	協力・調整	市町村・包括センター	協働
	地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	地域包括ケア	協力・調整	地域医療	協働
	利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する	地域包括ケア	会議への参加	職場外の会議	協働

10) リーダー層における第3因子B3「効果的な人材育成」

リーダー層における第3因子に含まれた4項目を図表3-35に示した。大項目としては「リーダーシップ」であったが、すべて「人材育成」に関する項目であった。WHO慢性疾患ケアコンピテンシーでは「質の向上」にあたる項目であった。計画的育成、目標と評価の導入、学習環境の整備といった組織的な取り組みを含んでおり、この第3因子を「効果的な人材育成」と命名した。

図表 3-35 リーダー層第3因子「効果的な人材育成」の項目

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
B3	介護職員の育成計画を作成する	リーダーシップ	人材育成	育成計画	質の向上
	部下と面談して目標を定め、客観的に部下を評価する	リーダーシップ	人材育成	指導・助言	質の向上
	部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る	リーダーシップ	人材育成	支援機会	質の向上
	後輩が理解できるように、ていねいに現場での指導を行う	リーダーシップ	人材育成	指導・助言	質の向上

11) リーダー層における第4因子B4「終末期ケアにおける連携」

リーダー層における第4因子に含まれた2項目を図表3-36に示した。いずれも「終末期ケア」に関する項目であり、利用者の意思を尊重しつつ、全身状態への配慮をするために必要な医療や家族等との協力を表した項目であった。そこで第4因子を「終末期ケアにおける連携」と命名した。

図表 3-36 リーダー層第4因子「終末期ケアにおける連携」の項目

	項目	大分類	中分類	小分類	WHO慢性疾患ケア
B4	終末期にある利用者の全身状態を、医療職と連携して情報共有する	専門的ケア	終末期ケア	連携	協働
	終末期にある利用者の意志を、家族や医療関係者と協力して尊重して支援する	専門的ケア	終末期ケア	自己決定	協働 セルフマネジメント

(5) 業務の項目別遂行率・達成率および下位尺度別の達成度

本項では、業務遂行の65項目についての遂行率、達成率および下位尺度得点による達成度を検討する。業務遂行率、業務達成率は、それぞれ以下のように操作的に定義した。

業務遂行率	各項目において、回答者中「0 行わなかった・担当ではない」を除き、「行った」(1から4まで)を回答した人の割合。
業務達成率	各項目において、「行った」(1から4まで)を回答した人のなかで、回答者中「3 どちらかといえうまくできた」「4 うまくできた」と回答した人の割合。
業務達成度	前項で行った因子分析によって構成した因子ごとに、抽出した所属項目について合成得点を算出し、業務達成度とした。得点は、「行っている」の4つの選択肢について、「うまくできなかつた」に1点「どちらかといえうまくできなかつた」に2点「どちらかといえうまくできた」に3点「うまくできた」に4点を付与し、1項目当たりの得点として表示した。

1) 各事業所・施設における業務遂行率の比較

65項目のそれぞれについて、小規模多機能型居宅介護を中心に、各事業所・施設における業務遂行率を(2)で分類した「一般介護職員」と「リーダー層」に分けて算出した。

小規模多機能型居宅介護の一般介護職員における業務遂行率が80%以上であった43項目は、前述の一般介護職員に求められる業務内容として尺度化に用いた項目であり、残る22項目については、リーダー層に求められる業務として尺度化に用いた項目である。それぞれについて、小規模多機能型居宅介護の職員における業務遂行率の高い順に並べたものを図表3-37に示し、尺度化との関係も併せて示した。

また、業務遂行率が、小規模多機能型居宅介護において、①介護老人福祉施設より5%以上高い項目、②通所介護、訪問介護のいずれかより5%以上高い項目、③定期巡回・随時対応型訪問介護看護と5%以上差があった項目を検討した。

① 遂行率が小規模多機能型居宅介護では高く、介護老人福祉施設で低い項目

小規模多機能型居宅介護で遂行率が高く、介護老人福祉施設で低い項目を図表3-38に示した。一般介護職員の業務の多くの項目は大差がなかった。ただし、生活に体力維持を目指した活動を取り入れること、楽しめるレクリエーションを企画すること、また利用者の地域での暮らしに関して先の見通しをもつことといった通所サービスおよび地域でのサービスの性質を反映した項目は、介護老人福祉施設よりも小規模多機能型居宅介護において高い遂行率を示した。

リーダー層の業務では、一般介護職員と比べて多くの項目で差が見られた。特に、地域でのサービス提供や連携に関する項目については小規模多機能型居宅介護の方が高い遂行率を示した。

以上から、施設サービスと比べると、小規模多機能型居宅介護では特にリーダー層において求められる業務に違いがあることが示唆された。特に、サービスの位置づけの違いを反映して、地域との情報交換や交流といった連携において違いが見られた。一般介護職員では、リーダー層ほどの違いは認められないものの、日常生活の機能向上の要素を取り入れた業務がより行われていることが明らかになった。

図表3-38 業務遂行率が小規模多機能型居宅介護で高く介護老人福祉施設で低い項目

業務遂行の65項目	業務遂行率(回答者のうち、業務を行っていると回答した者の割合)											
	小規模多機能型居宅介護		複合型サービス		定規定期・地特対応型訪問介護		介護老人福祉施設		通所介護		訪問介護	
	一般介護職員 1298	リーダー層 319	一般介護職員 34	リーダー層 7	一般介護職員 116	リーダー層 77	一般介護職員 1117	リーダー層 388	一般介護職員 139	リーダー層 89	一般介護職員 243	リーダー層 128
●A4 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。	91.4%	93.4%	100.0%	85.7%	45.7%	40.2%	85.6%	93.4%	90.6%	97.1%	38.2%	39.1%
●A3 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める	85.5%	97.8%	82.4%	100.0%	82.8%	90.9%	78.7%	79.1%	80.6%	91.3%	75.3%	90.8%
□ 地域の住民と日頃から顔見知りになり情報交換する	65.0%	89.0%	58.8%	100.0%	43.1%	63.6%	48.3%	56.0%	41.0%	62.3%	37.4%	57.8%
□ 地域行事や集まりに利用者が参加できるように支援する	62.8%	83.4%	70.6%	85.7%	26.7%	57.1%	53.7%	61.3%	41.7%	58.0%	30.9%	49.2%
□ 地域の医療機関と、利用者の状態について日頃から情報交換する	47.5%	79.0%	55.9%	85.7%	45.7%	67.5%	43.5%	47.8%	28.8%	46.4%	30.5%	67.2%
■B2 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	43.3%	74.3%	47.1%	85.7%	37.1%	58.4%	38.9%	41.2%	25.2%	46.4%	25.1%	60.2%
■B2 地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	31.6%	67.4%	35.3%	42.9%	30.2%	72.7%	31.2%	36.6%	33.8%	58.0%	24.7%	69.5%
■B2 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ	31.6%	67.1%	32.4%	57.1%	28.4%	62.3%	30.3%	34.6%	30.2%	56.5%	22.6%	68.0%
■B2 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する	37.0%	58.9%	35.3%	42.9%	26.7%	67.5%	40.5%	42.0%	30.9%	49.3%	27.2%	53.9%

② 遂行率が小規模多機能型居宅介護では高く、通所介護または訪問介護で低い項目

小規模多機能型居宅介護で遂行率が高く、通所介護、訪問介護のいずれかで低い項目を図表3-39に示した。介護老人福祉施設と比較した場合と比べると、一般介護職員においても差異が大きい項目が多かった。

一般介護職員では、主として「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」「継続的支援のためのコミュニケーション」「生活機能向上への働きかけ」に関する項目で小規模多機能型事業所の方が通所介護・訪問介護よりも遂行率が高い傾向が窺えた。とくに大きな違いがみられたのは、身体機能や生活機能の向上を働きかける項目において、訪問介護ではそれぞれ約5割程度であったのに対して、小規模多機能型居宅介護では遂行率が8割を超えており、通所サービスの機能を反映して、大きな違いが見られた。ただし、自宅での生活機能向上に関する項目については、通所介護よりも小規模多機能型居宅介護での遂行率が高い傾向が得られた。また、認知症の人へのケアについて、見通しをもって環境を整えたり、その後の変化を予測したり、また原因を分析したりすることについて、通所介護よりも小規模多機能型居宅介護の遂行率が高かった。

一方、リーダー層では、地域の他機関や医療との情報交換や交流、連携について、訪問介護や通所介護に比べて遂行率が高かった。また、支援計画について、先の見通しをもった計画の提案や見直しについての項目で小規模多機能型居宅介護の遂行率が高く、総合的サービスである小規模多機能型居宅介護での支援計画の位置づけの違いが窺われた。

図表 3-39 業務遂行率が小規模多機能型居宅介護で高く通所介護、訪問介護で低い項目

業務遂行の65項目		業務遂行率(回答者のうち、業務を行っている)と回答した者の割合											
		小規模多機能型居宅介護		複合型サービス		定期巡回・随時対応型訪問介護看護		介護老人福祉施設		通所介護		訪問介護	
		一般介護職員 129名	リーダー層 319名	一般介護職員 34名	リーダー層 7名	一般介護職員 116名	リーダー層 77名	一般介護職員 1117名	リーダー層 383名	一般介護職員 139名	リーダー層 69名	一般介護職員 242名	リーダー層 122名
小規模多機能型居宅介護職員において、 ●遂行率80%以上かつ尺度化で採られた項目 ○遂行率80%以上かつ尺度化で採られなかった項目 ■遂行率80%未満で、リーダー層による尺度化で採られた項目 □遂行率80%未満で、リーダー層による尺度化で採られなかった項目	●A1 本人のペースや希望に沿って入浴や食事の介護をする	94.7%	100.0%	85.7%	94.0%	97.4%	98.7%	97.5%	96.4%	97.1%	90.5%	92.2%	
	○ 楽しく食事を摂ることができるように、雰囲気や配慮をする	97.8%	98.1%	100.0%	85.7%	92.2%	93.5%	97.4%	97.2%	93.5%	96.6%	80.2%	81.3%
	○ 食事の際、利用者が自分で食べやすいように、食器や配膳の仕方工夫する	96.8%	96.9%	100.0%	71.4%	87.1%	96.1%	98.6%	97.2%	90.6%	97.1%	80.7%	82.0%
	●A3 現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける	95.6%	100.0%	97.1%	100.0%	94.0%	97.4%	97.4%	98.0%	89.9%	97.1%	88.9%	96.1%
	○ 利用者が食べたいものを聞きながら食事の介護をする	93.9%	93.4%	100.0%	71.4%	81.9%	88.3%	96.4%	96.4%	88.5%	92.8%	75.3%	74.2%
	●A4 できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる	93.8%	97.5%	100.0%	100.0%	69.0%	72.7%	90.7%	92.6%	89.9%	95.7%	52.7%	64.8%
	●A2 認知症の利用者が普段と異なる様子ときは、その原因を探す	92.9%	97.5%	94.1%	100.0%	81.9%	92.2%	94.2%	96.7%	84.9%	95.7%	73.7%	88.3%
	●A2 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える	91.8%	98.1%	97.1%	100.0%	85.3%	94.8%	94.0%	98.9%	76.3%	91.3%	71.6%	93.8%
	●A2 自分のかかりが、認知症の利用者によるような変化を身えるか予測しながら介護する	91.7%	97.2%	97.1%	100.0%	83.6%	93.5%	94.2%	96.7%	87.8%	95.7%	79.8%	93.0%
	●A6 事業所・施設内の介護職どうしで利用者の状態について日頃から情報交換する	91.3%	95.9%	91.2%	100.0%	91.4%	90.9%	90.7%	95.4%	83.5%	92.8%	84.4%	95.6%
	●A2 利用者の家族と良好な信頼関係を形成する	88.2%	97.2%	91.2%	100.0%	86.2%	98.7%	91.3%	98.2%	93.5%	97.1%	78.8%	94.5%
	●A2 担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する	86.5%	97.2%	85.3%	85.7%	89.7%	97.4%	88.6%	96.9%	76.3%	97.1%	77.4%	95.3%
	●A3 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める	85.5%	97.8%	82.4%	100.0%	82.8%	90.9%	78.7%	79.1%	80.6%	91.3%	75.3%	90.6%
	●A2 介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に発見する	84.9%	96.9%	91.2%	85.7%	78.4%	90.9%	90.2%	96.9%	79.9%	95.7%	65.4%	88.3%
●A6 事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する	84.4%	94.7%	85.3%	100.0%	84.5%	90.9%	89.3%	94.9%	77.7%	94.2%	74.1%	95.3%	
●A4 利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する	82.3%	95.0%	97.1%	100.0%	68.1%	72.7%	81.9%	85.0%	77.0%	87.0%	50.2%	68.0%	
●A2 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く	80.7%	88.1%	88.2%	100.0%	68.1%	84.4%	90.2%	95.7%	77.0%	95.7%	68.3%	77.3%	
●A4 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする	80.0%	94.4%	82.4%	100.0%	64.7%	87.0%	85.4%	91.1%	76.3%	88.4%	48.9%	83.6%	
リーダー層の業務	■B1 支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する	65.1%	90.3%	76.5%	85.7%	53.4%	96.1%	75.1%	88.3%	59.0%	84.1%	35.8%	87.5%
	□ 地域の住民と日頃から顔見知りになり情報交換する	65.0%	89.0%	58.8%	100.0%	43.1%	63.6%	48.3%	56.0%	41.0%	62.3%	37.4%	57.8%
	□ 認知症の利用者のBPSDが生じないように、あらかじめ状況を改善する	62.4%	89.0%	70.6%	85.7%	47.4%	75.3%	70.3%	87.8%	54.7%	82.6%	29.2%	72.7%
	□ 地域行事や集まりに利用者が参加できるように支援する	62.8%	83.4%	70.6%	85.7%	26.7%	57.1%	53.7%	61.3%	41.7%	58.0%	30.9%	49.2%
	□ 地域の医療機関と、利用者の状態について日頃から情報交換する	47.5%	79.0%	55.9%	85.7%	45.7%	67.5%	43.5%	47.8%	28.8%	46.4%	30.5%	67.2%
	□ 事業所・施設の中で、利用者の介護に関するカンファレンスを企画・実施する	37.5%	79.0%	44.1%	85.7%	24.1%	71.4%	41.8%	70.2%	28.1%	73.9%	14.4%	64.1%
	■B2 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	43.3%	74.3%	47.1%	85.7%	37.1%	58.4%	38.9%	41.2%	25.2%	46.4%	25.1%	60.2%
	■B1 認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する	38.9%	71.2%	32.4%	71.4%	25.9%	72.7%	53.0%	71.0%	37.4%	62.3%	16.9%	57.0%
	■B4 終末期にある利用者の意思を、家族や医療関係者と協力して尊重して支援する	50.8%	67.7%	82.4%	85.7%	53.4%	74.0%	68.2%	76.3%	38.8%	44.9%	40.7%	58.6%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	31.6%	67.4%	35.3%	42.9%	30.2%	72.7%	31.2%	36.6%	33.8%	58.0%	24.7%	69.5%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ	31.6%	67.1%	32.4%	57.1%	28.4%	62.3%	30.3%	34.6%	30.2%	56.5%	22.6%	68.0%
	■B3 部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る	18.3%	62.1%	11.8%	71.4%	17.2%	57.1%	18.8%	62.8%	18.0%	49.3%	9.9%	54.7%
	■B4 終末期にある利用者の全身状態を、医療職と連携して情報共有する	45.3%	58.9%	67.6%	100.0%	48.3%	68.8%	66.6%	75.6%	30.9%	38.2%	39.1%	53.9%

③小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護の間で差が大きい項目

小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護との間で差が大きい項目を図表 3-40 に示した。

一般介護職員の業務では、「生活機能向上への働きかけ」「健康・安全のための基本的ケア」「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」に関する項目で、小規模多機能型居宅介護の方が定期巡回・随時対応型訪問介護看護よりも遂行率が高かった。

リーダー層においては、それぞれの遂行率が高い項目が混合しており、図表 3-40 のリーダー層の業務の項目については、遂行率の高いほうに下線を付した。連携・情報共有の項目については、家族については定期巡回・随時対応型訪問介護看護の遂行率が高く、地域の機関や医療との関わりについては、小規模多機能型居宅介護の遂行率が高い傾向であった。ただし、終末期における医療連携や地域での会議への出席・発言は定期巡回・随時対応型訪問介護看護の遂行率が高かった。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の方が、支援計画のプランニングや評価について遂行率が高かった。

一般介護職員の業務としては、生活機能向上への働きかけは小規模多機能型居宅介護が通所機能を持っていることが大きな要因と考えられる。一方で基本的ケアやまた見通しを持った認知症ケアの遂行率の評価が定期巡回・随時対応型訪問介護看護で低くなっているのは、1回の訪問にかかる時間がより短時間であることが影響を与えている可能性がある。リーダー層の業務では、地域との関係は、小規模多機能型居宅介護で高い遂行率であるのに対して、訪問サービスである定期巡回・随時対応型では家族との連携については遂行率が高くなっていた。小規模多機能型居宅介護では、特に終末期ケアへの関わりを持っていくことが今後の課題であることが示唆された。

図表 3-40 小規模多機能と定期巡回の間で差が大きい項目

業務遂行の65項目	業務遂行率(回答者のうち、業務を行っていると回答した者の割合)											
	小規模多機能型 居宅介護		複合型サービス		定期巡回・随時対応 型		介護老人福祉施設		通所介護		訪問介護	
	一般介護 職員 1298	リーダー 層 319	一般介護 職員 34	リーダー 層 7	一般介護 職員 118	リーダー 層 77	一般介護 職員 1117	リーダー 層 393	一般介護 職員 139	リーダー 層 69	一般介護 職員 243	リーダー 層 128
○ 楽しく食事を摂ることができるように、雰囲気配慮する	97.8%	98.1%	100.0%	85.7%	92.2%	93.5%	97.4%	97.2%	93.5%	98.6%	80.2%	81.3%
●A1 食事の際に、うまく吞み込んでいるかを確認しながら介助する	96.9%	95.6%	100.0%	71.4%	87.9%	87.0%	99.3%	97.2%	95.0%	95.7%	78.2%	77.3%
○ 食事の際、利用者が自分で食べやすいように、食器や配膳の仕方工夫する	96.8%	96.9%	100.0%	71.4%	87.1%	96.1%	98.6%	97.2%	90.6%	97.1%	80.7%	82.0%
●A1 入浴の際に、皮膚の状態から病状や異常の有無を確認する	95.1%	89.7%	100.0%	100.0%	87.1%	88.3%	96.5%	95.7%	95.7%	95.7%	86.4%	89.1%
○ 事業所・施設の理念の内容を理解し、実践する	95.1%	97.8%	100.0%	100.0%	87.9%	94.8%	95.7%	97.7%	93.5%	98.6%	86.0%	96.9%
○ 利用者が食べたいものを聞きながら食事の介助をする	93.9%	93.4%	100.0%	71.4%	81.9%	88.3%	96.4%	96.4%	88.5%	92.8%	75.3%	74.2%
●A4 できるだけ利用者が体力を維持できるように、体を動かす活動を取り入れる	93.6%	97.5%	100.0%	100.0%	89.0%	72.7%	90.7%	92.6%	89.9%	95.7%	52.7%	64.8%
●A2 認知症の利用者が普段と異なる様子のときは、その原因を探す	92.9%	97.5%	94.1%	100.0%	81.9%	92.2%	94.2%	96.7%	84.9%	95.7%	73.7%	88.3%
●A2 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える	91.8%	98.1%	97.1%	100.0%	85.3%	94.8%	94.0%	96.9%	76.3%	91.3%	71.6%	93.8%
●A2 自分のかかりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する	91.7%	97.2%	97.1%	100.0%	83.6%	93.5%	94.2%	96.7%	87.8%	95.7%	79.8%	93.0%
●A4 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。	91.4%	93.4%	100.0%	85.7%	45.7%	40.2%	85.6%	93.4%	90.6%	97.1%	36.2%	39.1%
●A2 介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に見出す	84.9%	96.6%	91.2%	85.7%	78.4%	90.9%	90.2%	96.9%	79.9%	95.7%	65.4%	88.3%
●A4 利用者やより円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する	82.3%	95.0%	97.1%	100.0%	68.1%	72.7%	81.9%	85.0%	77.0%	87.0%	50.2%	68.0%
●A2 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く	80.7%	88.1%	88.2%	100.0%	68.1%	84.4%	90.2%	95.7%	77.0%	95.7%	68.3%	77.3%
●A4 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする	80.0%	94.4%	82.4%	100.0%	64.7%	87.0%	85.4%	91.1%	76.3%	88.4%	46.9%	83.6%
□ 利用者の情報を家族と共有し、必要に応じて家族から情報収集する	77.2%	91.8%	82.4%	100.0%	76.7%	83.2%	92.9%	75.5%	95.7%	64.6%	90.6%	90.6%
■B1 支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する	65.1%	90.3%	76.5%	85.7%	53.4%	53.4%	75.1%	88.3%	59.0%	84.1%	35.8%	87.5%
□ 地域の住民と日頃から顔見知りになり情報交換する	85.0%	98.0%	58.8%	100.0%	43.1%	48.3%	48.3%	56.0%	41.0%	82.3%	37.4%	57.8%
□ 認知症の利用者のBPSDが生じないように、あらかじめ状況を改善する	63.4%	89.0%	70.6%	85.7%	47.4%	75.3%	70.3%	87.8%	51.7%	82.6%	29.2%	72.7%
□ 地域行事や集まりに利用者が参加できるように支援する	62.8%	83.4%	70.6%	85.7%	26.7%	57.1%	53.7%	61.3%	41.7%	58.0%	30.9%	49.2%
■B1 利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する	55.0%	82.4%	58.8%	71.4%	41.4%	68.3%	78.6%	48.9%	81.2%	28.0%	71.1%	71.1%
□ 利用者や家族からのクレームに対応する	44.5%	79.9%	35.3%	57.1%	42.2%	43.0%	69.0%	43.2%	76.8%	23.5%	75.8%	75.8%
□ 地域の医療機関と、利用者の状態について日頃から情報交換する	47.5%	79.0%	55.9%	85.7%	45.7%	43.5%	47.8%	28.8%	46.4%	30.5%	67.2%	67.2%
■B2 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	43.3%	74.3%	47.1%	85.7%	37.1%	38.9%	41.2%	25.2%	46.4%	25.1%	60.2%	60.2%
■B4 終末期にある利用者の全身状態を、医療職と連携して情報共有する	45.3%	58.9%	67.6%	100.0%	48.3%	68.6%	75.8%	30.9%	36.2%	39.1%	53.9%	53.9%
■B2 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する	37.0%	58.9%	35.3%	42.9%	26.7%	67.5%	40.5%	42.0%	30.9%	49.3%	27.2%	53.9%
■B3 介護職員の育成計画を作成する	22.1%	58.0%	11.8%	71.4%	18.1%	46.8%	24.8%	55.2%	20.9%	49.3%	10.3%	44.5%

2) 各事業所・施設における業務達成率の比較

事業所・施設種別ごとの業務達成率を図表3-41に示した。

おおむね、遂行率の高いものは達成度も高いが、なかには遂行率が高くても必ずしも業務達成度が低いものもあった。ここでは小規模多機能型居宅介護の状況を中心に述べる。小規模多機能型居宅介護事業所における遂行率と業務達成率の差が大きい項目を、図表3-42に示した。

一般介護職員では、生活機能を高める機能訓練等の企画・実施、「見通しをもった」支援、あきらめずに継続的に支援を続けることが、業務として行っているものの、達成度が低かった。

リーダー層では、部下の育成計画や地域の交流に関する項目で達成度が低かった。

これらより、一般介護職員では支援にあたって、WHOの「患者中心ケア」の実践は必ずしも高い達成とは言えない状況であり、居宅での生活を支える生活機能向上を図ること、生活上の課題の発見・予測、課題による困難さの理解と対応による居宅生活の継続支援等が今後の大きな課題であるといえよう。リーダー層では、育成計画の作成と目標・評価の客観性、地域包括支援センターや医療機関との連携、地域ケア会議の出席と発言今後の大きな課題であるといえよう。

図表 3-42 小規模多機能居宅介護事業所において遂行率と達成率の差が大きい業務の項目

業務遂行の65項目		一般介護職員		リーダー層	
		遂行率	達成率	遂行率	達成率
一般介護職員の業務	●A4 利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する	82.3%	47.3%	95.0%	60.7%
	●A4 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする	80.0%	48.5%	94.4%	64.8%
	●A3 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める	85.5%	54.1%	97.8%	67.3%
	●A2 介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に見発する	84.9%	55.8%	96.9%	70.9%
	○ 利用者が食べたいものを聞きながら食事の介助をする	93.9%	57.8%	93.4%	64.4%
	●A3 現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける	95.6%	60.9%	100.0%	74.9%
	●A4 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。	91.4%	61.6%	93.4%	72.1%
	●A2 自分のかかわりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する	91.7%	62.5%	97.2%	83.5%
	●A2 認知症の利用者が普段と異なる様子のあるときは、その原因を探る	92.9%	63.1%	97.5%	83.9%
	●A2 担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する	86.5%	66.8%	97.2%	84.5%
	●A3 機能向上や自立できることについて、見通しを持ちながら支援する	96.6%	67.7%	98.7%	79.4%
	●A4 できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる	93.6%	69.2%	97.5%	79.4%
	●A3 介護が受け入れてもらえない時でも、何度でも受け入れてもらえるように工夫して関わり続ける	95.4%	69.4%	98.7%	77.1%
	●A3 意欲のない利用者に対して、やる気を高めるように声をかける	99.1%	69.5%	99.4%	75.4%
	●A2 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える	91.8%	70.8%	98.1%	81.5%
	●A2 介護記録を分かりやすい表現で正確に書く	94.7%	71.1%	96.2%	83.1%
	●A5 認知症の利用者が介護を拒否するときでも、怒ったり困ったりしないかかわり続ける	96.9%	72.1%	98.4%	83.4%
	○ 事業所・施設の理念の内容を理解し、実践する	95.1%	73.5%	97.8%	83.7%
	●A2 認知症の人が今の生活をできる限り自立して続けられるよう、工夫して支援し続ける	94.4%	75.4%	97.8%	87.2%
	●A2 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く	80.7%	76.2%	88.1%	88.3%
●A6 事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する	84.4%	76.8%	94.7%	88.7%	
○ 楽しく食事を摂ることができるように、雰囲気配慮する	97.8%	77.3%	98.1%	84.7%	
○ 本人が自分で身の回りのことをできるような環境を整える	96.3%	78.6%	98.7%	84.1%	
リーダー層の業務	■B3 介護職員の育成計画を作成する	22.1%	41.6%	58.0%	48.6%
	□ 地域の住民と日頃から顔見知りになり情報交換する	65.0%	40.4%	89.0%	51.4%
	■B3 部下と面談して目標を定め、客観的に部下を評価する	15.9%	47.1%	52.0%	56.0%
	■B2 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する	37.0%	45.0%	58.9%	58.0%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	31.6%	48.0%	67.4%	60.0%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ	31.6%	49.8%	67.1%	61.7%
	■B2 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	43.3%	50.1%	74.3%	62.0%
	□ 認知症の利用者のBPSDが生じないように、あらかじめ状況を改善する	63.4%	47.8%	89.0%	64.8%
	□ 地域行事や集まりに利用者が参加できるように支援する	62.8%	63.3%	83.4%	65.4%
	□ 地域の医療機関と、利用者の状態について日頃から情報交換する	47.5%	56.1%	79.0%	67.1%
	■B3 部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る	18.3%	51.9%	62.1%	68.2%
	■B1 認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する	38.9%	52.4%	71.2%	68.7%
	■B3 先輩が理解できるように、ていねいに現場での指導を行う	59.3%	65.8%	90.0%	69.0%
	■B1 支援の計画に沿った介護が実践されているかを確認する	71.4%	57.8%	94.0%	69.3%
	■B1 支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する	65.1%	51.2%	90.3%	69.4%
■B1 利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する	55.0%	53.9%	82.4%	71.5%	
□ 事業所・施設の中で、利用者の介護に関するカンファレンスを企画・実施する	37.5%	65.6%	79.0%	71.8%	
■B1 利用者の情報をまとめて、生活を続ける上での課題と対策を明らかにする	74.9%	49.9%	94.4%	72.8%	

3) 各事業所・施設における業務達成度の比較

各事業所・施設の業務の達成度について検討するために11個の因子ごとに得点を算出したものを業務達成度の指標とした。一般介護職員の因子ごとの業務達成度の平均得点を図表3-43aに、リーダー層の因子ごとの業務達成度の平均得点を図表3-43bに示した。なお、前述のように「行っている」の4つの選択肢について、「うまくできなかった」に1点「どちらかといえばうまくできなかった」に2点「どちらかといえばうまくできた」に3点「うまくできた」に4点を付与し、「行わなかった・担当ではなかった」は除外し、合成得点を1項目当たりの得点として算出した(各図表の左表)。なお、それぞれの図表の右表に「行わなかった・担当ではなかった」にも1点を付与した場合の1項目あたりの得点を参考として示した。

その結果(左表を参照)、小規模多機能型居宅介護の一般介護職員では、「安全・健康を維持する基本ケア」と「自立への働きかけ」が平均3.0を超えており、平均像として「どちらかといえばできていた」と考えられた。それに比べると「生活機能向上への働きかけ」と「見通しをもった認知症ケア」「継続支援のためのコミュニケーション」では平均が2点台とやや低く、課題としている人がやや多いと考えられた。リーダー層では、一般介護職員と同じ業務については概ね一般介護職員の平均よりも高く、達成度が高いことがうかがえた。ただし、「生活機能向上への働きかけ」については、リーダー層の平均値も2点台と低くなっていた。一方、リーダー層の業務では、「終末期ケアにおける連携」は平均得点が3点を越えていたが、この項目は遂行率が低く、行っていない人が多いことから、行っているところはおおむね達成しているが、これから取り組むことが課題であると考えられる。それ以外の項目では、平均得点は2点台でありやや低く、リーダー層にとっても課題となっている業務であると考えられる。

なお、他の事業所・施設においても、平均値は同じような傾向を示していた。

図表3-43a 各事業所・施設における一般介護職員の業務達成度

注)

左表 「0 行なわなかった・担当ではない」および無回答を除外した場合の業務達成度

右表 「0 行なわなかった・担当ではない」および無回答は「1 うまくできなかった」として処理した場合の業務達成度

一般介護職員 業務遂行の「行なわなかった・担当ではない」と欠損値を除外した場合	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
人数						
安全・健康を維持する基本ケア	1289	34	116	1111	139	237
見通しをもった認知症ケア	1280	34	115	1101	135	237
継続支援のためのコミュニケーション	1292	34	116	1111	139	241
生活機能向上への働きかけ	1246	34	97	1061	133	159
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	1293	34	116	1113	139	242
事業所内情報交換	1192	31	106	1027	119	208
自立への働きかけ	1290	34	116	1112	139	241
有効なケースの数(リストごと)	1155	31	91	988	115	140
平均値						
安全・健康を維持する基本ケア	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
見通しをもった認知症ケア	2.8	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8
継続支援のためのコミュニケーション	2.8	2.9	2.9	2.7	2.8	2.8
生活機能向上への働きかけ	2.6	2.7	2.6	2.3	2.9	2.6
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	3.0	3.0	3.1	2.8	3.0	3.1
事業所内情報交換	3.0	2.9	3.0	2.9	2.9	3.1
自立への働きかけ	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0
標準偏差						
安全・健康を維持する基本ケア	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
見通しをもった認知症ケア	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
継続支援のためのコミュニケーション	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
生活機能向上への働きかけ	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
事業所内情報交換	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
自立への働きかけ	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

一般介護職員 業務遂行の「行なわなかった・担当ではない」と欠損値を「1 うまくできなかった」として処理した場合	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=1296						
平均値						
安全・健康を維持する基本ケア	3.1	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0
見通しをもった認知症ケア	2.6	2.5	2.6	2.6	2.5	2.4
継続支援のためのコミュニケーション	2.7	2.8	2.8	2.6	2.7	2.6
生活機能向上への働きかけ	2.4	2.6	2.0	2.2	2.6	1.7
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	2.9	3.0	2.9	2.8	2.9	2.9
事業所内情報交換	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.7
自立への働きかけ	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1	3.0
標準偏差						
安全・健康を維持する基本ケア	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7
見通しをもった認知症ケア	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7
継続支援のためのコミュニケーション	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7
生活機能向上への働きかけ	0.7	0.6	0.8	0.7	0.7	0.8
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
事業所内情報交換	0.9	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0
自立への働きかけ	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

図表 3-43b 各事業所・施設におけるリーダー層の業務達成度

リーダー層 業務遂行の「行なわなかった・担当ではない」と欠損値を除外した場合	小規模多機能型居宅介護	(参考値)				
		複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
人数						
安全・健康を維持する基本ケア	314	7	76	385	69	123
見通しをもった認知症ケア	316	7	77	392	69	126
継続支援のためのコミュニケーション	319	7	76	391	69	124
生活機能向上への働きかけ	317	7	69	384	68	115
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	319	7	76	392	69	127
事業所内情報交換	309	7	72	385	66	125
自立への働きかけ	319	7	76	390	69	124
自立の見通しを持った支援計画	310	7	75	379	64	120
地域との交流と提案	266	6	64	210	51	103
効果的な人材育成	293	7	67	381	60	115
終末期ケアにおける連携	219	7	59	314	33	76
有効なケースの数(リストごと)	192	6	44	166	24	60
平均値(範囲:1~4)						
安全・健康を維持する基本ケア	3.4	3.6	3.3	3.3	3.2	3.4
見通しをもった認知症ケア	3.0	3.2	3.0	2.9	2.9	3.1
継続支援のためのコミュニケーション	3.0	3.1	3.0	2.8	2.9	3.0
生活機能向上への働きかけ	2.8	2.9	2.8	2.4	2.8	2.7
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	3.2	3.3	3.2	3.0	3.1	3.2
事業所内情報交換	3.2	3.2	3.2	2.9	3.0	3.3
自立への働きかけ	3.3	3.5	3.2	3.1	3.1	3.2
自立の見通しを持った支援計画	2.8	3.0	3.0	2.7	2.7	3.0
地域との交流と提案	2.6	3.0	2.6	2.2	2.4	2.8
効果的な人材育成	2.7	2.5	2.8	2.6	2.5	2.9
終末期ケアにおける連携	3.1	3.1	3.1	3.0	2.7	3.2
標準偏差						
安全・健康を維持する基本ケア	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4
見通しをもった認知症ケア	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5
継続支援のためのコミュニケーション	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
生活機能向上への働きかけ	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5
事業所内情報交換	0.6	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6
自立への働きかけ	0.5	0.3	0.5	0.6	0.5	0.6
自立の見通しを持った支援計画	0.6	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6
地域との交流と提案	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7
効果的な人材育成	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6
終末期ケアにおける連携	0.7	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7

リーダー層 業務遂行の「行なわなかった・担当ではない」と欠損値を「1うまくできなかった」と処理した場合	小規模多機能型居宅介護	(参考値)				
		複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=319						
平均値(範囲:1~4)						
安全・健康を維持する基本ケア	3.2	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1
見通しをもった認知症ケア	3.0	3.1	2.9	2.8	2.8	2.9
継続支援のためのコミュニケーション	3.0	3.1	3.0	2.7	2.8	2.9
生活機能向上への働きかけ	2.7	2.9	2.2	2.3	2.7	2.1
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	3.2	3.3	3.1	2.9	3.0	3.1
事業所内情報交換	3.1	3.2	3.0	2.8	2.8	3.3
自立への働きかけ	3.3	3.5	3.2	3.1	3.1	3.1
自立の見通しを持った支援計画	2.6	2.7	2.8	2.4	2.4	2.6
地域との交流と提案	2.1	2.1	2.0	1.5	1.7	2.1
効果的な人材育成	2.1	2.2	2.1	2.1	1.8	2.0
終末期ケアにおける連携	2.3	3.0	2.5	2.5	1.7	2.3
標準偏差						
安全・健康を維持する基本ケア	0.6	0.4	0.5	0.6	0.5	0.7
見通しをもった認知症ケア	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6
継続支援のためのコミュニケーション	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
生活機能向上への働きかけ	0.6	0.6	0.8	0.7	0.6	0.7
安心に向けた穏やかなコミュニケーション	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.6
事業所内情報交換	0.7	0.8	0.9	0.7	0.7	0.7
自立への働きかけ	0.5	0.3	0.6	0.6	0.5	0.7
自立の見通しを持った支援計画	0.7	0.8	0.6	0.7	0.7	0.8
地域との交流と提案	0.9	0.9	0.8	0.6	0.7	0.8
効果的な人材育成	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7
終末期ケアにおける連携	1.1	0.6	1.0	1.0	0.8	1.2

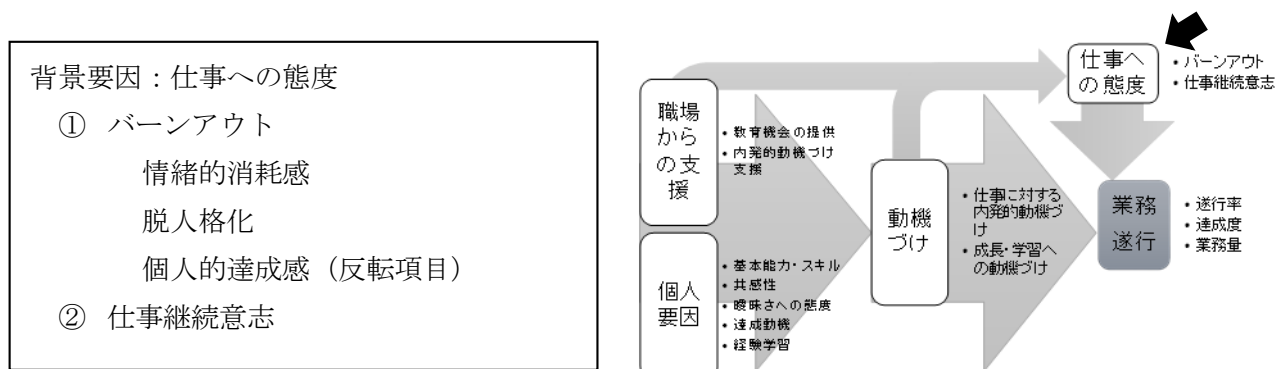
5 調査結果（４）背景要因

ここでは、業務の遂行に影響を与えると考えられる背景要因について検討する。背景要因は、「仕事への態度」「動機づけ」「職場からの支援」「個人要因」の4つの領域からなり、複雑に業務遂行に影響を与えていると考えられる。

本項では、小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護に焦点をあて、まず各背景要因と業務達成度（前項）との単相関について検討する。相関係数の評価は、説明率がほぼ0.5となり中程度の相関と評価できる $r=.40$ を基準とした。

なお、各背景要因の得点は、その下位尺度を構成する項目の合計得点であり、欠損値は除外した。

（１） 仕事への態度



「仕事への態度」にはバーンアウトと仕事継続意志の2つの下位項目を設定した。

バーンアウトとは、特に人とかかわる業務を行う人において、自分の対処能力を超えて、過度で持続的なストレスにさらされることで、張り詰めていた緊張が緩み、仕事に対する意欲や野心などが減衰し、疲れ果ててしまった心身の症状をいう。マスラックらは、バーンアウトは心理的な疲労感、虚脱感をあらわす「情緒的消耗感」、煩わしい人間関係を避け、利用者の個性や人格を無視し、機械的に対応する傾向をあらわす「脱人格化」、仕事の成果に対して感じる自分の能力への高評価や成功感が感じられなくなる「個人的達成」の低下の3つの因子を含むものとしており、本調査でもこの理論を反映した3つの下位尺度から成る質問項目を用いた。

仕事継続意志は、ケアの仕事もしくはこの職場で今後も働こうとする意志をあらわす。「介護に関する仕事を一生の仕事として続けていきたい」「できれば、今の職場で一生仕事を続けていきたい」の2項目を用いた。

① バーンアウト傾向

バーンアウト傾向の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-44と図3-45に示した。平均値は、小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護には大きな違いはなかった。業務達成度との相関をみると、一般介護職員では、小規模多機能型において、個人的達成感がいくつかの達成度との間で $r=.30$ 程度の弱い相関がみられたのみであった。リーダー層では小規模多機能型居宅介護では、個人的達成感と「継続的支援に向けたコミュニケーション」との間で $r=.40$ 程度の中程度の相関がみられた。また、個人的達成感と「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」との相関が.361、「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」との相関が.372とそれに準じていた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、個人的達成感と「地域との交流と提案 ($r=.402$)」で中程度の相関がみられ、小規模多機能型居宅介護のリーダー層とは異なる結果であった。情緒的消耗感、脱人格化については、業務遂行度との間に相関は認められなかった。

図表3-44 バーンアウト傾向の平均値

バーンアウト		一般介護職員		リーダー層	
		小規模多機能居宅介護 n=1262	定期巡回随時対応型訪問介護看護 113	小規模多機能居宅介護 312	定期巡回随時対応型訪問介護看護 76
平均	個人的達成感	6.5	6.8	6.7	6.5
	情緒的消耗感	5.8	5.9	6.2	6.1
	脱人格化	4.1	4.1	4.3	4.2
標準偏差	個人的達成感	2.1	2.2	2.0	2.1
	情緒的消耗感	2.2	2.1	2.1	2.1
	脱人格化	2.0	1.9	2.0	2.2

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

バーンアウト		一般介護職員				リーダー層			
		複合型サービス n=34	介護老人福祉施設 1095	通所介護 136	訪問介護 236	複合型サービス 7	介護老人福祉施設 385	通所介護 69	訪問介護 122
平均	個人的達成感	5.9	6.1	6.5	6.6	6.3	6.3	6.4	6.5
	情緒的消耗感	6.3	6.5	5.8	5.5	6.7	6.7	6.4	6.1
	脱人格化	4.3	4.7	4.2	3.8	4.1	4.8	4.6	3.9
標準偏差	個人的達成感	1.9	2.1	2.1	2.2	1.0	2.0	2.1	2.1
	情緒的消耗感	1.9	2.3	2.1	1.9	2.1	2.1	2.4	2.1
	脱人格化	2.2	2.2	2.0	1.8	2.1	2.1	1.9	1.8

図表3-45 バーンアウト傾向と業務達成度の相関係数

バーンアウト		安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
一般介護職員	小規模多機能											
	個人的達成感	0.248	0.334	0.302	0.284	0.377	0.199	0.212	0.220	0.232	0.228	0.223
	情緒的消耗感	0.008	-0.036	-0.029	-0.029	-0.117	-0.112	-0.009	-0.052	-0.042	-0.030	-0.065
	脱人格化	-0.067	-0.074	-0.075	-0.053	-0.147	-0.172	-0.043	-0.082	-0.044	-0.051	-0.074
	定期巡回随時対応型											
	個人的達成感	0.184	0.213	0.295	0.181	0.268	0.017	0.239	0.003	0.186	0.136	0.124
情緒的消耗感	0.009	0.041	0.159	0.228	0.112	0.038	0.092	0.255	0.192	0.249	0.094	
脱人格化	-0.011	0.063	0.080	0.217	0.038	0.045	-0.026	0.325	0.218	0.327	0.155	
リーダー層	小規模多機能											
	個人的達成感	0.259	0.372	0.401	0.309	0.361	0.177	0.277	0.323	0.196	0.179	0.305
	情緒的消耗感	-0.011	-0.062	-0.093	-0.066	-0.021	-0.084	-0.096	-0.135	-0.055	-0.011	-0.086
	脱人格化	-0.036	-0.055	-0.051	-0.038	-0.063	-0.039	-0.070	-0.037	-0.032	0.014	-0.007
	定期巡回随時対応型											
	個人的達成感	0.080	0.228	0.099	0.287	0.101	0.145	-0.048	0.134	0.402	0.171	0.029
情緒的消耗感	-0.101	0.012	-0.003	-0.044	-0.098	-0.027	-0.049	0.012	0.174	0.145	-0.169	
脱人格化	-0.109	-0.114	-0.079	-0.061	-0.152	-0.222	-0.062	-0.075	-0.006	0.010	-0.059	

② 仕事継続意志

仕事継続意志の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-46と図3-47に示した。全体的に中程度以上の相関係数は見られず、小規模多機能型居宅介護のリーダー層での「継続支援のためのコミュニケーション (.361)」「自立の見通しを持った支援計画 (.343)」の相関係数がやや大きいものであった。

図表3-46 仕事継続意志の平均値・標準偏差

仕事継続意志	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1273	115	312	75
平均	6.0	6.1	6.3	6.3
標準偏差	2.4	2.3	2.3	2.3

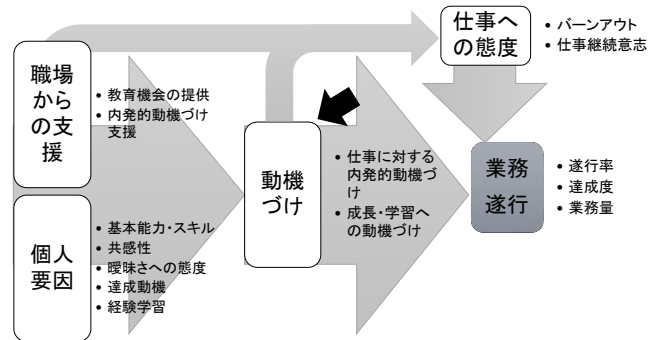
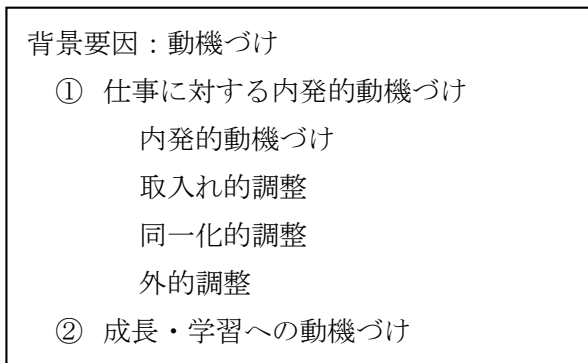
(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

仕事継続意志	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	33	1098	139	235	7	390	69	127
平均	6.1	5.6	6.0	6.4	6.7	5.7	5.7	6.3
標準偏差	2.4	2.5	2.4	2.5	3.6	2.5	2.4	2.8

図表3-47 仕事継続意志と業務達成度との相関

仕事継続意志	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
一般介護職員	小規模多機能										
	仕事継続意志	0.167	0.198	0.226	0.211	0.235	0.141	0.151	0.168	0.234	0.192
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	仕事継続意志	0.211	0.150	0.259	0.045	0.237	-0.056	0.102	-0.064	0.309	0.214
リーダー層	小規模多機能										
	仕事継続意志	0.253	0.303	0.361	0.316	0.225	0.155	0.205	0.343	0.211	0.213
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	仕事継続意志	0.058	0.162	0.219	0.253	0.039	0.144	-0.035	0.233	0.293	0.201

(2) 動機づけ



動機づけとは、人が何らかの行動を起こす源泉となるものであり、行動の方向性や強さを規定する。ケア行為も、行為を行う動機が介護職員に存在していると考えられる。動機づけには、いくつかの分類があるが、ここでは、仕事への取組みという観点から、「内発的動機づけの程度」と「成長・学習への動機づけ」を取り上げた。

外発的動機づけとは、仕事にとりくむ原因が、収入を得たり、地位などの評価を得たりすることなどのように外からもたらされる動機づけのことをいう。反対に、人からの強制や評価を上げるためではなく、仕事をする事自体に満足がもたらされ、これが仕事にとりくむ動機になっている場合、内発的動機づけという。

最初は外発的動機づけによって仕事に取り組んでいても、職場や上司などの環境からの支援を受けたり、適切な働きかけがあったりすることによって、仕事を行う動機が徐々に自律的なものになり、やがて内発的なものに変化するといわれている。外発的動機づけから内発的動機づけに移行する過程は、仕事に取り組む理由に対する自己決定の程度によって、段階的に「外的調整」、「取入的調整」、「同一化的調整」を経ていくと考えられている。に分けた。もっとも外発的な段階を「外的調整」と呼び、仕事をする事自分で決定したのではなく周囲の強制などによって仕事をさせられている状態を指している。「とにかくお金が欲しいから」「この仕事をしないと生活できないから」などが外的調整に含まれており、外発的動機づけが極めて強い段階である。次に、外発的ではあっても、仕事をする理由について、外的調整よりは自己決定の要素が強いものが取入的調整であり、「仕事をしないと周りの人に批判されるから」「仕事をしないと不安だから」などが含まれる。取入的調整よりもさらに仕事への取組みの理由を自己の判断として認識しているという点で、より内発的な動機づけの段階として「人のためになる仕事だと思うから」「この仕事が社会に必要とされていると思うから」などが同一化的調整である。そして、「この仕事そのものが好きだから」「この仕事の内容がおもしろいから」などに代表される「内発的動機づけ」と達すると考えられている。

成長・学習への動機づけは、仕事において自分が成長し、学習しようとする意欲を指す。仕事に対して、成長・学習の動機づけを持つことは、仕事の質の向上に不可欠である。「現在の仕事のために、勉強や学習をしたい」「自分の知識や技術を向上させるために研修や勉強会に進んで参加したいと思っている」「介護に関する知識や技術に対して、関心や好奇心を感じる」の3項目を設定した。

① 仕事に対する内発的動機づけ

仕事に対する内発的動機づけの階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-48と図3-49に示した。

全体として、.40以上の相関係数はみられず、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層で、同一化調整と「生活機能向上への働きかけ」が $r=.350$ と最も高かった。

図表3-48 仕事に対する内発的動機づけの平均値・標準偏差

仕事に対する内発的動機づけ		一般介護職員		リーダー層	
		小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=		1225	110	307	72
平均	内発的動機づけ	25.6	25.6	26.2	25.5
	取入的調整	11.4	11.7	11.0	10.5
	同一化的調整	14.6	14.7	14.3	14.1
	外的調整	8.8	8.9	8.8	8.9
標準偏差	内発的動機づけ	5.7	5.9	5.4	5.5
	取入的調整	5.2	5.2	5.2	5.3
	同一化的調整	3.3	3.3	3.0	3.0
	外的調整	3.0	3.1	2.9	3.0

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

仕事に対する内発的動機づけ	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	34	1069	132	232	7	384	67	120
平均	24.5	24.3	25.7	25.0	25.7	24.7	25.4	24.8
標準偏差	8.7	9.2	9.1	9.4	8.0	9.3	8.2	9.7

図表3-49 仕事に対する内発的動機づけと業務達成度との相関

仕事に対する内発的動機づけ	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
小規模多機能												
一般介護職員	内発的動機づけ	0.185	0.241	0.232	0.206	0.273	0.171	0.135	0.150	0.161	0.183	0.173
	取入的調整	-0.126	-0.098	-0.042	-0.004	-0.083	-0.122	-0.070	-0.021	-0.059	-0.079	-0.100
	同一化的調整	0.085	0.141	0.159	0.185	0.194	0.081	0.118	0.125	0.074	0.114	0.094
	外的調整	0.002	-0.023	-0.002	0.018	-0.034	0.012	0.012	0.034	0.030	-0.017	-0.027
定期巡回随時対応型												
一般介護職員	内発的動機づけ	0.204	0.251	0.315	0.083	0.322	-0.003	0.255	0.147	0.252	0.304	0.085
	取入的調整	-0.120	0.003	-0.061	-0.003	-0.081	-0.120	-0.093	0.059	0.068	-0.170	0.093
	同一化的調整	0.138	0.245	0.272	0.090	0.215	0.088	0.240	0.208	0.257	0.308	0.170
	外的調整	0.021	0.126	0.061	0.005	0.045	0.123	0.014	0.118	0.314	0.055	-0.044
小規模多機能												
リーダー層	内発的動機づけ	0.210	0.328	0.346	0.261	0.290	0.185	0.200	0.275	0.212	0.104	0.324
	取入的調整	-0.086	-0.095	-0.107	-0.061	-0.090	-0.042	-0.139	-0.146	0.016	-0.012	0.011
	同一化的調整	0.157	0.240	0.306	0.236	0.235	0.137	0.141	0.247	0.246	0.149	0.345
	外的調整	0.039	0.001	-0.014	0.010	-0.007	0.076	-0.152	0.013	0.082	0.077	0.061
定期巡回随時対応型												
リーダー層	内発的動機づけ	-0.091	0.185	0.043	0.242	0.109	0.147	-0.009	0.130	0.180	0.292	0.002
	取入的調整	-0.103	0.010	-0.106	0.073	0.058	0.036	-0.035	0.065	-0.102	0.046	-0.091
	同一化的調整	0.034	0.240	0.173	0.350	0.229	0.206	0.151	0.161	-0.002	0.201	0.005
	外的調整	0.095	0.051	0.206	0.252	0.089	0.123	0.086	0.137	-0.063	0.039	0.065

② 成長・学習への動機づけ

成長・学習への動機づけの階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-50と図3-51に示した。

相関係数は、全体として.40以上のものはなかった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護の一般介護職で、「継続支援のためのコミュニケーション (r=.355)」、小規模多機能型居宅介護のリーダー層で「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.380)」で.35以上となっただけであった。

図表3-50 成長・学習への動機づけの平均値・標準偏差

成長学習への動機づけ	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1278	115	311	77
平均	10.7	11.1	11.5	11.4
標準偏差	2.8	2.8	2.5	2.4

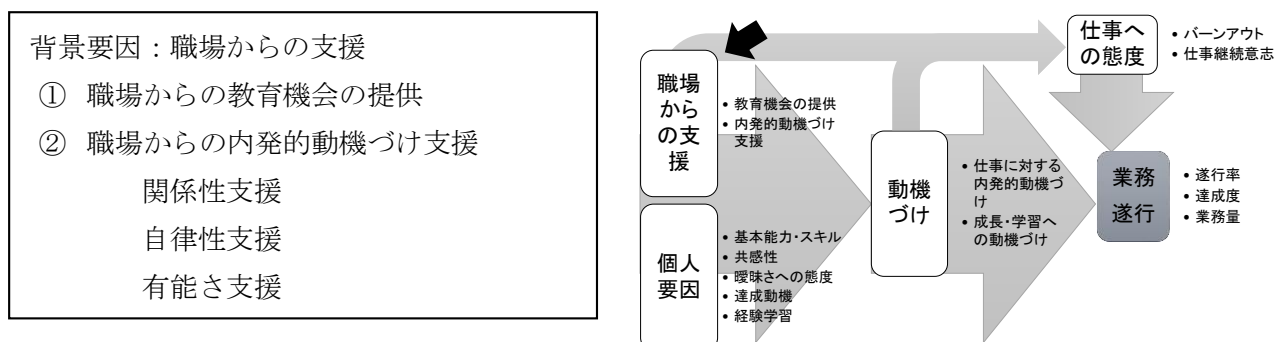
(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

成長学習への動機づけ	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	34	1103	138	241	7	392	69	126
平均	11.2	10.2	10.4	10.3	12.0	10.6	10.9	11.0
標準偏差	2.4	2.9	2.5	2.8	3.2	2.8	2.4	2.6

図表3-51 成長・学習への動機づけと業務達成度との相関

成長学習への動機づけ	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
一般介護職員	小規模多機能										
	成長学習への動機づけ	0.227	0.274	0.272	0.234	0.286	0.173	0.204	0.202	0.203	0.189
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	成長学習への動機づけ	0.251	0.286	0.355	0.142	0.291	0.134	0.164	0.197	0.243	0.233
リーダー層	小規模多機能										
	成長学習への動機づけ	0.178	0.326	0.380	0.283	0.298	0.172	0.189	0.265	0.275	0.170
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	成長学習への動機づけ	0.192	0.228	0.202	0.272	0.245	0.131	0.037	0.191	0.083	0.124

(3) 職場からの支援



「職場からの支援」には、「教育機会の提供」と「内発的動機づけ支援」の2つの下位項目を設定した。

教育機会の提供は外部研修や内部研修の実施状況や参加状況を問う項目である。

内発的動機づけ支援は、前項で説明した通り、職場が介護職員の内発的動機づけを高めるかかわりや環境を整えているかを問うものである。「関係性支援」とは職場から大切にされ、よく目をかけてもらえているという評価を、「自律性支援」は決められたとおりではなく、自分で考え自律的に仕事に取り組むことが職場内で支援されているかどうかの評価を、「有能さ支援」とは適切な勤務評定や評価が行われているかどうかの評価をそれぞれ問い、これら3つを職場からの内発的動機づけ支援の下位尺度とした。

① 職場からの教育機会の提供

職場からの教育機会の提供の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-52と図3-53に示した。

リーダー層において、.40以上の相関係数が数項目で認められた。とくに、小規模多機能型居宅介護のリーダー層では「観察アセスメントによる見通しを持った認知症ケア(r=.504)」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション(r=.406)」のケアに関する項目と「終末期における連携 (r=.456)」「地域との交流・提案 (r=.448)」「自立の通しをもった支援計画(r=.441)」のリーダー層に求めされる業務の両方において相関が認められた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層でも、「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.413)」および「終末期における連携 (r=.583)」「自立の見通しをもった支援計画 (r=.489)」「効果的な人材育成 (r=.426)」の3つのリーダー層の業務との相関が認められた。

教育機会は、リーダー層にとっては、とくにリーダーに求められる業務の達成と関連する重要な内容であると考えられる。

図表3-52 職場からの教育機会の提供の平均値・標準偏差

教育機会の提供	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1244	113	308	77
平均	9.9	9.3	10.6	10.5
標準偏差	2.9	2.8	2.6	2.8

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

教育機会の提供	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	34	1084	136	227	7	388	68	126
平均	11.2	9.4	9.1	9.5	10.1	9.7	9.8	10.2
標準偏差	2.5	2.8	2.7	2.8	3.7	2.8	2.7	2.8

図表3-53 職場からの教育機会の提供と業務達成度との相関

教育機会の提供	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
	一般介護職員	小規模多機能									
教育機会の提供		0.164	0.248	0.226	0.255	0.268	0.214	0.129	0.278	0.308	0.196
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	教育機会の提供	0.237	0.182	0.170	0.098	0.114	0.062	0.147	0.156	0.423	0.127
リーダー層	小規模多機能										
	教育機会の提供	0.328	0.504	0.382	0.386	0.406	0.388	0.217	0.441	0.448	0.360
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	教育機会の提供	0.355	0.363	0.413	0.336	0.316	0.261	0.119	0.489	0.262	0.426

② 職場からの内発的動機づけ支援

職場からの内発的動機づけ支援の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-54と図3-55に示した。相関係数が.40以上の組み合わせは1つだけであり、小規模多機能型居宅介護のリーダー層における有能さ支援と「観察・アセスメントを通じた見通しを持った認知症ケア(r=.412)」の間だけであった。

図表3-54 職場からの内発的動機づけ支援の平均値・標準偏差

仕事への内発的動機づけ支援	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1237	110	309	72
平均	関係性支援 6.1 自律性支援 5.9 有能さ支援 5.1	6.2 6.2 5.4	6.8 6.0 6.0	6.8 6.7 5.9
標準偏差	関係性支援 2.1 自律性支援 1.6 有能さ支援 1.9	2.2 1.5 2.0	1.9 1.4 1.9	1.9 1.6 2.0

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

仕事への内発的動機づけ支援	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	33	1090	134	227	7	387	69	123
平均	6.2 6.2 4.8	5.8 5.7 4.8	6.3 5.7 5.4	6.7 5.9 5.5	6.6 6.3 6.4	5.9 5.6 5.1	5.9 6.1 5.0	6.9 6.1 5.7
標準偏差	2.0 1.5 2.0	2.1 1.6 1.9	2.0 1.6 1.9	2.1 1.6 2.1	1.6 1.8 1.7	2.1 1.4 2.0	2.1 1.5 1.8	2.1 1.7 2.2

図表3-55 職場からの内発的動機づけ支援と業務達成度との相関

仕事への内発的動機づけ支援	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
												小規模多機能
一般介護職員	小規模多機能											
	関係性支援	0.164	0.213	0.199	0.195	0.243	0.261	0.125	0.173	0.258	0.171	0.150
	自律性支援	0.159	0.232	0.231	0.224	0.223	0.133	0.158	0.205	0.275	0.145	0.169
	有能さ支援	0.192	0.277	0.239	0.248	0.256	0.225	0.174	0.222	0.248	0.235	0.195
	定期巡回随時対応型											
	関係性支援	0.253	0.192	0.096	0.178	0.314	0.093	-0.077	0.032	0.077	0.206	0.174
自律性支援	0.231	0.242	0.277	0.209	0.140	0.197	0.244	0.142	0.450	0.216	0.126	
有能さ支援	0.224	0.249	0.216	0.286	0.243	0.167	0.074	0.067	0.364	0.127	0.120	
リーダー層	小規模多機能											
	関係性支援	0.281	0.379	0.280	0.282	0.276	0.298	0.159	0.298	0.302	0.273	0.308
	自律性支援	0.198	0.276	0.245	0.242	0.264	0.146	0.123	0.291	0.303	0.216	0.248
	有能さ支援	0.286	0.412	0.345	0.370	0.305	0.262	0.198	0.375	0.324	0.289	0.277
	定期巡回随時対応型											
	関係性支援	0.170	0.227	0.237	0.314	0.132	0.224	0.031	0.310	0.159	0.248	0.316
自律性支援	0.174	0.229	0.171	0.228	0.203	0.285	-0.006	0.377	0.165	0.274	0.259	
有能さ支援	0.042	0.280	0.201	0.319	0.169	0.139	0.017	0.238	0.195	0.339	0.335	

(4) 個人要因

背景要因：個人要因

① 基本能力・スキル

仕事への誠実さ

チーム意識

職場コンプライアンス

② 共感性：同僚に対する共感性

他者志向・視点取得・自己志向
情動伝搬

③ 共感性：利用者に対する共感性

他者志向・視点取得・自己志向
情動伝搬

④ 共有経験・共有不全経験

⑤ 曖昧さへの態度

享受・不安・受容・排除

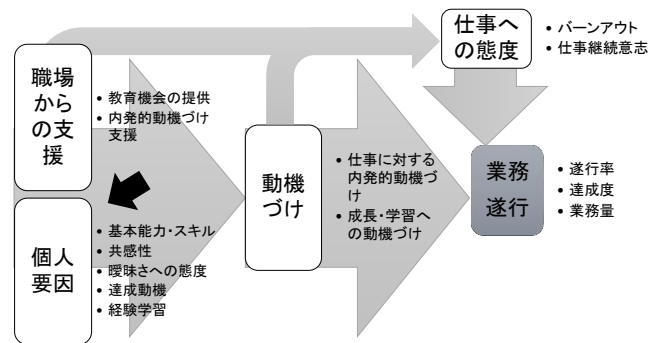
⑥ 達成動機

⑦ 経験学習

具体的経験

内省的経験

抽象的概念化



①基本能力・スキルとは、ジョブ・カード等をはじめとした、仕事をする上での基本的な能力や技能 14 項目を作成した。因子分析によって、概念を整理したところ「自分のミスは他人に責任を押し付けず受けとめる」「引き受けた仕事は最後までやり遂げる」といった『仕事への誠実さ』、「職場の理念を理解し、則って実践する」「チームプレーの際には仲間と仕事や役割を分担し協同で取り組み」といった『チーム意識』、「業務指示・命令を理解して従う」「法令や職場のルールを守る」といった『職場コンプライアンス』の 3 つを下位尺度とした。

②・③共感性は、他者の心的状態についての、認知的・情動的体験を指すとされ、対人援助職においては

基本的な能力であると考えられる。ここでは一般的に、共感性の下位尺度と位置づけられている 4 つの概念を測定対象とした。「他者志向」は「この人は…感じているだろう」というように相手の感情や認知を自分の志向性とは別に推測できること、「視点取得」とは相手の立場から物事をとらえようとする事で、この 2 つは他者の感情や認知と自分の感情や認知の違いを了解した上での共感であるが、「自己志向」は「もし自分だったら…」とあくまで自分の立場から相手の感情や認知を経験すること、「情動伝搬」は「相手が悲しい様子を見て悲しくなる」というように相手の情動をそのまま自分のものとして経験しやすい影響のされやすさを表し、自他の区分が不明確なままでの共感と考えられる。また、対象の属性(たとえば、自分の属する内集団と自分は属さない外集団)によって異なることから、今回は、同僚に対する共感と、利用者・家族に対する共感を質問した。

④他者志向による共感を自己志向による共感と区別する観点から、相手の気持ちがわかるという経験を「共有経験」、相手の気持ちがわからないという経験を「共有不全経験」として尺度化し、その高低の組み合わせによって共感の質を 4 つに分類した (角田、1994)。両尺度とも高い両向型は、相手の立場を理解しつつ、相手と自分とが区別できるという対人援助では最もよい共感と考えられている。一方、共有経験のみ高く、共有不全経験が少ない共有型では、相手の気持ちがわかると自己志向で感じるばかりであり、相手と自分の区別がないタイプの共感であり、対人援助においては相手に情緒的に巻き込まれたり、援助者側の感情を押し付けたりする危険性がある。一方で共有不全経験だ

けが高い不全型では、相手の気持ちがわからないと感じを持ちやすいため、対人援助場面での対象者の理解が難しいことでストレス状態にあったり、相手の感情や希望に配慮しなかったりする可能性がある。両方が低い両貧型は、相手の感情と自分の感情の両面で気付きがない、あるいは鈍麻化している状態を示す。

⑤ ケア場面では、環境や要介護者、援助者の状況もさまざまであり、援助者が先の見通しを仮説的に持ちながら、介入と検証を繰り返してゆくことが必要とされることが多い。とくに認知症ケアではそのような曖昧な状況が継続しやすい。そこで、曖昧な状況であっても、極端に不安を感じたり、あるいはよく確かめもせずには性に状況を判断して判断を早まったりするのではなく、その曖昧な状況に粘り強く向き合い続けることが必要であろう。そこで、調査項目として「曖昧さへの態度」を取り上げた。曖昧な場面や状況について、面白味を感じ曖昧さを楽しむ「曖昧さの享受」、構造が不明確な曖昧な場面に接するとき不安を感じやすい「曖昧さへの不安」、曖昧なことをある程度当然のこととして受け入れる「曖昧さの受容」、曖昧な状況に耐えられず、白黒をはっきりさせようとする「曖昧さの排除」の4つの下位尺度を用いた。

⑥ 達成動機とは、ある程度高い目標を、自ら掲げてそれに向かって努力しようとする動機のことをさす。「どんなことでもやるからにはできるだけ努力して取り組みたい」「自分の目標を定めてそれを達成するために一生懸命頑張ろうと思う」が含まれる。達成動機は、その人の志向性であり、仕事に対する動機づけのように特定のものに限定されるものではない。つまり達成動機が高い人は、物事全般に対して、それ以前よりも、よりうまく、効率的に取り組みたいという意欲を持っているので、前項で扱った仕事への動機づけに、影響を与える個人要因のひとつと位置づけた。

⑦ 経験学習とは、「現場での業務経験の積み重ねと、その内省にともなった学習」と定義される。経験学習理論は、現場を持つ事業所・施設における介護職員の学習としてもそのまま援用できると考えられるため、経験学習サイクルを検証した木村（2011,2012）が用いた尺度を参考に、経験学習の学習サイクルの各段階の質問項目を作成した。経験学習においては、学習サイクルを想定しており、まず、具体的な業務の経験、特に困難を含んだ経験が必要である。これは「具体的経験」と呼ばれ、本調査では「困難な仕事に立ち向かう」「常に新しいことに挑戦する」などの4項目からなる。具体的経験の次に、現場を離れて、経験したことの意味を俯瞰的、多角的に振り返る「内省的観察」の段階があり、「自分の仕事の成功や失敗の原因を考える」「経験したことを多様な観点からとらえなおす」などの4項目からなる。内省的観察によって振り返った結果、経験から何か一般化、概念化、抽象化した知見を見出して、ほかの状況にも応用可能なルールや知識等を作り上げることは、「抽象的概念化」と呼ばれ、本調査では「業務上経験したことを、自分の仕事のやり方に取り込む」「他の状況にもあてはまるような仕事のコツを見つける」などの4項目からなる。さらに、こうして見出したルールや知識を、自ら実験的に現場で実践してみることを、「能動的実験」といい、最終段階であるが、本調査では、ケア業務における反復性やチームでの共有を優先する特性などを配慮してこの段階については含めなかった。（参考文献：中原淳「経営学習論」東京大学出版会,2011）

① 基本能力・スキル

基本能力・スキルの階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-56と図3-57に示した。多くの項目で.40以上の相関係数がみられた。小規模多機能型居宅介護の一般介護職員では、仕事への誠実さと「安全・健康を維持する基本的ケア (r=.420)」の間の1項目だけであったが、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の一般職員では、仕事への誠実さと「安全・健康を維持する基本的ケア (r=.558)」 「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.547)」 「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.500)」 「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.508)」 と数項目において比較的強い相関が得られた。

一方、リーダー層では、小規模多機能型居宅介護では、仕事への誠実さと「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.524)」 「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.453)」 「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.465)」 との間で、またチーム意識と「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.477)」 「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.436)」 「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.431)」 との間で、さらに職場コンプライアンス「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.412)」 との間で.40以上の相関係数が得られた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層では、仕事への誠実さと「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.417)」 「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.404)」 「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.418)」 との間で、またチーム意識と「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.516)」 「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.515)」 「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.470)」 との間で.40以上の相関係数が得られた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層では、仕事への誠実さとチーム意識と「自立の見通しを持った支援計画」の間や、チーム意識と「終末期における連携 (r=.531)」の間でもにも相関がみられた (r=.444,.487)

一般介護職員では、とくに定期巡回・随時対応型訪問介護看護において、見通しを持ったケアやコミュニケーションの実行に「仕事への誠実さ」が重要な能力であることが示された。リーダー層では小規模多機能型居宅介護でも定期巡回・随時対応型訪問介護看護でも同じく見通しを持ったケアやコミュニケーションの実行に「仕事への誠実さ」と「チーム意識」の両方が見通しを持ったケアやコミュニケーションの実行に関係があり、さらに定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、自立の見通しを持った支援計画との関係も認められた。

図表3-56 基本能力・スキルの平均値・標準偏差

基本能力・スキル	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護 n=1287	定期巡回随時対応型訪問介護看護 116	小規模多機能居宅介護 313	定期巡回随時対応型訪問介護看護 77
平均	仕事への誠実さ 24.6	25.3	25.4	25.3
	チーム意識 11.8	12.2	12.2	11.9
	職場コンプライアンス 8.1	8.1	8.3	8.2
標準偏差	仕事への誠実さ 3.6	3.2	3.3	2.9
	チーム意識 2.2	1.8	2.0	1.9
	職場コンプライアンス 1.5	1.5	1.3	1.4

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

基本能力・スキル	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス n=34	介護老人福祉施設 1110	通所介護 138	訪問介護 241	複合型サービス 7	介護老人福祉施設 392	通所介護 69	訪問介護 127
平均	25.3	24.3	24.6	25.0	24.1	24.5	24.9	25.7
	仕事への誠実さ 12.0	11.6	11.8	12.2	11.7	11.6	12.1	12.5
	チーム意識 8.2	8.0	8.1	8.4	7.6	8.1	8.2	8.4
標準偏差	3.2	3.8	3.4	3.4	2.0	3.6	3.1	3.2
	仕事への誠実さ 2.1	2.2	2.1	2.0	1.4	2.0	1.8	1.9
	チーム意識 1.5	1.5	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4	1.3
	職場コンプライアンス							

図表 3-57 基本能力・スキルと業務達成度との相関

基本能力・スキル	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
一般介護職員	小規模多機能											
	仕事への誠実さ	0.420	0.377	0.345	0.209	0.399	0.284	0.299	0.133	0.034	0.049	0.124
	チーム意識	0.340	0.318	0.340	0.206	0.358	0.288	0.239	0.123	0.049	0.061	0.116
	職場コンプライアンス	0.285	0.270	0.237	0.114	0.294	0.238	0.192	0.066	-0.001	0.011	0.077
	定期巡回随時対応型											
	仕事への誠実さ	0.558	0.547	0.500	0.292	0.508	0.368	0.246	0.380	0.248	0.361	0.401
	チーム意識	0.370	0.329	0.314	0.203	0.294	0.350	0.106	0.217	0.481	0.348	0.140
	職場コンプライアンス	0.166	0.182	0.117	0.069	0.111	0.085	0.166	0.195	0.133	0.064	0.313
	リダ層	小規模多機能										
仕事への誠実さ		0.393	0.524	0.453	0.244	0.465	0.380	0.368	0.272	0.169	0.221	0.187
チーム意識		0.300	0.477	0.436	0.289	0.431	0.361	0.294	0.282	0.234	0.264	0.221
職場コンプライアンス		0.291	0.412	0.346	0.212	0.366	0.331	0.217	0.192	0.100	0.150	0.166
定期巡回随時対応型												
仕事への誠実さ		0.353	0.417	0.404	0.297	0.418	0.240	0.273	0.444	0.335	0.271	0.339
チーム意識	0.374	0.516	0.515	0.357	0.470	0.337	0.202	0.487	0.277	0.373	0.531	
職場コンプライアンス	0.355	0.364	0.373	0.201	0.391	0.228	0.248	0.318	0.195	0.275	0.261	

② 共感性（１）同僚に対する共感性

同僚に対する共感性の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表 3-58 と図 3-59 に示した。

相関係数は小規模多機能型居宅介護のリーダー層で.40 以上の組み合わせがみられた。とくに視点取得については自立への働きかけ以外のすべての業務達成度と.40 以上の相関が得られ、とくに「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」との間には.602 と高い相関係数が得られた。他者志向についても、「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.450)」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.414)」の間にも相関がみられた。

小規模多機能型居宅介護のリーダー層において、同僚への他者志向的共感、とりわけその人の立場になって考える視点取得が業務達成に関係する能力であることが示された。

図表 3-58 同僚に対する共感の平均値・標準偏差

対同僚への共感	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1198	104	303	74
平均	対同僚他者志向 11.8	対同僚他者志向 11.9	対同僚他者志向 12.0	対同僚他者志向 12.5
	対同僚視点取得 10.7	対同僚視点取得 11.1	対同僚視点取得 11.5	対同僚視点取得 11.7
	対同僚自己志向 6.2	対同僚自己志向 6.4	対同僚自己志向 5.6	対同僚自己志向 6.0
	対同僚情動伝搬 17.0	対同僚情動伝搬 16.8	対同僚情動伝搬 16.8	対同僚情動伝搬 17.5
標準偏差	対同僚他者志向 2.1	対同僚他者志向 2.1	対同僚他者志向 2.0	対同僚他者志向 1.9
	対同僚視点取得 2.6	対同僚視点取得 2.3	対同僚視点取得 2.4	対同僚視点取得 2.0
	対同僚自己志向 2.3	対同僚自己志向 2.3	対同僚自己志向 2.2	対同僚自己志向 2.7
	対同僚情動伝搬 3.8	対同僚情動伝搬 3.3	対同僚情動伝搬 3.4	対同僚情動伝搬 3.8

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

対同僚への共感	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	33	1059	126	219	7	384	64	119
平均	対同僚他者志向 11.9	対同僚他者志向 11.4	対同僚他者志向 11.4	対同僚他者志向 11.8	対同僚他者志向 12.7	対同僚他者志向 11.8	対同僚他者志向 12.0	対同僚他者志向 12.5
	対同僚視点取得 11.0	対同僚視点取得 10.6	対同僚視点取得 10.9	対同僚視点取得 10.5	対同僚視点取得 10.9	対同僚視点取得 11.0	対同僚視点取得 11.0	対同僚視点取得 11.7
	対同僚自己志向 6.0	対同僚自己志向 6.5	対同僚自己志向 6.1	対同僚自己志向 6.2	対同僚自己志向 5.9	対同僚自己志向 6.1	対同僚自己志向 5.6	対同僚自己志向 5.7
	対同僚情動伝搬 17.0	対同僚情動伝搬 16.7	対同僚情動伝搬 17.1	対同僚情動伝搬 17.0	対同僚情動伝搬 19.0	対同僚情動伝搬 16.6	対同僚情動伝搬 16.8	対同僚情動伝搬 17.7
標準偏差	対同僚他者志向 2.1	対同僚他者志向 2.1	対同僚他者志向 2.1	対同僚他者志向 2.2	対同僚他者志向 1.7	対同僚他者志向 2.0	対同僚他者志向 2.0	対同僚他者志向 1.8
	対同僚視点取得 2.5	対同僚視点取得 2.6	対同僚視点取得 2.6	対同僚視点取得 2.5	対同僚視点取得 1.6	対同僚視点取得 2.3	対同僚視点取得 2.5	対同僚視点取得 2.1
	対同僚自己志向 2.5	対同僚自己志向 2.5	対同僚自己志向 2.4	対同僚自己志向 2.3	対同僚自己志向 2.5	対同僚自己志向 2.4	対同僚自己志向 2.3	対同僚自己志向 2.3
	対同僚情動伝搬 3.5	対同僚情動伝搬 3.7	対同僚情動伝搬 3.4	対同僚情動伝搬 3.7	対同僚情動伝搬 2.4	対同僚情動伝搬 3.6	対同僚情動伝搬 3.5	対同僚情動伝搬 4.0

図表 3-59 同僚に対する共感と業務達成度との相関

対同僚への共感	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
一般介護職員	小規模多機能											
	対同僚他者志向	0.183	0.241	0.168	0.118	0.222	0.246	0.118	0.153	0.173	0.244	0.170
	対同僚視点取得	0.254	0.332	0.317	0.267	0.345	0.235	0.216	0.251	0.255	0.244	0.185
	対同僚自己志向	-0.011	-0.018	-0.008	0.017	-0.049	-0.084	0.033	-0.019	0.041	-0.009	-0.005
	対同僚情動伝搬	0.106	0.117	0.104	0.088	0.130	0.141	0.090	0.095	0.109	0.092	0.125
リーダー層	定期巡回随時対応型											
	対同僚他者志向	0.243	0.130	0.189	0.034	0.147	0.199	0.052	0.115	0.103	0.048	0.065
	対同僚視点取得	0.226	0.248	0.296	0.230	0.233	0.241	0.251	0.310	0.372	0.180	0.198
	対同僚自己志向	0.025	0.003	0.077	0.082	0.065	-0.009	0.155	0.055	0.096	-0.081	0.119
	対同僚情動伝搬	0.180	0.098	0.203	0.032	0.137	0.061	0.065	0.107	-0.055	0.114	0.037
リーダー層	小規模多機能											
	対同僚他者志向	0.371	0.450	0.377	0.318	0.414	0.368	0.240	0.342	0.371	0.258	0.347
	対同僚視点取得	0.424	0.602	0.522	0.461	0.552	0.403	0.300	0.411	0.433	0.410	0.449
	対同僚自己志向	-0.078	-0.147	-0.107	-0.073	-0.123	-0.101	-0.139	-0.043	-0.043	-0.003	-0.011
	対同僚情動伝搬	0.138	0.167	0.137	0.153	0.174	0.156	0.103	0.146	0.211	0.071	0.132
リーダー層	定期巡回随時対応型											
	対同僚他者志向	0.188	0.162	0.287	0.040	0.198	0.183	0.099	0.160	0.084	0.004	0.069
	対同僚視点取得	0.158	0.286	0.316	0.249	0.223	0.181	0.148	0.255	0.212	0.206	0.289
	対同僚自己志向	0.096	0.164	0.074	0.212	0.139	0.081	0.194	0.125	0.172	0.146	0.028
	対同僚情動伝搬	0.038	0.111	0.142	0.062	0.035	0.017	-0.076	0.185	0.160	-0.057	-0.140

③ 共感性（２）利用者に対する共感性

利用者に対する共感性の階層別平均値、標準偏差および業務達成度との相関を図表 3-60 と図 3-61 に示した。

小規模多機能型居宅介護のリーダー層で、視点取得と多くの業務達成度の間で.40以上の相関係数が得られた。.40以上の相関係数が得られたのは、「安全・健康を維持する基本的ケア（ $r=.410$ ）」「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア（ $r=.531$ ）」「継続的支援のためのコミュニケーション（ $r=.505$ ）」「生活機能向上への働きかけ（ $r=.435$ ）」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション（ $r=.545$ ）」「自立の見通しを持った支援計画（ $r=.433$ ）」「終末期ケアにおける連携（ $r=.429$ ）」であった。また、他者志向と「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア（ $r=.411$ ）」との間でも相関がみられた。小規模多機能型居宅介護では、一般介護職員でも視点取得と「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア（ $r=.403$ ）」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション（ $r=.414$ ）」の間に.40以上の相関係数が得られた。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、リーダー層で視点取得と「安心に向けた穏やかなコミュニケーション（ $r=.421$ ）」の間に.40以上の相関係数が得られた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護の一般介護職員では.40以上の相関係数は得られなかった。

同僚との共感性と同じく特に小規模多機能型居宅介護のリーダー層で、利用者・家族への視点取得が多くの業務達成度と関連が見られた。

図表 3-60 利用者に対する共感性の平均値・標準偏差

対利用者への共感		一般介護職員		リーダー層	
		小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=		1225	111	305	73
平均	対利用者他者志向	12.6	12.7	13.1	13.0
	対利用者視点取得	13.7	14.1	14.4	14.5
	対利用者自己志向	8.9	9.1	8.5	8.7
	対利用者情動伝搬	20.7	20.8	20.8	20.6
標準偏差	対利用者他者志向	2.2	2.1	2.1	2.2
	対利用者視点取得	2.4	2.2	2.4	2.3
	対利用者自己志向	2.6	2.6	2.5	2.4
	対利用者情動伝搬	3.8	3.9	3.5	3.5

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

対利用者への共感		一般介護職員				リーダー層			
		複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=		34	1075	138	231	7	389	66	122
平均	対利用者他者志向	12.3	12.1	12.6	12.7	13.0	12.5	12.6	13.4
	対利用者視点取得	13.5	13.2	13.8	13.8	15.0	13.7	13.8	14.7
	対利用者自己志向	8.5	9.1	9.1	9.2	8.4	8.8	8.4	8.7
	対利用者情動伝搬	20.2	20.1	20.8	20.8	21.4	20.4	20.3	21.7
標準偏差	対利用者他者志向	1.9	2.2	2.0	2.2	2.5	2.0	2.5	2.2
	対利用者視点取得	2.3	2.6	2.2	2.4	2.3	2.2	2.6	2.2
	対利用者自己志向	2.5	2.7	2.7	2.5	2.1	2.4	2.6	2.4
	対利用者情動伝搬	3.4	4.0	3.4	3.8	2.1	3.8	3.4	3.9

図表 3-61 利用者に対する共感性と業務達成度との相関

対利用者への共感	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
一般介護職員	小規模多機能											
	対利用者他者志向	0.206	0.244	0.198	0.135	0.253	0.188	0.137	0.139	0.104	0.210	0.210
	対利用者視点取得	0.331	0.403	0.357	0.265	0.414	0.244	0.204	0.250	0.203	0.265	0.238
	対利用者自己志向	-0.136	-0.149	-0.120	-0.074	-0.190	-0.080	-0.099	-0.069	-0.016	-0.106	-0.137
	対利用者情動伝搬	0.084	0.078	0.079	0.080	0.096	0.103	0.000	0.034	0.067	0.071	0.084
	定期巡回随時対応型											
	対利用者他者志向	0.336	0.173	0.141	-0.001	0.141	0.187	0.004	0.050	-0.136	0.175	0.058
	対利用者視点取得	0.273	0.283	0.342	0.130	0.257	0.180	0.220	0.178	0.003	0.113	0.219
対利用者自己志向	-0.105	-0.019	-0.094	0.084	-0.038	-0.085	-0.068	-0.042	-0.049	-0.186	-0.004	
対利用者情動伝搬	0.137	0.108	0.128	-0.022	0.164	0.014	0.100	-0.053	-0.116	0.085	0.144	
リーダー層	小規模多機能											
	対利用者他者志向	0.347	0.411	0.327	0.319	0.395	0.273	0.259	0.342	0.243	0.181	0.298
	対利用者視点取得	0.410	0.531	0.505	0.435	0.545	0.357	0.312	0.433	0.348	0.347	0.429
	対利用者自己志向	-0.196	-0.266	-0.274	-0.128	-0.301	-0.108	-0.278	-0.175	-0.179	-0.071	-0.165
	対利用者情動伝搬	0.112	0.219	0.157	0.189	0.232	0.195	0.058	0.180	0.177	0.129	0.159
	定期巡回随時対応型											
	対利用者他者志向	0.333	0.192	0.252	0.160	0.186	0.052	0.076	0.149	-0.160	-0.025	0.117
	対利用者視点取得	0.359	0.423	0.387	0.330	0.421	0.238	0.186	0.349	0.114	0.224	0.296
対利用者自己志向	-0.064	-0.047	-0.099	0.017	-0.065	-0.031	0.031	-0.110	-0.023	-0.040	-0.044	
対利用者情動伝搬	0.130	0.172	0.139	0.168	0.134	0.045	-0.028	0.172	0.111	0.051	0.007	

④ 共有経験と共有不全経験

共感経験と共感不全経験の得点の階層別平均値、標準偏差を図表 3-62 に示した。次に、小規模多機能型居宅介護の一般職員を対象として、共感経験、共感不全経験のそれぞれの中央値を算出して、共有経験高・共有不全経験高（両向型）、共有経験高・共有不全経験低（共有型）、共有経験低・共有不全経験高（不全型）、共有経験低・共有不全経験低（両貧型）の 4 類型に分類した。また、同じ基準で小規模多機能型居宅介護のリーダー層、他の事業所・施設の一般介護職員およびリーダー層についても類型化を行い、それぞれの該当人数・割合を算出し、図表 3-63、64 に示した。

さらに、共有経験、共有不全経験のそれぞれの得点と業務達成度との相関を図表 3-65 に示した。

類型化の結果は、小規模多機能型居宅介護よりも、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の方が両向型の割合が高く、他の事業所施設を通じてみても、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の両向型の割合は高かった。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、リーダー層で共有経験と「生活機能向上への働きかけ (r=.433)」の間に、.40 以上の相関係数が得られた。

図表 3-62 共感性の質の平均値・標準偏差

共感性	一般介護職員		リーダ層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1227	111	310	71
平均	共有経験 33.6	34.6	34.7	35.0
	共有不全経験 27.6	28.1	26.5	28.9
標準偏差	共有経験 6.8	6.9	6.4	7.2
	共有不全経験 6.8	7.3	6.6	7.3

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

共感性	一般介護職員				リーダ層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	32	1073	130	229	7	384	65	123
平均	共有経験 34.3	32.8	33.7	33.1	34.9	33.8	34.9	34.9
	共有不全経験 27.3	28.6	27.7	27.6	25.0	27.6	25.9	27.4
標準偏差	共有経験 6.1	7.1	6.2	6.9	5.8	7.1	6.6	6.1
	共有不全経験 6.9	7.0	6.7	6.4	5.0	7.0	7.7	6.9

図表 3-63 共感性の類型

共感性	一般介護職員		リーダ層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
人数	両向型 165	24	52	18
	共有型 320	26	107	17
	不全型 445	35	86	19
	両貧型 297	26	65	17
%	両向型 13.4%	21.6%	16.8%	25.4%
	共有型 26.1%	23.4%	34.5%	23.9%
	不全型 36.3%	31.5%	27.7%	26.8%
	両貧型 24.2%	23.4%	21.0%	23.9%

図表 3-64 その他の事業所・施設種別における類型

共感性	一般介護職員				リーダ層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
人数	両向型 7	177	19	27	0	68	12	17
	共有型 8	229	33	61	4	102	22	40
	不全型 9	436	50	84	2	119	16	38
	両貧型 8	231	28	57	1	95	15	28
%	両向型 21.9%	16.5%	14.6%	11.8%	0.0%	17.7%	18.5%	13.8%
	共有型 25.0%	21.3%	25.4%	26.6%	57.1%	26.6%	33.8%	32.5%
	不全型 28.1%	40.6%	38.5%	36.7%	28.6%	31.0%	24.6%	30.9%
	両貧型 25.0%	21.5%	21.5%	24.9%	14.3%	24.7%	23.1%	22.8%

図表 3-65 共感性の質と業務達成度との相関

共感性	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
一般介護職員	小規模多機能											
	共有経験	0.166	0.243	0.267	0.227	0.239	0.149	0.123	0.180	0.146	0.102	0.192
	共有不全経験	-0.141	-0.175	-0.155	-0.131	-0.178	-0.109	-0.118	-0.130	-0.103	-0.147	-0.140
	定期巡回随時対応型											
	共有経験	0.139	0.171	0.193	0.032	0.168	0.100	0.087	0.090	0.312	0.216	0.255
	共有不全経験	0.050	-0.040	-0.086	-0.131	-0.054	0.006	-0.064	-0.014	0.251	-0.161	-0.072
リーダ層	小規模多機能											
	共有経験	0.240	0.350	0.374	0.356	0.327	0.174	0.204	0.257	0.195	0.200	0.298
	共有不全経験	-0.167	-0.221	-0.234	-0.178	-0.251	-0.132	-0.174	-0.156	-0.122	-0.063	-0.096
	定期巡回随時対応型											
	共有経験	0.105	0.252	0.280	0.433	0.186	0.073	0.053	0.236	0.180	0.150	-0.059
	共有不全経験	-0.082	-0.075	-0.172	-0.211	-0.068	-0.030	-0.083	0.027	0.147	-0.128	0.084

⑤ 曖昧さへの態度

曖昧さへの態度の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-66と図3-67に示した。

.40以上の相関係数は、小規模多機能型居宅介護のリーダー層で曖昧さ享受と「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.472)」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.427)」の間に得られた。

図表3-66 曖昧さへの態度の平均値・標準偏差

曖昧さへの態度		一般介護職員		リーダー層	
		小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=		1165	108	295	71
平均	曖昧さ享受	41.4	42.2	42.8	42.3
	曖昧さ不安	22.5	22.6	21.2	21.7
	曖昧さ受容	13.1	13.3	13.6	13.5
	曖昧さ排除	11.6	11.4	11.2	10.8
標準偏差	曖昧さ享受	6.4	6.1	6.6	6.0
	曖昧さ不安	4.4	4.5	4.4	3.5
	曖昧さ受容	3.3	3.1	3.2	3.2
	曖昧さ排除	3.0	2.7	2.8	2.4

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

曖昧さへの態度		一般介護職員				リーダー層			
		複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=		30	1042	124	224	7	379	69	116
平均	曖昧さ享受	41.8	40.8	40.7	40.0	44.7	40.9	41.3	41.1
	曖昧さ不安	22.2	22.9	22.3	22.5	20.3	22.0	22.4	21.1
	曖昧さ受容	13.3	13.1	12.6	13.3	12.7	13.4	13.3	13.7
	曖昧さ排除	11.5	11.6	11.7	11.1	12.1	11.6	11.1	11.0
標準偏差	曖昧さ享受	6.6	6.8	6.7	6.8	5.5	5.8	4.7	6.3
	曖昧さ不安	4.9	4.4	3.4	4.4	5.7	4.1	3.9	3.9
	曖昧さ受容	3.4	3.5	2.9	3.3	3.7	3.1	3.0	3.3
	曖昧さ排除	3.3	3.0	2.6	2.7	3.5	2.8	2.8	2.6

図表3-67 曖昧さへの態度と業務達成度との相関

曖昧さへの態度	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
												相関係数
一般介護職員	小規模多機能											
	曖昧さ享受	0.201	0.273	0.247	0.194	0.255	0.214	0.177	0.159	0.131	0.207	0.159
	曖昧さ不安	-0.116	-0.158	-0.110	-0.115	-0.125	-0.104	-0.101	-0.094	-0.104	-0.101	-0.100
	曖昧さ受容	-0.110	-0.032	-0.051	-0.018	-0.044	-0.034	-0.065	-0.036	0.017	0.005	-0.070
	曖昧さ排除	0.142	0.117	0.155	0.139	0.081	0.062	0.133	0.121	0.113	0.067	0.128
	定期巡回随時対応型											
	曖昧さ享受	0.329	0.399	0.337	0.075	0.300	0.290	0.104	0.301	0.368	0.311	0.166
	曖昧さ不安	-0.163	-0.220	-0.136	-0.100	-0.126	-0.300	-0.076	-0.268	-0.294	-0.273	-0.088
曖昧さ受容	0.041	0.037	-0.087	-0.136	0.081	-0.068	-0.187	-0.061	0.077	0.011	-0.074	
曖昧さ排除	-0.078	0.061	0.104	0.137	-0.049	0.020	0.110	0.061	0.064	-0.148	0.143	
リーダー層	小規模多機能											
	曖昧さ享受	0.283	0.472	0.427	0.372	0.469	0.351	0.231	0.376	0.311	0.242	0.368
	曖昧さ不安	-0.177	-0.230	-0.244	-0.106	-0.214	-0.147	-0.218	-0.169	-0.161	-0.079	-0.139
	曖昧さ受容	-0.178	-0.076	-0.067	-0.056	-0.026	-0.034	-0.184	-0.021	-0.055	-0.033	-0.055
	曖昧さ排除	0.064	0.023	0.001	0.105	-0.015	0.024	0.065	0.087	0.125	0.065	0.159
	定期巡回随時対応型											
	曖昧さ享受	0.029	0.087	-0.033	0.081	0.125	0.131	-0.018	0.086	-0.050	-0.005	0.052
	曖昧さ不安	0.006	-0.099	-0.081	-0.040	-0.053	0.132	0.029	-0.001	-0.192	-0.274	-0.075
曖昧さ受容	0.012	-0.078	-0.148	-0.025	-0.012	-0.038	0.010	-0.033	0.087	0.102	-0.123	
曖昧さ排除	0.087	0.047	0.056	0.019	0.120	0.326	0.105	0.062	-0.065	-0.149	0.080	

⑥ 達成動機

達成動機の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-68と図3-69に示した。

リーダー層で.40以上の相関係数がみられ、小規模多機能型居宅介護のリーダー層で、「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.471)」「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.441)」「安心に向けた穏やかなコミュニケーション (r=.404)」との間に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層で、「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア (r=.426)」「継続的支援のためのコミュニケーション (r=.501)」「自立の見通しを持った支援計画 (r=.410)」との間に.40以上の相関係数が得られた。リーダー層では業務達成に関連する要因と考えられる。

図表3-68 達成動機の平均値・標準偏差

達成動機	一般介護職員		リーダー層	
	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=	1276	114	313	77
平均	7.7	7.8	8.0	7.8
標準偏差	1.7	1.7	1.5	1.6

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

達成動機	一般介護職員				リーダー層			
	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=	34	1104	137	239	7	390	69	126
平均	7.9	7.3	7.9	7.6	7.7	7.4	7.4	7.9
標準偏差	1.5	1.8	1.6	1.8	1.4	1.6	1.9	1.7

図表3-69 達成動機と業務達成度との相関

達成動機	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
一般介護職員	小規模多機能										
	達成動機	0.265	0.304	0.298	0.248	0.313	0.211	0.219	0.205	0.214	0.246
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	達成動機	0.276	0.308	0.327	0.143	0.312	0.173	0.205	0.158	0.280	0.125
リーダー層	小規模多機能										
	達成動機	0.360	0.471	0.441	0.362	0.404	0.262	0.274	0.379	0.278	0.327
リーダー層	定期巡回随時対応型										
	達成動機	0.398	0.426	0.501	0.331	0.310	0.214	0.081	0.410	0.313	0.276

⑦ 経験学習

経験学習の階層別平均値、標準偏差、および業務達成度との相関を図表3-70と図3-71に示した。

どちらのサービスでも、一般介護職員、リーダー層問わず、.40以上の相関が複数の変数間で得られた。主なものは以下の通りである。

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層以外で「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」と経験学習の3尺度との間に.40以上の相関係数が得られた。

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層でも「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」と抽象的概念化との間に.40以上の相関係数が得られた。

- ・小規模多機能型居宅介護の一般介護職員とリーダー層の両方で、「継続的支援のためのコミュニケーション」と経験学習の3尺度との間に.40以上の相関係数が得られた。

- ・小規模多機能型居宅介護のリーダー層では、「生活機能向上への働きかけ」「自立の見通しを持った支援計画」と経験学習の3尺度との間に.40以上の相関係数が得られた。

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護のリーダー層でも、「生活機能向上への働きかけ」「自立の見通しを持った支援計画」は具体的経験との間に.40以上の相関係数が得られた。

以上の結果から観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア、「継続的支援のためのコミュニケーション」の達成は、経験学習への取組との関連が強い可能性が示唆された。

図表3-70 経験学習の平均値・標準偏差

経験学習		一般介護職員		リーダー層	
		小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護	小規模多機能居宅介護	定期巡回随時対応型訪問介護看護
n=		1231	111	304	74
平均	具体的経験	13.4	14.1	15.0	14.1
	内省的経験	14.5	15.2	15.4	15.6
	抽象的概念化	14.8	15.6	15.5	15.6
標準偏差	具体的経験	3.0	2.8	3.0	2.7
	内省的経験	2.7	2.4	2.6	2.4
	抽象的概念化	2.6	2.4	2.4	2.5

(参考値) その他の事業所・施設種別における平均値と標準偏差

経験学習		一般介護職員				リーダー層			
		複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護	複合型サービス	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
n=		32	1080	132	139	7	387	66	125
平均	具体的経験	14.2	13.0	13.6	13.2	14.6	13.8	13.9	14.0
	内省的経験	14.8	14.2	14.6	14.7	15.4	14.6	14.8	15.3
	抽象的概念化	15.1	14.6	14.6	14.9	15.3	14.7	14.8	15.4
標準偏差	具体的経験	3.1	3.2	3.0	3.1	2.9	3.0	2.8	2.5
	内省的経験	2.8	2.9	2.6	2.7	2.1	2.8	2.7	2.4
	抽象的概念化	2.7	2.8	2.4	2.7	3.2	2.6	2.5	2.4

図表 3-71 経験学習と業務達成度との相関

経験学習	安全・健康を維持する基本ケア	観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ	自立の見通しをもった支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携	
一般介護職員	小規模多機能											
	具体的経験	0.349	0.428	0.424	0.410	0.369	0.236	0.299	0.323	0.299	0.314	0.287
	内省的経験	0.384	0.480	0.430	0.395	0.400	0.271	0.299	0.369	0.257	0.328	0.330
	抽象的概念化	0.397	0.487	0.409	0.369	0.388	0.274	0.299	0.360	0.237	0.334	0.345
	定期巡回随時対応型											
	具体的経験	0.288	0.436	0.361	0.199	0.301	0.351	0.281	0.294	0.200	0.249	0.169
内省的経験	0.411	0.513	0.395	0.226	0.331	0.241	0.304	0.284	0.208	0.296	0.274	
抽象的概念化	0.319	0.448	0.328	0.100	0.250	0.111	0.280	0.226	0.071	0.170	0.142	
リーダ層	小規模多機能											
	具体的経験	0.318	0.441	0.473	0.406	0.438	0.307	0.282	0.416	0.437	0.295	0.379
	内省的経験	0.435	0.572	0.585	0.479	0.442	0.337	0.345	0.456	0.385	0.376	0.495
	抽象的概念化	0.451	0.548	0.564	0.442	0.448	0.272	0.430	0.433	0.370	0.375	0.483
	定期巡回随時対応型											
	具体的経験	0.127	0.330	0.206	0.421	0.197	0.205	-0.025	0.447	0.339	0.315	0.170
内省的経験	0.182	0.388	0.262	0.312	0.294	0.283	0.139	0.241	0.243	0.312	0.120	
抽象的概念化	0.298	0.469	0.339	0.382	0.408	0.336	0.197	0.351	0.342	0.272	0.112	

6 調査結果（5） 業務達成度と背景要因の関連

背景要因と業務達成度との関係を包括的に明らかにするため、小規模多機能型居宅介護事業所の一般介護職員を対象として、背景要因のうち、それ以外の背景要因からの影響や、今回検討した以外の要因から影響を受けやすいと考えられる「仕事への態度」に含まれる項目以外の、背景要因の尺度得点を用いた主成分分析（およびバリマックス回転）を行い、結果から、経験学習と達成動機、他者志向の共感、仕事に対する基本的態度、職場での支援・教育、内発的動機づけ、自己志向の共感、外発的動機傾向、曖昧さの受容、の8変数にまとめて合成得点を算出した。まとめられた変数と含まれた項目を図表3-72に示した。この8変数の合成得点を用いて、業務達成度を目的変数とする重回帰分析を階層別に行った。

図表3-72 背景要因尺度得点の因子分析によるカテゴリ化

経験学習 経験学習_具体的経験 経験学習_内省的経験 成長学習への動機づけ 曖昧さ享受 経験学習_抽象的概念化 達成動機	職場での支援・教育 関係性支援 有能さ支援 自律性支援 教育機会
他者志向の共感 対同僚他者志向 対同僚情動伝搬 対利用者他者志向 対利用者情動伝搬 対同僚視点取得 対利用者視点取得	内発的動機づけ 同一化的調整 内発的動機づけ 共有経験得点
仕事に対する基本的態度 職場コンプライアンス チーム意識 仕事への誠実さ	自己志向の共感 対同僚自己志向 対利用者自己志向 曖昧さ不安 共有不全経験得点
	外発的動機づけ傾向 外的調整 取入的調整
	曖昧さの受容 曖昧さ受容 曖昧さ排除(反転)

(1) 業務達成度に影響する背景要因の事業所・施設間比較

業務達成度に背景要因がどのように影響を与えているのかを、より包括的に検討するため、背景要因の8変数の合成得点を説明変数、業務達成度を目的変数とした重回帰分析を、事業所施設種別・階層別に行った。

① 安全・健康を維持する基本的ケア

安全・健康を維持する基本的ケアを目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-73と図表3-74に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、仕事に対する基本的態度が一致して相対的に強い影響があることが示された。一方でそれ以外の要因は一般介護職員とリーダー層では異なり、一般介護職員では経験学習や達成動機の高さが基本的ケアの達成度を高める一方で、共感の自己志向性や曖昧な状態を放置しておく傾向は達成度を低めると考えられる。リーダー層では、職場での支援・教育があることと、共感の他者志向性が基本的ケアの達成度を高めると考えられる。

他の事業所・施設でも仕事に対する基本的態度の標準偏回帰係数が相対的に大きく、チームで真面目に仕事に取り組む姿勢が「基本的ケア」の達成度に関連があることが示唆された。

図表3-73 一般介護職員における「安心・安全を維持する基本ケア」に対する重回帰分析

安全・健康を維持する 基本的ケア	小規模多機能事業所 n=965			複合型サービス 29			定期巡回随時対応型訪問介護看護 89			介護老人福祉施設 893			通所介護 104			訪問介護 174		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.148	3.688	.000	0.400	1.348	.193	0.170	1.322	.190	0.126	3.057	.002	0.178	1.429	.156	0.020	0.246	.806
他者志向の共感	-0.010	-0.258	.796	0.161	0.695	.495	0.105	0.778	.439	-0.033	-0.841	.401	-0.046	-0.368	.714	0.071	0.879	.380
仕事に対する基本的態度	0.376	10.425	.000	0.355	1.376	.184	0.310	2.314	.023	0.443	12.338	.000	0.290	2.688	.008	0.494	6.358	.000
職場での支援・教育	0.041	1.345	.179	-0.168	-0.667	.513	0.035	0.303	.763	0.077	2.419	.016	0.183	1.828	.071	0.048	0.659	.511
内発的動機づけ	-0.040	-1.080	.280	-0.084	-0.318	.754	-0.012	-0.092	.927	-0.072	-1.845	.065	0.110	0.894	.374	0.063	0.736	.463
自己志向の共感	-0.069	-2.307	.021	0.232	0.941	.358	-0.039	-0.355	.723	-0.060	-1.873	.061	-0.100	-0.993	.323	-0.009	-0.137	.891
外発的動機傾向	0.026	0.863	.388	-0.191	-0.897	.380	-0.025	-0.223	.824	-0.012	-0.366	.715	0.001	0.009	.993	0.003	0.038	.970
曖昧さの受容	-0.099	-3.470	.001	0.089	0.492	.628	0.065	0.651	.517	-0.087	-3.062	.002	-0.012	-0.139	.889	0.052	0.809	.420
	R2=0.254			0.227			0.198			0.291			0.313			0.316		

図表3-74 リーダー層における「安心・安全を維持する基本ケア」に対する重回帰分析

安全・健康を維持する 基本的ケア	小規模多機能事業所 n=250			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 58			介護老人福祉施設 344			通所介護 58			訪問介護 85		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	-0.087	-1.048	.296	0.081			0.232	1.355	.182	0.219	3.398	.001	0.282	1.923	.060	0.065	0.474	.637
他者志向の共感	0.142	2.098	.037	0.932			0.141	0.840	.405	0.024	0.393	.694	-0.343	-2.385	.021	0.290	2.099	.039
仕事に対する基本的態度	0.459	6.762	.000	-0.054			0.232	1.410	.165	0.442	7.862	.000	0.583	4.041	.000	0.258	2.242	.028
職場での支援・教育	0.147	2.391	.018	0.577			-0.155	-1.007	.319	-0.094	-1.867	.063	-0.036	-0.284	.777	0.243	2.032	.046
内発的動機づけ	0.012	0.178	.859				-0.137	-0.794	.431	-0.017	-0.287	.774	-0.011	-0.097	.923	-0.300	-2.059	.043
自己志向の共感	-0.080	-1.377	.170				-0.030	-0.199	.843	-0.078	-1.605	.109	-0.117	-0.945	.349	0.041	0.385	.701
外発的動機傾向	0.017	0.300	.765	-0.645			-0.026	-0.179	.858	-0.011	-0.242	.809	-0.079	-0.709	.482	0.229	2.126	.037
曖昧さの受容	-0.079	-1.467	.144	0.196			0.030	0.221	.826	-0.079	-1.778	.076	-0.062	-0.590	.558	0.059	0.580	.564
	R2=0.330						0.051			0.365			0.483			0.251		

② 観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア

観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケアを目的変数した重回帰分析の結果を図表3-75と図表3-76に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、仕事に対する基本的態度、経験学習と達成動機、職場での教育・支援が一致して相対的に強い影響があることが示された。また、自己志向の共感も一般介護職員とリーダー層で共通して、負の影響があることが示された。リーダー層では、さらに他者志向の共感について正の影響がみられた。また、小規模多機能型居宅介護のリーダー層では説明率も高く、これらの要因の影響が強いことが示された。

他の事業所・施設でも、仕事に対する基本的態度、経験学習と達成動機、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「見通しを持った認知症ケア」の達成度に影響があることが示唆された。また、他の事業所・施設でも、自己志向の共感が相対的に強い負の影響を与えていることが共通しており、共感のあり方も重要な要因であると考えられる。小規模多機能型居宅介護のリーダー層で他者志向の共感が有意な正の影響を持っていたことは、小規模多機能型居宅介護の人材像の特徴の1つであると考えられる。

図表3-75 一般介護職員における目的変数「観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア」とした重回帰分析結果

観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア n=	小規模多機能事業所 960			複合型サービス 29			定期巡回随時対応型訪問介護看護 88			介護老人福祉施設 888			通所介護 101			訪問介護 173		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.247	6.521	.000	0.551	2.958	.008	0.343	2.825	.006	0.201	4.915	.000	0.031	0.268	.789	0.212	2.675	.008
他者志向の共感	0.004	0.124	.901	-0.014	-0.094	.926	-0.093	-0.712	.479	0.053	1.340	.181	-0.035	-0.307	.760	0.017	0.222	.824
仕事に対する基本的態度	0.330	9.709	.000	0.370	2.286	.033	0.314	2.467	.016	0.279	7.777	.000	0.436	4.345	.000	0.342	4.593	.000
職場での支援・教育	0.125	4.268	.000	0.098	0.620	.543	-0.008	-0.070	.944	0.204	6.424	.000	0.222	2.374	.020	0.188	2.680	.008
内発的動機づけ	-0.050	-1.399	.162	-0.239	-1.446	.164	0.116	0.969	.336	-0.078	-1.996	.046	0.083	0.722	.472	0.057	0.697	.487
自己志向の共感	-0.107	-3.785	.000	-0.067	-0.431	.671	-0.103	-0.981	.330	-0.085	-2.672	.008	-0.152	-1.576	.119	0.049	0.749	.455
外発的動機傾向	0.032	1.140	.255	-0.080	-0.602	.554	0.081	0.772	.443	0.008	0.265	.791	0.239	2.589	.011	-0.084	-1.287	.200
曖昧さの受容	-0.024	-0.886	.376	-0.099	-0.873	.393	-0.044	-0.465	.644	-0.046	-1.602	.110	0.015	0.183	.855	-0.008	-0.128	.898
R2=	0.331			0.696			0.291			0.301			0.393			0.371		

図表3-76 リーダー層における目的変数「観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア」とした重回帰分析結果

観察・アセスメントによる見通しをもった認知症ケア n=	小規模多機能事業所 252			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 59			介護老人福祉施設 352			通所介護 58			訪問介護 89		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.149	2.186	.030	-1.337			0.065	0.389	.699	0.307	5.409	.000	0.541	3.908	.000	0.155	1.191	.237
他者志向の共感	0.126	2.240	.026	1.252			-0.008	-0.048	.962	0.055	1.024	.307	-0.274	-2.013	.050	0.142	1.086	.281
仕事に対する基本的態度	0.350	6.186	.000	0.625			0.287	1.784	.080	0.400	8.047	.000	0.294	2.153	.036	0.244	2.272	.026
職場での支援・教育	0.269	5.203	.000	1.632			0.037	0.245	.808	0.095	2.141	.033	0.196	1.644	.107	0.330	2.956	.004
内発的動機づけ	-0.014	-0.264	.792				0.264	1.567	.123	-0.042	-0.797	.426	-0.008	-0.075	.941	-0.098	-0.721	.473
自己志向の共感	-0.144	-2.967	.003				-0.098	-0.665	.509	-0.084	-1.983	.048	0.034	0.289	.774	0.144	1.443	.153
外発的動機傾向	-0.002	-0.037	.970	0.381			0.009	0.065	.948	0.027	0.644	.520	-0.240	-2.271	.028	0.026	0.259	.797
曖昧さの受容	-0.020	-0.443	.658	0.868			0.009	0.068	.946	-0.039	-0.991	.323	-0.028	-0.283	.778	0.042	0.442	.660
R2=	0.526						0.076			0.505			0.538			0.310		

③ 継続的支援のためのコミュニケーション

継続的支援のためのコミュニケーションを目的変数した結果を図表3-77と図表3-78に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援が一致して相対的に強い影響があることが示された。また、自己志向の共感も一般介護職員とリーダー層で共通して、負の影響があることが示された。ここまでの傾向は前項の「観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア」と共通であった。小規模多機能型居宅介護のリーダー層では説明率も高く、これらの要因の影響が強いことが示された。小規模多機能型居宅介護の一般介護職員では、さらに外発的動機傾向が正の影響、曖昧さの受容が負の影響を持っていた。

他の事業所・施設でも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「継続的支援のための認知症ケア」の達成度に影響があることが示唆された。また、他の事業所・施設でも、自己志向の共感が相対的に強い負の影響を与えているところがいくつかあり、共感のあり方も重要な要因であると考えられる。小規模多機能型居宅介護の一般介護職員では、外発的動機傾向が正の影響、曖昧さの受容が負の影響を持っていたことは、小規模多機能型居宅介護の業務として、継続的支援を重視する特徴を表しているとも考えられる。

図表3-77 一般介護職員における目的変数「継続的支援のためのコミュニケーション」とした重回帰分析結果

継続的支援のための コミュニケーション n=	小規模多機能事業所 967			複合型サービス 29			定期巡回随時対応型訪問介護看護 89			介護老人福祉施設 893			通所介護 104			訪問介護 176		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.259	6.433	.000	0.528	1.988	.061	0.297	2.380	.020	0.242	5.692	.000	0.222	1.926	.057	0.253	3.139	.002
他者志向の共感	-0.032	-0.862	.389	0.250	1.209	.241	0.008	0.065	.949	-0.030	-0.721	.471	0.072	0.623	.535	0.016	0.200	.841
仕事に対する基本的態度	0.193	5.334	.000	0.293	1.269	.219	0.210	1.622	.109	0.176	4.756	.000	0.426	4.259	.000	0.303	3.976	.000
職場での支援・教育	0.132	4.289	.000	-0.156	-0.691	.498	-0.029	-0.261	.795	0.190	5.789	.000	0.047	0.507	.613	0.115	1.607	.110
内発的動機づけ	0.033	0.883	.377	-0.055	-0.232	.819	0.179	1.461	.148	0.007	0.165	.869	-0.019	-0.163	.871	0.061	0.728	.468
自己志向の共感	-0.092	-3.059	.002	0.216	0.977	.340	-0.024	-0.223	.824	-0.119	-3.613	.000	-0.142	-1.530	.129	0.006	0.094	.925
外発的動機傾向	0.083	2.794	.005	-0.097	-0.510	.616	0.061	0.571	.570	-0.003	-0.098	.922	0.194	2.158	.033	0.017	0.255	.799
曖昧さの受容	-0.083	-2.889	.004	0.057	0.356	.725	-0.157	-1.636	.106	-0.057	-1.929	.054	0.151	1.844	.068	-0.099	-1.570	.118
R2=	0.249			0.381			0.249			0.247			0.411			0.330		

図表3-78 リーダー層における目的変数「継続的支援のためのコミュニケーション」とした重回帰分析結果

継続的支援のための コミュニケーション n=	小規模多機能事業所 254			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 58			介護老人福祉施設 350			通所介護 58			訪問介護 86		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.293	3.874	.000	-2.384			-0.074	-0.450	.654	0.293	4.689	.000	0.552	3.283	.002	0.056	0.434	.665
他者志向の共感	0.022	0.352	.725	0.930			0.162	1.010	.318	0.042	0.715	.475	-0.238	-1.438	.157	0.002	0.015	.988
仕事に対する基本的態度	0.228	3.634	.000	-0.235			0.338	2.151	.036	0.316	5.785	.000	0.105	0.633	.530	0.361	3.428	.001
職場での支援・教育	0.136	2.393	.017	2.836			-0.006	-0.044	.965	0.041	0.834	.405	0.251	1.736	.089	0.416	3.766	.000
内発的動機づけ	0.092	1.509	.133				0.176	1.063	.293	0.065	1.117	.265	-0.171	-1.263	.213	-0.058	-0.430	.668
自己志向の共感	-0.135	-2.510	.013				-0.182	-1.264	.212	-0.022	-0.473	.637	-0.002	-0.017	.987	0.178	1.780	.079
外発的動機傾向	-0.007	-0.145	.885	0.252			0.006	0.040	.968	-0.016	-0.353	.724	-0.013	-0.101	.920	0.117	1.159	.250
曖昧さの受容	-0.007	-0.144	.885	0.939			-0.044	-0.340	.735	-0.034	-0.785	.433	-0.093	-0.773	.443	-0.079	-0.844	.401
R2=	0.415						0.129			0.402			0.319			0.353		

④ 生活機能向上への働きかけ

生活機能向上への働きかけを目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-79と図表3-80に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による有意な影響があることが示された。また、一般介護職員では、経験学習と達成動機、外発的動機傾向が正の影響、他者志向の共感、曖昧さの受容による負の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「生活機能向上への働きかけ」の達成度に影響があることが示唆された。小規模多機能型居宅介護の一般介護職員では、外発的動機傾向が正の影響を持っていたことは、小規模多機能型居宅介護の業務として、自宅で生活していくための生活機能向上を重視する特徴を表しているとも考えられる。また、他者志向の共感が負の影響を持っていたことは生活機能の向上において、利用者の視点を持たない方が達成度が高いということであり、検討を要する課題である。

図表3-79 一般介護職員における目的変数「生活機能向上への働きかけ」とした重回帰分析結果

生活機能向上への働きかけ n=	小規模多機能事業所 940			複合型サービス 29			定期巡回随時対応型訪問介護看護 73			介護老人福祉施設 859			通所介護 101			訪問介護 114		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	.223	5.296	.000	.566	2.780	.012	.130	0.820	.415	.155	3.334	.001	.149	1.111	.269	.141	1.157	.250
他者志向の共感	-.098	-2.505	.012	-.066	-0.415	.682	-.094	-0.566	.573	-.085	-1.902	.057	.025	0.192	.848	.027	0.240	.811
仕事に対する基本的態度	.202	5.346	.000	.409	2.308	.032	.126	0.745	.459	.090	2.202	.028	.356	3.091	.003	.196	1.604	.112
職場での支援・教育	.175	5.495	.000	-.026	-0.148	.884	.235	1.648	.104	.252	7.001	.000	.050	0.465	.643	.263	2.634	.010
内発的動機づけ	.043	1.111	.267	.009	0.052	.959	.034	0.216	.830	-.005	-0.123	.902	.048	0.372	.711	.020	0.168	.867
自己志向の共感	-.054	-1.743	.082	.163	0.964	.347	.024	0.158	.875	-.081	-2.250	.025	-.016	-0.148	.883	.067	0.688	.493
外発的動機傾向	.106	3.410	.001	-.256	-1.756	.094	.008	0.050	.960	.012	0.346	.729	.287	2.807	.006	-.098	-1.027	.307
曖昧さの受容	-.064	-2.147	.032	.003	0.025	.981	-.230	-1.927	.058	-.060	-1.870	.062	.094	0.995	.322	.098	1.109	.270
R2=	0.212			0.636			0.056			0.132			0.255			0.204		

図表3-80 リーダー層における目的変数「生活機能向上への働きかけ」とした重回帰分析結果

生活機能向上への働きかけ n=	小規模多機能事業所 253			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 51			介護老人福祉施設 344			通所介護 57			訪問介護 83		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	.126	1.508	.133	.848			.120	0.705	.485	.221	3.075	.002	.477	2.712	.009	-.015	-0.100	.920
他者志向の共感	.090	1.308	.192	.216			-.104	-0.587	.560	-.047	-0.678	.498	-.343	-1.977	.054	.041	0.272	.787
仕事に対する基本的態度	.248	3.596	.000	-.640			.219	1.295	.202	.137	2.165	.031	.306	1.744	.087	.182	1.422	.159
職場での支援・教育	.200	3.216	.001	-.055			.095	0.609	.546	.239	4.262	.000	.108	0.705	.484	.232	1.743	.085
内発的動機づけ	.070	1.046	.297				.381	2.187	.034	.026	0.378	.706	-.080	-0.561	.577	-.099	-0.616	.540
自己志向の共感	-.003	-0.044	.965				-.100	-0.640	.526	-.048	-0.890	.374	.087	0.569	.572	.092	0.778	.439
外発的動機傾向	-.006	-0.101	.919	-.734			-.010	-0.062	.951	.136	2.587	.010	-.097	-0.711	.481	.089	0.732	.466
曖昧さの受容	-.082	-1.492	.137	.208			.073	0.508	.614	-.002	-0.040	.968	-.012	-0.098	.922	.195	1.686	.096
R2=	0.302						0.095			0.218			0.248			0.057		

⑤ 安心に向けた穏やかなコミュニケーション

安心に向けた穏やかなコミュニケーションを目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-81と図表3-82に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援が一致して相対的に強い影響があることが示された。また、自己志向の共感も一般介護職員とリーダー層で共通して、負の影響があることが示された。小規模多機能型居宅介護のリーダー層では説明率も高く、これらの要因の影響が強いことが示された。小規模多機能型居宅介護のリーダー層は、さらに他者志向の共感が正の影響を持っていた。

他の事業所・施設でも、概ね経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「安心のための穏やかなコミュニケーション」の達成度に影響があることが示唆された。また、他の事業所・施設でも、自己志向の共感が相対的に強い負の影響を与えているところがあるいくつかあり、共感のあり方も重要な要因であると考えられる。小規模多機能型居宅介護のリーダー層では、他者志向の共感が正の影響があったことが特徴的であり、小規模多機能型居宅介護の中堅以上職員に求められる能力であることが窺われる。

図表3-81 一般介護職員における目的変数「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」とした重回帰分析結果

安心に向けた穏やかな コミュニケーション n=	小規模多機能事業所 968			複合型サービス 29			定期巡回随時対応型訪問 介護看護 89			介護老人福祉施設 894			通所介護 104			訪問介護 176		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.168	4.280	.000	0.563	1.879	.075	0.133	1.025	.309	0.158	3.690	.000	0.154	1.323	.189	0.033	0.383	.702
他者志向の共感	0.049	1.329	.184	0.047	0.200	.843	0.027	0.199	.842	0.046	1.115	.265	0.057	0.493	.623	0.157	1.875	.063
仕事に対する基本的態度	0.248	7.031	.000	0.120	0.461	.650	0.260	1.921	.058	0.231	6.207	.000	0.424	4.203	.000	0.348	4.285	.000
職場での支援・教育	0.186	6.180	.000	-0.114	-0.449	.658	0.016	0.137	.892	0.184	5.564	.000	0.044	0.476	.635	0.144	1.880	.062
内発的動機づけ	0.000	0.002	.998	-0.002	-0.008	.993	0.195	1.520	.132	-0.029	-0.704	.481	0.057	0.500	.618	-0.010	-0.115	.909
自己志向の共感	-0.135	-4.617	.000	0.012	0.049	.961	0.023	0.205	.838	-0.133	-4.007	.000	-0.170	-1.809	.074	0.062	0.875	.383
外発的動機傾向	0.038	1.304	.193	-0.185	-0.860	.400	-0.053	-0.469	.640	0.002	0.062	.950	0.156	1.724	.088	-0.025	-0.359	.720
曖昧さの受容	-0.003	-0.121	.904	-0.089	-0.488	.631	0.058	0.581	.563	0.020	0.679	.497	0.125	1.515	.133	-0.016	-0.244	.808
R2=	0.282			0.213			0.180			0.236			0.400			0.242		

図表3-82 リーダー層における目的変数「安心に向けた穏やかなコミュニケーション」とした重回帰分析結果

安心に向けた穏やかな コミュニケーション n=	小規模多機能事業所 254			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問 介護看護 58			介護老人福祉施設 351			通所介護 58			訪問介護 89		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.212	2.805	.005	-1.725			0.131	0.779	.440	0.279	4.357	.000	0.351	2.076	.043	0.143	1.050	.297
他者志向の共感	0.224	3.587	.000	1.340			-0.013	-0.079	.937	0.091	1.496	.136	-0.003	-0.020	.984	-0.063	-0.459	.648
仕事に対する基本的態度	0.205	3.271	.001	1.178			0.344	2.131	.038	0.298	5.308	.000	0.166	0.997	.324	0.294	2.609	.011
職場での支援・教育	0.168	2.966	.003	1.593			-0.155	-1.026	.310	0.053	1.069	.286	0.231	1.592	.118	0.239	2.038	.045
内発的動機づけ	-0.056	-0.930	.353				0.196	1.151	.255	0.006	0.104	.917	0.003	0.025	.980	0.121	0.844	.401
自己志向の共感	-0.182	-3.387	.001				-0.097	-0.657	.514	-0.012	-0.258	.797	-0.010	-0.071	.943	0.185	1.768	.081
外発的動機傾向	0.025	0.489	.625	0.922			0.145	1.005	.320	-0.066	-1.417	.157	-0.086	-0.667	.508	-0.083	-0.771	.443
曖昧さの受容	0.037	0.747	.456	0.921			-0.011	-0.082	.935	-0.014	-0.325	.746	0.004	0.031	.975	-0.024	-0.241	.810
R2=	0.416						0.084			0.370			0.311			0.238		

⑥ 事業所内情報交換

事業所内情報交換を目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-83と図表3-84に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援、他者志向の共感が一致して相対的に強い影響があることが示された。また、一般介護職員では自己志向の共感が、負の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、概ね、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援、他者志向の共感の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「事業所内情報共有」の達成度に影響があることが示唆された。ケアに関する要因と異なり、経験学習と達成動機の影響がみられず、一方で一般介護職員においても、他者志向の共感が影響要因としてみられたのは、経験による達成というよりも共感に基づく態度や理解が関係していることを示唆している。事業所内で情報を共有することは、地域での個別ケアにおいて必須のことであり、ケアを支える業務内容として大変に重要である。

図表3-83 一般介護職員における目的変数「事業所内情報交換」とした重回帰分析結果

事業所内情報交換	小規模多機能事業所			複合型サービス			定期巡回随時対応型訪問介護看護			介護老人福祉施設			通所介護			訪問介護		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.065	1.491	.136	0.266	1.407	.178	0.312	2.284	.025	0.028	0.616	.538	-0.002	-0.012	.990	0.082	0.907	.366
他者志向の共感	0.095	2.326	.020	-0.036	-0.252	.804	0.164	1.087	.281	0.108	2.443	.015	-0.101	-0.781	.437	0.051	0.564	.573
仕事に対する基本的態度	0.263	6.760	.000	0.130	0.770	.452	0.105	0.724	.471	0.311	7.877	.000	0.511	4.412	.000	0.409	4.788	.000
職場での支援・教育	0.127	3.801	.000	0.523	3.200	.005	-0.008	-0.066	.948	0.163	4.583	.000	0.066	0.633	.528	0.165	2.052	.042
内発的動機づけ	-0.060	-1.442	.150	0.081	0.486	.633	-0.176	-1.286	.202	-0.130	-2.983	.003	0.222	1.730	.087	-0.050	-0.521	.603
自己志向の共感	-0.081	-2.486	.013	0.405	2.560	.020	-0.271	-2.286	.025	-0.076	-2.111	.035	-0.021	-0.189	.851	-0.053	-0.706	.481
外発的動機傾向	0.000	0.008	.994	-0.583	-4.368	.000	0.060	0.505	.615	0.038	1.075	.282	0.026	0.244	.808	-0.052	-0.688	.492
曖昧さの受容	-0.021	-0.670	.503	0.033	0.285	.779	-0.025	-0.236	.814	0.039	1.225	.221	0.025	0.259	.796	0.070	0.983	.327
R2=	0.172			0.721			0.162			0.172			0.293			0.275		

図表3-84 リーダー層における目的変数「事業所内情報交換」とした重回帰分析結果

事業所内情報交換	小規模多機能事業所			複合型サービス			定期巡回随時対応型訪問介護看護			介護老人福祉施設			通所介護			訪問介護		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.031	0.351	.726	-2.329			0.167	0.895	.376	0.028	0.391	.696	-0.128	-0.741	.463	0.063	0.481	.632
他者志向の共感	0.205	2.846	.005	1.531			-0.050	-0.270	.788	0.133	1.939	.053	-0.200	-1.142	.259	0.003	0.020	.984
仕事に対する基本的態度	0.278	3.831	.000	0.292			0.175	0.993	.326	0.292	4.622	.000	0.503	2.930	.005	0.389	3.592	.001
職場での支援・教育	0.175	2.624	.009	2.478			0.056	0.343	.733	0.207	3.693	.000	0.123	0.825	.414	0.337	2.986	.004
内発的動機づけ	-0.072	-1.036	.301				0.041	0.219	.828	-0.095	-1.421	.156	0.168	1.184	.243	-0.080	-0.583	.561
自己志向の共感	-0.080	-1.288	.199				0.096	0.590	.558	-0.004	-0.076	.940	-0.288	-1.921	.061	0.032	0.320	.750
外発的動機傾向	0.070	1.179	.240	0.029			-0.063	-0.402	.689	-0.041	-0.772	.441	0.177	1.309	.197	0.058	0.560	.577
曖昧さの受容	0.004	0.060	.952	1.064			-0.161	-1.109	.273	-0.069	-1.405	.161	-0.127	-1.025	.311	0.097	1.015	.313
R2=	0.243						-0.019			0.216			0.308			0.297		

⑦ 自立への働きかけ

自立への働きかけを目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-85と図表3-86に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると一般介護職員とリーダー層とも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による有意な影響があることが示された。また、一般介護職員では、経験学習と達成動機が正の影響、曖昧さの受容による負の影響があることが示された。リーダー層では、自己志向の共感による負の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「自立への働きかけ」の達成度に影響があることが示唆された。

図表3-85 一般介護職員における目的変数「自立への働きかけ」とした重回帰分析結果

自立への働きかけ	小規模多機能事業所			複合型サービス			定期巡回随時対応型訪問介護看護			介護老人福祉施設			通所介護			訪問介護		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数	n=965			29			89			893			104			175		
経験学習と達成動機	0.277	6.399	.000	0.597	2.595	.017	0.173	1.265	.210	0.184	4.046	.000	0.018	0.137	.891	0.155	1.677	.095
他者志向の共感	-0.036	-0.904	.366	0.621	3.465	.002	-0.051	-0.355	.724	-0.031	-0.708	.479	-0.171	-1.287	.201	-0.048	-0.531	.596
仕事に対する基本的態度	0.090	2.313	.021	-0.190	-0.949	.354	0.085	0.600	.550	0.168	4.234	.000	0.332	2.893	.005	0.147	1.693	.092
職場での支援・教育	0.104	3.145	.002	0.355	1.812	.085	0.040	0.329	.743	0.079	2.250	.025	0.230	2.159	.033	0.083	1.011	.313
内発的動機づけ	-0.054	-1.336	.182	-0.637	-3.118	.005	0.162	1.206	.231	0.032	0.747	.456	0.226	1.736	.086	0.091	0.956	.340
自己志向の共感	-0.050	-1.565	.118	-0.027	-0.139	.891	0.080	0.681	.498	-0.060	-1.698	.090	0.097	0.912	.364	-0.072	-0.946	.346
外発的動機傾向	0.022	0.698	.485	0.153	0.928	.365	-0.123	-1.050	.297	-0.001	-0.038	.970	-0.159	-1.541	.127	0.090	1.179	.240
曖昧さの受容	-0.096	-3.118	.002	-0.258	-1.848	.079	-0.290	-2.756	.007	-0.073	-2.327	.020	0.099	1.055	.294	-0.205	-2.853	.005
R2=	0.133			0.536			0.098			0.136			0.223			0.143		

図表3-86 リーダー層における目的変数「自立への働きかけ」とした重回帰分析結果

自立への働きかけ	小規模多機能事業所			複合型サービス			定期巡回随時対応型訪問介護看護			介護老人福祉施設			通所介護			訪問介護		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数	n=254			7			58			349			58			86		
経験学習と達成動機	0.056	0.633	.527	3.061			0.110	0.609	.545	0.188	2.733	.007	0.482	2.745	.008	0.022	0.135	.893
他者志向の共感	0.046	0.623	.534	-0.486			0.026	0.150	.881	-0.018	-0.275	.784	-0.374	-2.170	.035	0.131	0.803	.425
仕事に対する基本的態度	0.203	2.761	.006	-0.875			0.204	1.184	.242	0.301	4.990	.000	0.199	1.152	.255	0.229	1.734	.087
職場での支援・教育	0.125	1.879	.061	-2.080			-0.090	-0.559	.578	-0.024	-0.448	.654	0.098	0.648	.520	0.057	0.410	.683
内発的動機づけ	0.019	0.270	.787				0.132	0.725	.472	0.137	2.125	.034	-0.134	-0.949	.347	-0.178	-1.059	.293
自己志向の共感	-0.198	-3.125	.002				-0.045	-0.281	.780	-0.027	-0.521	.603	-0.052	-0.348	.729	0.047	0.374	.709
外発的動機傾向	-0.041	-0.696	.493	-0.712			0.032	0.204	.839	-0.083	-1.640	.102	-0.002	-0.017	.986	-0.011	-0.091	.928
曖昧さの受容	-0.103	-1.748	.082	-0.542			0.091	0.639	.526	-0.059	-1.241	.215	-0.168	-1.343	.186	-0.043	-0.369	.713
R2=	0.193						0.047			0.270			0.258			0.015		

⑧ 自立の見通しを持った支援計画

リーダー層のみで、自立の見通しを持った支援計画を目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-87に示した。なお、⑧以降はリーダー層の業務とされたものであるため、リーダー層のみの重回帰分析を行った。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による有意な影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、経験学習と達成動機、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援のいずれかの標準偏回帰係数が大きく、この3つの背景要因が「自立の見通しを持った支援計画」の達成度に影響があることが示唆された。

図表3-87 リーダー層における目的変数「自立の見通しを持った支援計画」とした重回帰分析結果

自立の見通しをもった支援計画 n=	小規模多機能事業所 247			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 57			介護老人福祉施設 339			通所介護 54			訪問介護 84		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.176	2.053	.041	-1.078			0.059	0.361	.720	0.183	2.516	.012	0.543	2.989	.005	0.221	1.588	.116
他者志向の共感	0.078	1.113	.267	0.410			0.079	0.486	.629	0.010	0.150	.881	-0.406	-2.321	.025	-0.060	-0.440	.661
仕事に対する基本的態度	0.147	2.056	.041	-0.290			0.289	1.820	.075	0.269	4.191	.000	0.253	1.353	.183	0.185	1.547	.126
職場での支援・教育	0.261	4.069	.000	1.773			0.221	1.490	.143	0.065	1.154	.249	0.179	1.154	.255	0.352	2.971	.004
内発的動機づけ	-0.021	-0.310	.757				0.062	0.375	.709	0.059	0.859	.391	0.008	0.058	.954	-0.088	-0.597	.552
自己志向の共感	-0.045	-0.730	.466				-0.038	-0.262	.795	-0.041	-0.758	.449	0.154	0.997	.324	0.191	1.745	.085
外発的動機傾向	-0.101	-1.729	.085	-0.359			0.027	0.192	.849	0.045	0.846	.398	-0.164	-1.179	.245	-0.053	-0.482	.631
曖昧さの受容	-0.056	-0.988	.324	0.734			0.068	0.517	.607	0.025	0.493	.623	-0.046	-0.360	.721	0.161	1.522	.132
R2=	0.277						0.126			0.219			0.273			0.214		

⑨ 地域との交流と提案

リーダー層について、地域との交流と提案を目的変数とした重回帰分析の結果を図表3-88に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による正の影響と、自己志向の共感、曖昧さの受容による負の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きい事業所・施設が多かったが、自己志向の共有と曖昧さの受容は小規模多機能型居宅介護のリーダー層における特徴であった。小規模多機能型居宅介護では、地域でのさまざまな人の協力を仰ぐことも多く、それが利用者の生活を支えるために重要であるため、曖昧にはしておけないことが影響していると考えられる。

図表3-88 リーダー層における目的変数「地域との交流と提案」とした重回帰分析結果

地域との交流と提案 n=	小規模多機能事業所 207			複合型サービス 6			定期巡回随時対応型訪問介護看護 47			介護老人福祉施設 187			通所介護 40			訪問介護 73		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
説明変数																		
経験学習と達成動機	0.075	0.799	.425	0.348			-0.100	-0.512	.611	-0.020	-0.198	.844	0.288	1.147	.260	-0.064	-0.398	.692
他者志向の共感	0.105	1.360	.175	0.041			-0.112	-0.583	.564	0.228	2.178	.031	-0.011	-0.044	.965	0.015	0.091	.927
仕事に対する基本的態度	0.174	2.205	.029	0.783			0.089	0.500	.620	0.248	2.726	.007	0.038	0.149	.882	0.379	2.750	.008
職場での支援・教育	0.260	3.693	.000				0.244	1.296	.203	0.240	3.107	.002	-0.083	-0.381	.706	0.188	1.321	.191
内発的動機づけ	0.020	0.275	.783				0.256	1.323	.194	-0.195	-1.934	.055	-0.118	-0.653	.519	-0.131	-0.742	.461
自己志向の共感	-0.139	-2.028	.044				-0.166	-0.941	.353	0.007	0.098	.922	-0.257	-1.313	.199	0.063	0.513	.610
外発的動機傾向	0.097	1.503	.134	0.425			-0.149	-0.809	.423	0.032	0.421	.674	-0.147	-0.775	.444	0.213	1.690	.096
曖昧さの受容	-0.124	-1.984	.049	0.675			0.160	0.948	.349	-0.082	-1.177	.241	0.099	0.546	.589	0.090	0.732	.467
R2=	0.275						-0.042			0.175			0.084			0.116		

⑩ 効果的な人材育成

リーダー層について、効果的な人材育成を目的変数とした重回帰分析の結果を図表 3-89 に示した。

小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による有意な正の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きい事業所・施設が多かった。

図表 3-89 リーダー層における目的変数「効果的な人材育成」とした重回帰分析結果

効果的な人材育成 n=	小規模多機能事業所 236			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 51			介護老人福祉施設 343			通所介護 49			訪問介護 80		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	0.023	0.260	.795	-0.950			-0.041	-0.242	.810	0.127	1.836	.067	0.439	2.175	.036	0.122	0.809	.421
他者志向の共感	0.052	0.705	.482	0.368			-0.285	-1.689	.099	-0.040	-0.606	.545	-0.088	-0.453	.653	0.239	1.689	.096
仕事に対する基本的態度	0.356	4.775	.000	-0.700			0.116	0.663	.511	0.446	7.417	.000	0.074	0.380	.706	0.374	2.971	.004
職場での支援・教育	0.219	3.250	.001	1.814			0.244	1.408	.166	0.151	2.793	.006	0.150	0.879	.385	0.074	0.599	.551
内発的動機づけ	-0.003	-0.048	.962				0.310	1.769	.084	-0.061	-0.932	.352	-0.193	-1.202	.237	-0.402	-2.619	.011
自己志向の共感	0.016	0.252	.801				-0.301	-1.898	.065	-0.026	-0.499	.618	-0.073	-0.437	.664	0.117	0.976	.332
外発的動機傾向	0.024	0.388	.698	-0.683			0.105	0.685	.497	-0.020	-0.391	.696	0.001	0.005	.996	0.148	1.229	.223
曖昧さの受容	-0.052	-0.889	.375	0.360			0.291	2.097	.042	0.032	0.686	.493	-0.096	-0.666	.509	0.042	0.385	.702
R2=	0.256						0.133			0.292			0.176			0.179		

⑪ 終末期ケアにおける連携

リーダー層について、終末期における連携を目的変数とした重回帰分析の結果を図表 3-90 に示した。小規模多機能型居宅介護で、標準偏回帰係数が有意であった背景要因を検討すると、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援による有意な正の影響があることが示された。

他の事業所・施設でも、仕事に対する基本的態度、職場での教育・支援の標準偏回帰係数が大きい事業所・施設が多かった。終末期ケアにおける連携については遂行率が低く、実施することがまずは大きな課題である。

図表 3-90 リーダー層における目的変数「終末期ケアにおける連携」とした重回帰分析結果

終末期ケアにおける連携 n=	小規模多機能事業所 168			複合型サービス 7			定期巡回随時対応型訪問介護看護 46			介護老人福祉施設 283			通所介護 28			訪問介護 52		
	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値	標準化β	t値	p値
経験学習と達成動機	.132	1.069	.287	.057			.136	0.732	.469	.046	0.560	.576	-.107	-0.310	.760	.089	0.416	.679
他者志向の共感	-.049	-0.532	.595	.703			.008	0.044	.965	.003	0.040	.968	.075	0.258	.799	.043	0.236	.814
仕事に対する基本的態度	.320	3.615	.000	.283			.051	0.262	.795	.353	5.055	.000	.405	1.248	.227	.200	1.135	.263
職場での支援・教育	.179	2.249	.026	.107			.497	2.913	.006	.245	3.925	.000	.117	0.451	.657	.214	1.252	.217
内発的動機づけ	.117	1.332	.185				-.294	-1.656	.106	-.039	-0.528	.598	-.164	-0.762	.455	-.220	-1.087	.283
自己志向の共感	.011	0.142	.887				.005	0.029	.977	-.046	-0.800	.424	-.012	-0.044	.965	-.101	-0.652	.518
外発的動機傾向	.080	1.116	.266	-.026			-.048	-0.294	.771	.072	1.249	.213	-.234	-1.011	.325	-.087	-0.578	.566
曖昧さの受容	-.040	-0.588	.557	1.019			-.025	-0.175	.862	.016	0.292	.771	-.229	-1.096	.287	.344	2.147	.038
R2=	0.286						0.186			0.252			0.206			0.071		

7 まとめ

ここでは、小規模多機能型居宅介護の業務達成度に影響を与える背景要因について、説明変数である背景要因から、目的変数である業務達成度を通して概観した結果を述べる。(図表3-91, 92)

全体として、業務達成度に正の影響を持つ要因としては、まず「仕事に対する基本的態度」が挙げられた。チーム意識を持ち、指示やルールを守って、仕事に誠実に取り組む傾向である。これは、一般介護職員、リーダー層ともすべての業務達成度に影響しており、他の事業所・施設でも多く影響要因となっていたことから、今回あげたようなケアおよびその周辺を支える業務に対するコアな要因であると考えられる。

次に、「経験学習と達成動機」が、一般介護職員で「事業所内情報交換」以外で、リーダー層でケアに関する業務達成度（自立、見通し、コミュニケーション）において、正の影響を示していた。この要因は、仕事の経験を自分で省察し、目標を達成しようという意欲が強いことを示すが、このことがケアの質を上げることに影響を及ぼしていると考えられる。

さらに「他者志向の共感」が、小規模多機能型居宅介護では、一般介護職員、リーダー層ともに事業所内情報共有に対して影響が示されたとともに、リーダー層ではその他にもいくつかの業務達成度に正の影響がみられた。他者志向の共感とは、他者の様子を見て、その人の視点に立ってその人が考えたり、感じたりしていることを推測する傾向を示しており、事業所内でチームとして協力する際に重要な見方であると考えられる。また、リーダー層で多くの業務達成度で有意な影響がみられたことは、小規模多機能型居宅介護において中堅以上職員に待っていき過程で求められる能力であることが推察される。

職場の要因としては、「職場での支援・教育」、すなわち職場での教育機会が多く、内発性を高める支援も多いことが、一般介護職員では「基本的ケア」以外で、リーダー層ではリーダー業務も含めたすべての業務達成度に影響しており、今回あげたようなケアおよびその周辺を支える業務に対して影響を与えていると考えられる。職場において、仕事に対する内発性を高めるような取り組みや働きあつてを整備していくことがケアの質の向上に必要であろう。

一方で、業務達成度に負の影響を持つ要因がみられた。「業務達成度に負の影響がある」ということは、その背景要因が強い人ほど該当の業務達成度が低い傾向にあることを示し、「自己志向の共感」（自分ならばこう感じるという「自己の視点」による共感を示す傾向）と「曖昧さの受容」（曖昧さがあることを受け入れ、解決しないでおく傾向）にいくつかの業務達成度で負の影響がみられた。とくに、「自己志向の共感」は一般介護職員、リーダー層ともに負の影響のある項目が複数みられており、見通しも持った認知症ケア、継続的支援のためのコミュニケーション、安心に向けた穏やかなコミュニケーションといった今回設定したケアの方向性の中核となる項目で負の影響を与えていた。これらの項目は、リーダー層で説明率（R二乗）が高い項目でもあり、共感の質がケアの質に影響を及ぼす可能性を教育・人材育成で考慮すべきであることが指摘できる。

図表 3-91 小規模多機能型居宅介護の一般介護職員の重回帰分析結果

一般介護職員		安全・健康を維持する基本的ケア	記録・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ
	経験学習と達成動機	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎		+◎
	他者志向の共感				-◎		+◎	
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育		+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	内発的動機づけ							
	自己志向の共感	-◎	-◎	-◎		-◎	-◎	
	外発的動機傾向			+◎	+◎			
	曖昧さの受容	-◎		-◎	-◎			-◎
	R2=	0.254	0.331	0.249	0.212	0.282	0.172	0.133

図表 3-92 小規模多機能型居宅介護のリーダー層の重回帰分析結果

リーダー層		安全・健康を維持する基本的ケア	記録・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ
	経験学習と達成動機		+◎	+◎	+△	+◎		
	他者志向の共感	+◎	+◎			+◎	+◎	
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+△
	内発的動機づけ							
	自己志向の共感		-◎	-◎		-◎		-◎
	外発的動機傾向							
	曖昧さの受容							-△
	R2=	0.330	0.526	0.415	0.302	0.416	0.243	0.193

リーダー層		自立の見通しを持った支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
	経験学習と達成動機	+◎			+△
	他者志向の共感		+△		
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育	+◎	+◎	+◎	+◎
	内発的動機づけ				+△
	自己志向の共感		-◎		
	外発的動機傾向	-△			
	曖昧さの受容		-◎		
	R2=	0.277	0.275	0.256	0.286

第4章 業務量に関する調査

業務量に関する調査は、主に小規模多機能型居宅介護事業所における業務の内容・遂行時間・達成度を明らかにすることを目的に、業務量の観察調査と業務量の質問紙調査の2つの調査を実施した。

業務量を質問紙調査によって明らかにするにあたり、まず調査対象となる事業所・施設で行われている業務内容をコード化する必要があった。そのため、対象となった事業所・施設種別において、実際の業務を観察者が観察し、その業務内容を記述するよう依頼し、その内容から業務コードを生成することとし、これを業務量の観察調査とした。

次に、業務量の観察調査の結果から修正した業務コード表の一覧を付し、全国事業所・施設調査時に、全国職員調査の協力意向を示した事業所・施設のうち45事業所・施設を対象に業務量の質問紙調査を行った。

1. 業務量に関する観察調査

(1) 目的

業務量質問紙調査の実施に向けて、事業所・施設種別ごとにどのような業務を行っているかを明らかにするために、ケアコードの収集および妥当性を検討することを目的とした。

(2) 調査対象者

本法人理事の所属施設・法人が運営する、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、通所介護、訪問介護事業所および特別養護老人ホームの介護職員各2名。

協力した事業所・施設は図表4-1のとおりであり、各事業所・施設で1名ずつ合計9名を調査対象とした。また、各事業所・施設の管理者に対して事業所・施設票として事業所・施設の状況に関する調査を依頼した。

図表4-1 業務量の観察調査協力事業所・施設

法人名 (所在地)	事業所・施設 種別	事業所・施設名称
社会福祉法人 宏仁会 清風荘 (青森県)	通所介護	デイサービスセンター夜越山
	訪問介護	清風荘ホームヘルパーステーション
社会福祉法人 恵仁福祉協会 高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ (長野県)	介護老人福祉施設	高齢者総合福祉施設 アザレアンさなだ
	定期巡回・随時対応型	24時間型ホームヘルパーステーションアザレアン
社会福祉法人長岡福祉協会 こぶし苑 (新潟県)	小規模多機能型居宅介護事業所	小規模多機能型居宅介護川崎
	通所介護	デイサービスセンター関原
	訪問介護	こぶし24時間ケアサービスステーション美沢
社会福祉法人 端山園 地域密着型総合ケアセンター きたおおじ (京都府)	小規模多機能型居宅介護事業所	小規模多機能型居宅介護事業所きたおおじ
	介護老人福祉施設	地域密着型介護老人福祉施設きたおおじ

(3) 方法

1) 調査手続き

平成 26 年 10 月から 12 月、各事業所・施設ごとに、介護職員の中から中堅以上の熟達した職員を 2 名ずつ選定してもらい（調査の承諾を条件とする）観察対象者とした。次にそれぞれの観察対象者と同一の事業所・施設に所属し、観察対象者や援助を受ける要介護者の状況を知っている観察者を選定し、観察対象者の 1 日の勤務時間内の業務内容を観察し、記録するよう依頼した。

2) 調査内容

主な調査内容は以下の通りであった。

- 1 日の勤務時間内のケア等業務内容の観察・記録
- 利用者全体の状況・分布
- 事業所・施設の状況

なお、観察調査における業務コードの予備的な生成にあたっては、小規模多機能居宅介護事業所で行われている業務に加えて、その他の事業所・施設種別の業務も網羅する必要があったため、図表 4-2 を参考にした。

図表 4-2 業務コード生成のために参考にした資料

事業所・施設種別	参考資料
通所介護の業務	平成 25 年度厚生労働省老人保健事業進費等補助金「通所介護のあり方に関する調査研究事業」報告書 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 平成 26 年 3 月
訪問介護の業務	堀田聡子『訪問介護員の定着・能力開発と雇用管理』東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付部門研究シリーズ No.11, 2008 年 3 月.
介護支援専門員の業務	平成 23 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金「居宅介護支援事業所における介護支援専門員の業務および人材育成の実態に関する調査」報告書 三菱総合研究所 平成 24 年 3 月

観察調査で用いた仕事内容（業務）コードを図表 4-3 に示した。この業務コードのほかに、業務の開始時間、終了時間、業務の実施場所、援助者数、被援助者数、被援助者のうち重度者の有無、被援助者のうち認知症者の有無を記載してもらうための、観察記録表を作成し、記入用紙として用いた。

図表4-3 観察調査で用いた予備的な仕事内容（業務）コード

<p>ADL支援</p> <p>101 着替え介助 102 食事介助・水分摂取支援 103 食事摂取量観察・記録 104 食品の管理・整理 105 配膳・下膳 106 洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪) 107 体位交換 108 起居移動移乗(室内) 109 起居移動移乗(室外) 110 送迎 111 入浴介助 112 清拭 113 排せつ介助 199 その他のADL支援</p> <p>生活支援</p> <p>201 戸締まり、火の始末、防災 202 レク参加 203 散歩付き添い 204 通信支援(電話・FAX) 205 代筆代読 206 睡眠環境整備 207 入眠・起床介助 208 買物代行 209 調理支援 210 調理代行 211 金銭管理支援 212 金銭管理代行 213 洗濯支援 214 洗濯代行 215 見守り 216 ごみの処理 217 居室等掃除 218 整理整頓 299 その他の生活支援</p>	<p>医療的ケア</p> <p>401 医療機関との連絡調整 402 医療的処置(経管栄養・たんの吸引) 403 健康相談、指導 404 健康状態チェック(バイタル・血圧等) 405 体調急変時の対応 406 服薬(確認・介助・指導) 407 洗腸摘便 499 その他の医療的ケア</p> <p>機能訓練・アクティビティ</p> <p>501 生活機能向上訓練 502 身体機能向上訓練 503 認知機能向上訓練 504 趣味活動(室内)支援 505 趣味活動(室外)支援 506 行事・イベント・レクリエーション参加支援</p> <p>認知症ケア</p> <p>601 BPSDへの対応</p> <p>相談・コミュニケーション</p> <p>301 相談(利用者本人) 302 相談(利用者家族等) 303 挨拶・日常会話・話し相手 304 傾聴(不安軽減等目的を持ったもの) 399 その他のコミュニケーション</p> <p>付随業務</p> <p>801 家族へのサービス・支援</p>	<p>ミーティング</p> <p>701 他職種との連絡調整 702 申し送り 703 職員間業務調整 704 事例検討・カンファレンス 705 部下への指示</p> <p>記録・事務</p> <p>706 介護記録作成 707 給付事務 708 介護計画作成 709 イベント等企画 710 その他書類作成・記録</p> <p>採用・育成</p> <p>711 採用面接選考 712 シフト作成及び変更 713 スタッフ教育・指導 714 スタッフの相談 715 ボラ実習生対応</p> <p>業務</p> <p>716 掃除・点検・後片付け 717 移動 718 手洗い 719 待機・仮眠・休憩 720 来訪者対応 799 その他の業務</p> <p>地域交流</p> <p>901 地域住民との情報交換 902 地域との交流、行事参加</p> <p>連携・調整</p> <p>903 ケアプラン検討会出席 904 他機関との連絡調整(サービス担当者会議等) 905 会議への出席(地域ケア会議等) 999 その他の機関間連携</p>
--	---	--

(4) 結果

調査依頼に応じた援助者9名のそれぞれの業務の遂行記録を図表4-4から図表4-12に示した。

図表4-4 小規模多機能型居宅介護事業所における業務遂行記録①

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
8	50	9	0	申し送り・職員業務内容の確認		0	0		事務室	702	6	
9	0	9	10	体温・バイタル・血圧チェック	1	0	0	1	サ高住(併設)	404	1	
9	10	9	13	移動介助	1	1	1	1	玄関からデイルームへ	108	4	
9	13	9	16	点眼介助	1	0	0	1	サ高住(併設)	406	1	
9	16	9	23	入浴準備		0	0		お風呂	799	4	
9	23	9	26	体温・バイタル・血圧チェック	1	1	1	1	デイルーム	404	4	
9	26	9	30	記録(点眼・バイタル等)		0	0		事務室	706	6	
9	30	9	35	入浴準備		0	0		お風呂	799	4	
9	35	9	44	体温・バイタル・血圧チェック	1	0	0	1	サ高住(併設)	404	1	
9	44	9	47	相談(利用者本人)	1	0	0	1	デイルーム	301	4	
9	47	9	50	お茶の配膳	1	0	0	1	デイルーム	105	4	
9	50	9	55	入浴同行案内	1	0	0		デイルームからお風呂	299	4	
9	55	10	5	移動移乗介助	1	1	1	2	玄関からデイルーム	108	4	
10	5	10	10	水分摂取介助	1	1	1	1	デイルーム	102	4	
10	10	10	16	利用者連絡帳の確認		0	0		事務室	702	6	
10	16	10	18	体温・バイタル・血圧チェック	1	0	1	1	デイルーム	404	4	
10	18	10	35	お風呂掃除		0	0		お風呂	716	4	
10	35	11	30	入浴介助	1	0	1	1	お風呂	111	4	
11	30	12	0	記録(入浴介助等、業務内容入力)		0	0		事務室	706	4	
12	0	12	5	水分摂取介助	1	0	0	1	居室	102	5	お泊り
12	5	12	10	排せつ介助	1	0	0	1	トイレ	113	4	お泊り
12	10	12	15	服薬介助	1	0	0	1	デイルーム	406	4	お泊り
12	15	12	25	配膳(昼食)	13	1	1	6	デイルーム	105	4	
12	25	12	50	荷物チェック	1	0	0	1	居室	218	5	お泊り
12	50	13	50	休憩		0	0		休憩ルーム	719	4	
13	50	14	0	リフト車の使い方習得・確認		0	0		玄関前	713	2	
14	0	14	20	話し相手	3	0	1	1	デイルーム	303	4	
14	20	14	50	レク参加	3	1	1	1	デイルーム	202	4	
14	50	15	0	レク参加	4	0	0	1	デイルーム	202	4	
15	0	15	10	話し相手	1	0	0	1	デイルーム	303	4	
15	10	15	20	配膳(おやつ)	11	0	0	5	デイルーム	215	4	
15	20	15	30	記録		0	0		事務室	706	4	
15	30	15	37	下膳	11	0	0	4	デイルーム	215	4	
15	37	15	45	口腔清潔	1	0	1	1	洗面スペース	106	4	
15	45	16	5	話し相手・日常会話	4	0	1	1	デイルーム	303	4	
16	5	16	40	送迎	1	0	1	1	外	110	3	
16	40	16	45	洗面台掃除		0	0		洗面スペース	716	4	
16	45	16	55	記録		0	0		事務室	706	6	
16	55	17	0	水分摂取支援	1	0	1	1	居室	102	5	
17	0	17	15	歩行訓練	1	0	1	1	館内廊下	502	4	
17	15	17	30	記録		0	0		事務スペース	706	4	
17	30	17	35	掃除		0	0		デイルーム	716	4	
17	35	17	50	排せつ介助	1	1	1	1	トイレ(共有)	113	4	
17	50	18	0	体温・バイタル・血圧チェック	1	0	0	1	サ高住(併設)	404	1	
18	0	18	5	記録		0	0		事務スペース	706	4	
18	5	18	10	申し送り		0	0		事務室	702	4	
18	10	18	25	記録		0	0		事務スペース	706	4	
18	25	18	30	帰宅前の手洗い		0	0		洗面スペース	718	4	

図表4-5 小規模多機能型居宅介護事業所における業務遂行記録②

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
8	30	8	35	通い送迎のための準備(車椅子・歩行器・内ばき確認)	0	0	0	1	玄関及び外	716	2	仕事内容コード 799/実施場所コード 4
8	35	9	10	通い利用者送迎(運転・移動・昇降介助)	4	1	1	1	外	110	1	仕事内容コード 109・201・303/実施場所コード 3
9	10	9	25	送迎車から通いホールへの移動介助	4	1	1	1	外から事業所内	108	4	仕事内容コード 199・303
9	25	9	26	送迎後の手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
9	26	9	30	朝食配食弁当下膳・内服確認・安否確認・声かけ	1	0	0	1	利用者自宅(訪問)	103	1	仕事内容コード 105・303
9	30	9	35	朝食配食弁当下膳・内服確認・口腔ケア・水分補給・排泄介助・安否確認・声かけ	1	1	0	1	利用者自宅(訪問)	102	1	仕事内容コード 103・105・106・303・406・113
9	35	9	37	利用者宅～厨房へ下膳～ホールへ移動	0	0	0	1	利用者宅～通いホール	717	2	
9	37	9	38	訪問援助後の手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
9	38	9	43	援助記録記入	0	0	0	1	通いホール	710	4	
9	43	9	45	通い利用者話し相手	1	0	1	1	通いホール	303	4	
9	45	9	50	入浴介助事前準備	0	0	0	1	浴室(個浴2、特浴1)	799	4	
9	50	10	15	入浴前トイレ誘導・入浴介助・移動介助・衣類着脱	1	1	0	1	個室トイレ・個浴(浴室)	101	4	仕事内容コード 108・111・113・399
10	15	10	35	入浴前トイレ誘導・入浴介助・移動介助・衣類着脱	1	0	1	1	個室トイレ・個浴(浴室)	101	4	仕事内容コード 108・111・113・399
10	35	11	00	入浴前排泄介助・移乗介助・入浴介助・衣類着脱・保湿クリーム塗布	1	1	1	2	特浴(浴室)	101	4	仕事内容コード 108・111・113・399・499
11	00	11	30	入浴前排泄介助・移乗介助・入浴介助・衣類着脱・軟膏塗布	1	1	1	2	特浴(浴室)	101	4	仕事内容コード 108・111・113・399・499
11	30	11	55	入浴介助・移乗介助・衣類着脱	1	1	1	2	特浴(浴室)	101	4	仕事内容コード 108・111・399
11	55	12	05	浴室清掃	0	0	0	1	特浴(浴室・脱衣室)	716	4	
12	05	12	10	入浴後手洗い・着替	0	0	0	1	洗面所・更衣室	716	4	仕事内容コード 718
12	10	13	00	休憩	0	0	0	1	地域交流スペース	719	4	
13	00	13	30	通い利用者連絡帳記入・話し相手	3	1	1	1	通いホール	303	4	仕事内容コード 710
13	30	13	35	移乗介助	1	1	0	1	通いホール～通い居室	108	5	仕事内容コード 304
13	35	13	40	話し相手	1	1	1	1	通いホール	303	4	
13	40	13	43	アクティビティ準備	0	0	0	1	通いホール	506	4	
13	43	13	46	トイレ誘導・移動介助	1	0	1	1	個室トイレ	108	4	仕事内容コード 113
13	46	13	50	洗濯物たたみ準備・見守り	2	0	1	1	通いホール	501	4	仕事内容コード 503
13	50	13	53	話し相手	1	0	1	1	通いホール	304	4	
13	53	14	00	テレビ電話にてコール対応・移乗動作・トイレ誘導・水分補給・話し相手	1	1	0	1	利用者自宅(訪問)	102	1	仕事内容コード 108・113・303
14	00	14	02	訪問援助後の手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
14	02	14	05	援助記録記入	0	0	0	1	通いホール	706	4	
14	05	14	55	アクティビティ活動	14	1	1	3	通いホール	506	4	
14	55	14	57	アクティビティ活動後の後片付け	0	0	0	1	通いホール	716	4	
14	57	15	07	トイレ誘導・排泄介助	1	1	0	1	個室トイレ	108	4	仕事内容コード 113
15	07	15	15	援助記録記入・話し相手	1	0	1	1	通いホール	304	4	仕事内容コード 706
15	15	15	45	車両点検・整備・報告電話	0	0	0	1	外	799	2	車両管理担当者へ電話連絡
15	45	15	50	通い送迎準備(荷物・外ばき)	0	0	0	1	通いホール～外	799	2	実施場所コード 4
15	50	15	55	通い送迎準備(コート着用・泊まり妻にあいさつ)	2	1	0	1	通いホール	101	4	仕事内容コード 801
15	55	16	05	通い送迎(運転・移乗介助)	2	1	0	1	外	110	3	
16	05	16	15	食事・水分セット・エアコン・TVスイッチ入れる	1	1	0	1	利用者自宅(訪問)	105	1	仕事内容コード 109・201・303
16	15	16	25	利用者自宅～事業所へ移動(車)	0	0	0	1	利用者自宅～事業所	717	3	
16	25	16	26	送迎訪問後手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
16	26	16	30	援助記録記入	0	0	0	1	通いホール	706	4	
16	30	16	55	夕食配食配達・トイレ誘導・移動介助・フォーレ尿チェック・内服・水分セット・安否確認	8	1	1	1	利用者自宅	105	1	仕事内容コード 108・113・303・406・499
16	55	17	05	援助記録記入	0	0	0	1	通いホール	706	4	仕事内容コード 710
17	05	17	07	援助後手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	

図表4-6 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所における業務遂行記録①

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
7	15	7	20	出勤・タイムカード入力・事務所へ	0	0	0	1	事務所	799	6	
7	20	7	30	申し送りノート確認・訪問宅確認(3名分)	0	0	0	1	事務所	702	6	
7	30	7	40	早番スタッフと申し送り(利用者3名分)	0	0	0	2	事務所	703	6	
7	40	7	45	手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
7	45	7	50	公用車点検	0	0	0	1	駐車場	716	2	
7	50	7	57	事業所から利用者宅へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
7	57	8	27	利用者宅にてケア開始(あいさつ)	1	0	0	1	利用者宅	303	1	
7	57	8	27	配膳	1	0	0	1	利用者宅	105	1	
7	57	8	27	見守り	1	0	0	1	利用者宅	215	1	
7	57	8	27	服薬確認	1	0	0	1	利用者宅	406	1	
7	57	8	27	トイレ処理洗浄	1	0	0	1	利用者宅	199	1	
7	57	8	27	手洗い	1	0	0	1	利用者宅	718	1	
8	27	8	30	記録	1	0	0	1	利用者宅	706	1	
8	27	8	30	あいさつ	1	0	0	1	利用者宅	303	1	
8	27	8	30	利用者宅～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
8	30	8	55	利用者宅にてケア開始(あいさつ)	1	0	0	1	利用者宅	303	1	
8	30	8	55	トイレ処理洗浄	1	0	0	1	利用者宅	199	1	
8	30	8	55	利用者宅と会話	1	0	0	1	利用者宅	304	1	
8	30	8	55	記録	1	0	0	1	利用者宅	706	1	
8	30	8	55	あいさつ	1	0	0	1	利用者宅	303	1	
8	55	9	3	利用者宅～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
9	3	9	33	利用者宅にてケア開始(あいさつ)	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
9	3	9	33	ハルンバック内の尿廃棄	1	0	1	1	利用者宅	199	1	
9	3	9	33	トイレへ移動介助	1	0	1	1	利用者宅	108	1	
9	3	9	33	排便介助	1	0	1	1	利用者宅	113	1	
9	3	9	33	手洗い	1	0	1	1	利用者宅	718	1	
9	3	9	33	ベッドへ移動介助	1	0	1	1	利用者宅	108	1	
9	3	9	33	日常会話	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
9	3	9	33	記録	1	0	1	1	利用者宅	706	1	
9	3	9	33	あいさつ	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
9	33	9	38	利用者宅から事業所へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
9	38	9	40	手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
9	40	9	50	訪問記録表確認	1	0	0	1	事務所	706	6	
9	50	10	0	事業所～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
10	0	11	30	利用者宅にてケア開始(あいさつ)	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
10	0	11	30	トイレ誘導	1	0	1	1	利用者宅	113	1	
10	0	11	30	着替え	1	0	1	1	利用者宅	101	1	
10	0	11	30	居間・寝室掃除機かける	1	0	1	1	利用者宅	217	1	
10	0	11	30	台所(流し台・床)そうじ	1	0	1	1	利用者宅	217	1	
10	0	11	30	廊下雑巾がけ	1	0	1	1	利用者宅	217	1	
10	0	11	30	衣類整理	1	0	1	1	利用者宅	218	1	
10	0	11	30	玄関はき出し	1	0	1	1	利用者宅	217	1	
10	0	11	30	話し相手	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
10	0	11	30	手洗い	1	0	1	1	利用者宅	718	1	
10	0	11	30	記録	1	0	1	1	利用者宅	706	1	
10	0	11	30	あいさつ	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
11	30	11	40	利用者宅～事業所へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
11	40	11	43	手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
11	43	11	55	訪問記録表確認	0	0	0	1	事務所	706	6	
11	55	12	0	事業所～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
12	0	12	30	利用者宅にてケア開始(あいさつ)	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
12	0	12	30	食事の見守り	1	0	1	1	利用者宅	215	1	
12	0	12	30	服薬介助	1	0	1	1	利用者宅	406	1	
12	0	12	30	点眼介助	1	0	1	1	利用者宅	406	1	
12	0	12	30	水分摂取促し	1	0	1	1	利用者宅	199	1	
12	0	12	30	話し相手	1	0	1	1	利用者宅	304	1	
12	0	12	30	記録	1	0	1	1	利用者宅	706	1	
12	0	12	30	あいさつ	1	0	1	1	利用者宅	303	1	
12	30	12	35	利用者宅～事業所へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
12	35	12	40	手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
12	40	12	50	事業所～ガソリンスタンドへ移動	0	0	0	1	外	717	3	
12	50	13	5	公用車にて病院へむかうガソリン入れる	0	0	0	1	ガソリンスタンド	799	3	
13	5	13	15	ガソリンスタンド～事業所へ移動	0	0	0	1	外	717	3	
13	15	13	20	手洗い	0	0	0	1	洗面所	718	4	
13	20	14	20	休憩	0	0	0	1	事務所	719	4	
14	20	14	50	訪問介護計画書作成	1	0	0	1	事務所	708	6	
14	50	15	0	早番スタッフと申し送り(1名分)	0	0	0	1	事務所	703	6	
15	0	15	35	訪問介護計画書作成	1	0	0	1	事務所	708	6	
15	35	16	30	訪問予定表作成	0	0	0	1	事務所	710	6	
16	30	16	40	事務所内掃除(机上・ゴミ箱)	0	0	0	1	事務所	716	6	
16	40	16	45	手洗い	0	0	0	1	事務所	718	4	

図表4-7 介護老人福祉施設における業務遂行記録①

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
8	0	8	15	申し送り・チェック等		0	0		事務スペース	702	4	
8	15	8	30	台車下膳・血洗い等		0	0		台所	210	4	
8	30	9	0	体温・バイタルチェック	6	1	1	1	リビング	404	4	2名は居室にて
9	0	9	20	入浴介助	1	1	0	1	お風呂	112	4	
9	20	9	25	排せつ介助	1	1	1	2	トイレ(共有)	113	4	
9	25	9	45	入浴介助	1	1	1	1	お風呂	112	4	
9	45	10	7	入浴介助	1	1	1	1	お風呂	112	4	
10	7	10	10	水分摂取支援	1	0	0	1	リビング	102	4	
10	10	10	20	入浴の準備等		0	0	1	お風呂	199	4	
10	20	10	40	入浴介助	1	1	0	1	お風呂	112	4	
10	40	10	55	入浴介助記録	4	0	0		事務スペース	706	6	
10	55	11	0	着替え		0	0			799	4	
11	0	11	5	洗濯物干し		0	0			214	4	
11	5	11	25	起居移動移乗	4	1	1	1	居室からリビングへ	108	5	
11	25	11	40	配膳(昼食)	8	1	1	2	リビング	105	4	
11	40	11	45	起居移動移乗	2	1	1	1	居室からリビングへ	108	5	
11	45	11	50	配膳	1	1	1	1	リビング	105	4	
11	50	12	0	ユニット会議事録の確認		0	0		事務スペース	704	6	
12	0	12	10	食事摂取量観察	10	1	1	4	リビング	103	4	
12	10	12	15	ユニット会議事録の加筆訂正		0	0		事務スペース	710	5	
12	15	12	25	下膳	10	1	1	3	リビング	105	4	
12	25	12	30	移動移乗	2	1	1	1	リビングから居室へ	108	4	
12	30	12	35	ごみの処理		0	0			216	4	
12	35	12	40	移動移乗介助	2	1	1	1	居室からリビング	108	5	
12	40	12	50	洗濯物干し		0	0			214	4	
12	50	13	10	利用者の持ち物チェック・記録	1	1	0	1	居室	710	5	
13	10	14	10	休憩		0	0		休憩ルーム	719	4	
14	10	14	25	起居移動移乗介助	3	1	1	1	居室からリビング	108	5	
14	25	14	35	排せつ介助	1	1	1	2	トイレ(共有)	113	4	
14	35	14	40	配膳(おやつ)	10	1	1	3	リビング	105	4	
14	40	14	50	排せつ介助	1	1	1	2	トイレ(共有)	113	4	
14	50	15	5	イベント企画(動物園へのお出かけ)		0	0		事務スペース	709	4	
15	5	15	15	洗濯たたみ		0	0		リビング	214	4	
15	15	15	25	ユニット議事録加筆訂正		0	0		事務スペース	710	6	
15	25	15	35	洗濯・洗濯物干し		0	0			214	4	
15	35	15	45	ごみの処理		0	0			216	4	
15	45	16	15	検証(事故報告)		0	0	4	リビング	704	4	
16	15	16	55	検証後のまとめ・記録		0	0		事務スペース	710	6	
16	55	17	0	排せつ介助	1	1	1	2	トイレ(共有)	113	4	
17	0	17	5	配膳(夕食のはしおき)	10	0	0	1	リビング	105	4	
17	5	17	15	リネン管理の引きつぎ		0	0		事務スペース	703	6	
17	15	17	25	居室環境の調整	1	1	1	2	居室	299	5	
17	25	17	40	配膳	10	0	0	2	リビング	105	4	

図表4-8 介護老人福祉施設における業務遂行記録②

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
7	0	7	5	申し送り	16	0	0		ユニット内	702		4
7	5	7	15	ポータブルトイレの介助	2	1	1	1	居室(4人部屋)	113		5
7	15	7	30	着替え介助	2	0	1	1	居室	101		5
7	30	7	35	離床しユニット内へ移動	2	1	1	2	居室	108		5
7	35	7	40	申し送り	20	0	0	2		702		4
7	40	7	50	ポータブルトイレの片づけ	4	1	1	1	居室	113		4
7	50	7	55	ユニット内でお茶の準備	10	0	0	1	ユニット内	105		4
7	55	8	10	朝食の配膳準備	10	0	0	2	ユニット内	105		4
8	10	8	30	離床・整容	5	1	1	2	居室	106		5
8	10	8	30	各テーブルへ配膳	12	1	1	3	ユニット内	105		4
8	10	8	30	食後の内服薬準備・確認	12	0	0	2	ユニット内	406		4
8	30	8	35	テーブルより下膳	6	1	1	1	ユニット内	105		4
8	35	9	0	朝食の介助	2	1	1	1	ユニット内	102		4
8	35	9	0	内服薬の介助・下膳	6	1	1	1	ユニット内	406		4
8	35	9	0	トイレへの誘導・トイレ介助	2	0	1	1	ユニット内	113		4
9	0	9	10	居室への安否確認	8	1	1	1	各居室	299		5
9	10	9	20	トイレ介助・離床	2	1	1	1	居室	113		5
9	20	9	30	ユニット内でのトイレ介助	2	1	1	2	ユニット内	113		4
9	30	9	35	離床・整容	1	1	1	1	居室	106		4
9	35	9	40	延食者への食事提供・お茶準備	4	1	1	1	ユニット内	102		4
9	40	9	45	内服介助・確認	3	1	1	1	ユニット内	406		4
9	45	9	55	記録・記入	16	0	0	1	ユニット内	706		4
9	55	10	0	内服薬の確認	2	1	1	1	ユニット内	406		4
10	0	10	20	ユニット内のトイレ誘導・介助	2	0	1	1	ユニット内	113		4
10	20	10	55	オムツ交換・バット交換	4	1	1	1	居室(4人部屋)	113		5
10	20	10	55	ポータブルトイレの洗浄	4	1	1	1	居室(4人部屋)	113		5
10	55	11	0	申し送り	16	0	0	2	ユニット内	702		4
11	0	12	0	休憩	0	0	0			719		
12	0	12	30	配膳の準備・配膳	12	0	0	4	ユニット内	105		4
12	30	13	0	内服薬準備・下膳	12	0	0	1	ユニット内	105		4
13	0	13	5	申し送り	16	0	0	2	ユニット内	702		4
13	5	13	40	食事介助・内服介助	1	1	1	1	ユニット内	102		4
13	40	14	0	ユニット内トイレ誘導・介助	2	0	1	1	ユニット内	113		4
14	0	14	10	入浴者の準備・誘導	2	1	1	1	居室	110		5
14	10	15	10	ユニット内でトイレ介助	8	1	1	1	ユニット内	113		4
15	10	15	15	手洗い		0	0		ユニット内	718		4
15	15	15	30	お茶・おやつ準備・介助	12	0	0	2	ユニット内	102		4
15	30	15	40	入浴後のお茶出し・おやつ	2	0	1	1	ユニット内	102		4
15	40	15	45	おやつ片付け・見守り	4	0	0	1	ユニット内	215		4
15	45	15	50	ユニットから居室への移動	1	1	1	1	ユニット内	110		4
15	50	16	0	記録まとめる	14	0	0	1	ユニット内	706		4

図表 4-9 通所介護事業所における業務遂行記録①

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
7	45	7	47	出勤時の手洗い・うがい	0	0	0	1	洗面所	718	4	
7	47	7	50	腰痛体操	0	0	0	9	デイホール	799	4	
7	50	8	0	朝の申し送り	0	0	0	9	デイホール	702	4	
8	0	8	50	利用者の迎え(リフト車に同乗)	5	1	1	2	外	110	3	
8	50	9	10	利用者を送迎車からデイホールへ 移乗 介助・付き添い対応	17	1	1	3	外からデイホール内	108	2	
9	10	9	20	利用者家族から受けた情報を事業所日誌へ記入	5	1	1	1	デイホール	710	4	
9	20	9	30	着脱介助の着替え	0	0	0	1	トイレ	799	4	
9	30	11	30	入浴利用者の誘導	26	1	1	1	デイホール	199	4	
9	30	11	30	入浴利用者の着脱介助	26	1	1	1	脱衣室	101	4	
9	30	11	30	入浴利用者の整容	26	1	1	1	洗面所	199	4	
11	30	12	30	休憩	0	0	0	1	デイ事務所	719	6	
12	30	13	30	利用者の迎え	2	0	0	1	外	110	3	
13	30	13	35	利用者を送迎車からデイホールへ 移乗 する為の付き添い対応	2	0	0	1	外からデイホールへ	108	2	
13	35	13	38	手洗い・うがい	0	0	0	1	洗面所	718	4	
13	38	14	10	利用者への補水準備・提供	26	1	1	1	デイホール	105	4	
14	10	14	30	トイレ誘導・排泄介助	3	1	1	1	トイレ	113	4	
14	30	14	40	コーヒークップ等の下膳・後片付け	26	1	1	2	デイホール	716	4	
14	40	14	50	給湯室清掃・ゴミ収集	0	0	0	1	給湯室・事務所等	716	4	
14	50	15	0	物品補充	0	0	0	1	トイレ・洗面所	799	4	
15	0	15	5	利用者を送迎車から送迎車へ 移乗 する為の付き添い対応	2	0	0	1	デイホールから外	109	2	
15	5	16	0	帰宅利用者の送り	2	0	0	1	外	110	3	
16	0	16	50	帰宅利用者の送り(リフト車に同乗)	6	1	1	2	外	110	3	
16	50	17	0	ホール清掃	0	0	0	2	デイホール	716	4	

図表 4-10 通所介護事業所における業務遂行記録②

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
8	20	8	30	朝のミーティング		0	0	6	事務室	702	6	仕事内容コード 703
8	30	9	15	デイサービス利用者のお迎え(運転)	6	0	1	1	外	110	3	
9	15	9	20	送迎車から施設内へ利用者移動介助	6	0	1	4	外～施設内	108	4	
9	20	9	30	デイサービス利用者のお迎え(運転)	2	0	0	2	外	110	3	
9	30	9	35	送迎車から施設内へ利用者移動介助	2	0	0	2	外～施設内	108	2	
9	35	9	45	利用者荷物整理・上着の着脱介助等	2	0	0	1	食堂	199	4	
9	45	9	50	連絡帳整理	0	0	0	1	事務室	710	6	
9	50	11	45	入浴着脱介助	23	0	1	3	浴室	101	4	
11	45	11	55	利用者静養のためのベッド準備	0	0	0	2	食堂	206	4	
11	55	12	0	記録	0	0	0	1	事務室	710	6	
12	0	12	5	食事配膳	24	0	1	5	食堂	105	4	
12	5	12	15	洗濯		0	0	1	浴室	214	4	コード214でよいか判断に迷う
12	15	12	20	食事見守り・一部介助	5	0	1	3	食堂	102	4	
12	20	12	25	食事量チェック	24	0	1	1	食堂	103	4	
12	25	12	40	排泄介助・トイレ誘導	6	0	1	3	トイレ	113	4	
12	25	12	40	ベッドへの移動介助	3	0	1	3	食堂	108	4	
12	40	12	45	下膳・食堂清掃	0	0	0	3	食堂	105	4	仕事内容コード 217
12	45	12	55	洗濯	0	0	0	1	浴室	214	4	コード214でよいか判断に迷う
12	55	13	0	記録	24	0	0	1	食堂	710	4	
13	0	14	0	休憩		0	0		休憩室	719	4	
14	0	14	5	排泄介助	1	0	0	1	トイレ	113	4	
14	5	14	10	洗濯	0	0	0	1	浴室	214	4	コード214でよいか判断に迷う
14	10	14	50	レクリエーション活動・作業活動参加	24	0	1	4	食堂	506	4	
14	50	14	55	排泄介助	1	0	0	1	トイレ	113	4	
14	55	15	0	おやつ準備・利用者へ配る	3	0	1	2	食堂	299	4	
15	0	15	15	排泄介助	1	0	0	1	トイレ	113	4	
15	15	15	20	洗濯	1	0	0	1	浴室	214	4	コード214でよいか判断に迷う
15	20	15	25	排泄介助	1	0	0	1	トイレ	113	4	
15	25	15	30	利用者荷物の確認・上着の着脱介助等	15	0	1	3	食堂	199	4	
15	30	15	40	利用者自宅へ送迎のため車への移動介助	10	0	1	3	施設内～外	108	2	
15	40	16	30	送迎(送り)	6	0	1	2	外	110	3	車椅子2名介助含む
16	30	16	35	利用者自宅へ送迎のため車への移動介助	2	0	0	1	施設内～外	108	2	
16	35	16	50	送迎(送り)	2	0	0	1	外	110	3	
16	50	16	55	送迎車、車のカギの確認等	0	0	0	1	駐車場	0	2	
16	55	17	0	夕礼(利用者の申し送り)	0	0	0	4	事務室	702	6	
17	0	17	10	伝票の確認・伝票整理	0	0	0	2	事務室	710	6	
17	10	17	15	明日の送迎の確認・送迎表の作成	0	0	0	1	事務室	0	6	
17	15	17	20	明日のアクティブ活動の部品等準備	0	0	0	1	事務室	709	6	

図表 4-11 訪問介護事業所における業務遂行記録①

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
9	30	9	45	業務(訪問前)の準備	0	0	0	1	事務室	702	6	
9	45	10	0	事務所～利用者宅へ	0	0	0	1	外(車)	717	3	
10	0	10	15	安否の確認・話し相手	1	0	0	1	利用者宅	404	1	仕事内容コード 303
10	15	10	16	利用者宅への移動	0	0	0	1	外(車)	717	3	
10	16	10	30	内服の確認	1	0	0	1	利用者宅	406	1	仕事内容コード 303
10	30	10	45	利用者宅への移動	0	0	0	1	外(車)	717	3	
10	45	11	0	訪問記録	0	0	0	1	外(車中)	706	3	タブレット入力
11	0	11	29	全身清拭・着替え	1	0	0	1	利用者宅	303	1	仕事内容コード 112・101・218・299(ポットの水補充)
11	29	11	52	利用者宅への移動	0	0	0	1	外(車)	717	3	
11	52	11	55	ケアマネよりの電話対応	1	0	0	1	外(車中)	701	3	
11	55	11	57	駐車場～利用者宅へ移動(徒歩)	0	0	0	1	外	717	3	
11	57	12	3	ベッドからの起き上がり動作介助・移動	1	1	0	1	利用者宅	108	1	仕事内容コード 303
12	3	12	6	トイレ誘導	1	1	0	1	利用者宅	113	1	仕事内容コード 106
12	6	12	7	ベッドへ移動し端座位(一部介助)	1	1	0	1	利用者宅	108	1	
12	7	12	35	食事の準備・見守り	1	1	0	1	利用者宅	105	1	仕事内容コード 102・103
12	35	12	38	車イス介助にて口腔ケア	1	1	0	1	利用者宅	108	1	仕事内容コード 106
12	38	12	40	車イスからベッドへ起居	1	1	0	1	利用者宅	717	1	仕事内容コード 108
12	40	12	43	利用者宅～駐車場へ移動(徒歩)	1	0	0	1	外	717	3	
12	43	12	53	利用者駐車場～事務所	0	0	0	1	外	717	3	
12	53	13	10	事務所内申し送り・記録	0	0	0	1	事務室	718	6	仕事内容コード 702・706
13	10	13	50	休憩	0	0	0	1	事務室	719	6	
13	50	14	0	事務所～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外(車)	717	3	
14	0	14	6	買い物リスト確認	1	0	0	1	利用者宅	303	1	仕事内容コード 399
14	6	14	10	浴室のすのこ上げ	1	0	0	1	利用者宅	299	1	
14	10	14	20	利用者宅～スーパーへ移動	0	0	0	1	外(車)	717	3	
14	20	14	45	買物代行	0	0	0	1	スーパー	208	3	
14	45	14	55	スーパー～利用者宅	0	0	0	1	外(車)	717	3	
14	55	15	20	掃除	1	0	0	1	利用者宅	217	1	仕事内容コード 218
15	20	15	30	傾聴・記録	1	0	0	1	利用者宅	304	1	仕事内容コード 706
15	30	15	45	利用者宅～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外(車)	713	3	
15	45	15	55	排泄介助	1	1	1	1	利用者宅	303	1	仕事内容コード 113
15	55	16	0	着替え介助	1	1	1	1	利用者宅	101	1	
16	0	16	10	布団敷き・戸締まり	1	1	1	1	利用者宅	206	1	仕事内容コード 201
16	10	16	15	利用者宅～利用者宅へ移動	0	1	1	1	外(車)	713	3	
16	15	16	20	トイレ掃除	1	1	0	1	利用者宅	303	1	仕事内容コード 299
16	20	16	32	内服・食事準備・食事見守り	1	1	0	1	利用者宅	406	1	仕事内容コード 299・103
16	32	16	37	食事の片付け	1	1	0	1	利用者宅	104	1	
16	37	16	57	利用者宅～利用者宅へ移動	0	0	0	1	外(車)	713	3	
16	57	16	59	駐車場～利用者宅へ移動(徒歩)	0	0	0	1	外			
16	59	17	5	ベッドからの起居動作・移動	1	1	0	1	利用者宅	108	1	仕事内容コード 303
17	5	17	7	トイレ誘導	1	1	0	1	利用者宅	113	1	仕事内容コード 106
17	7	17	8	ベッドへ移動し端座位(一部介助)	1	1	0	1	利用者宅	108	1	
17	8	17	27	食事見守り	1	1	0	1	利用者宅	105	1	仕事内容コード 102・103
17	27	17	30	車イス介助にて口腔ケア	1	1	0	1	利用者宅	108	1	仕事内容コード 106
17	30	17	32	車イスからベッドへ起居	1	1	0	1	利用者宅	717	1	仕事内容コード 108
17	32	17	33	利用者宅～駐車場へ移動	0	0	0	1	外(車)	713	3	
17	33	17	42	事務所着	0	0	0	1	外	717	3	
17	42	17	44	手洗い	0	0	0	1	デイルーム	718	4	
17	44	18	0	記録	0	0	0	1	事務所	706	6	

図表 4-12 訪問介護事業所における業務遂行記録②

開始時	開始分	終了時	終了分	仕事内容	援助対象者	重度	認知症	援助者数	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
7	30	7	40	起床援助(排泄の介助)	1	0	0	1	ケアハウス居室内	113	5	
7	40	7	50	洗顔・ひげそり・整容	1	0	0	1	ケアハウス居室内	106	5	
7	50	8	0	インシュリン注射の準備を見守り	1	0	0	1	ケアハウス居室内	199	5	
8	0	8	10	起床援助(整容)	1	0	0	1	ケアハウス居室内	106	5	
8	10	8	20	話し相手	1	0	0	1	ケアハウス居室内	301	5	
8	20	8	22	食堂へ誘導(車イス)	1	0	0	1	ケアハウス	199	4	
8	22	8	30	ケアハウスへ報告	0	0	0	1	ケアハウス	701	4	
8	30	8	45	服薬確認	1	0	0	1	ケアハウス	406	4	
8	45	8	50	管理者へ報告	0	0	0	1	事務所	703	6	
8	50	9	5	ケース記録の打ちこみ	0	0	0	1	事務所	706	6	
9	5	9	15	申し送り・打ち合わせ	0	0	0	4	事務所	702	6	
9	15	9	25	ケース記録の打ちこみ	0	0	0	1	事務所	706	6	
9	25	9	35	次の訪問の確認	0	0	0	1	事務所	703	6	
9	35	9	42	受診の準備	1	0	0	1	ケアハウス居室	106	5	
9	42	9	47	受診の準備・持ち物確認	1	0	0	1	ケアハウス居室	199	5	
9	47	9	55	話し相手	1	0	0	1	ケアハウス居室	304	5	
9	55	9	58	玄関へ誘導・車イス準備	1	0	0	1	ケアハウス	199	4	
9	58	10	0	送迎車へ乗車見守り	1	0	0	1	外	109	2	
10	0	10	5	公用車にて病院へむかう	0	0	0	1	外	717	3	
10	5	10	7	病院へ到着・降車見守り	1	0	0	1	外	109	3	
10	7	10	8	受付代行(受診代行)	1	0	0	1	病院	199		受診同行介助
10	8	10	18	診察・注射のつきそい	1	0	0	1	病院	199		受診同行介助
10	18	10	30	病院の支払い代行	1	0	0	1	病院	199		受診同行の一連のサービス
10	30	10	40	薬局にて支払い代行	1	0	0	1	薬局	199		受診同行の一連のサービス
10	40	10	43	送迎の手配	1	0	0	1	外	199	3	受診同行の一連のサービス
10	43	11	0	話し相手	1	0	0	1	病院	199		受診同行の一連のサービス
11	0	11	5	送迎車への乗車見守り	1	0	0	1	外	109	3	
11	5	11	10	公用車でケアハウスにむかう	0	0	0	1	外	717	3	
11	10	11	15	管理者へ報告	0	0	0	1	事務所	702	6	
11	15	11	20	車輜(公用車)の点検	0	0	0	1	外	716	2	
11	20	11	40	ケース記録の打ちこみ	0	0	0	1	事務所	706	6	
11	40	11	50	利用者へ薬をとどける・説明	1	0	0	1	ケアハウス	499	5	
11	50	12	50	休憩	0	0	0			719		
12	50	13	0	片づけ・次の訪問の準備	0	0	0		事務所	716	4	
13	0	13	5	洗濯支援	1	0	0	1	ケアハウス居室内	213	5	
13	5	13	20	シーツ交換	1	0	0	1	ケアハウス居室内	299	5	
13	20	13	45	掃除	1	0	0	1	ケアハウス居室内	299	5	
13	45	13	53	洗濯支援(干す)	1	0	0	1	ケアハウス居室内	213	5	
13	53	14	0	話し相手	1	0	0	1	ケアハウス居室内	303	5	
14	0	14	10	利用者家族から相談	ご家族	0	0	2	ケアハウス廊下	302	4	
14	10	14	15	管理者へ相談・報告	0	0	0	1	事務所	703	4	
14	15	14	30	利用者家族とお話	ご家族	0	0	2	ケアハウス廊下	302	4	
14	30	14	35	利用者とお話	1	0	0	1	ケアハウス居室内	303	5	
14	35	14	40	洗濯代行	1	0	0	1	ケアハウス居室内	214	5	
14	40	14	55	シーツ交換	1	0	0	1	ケアハウス居室内	299	5	
14	55	15	0	洗濯代行(量が多い)	1	0	0	1	ケアハウス居室内	214	5	
15	0	15	25	掃除	1	0	0	1	ケアハウス居室内	299	5	
15	25	15	40	洗濯代行(とりこみ・干す)	1	0	0	1	ケアハウス居室内	214	5	
15	40	15	45	利用者とお話相手	1	0	0	1	ケアハウス居室内	301	5	
15	45	15	52	ケアハウスへ報告	0	0	0	1	ケアハウス	701	4	
15	52	16	0	片づけ	0	0	0	1	ケアハウス	716	4	
16	0	16	30	ケース記録の打ちこみ	0	0	0		事務所	706	6	
16	30	16	45	ごみの処理・掃除	0	0	0		事務所	716	6	

(5) 考察

観察記録の結果から、質問紙調査に向けて業務コードの妥当性を見直すこととした。

仕事内容（業務）の暫定コードのうちコードの末尾を 99 としたコードは、その業務カテゴリにおいてほかのコードに当てはまらなかった場合に使用するコードである。そこで、末尾 99 および仕事内容（業務）コード未記載のものを、観察調査結果から抜粋し、図表 4-13 に示した。図表 4-13 を精査すると、仕事内容コードが用意されているのに、誤って末尾 99 のその他のコードを記載している場合、該当するコードがない場合の 2 点が明らかになった。

誤った記載の場合、説明が不足していると思われることから、より詳細に説明を加えるように変更した。また、長時間のケアを包括的に「通院への同行」として記載してしまうと、多様な業務を含んでおり分類が難しくなる傾向がみられたことから、業務量の質問紙調査においては、「およそ 10～15 分程度の単位を目安として記載する」ように説明することとした。

送迎の準備、入浴の準備、持ち物確認などの準備にかかるコードが不足していたため、「入浴・正式準備」「ポータブルトイレ清掃」「持ち物確認・荷物チェック」のコードを追加した。これにより、仕事内容（業務）コードの総数は 85 となり、これを業務量の質問紙調査の仕事内容（業務）コードとした。

図表 4-13 分類の難しかった業務の一覧

種別	仕事内容	実施場所	仕事内容コード	実施場所コード	特記事項
小規模	入浴同行案内	デイルームからお風呂	299	4	
小規模	入浴準備	お風呂	799	4	
小規模	入浴準備	お風呂	799	4	
小規模	入浴介助前事前準備	浴室(個浴2、特浴1)	799	4	
小規模	車両点検・整備・報告電話	外	799	2	車両管理担当者へ電話連絡
小規模	通い送迎準備(荷物・外ばき)	通いホール～外	799	2	実施場所コード 4
通所	入浴利用者の誘導	デイホール	199	4	
通所	入浴利用者の整容	洗面所	199	4	
通所	利用者荷物整理・上着の着脱介助等	食堂	199	4	
通所	利用者荷物の確認・上着の着脱介助等	食堂	199	4	
通所	おやつ準備・利用者へ配る	食堂	299	4	
通所	腰痛体操	デイホール	799	4	
通所	着脱介助の為着替え	トイレ	799	4	
通所	物品補充	トイレ・洗面所	799	4	
定期巡回	PTトイレ処理洗浄	利用者宅	199	1	
定期巡回	PTトイレ処理洗浄	利用者宅	199	1	
定期巡回	ハルンバック内の尿廃棄	利用者宅	199	1	
定期巡回	水分摂取促し	利用者宅	199	1	
定期巡回	出勤・タイムカード入力・事務所へ	事務所	799	6	
定期巡回	公用車にて病院へむかうガソリン入れる	ガソリンスタンド	799	3	
特養	入浴の準備等	お風呂	199	4	
特養	居室環境の調整	居室	299	5	
特養	居室への安否確認	各居室	299	5	
特養	着替え		799	4	
訪問	駐車場～利用者宅へ移動(徒歩)	外			
訪問	インシュリン注射の準備を見守り	ケアハウス居室内	199	5	
訪問	食堂へ誘導(車イス)	ケアハウス	199	4	
訪問	受診の準備・持ち物確認	ケアハウス居室	199	5	
訪問	玄関へ誘導・車イス準備	ケアハウス	199	4	
訪問	受付代行(受診代行)	病院	199		受診同行介助
訪問	診察・注射のつきそい	病院	199		受診同行介助
訪問	病院の支払い代行	病院	199		受診同行の一連のサービス
訪問	薬局にて支払い代行	薬局	199		受診同行の一連のサービス
訪問	送迎の手配	外	199	3	受診同行の一連のサービス
訪問	話し相手	病院	199		受診同行の一連のサービス
訪問	浴室のすのこ上げ	利用者宅	299	1	
訪問	シーツ交換	ケアハウス居室内	299	5	
訪問	掃除	ケアハウス居室内	299	5	
訪問	シーツ交換	ケアハウス居室内	299	5	
訪問	掃除	ケアハウス居室内	299	5	
訪問	利用者へ薬をとどける・説明	ケアハウス	499	5	

2. 業務量に関する質問紙調査

(1) 目的

本調査の目的は、①事業所種別によってどのような業務をどの程度行っているのかを明らかにすること、②優良な小規模多機能型居宅介護事業所における介護職員の業務内容をあきらかにするために、質問紙調査を行った。

(2) 調査対象者

全国事業所・施設調査に回答し、調査協力に応じた 458 事業所・施設のうち、無作為に抽出した 110 事業所・施設に所属する介護職員（常勤職員および週 20 時間以上勤務する非常勤職員）。このうち事業所が指定した観察日に勤務する介護職員は、調査票のすべてに回答を求め、観察日に勤務のない介護職員は調査票後半の業務遂行に関する項目および属性にのみ回答を求めた。

また、事業所・施設の管理者・施設長に対して、調査実施時の事業所・施設の属性や介護保険の加算状況、利用者状況等について問う「事業所・施設票」への回答も求め、介護職員の調査票とともに返送を求めた。

(3) 方法

① 調査手続き

平成 26 年 12 月 5 日に調査票を発送、12 月末日を締切として、質問紙調査への協力を依頼した。事業所から申告のあった該当介護職員数にあわせて調査票を事業所・施設宛に送付し、週 20 時間以上勤務する介護職員全員に配布してもらった。回答した調査票は、回答者が自ら封をして自ら封をして、開封しないまま事業所・施設を通して調査者に返送を求めた。

業務量調査は、事業所が指定した観察調査日（多くが平成 26 年 12 月）に勤務し、週 20 時間以上勤務する介護職員全員を対象として行われた。観察調査日に勤務がない、週 20 時間以上勤務する介護職員は、業務量調査の対象とせず、②業務に関するスキルと行動に関する調査、にのみ回答してもらった。業務量調査の対象者には、②業務に関するスキルと行動に関する調査にも回答を求めた。

観察調査日には勤務開始から終了までの間、対象者は自らの業務内容、時間、援助の対象者や援助の場所等を、記録方法の説明にしたがって記録表に記載するように依頼した。

② 調査内容

調査票は、「業務量調査」と「業務に関するスキルと能力に関する調査」の二部から構成された。

「業務量調査」は、事業所・施設が指定する観察日に勤務した介護職員が、自分のその日の業務について、業務内容、その業務の開始時間と終了時間、場所、援助の対象者数（重度の要介護者・認知症者の有無）、援助者の数、について記述し、最後に業務内容と実施場所については、あらかじめ準備しておいたコードに置き換えて記入することを求めた。

「業務に関するスキルと能力に関する調査」は、回答者である介護職員の属性と全国介護職員調査の業務と背景要因に関する質問紙調査と共通した業務遂行に関する 65 項目で構成された。

(4) 回収状況

質問紙調査の回収率を図表 4-14 に示した。

図表 4-14 業務量の質問紙調査の回収状況

	事業所・施設数(箇所)			職員数(人)				
	回答した事業所・施設数	配布した事業所・施設数	協力率	配布した調査票数	業務量調査に回答した職員数	属性等調査にのみ回答した職員数	合計	回収率
小規模多機能型居宅介護	26	45	57.8%	514	205	36	241	46.9%
複合型サービス	3	5	60.0%	71	25	6	31	43.7%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	15	60.0%	161	102	20	122	75.8%
介護老人福祉施設	11	15	73.3%	850	334	90	424	49.9%
通所介護	11	15	73.3%	116	41	5	46	39.7%
訪問介護	6	15	40.0%	171	46	18	64	37.4%
合計	66	110	60.0%	1883	753	175	928	49.3%

注2 回収率は配布した調査票に対する返却された調査票全体の割合。事業所・施設の申告数が誤っている場合等もあるためあくまで参考値。

(5) 結果1 業務量の質問紙調査：事業所・施設の属性

1) 加算の状況

事業所種別ごとの加算状況を図表4-15から図表4-20に示した。小規模多機能型居宅介護では88.5%の事業所が「認知症加算（Ⅰ）」と「介護職員処遇改善加算（Ⅰ）」の加算を受けていた。次いで66.5%の事業所が「認知症加算（Ⅱ）」の加算を受けていた。複合型サービスでは全ての事業所が「緊急時訪問看護加算」と「認知症加算（Ⅰ）」と「特別管理加算（Ⅰ）」を受けていた。また、66.7%の事業所が「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）」と「認知症加算（Ⅱ）」を受けていた。定期巡回・随時対応型訪問介護看護では全ての事業所が「介護職員処遇改善加算（Ⅰ）」を受けていた。介護老人福祉施設では、90.9%の事業所が「介護職員処遇加算（Ⅰ）」を受けていた。次いで、「栄養マネジメント加算」が81.8%、「看取り介護加算」が72.7%であった。通所介護では、81.8%の事業所が「入浴介助加算」、次いで72.7%の事業所が「介護職員処遇改善加算（Ⅰ）」を受けていた。訪問介護では、83.3%の事業所が「初回加算」、次いで50%の事業所が「特定事業所加算（Ⅱ）」、「介護職員処遇改善加算（Ⅰ）」を受けていた。

図表4-15 小規模多機能型居宅介護（n=26）の加算状況

小規模多機能の加算状況 n=26	加算あり 事業所・施設数	%
看護職員配置加算	8	30.8
看護職員配置加算(Ⅱ)	8	30.8
サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	8	30.8
サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	9	34.6
サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	0	0.0
認知症加算(Ⅰ)	23	88.5
認知症加算(Ⅱ)	16	61.5
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	23	88.5
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	1	3.8
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0

図表 4-16 複合型サービス (n=3) の加算状況

複合型サービス n=3	加算あり 事業所・施設数	%
緊急時訪問看護加算	3	100.0
サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	2	66.7
サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	0	0.0
サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	1	33.3
認知症加算(Ⅰ)	3	100.0
認知症加算(Ⅱ)	2	66.7
特別管理加算(Ⅰ)	3	100.0
特別管理加算(Ⅱ)	1	33.3
ターミナルケア加算	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	3	100.0
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0

図表 4-17 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (n=8) の加算状況

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=8	加算あり 事業所・施設数	%
未回答施設	1	12.5
緊急時訪問看護加算	0	0.0
特別地域定期巡回・随時対応型訪問介護看護加算	0	0.0
中山間地域等における小規模事業所加算	0	0.0
中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	0	0.0
特別管理加算(Ⅰ)	0	0.0
特別管理加算(Ⅱ)	0	0.0
ターミナルケア加算	0	0.0
サービス提供体制強化加算Ⅰ	3	37.5
サービス提供体制強化加算Ⅱ	0	0.0
サービス提供体制強化加算Ⅲ	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	8	100.0
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0

図表 4-18 介護老人福祉施設（n=11）の加算状況

介護老人福祉施設 n=11	加算あり 事業所・施設数	%
日常生活継続支援加算	7	63.6
看護体制加算(Ⅰ)イ	4	36.4
看護体制加算(Ⅰ)ロ	6	54.5
看護体制加算(Ⅱ)イ	2	18.2
看護体制加算(Ⅱ)ロ	4	36.4
夜勤職員配置加算(Ⅰ)イ	1	9.1
夜勤職員配置加算(Ⅰ)ロ	3	27.3
夜勤職員配置加算(Ⅱ)イ	3	27.3
夜勤職員配置加算(Ⅱ)ロ	4	36.4
準ユニットケア加算	0	0.0
常勤専従医師配置加算	0	0.0
精神科医師定期的療養指導	2	18.2
障害者生活支援体制加算	0	0.0
口腔機能維持管理体制加算	6	54.5
在宅復帰支援機能加算	0	0.0
サービス提供体制強化加算Ⅰ	3	27.3
サービス提供体制強化加算Ⅱ	0	0.0
サービス提供体制強化加算Ⅲ	0	0.0
個別機能訓練加算	5	45.5
若年性認知症利用者受入加算	2	18.2
退所前訪問相談援助加算	1	9.1
退所後訪問相談援助加算	1	9.1
退所時相談援助加算	1	9.1
退所前連携加算	1	9.1
栄養マネジメント加算	9	81.8
経口移行加算	0	0.0
経口維持加算(Ⅰ)	1	9.1
口腔機能維持管理加算	1	9.1
療養食加算	7	63.6
看取り介護加算	8	72.7
在宅・入所相互利用加算	0	0.0
認知症専門ケア加算Ⅰ	0	0.0
認知症専門ケア加算Ⅱ	0	0.0
認知症行動・心理症状緊急対応加算	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	10	90.9
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0

図表 4-19 通所介護（n=11）の加算状況

通所介護 n=11	加算あり 事業所・施設数	%
サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	6	54.5
サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	3	27.3
サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	0	0.0
延長加算	1	9.1
中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	0	0.0
入浴介助加算	9	81.8
個別機能訓練加算Ⅰ	3	27.3
個別機能訓練加算Ⅱ	3	27.3
若年性認知症利用者受入加算	0	0.0
栄養改善加算	1	9.1
口腔機能向上加算	4	36.4
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	8	72.7

図表 4-20 訪問介護（n=6）加算状況

訪問介護 n=6	加算あり 事業所・施設数	%
特定事業所加算(Ⅰ)	1	16.7
特定事業所加算(Ⅱ)	3	50.0
特定事業所加算(Ⅲ)	0	0.0
延長加算	0	0.0
特別地域訪問介護加算	1	16.7
中山間地域等における小規模事業所加算	0	0.0
中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	1	16.7
緊急時訪問介護加算	3	50.0
初回加算	5	83.3
生活機能向上連携加算	0	0.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	3	50.0
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	1	16.7
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0

2) 事業所・施設における利用者・登録者の状況

① 利用者・登録者数および要介護度・認知症日常生活自立度

回答者の所属する事業所の平均登録者数を事業所種別に介護度及び認知症度ごとに比較したものを図表4-21に示した。最も多い登録者は、小規模多機能型居宅介護では要介護度2の4.9人、複合型サービスでは要介護度4の5.7人、定期巡回・随時対応型訪問介護看護では要介護度1の11.8人、介護老人福祉施設では要介護度4の22.5人、通所介護では要介護度1の15.7人、訪問介護では要介護度1の18.5人であった。

図表4-21 利用者・登録者数

登録者数 平均該当者数(人)		小規模多 機能型居 宅介護	複合型 サービス	定期巡 回・随時 対応型訪 問介護看 護	介護老人 福祉施設	通所介護	訪問介護
事業所・施設数=		26	3	9	11	11	6
登録者数 平均該当者数(人)	支援1	0.7	0.0	0.0	0.0	5.0	16.5
	支援2	0.9	0.0	0.0	0.0	8.8	17.3
	介護1	4.5	5.0	11.8	1.5	15.7	18.5
	介護2	4.9	4.3	11.7	5.4	11.1	13.0
	介護3	3.3	3.3	6.9	16.2	6.7	6.3
	介護4	2.6	5.7	6.1	22.5	4.4	6.3
	介護5	1.6	4.3	4.1	20.1	1.6	7.2
	総数	18.5	22.6	40.6	65.7	53.3	85.1
登録者のうち 認知症日常生活 自立度Ⅲ以上(人)	支援1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	支援2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	介護1	1.1	1.0	1.0	0.2	1.4	2.5
	介護2	1.9	0.7	2.0	2.0	2.1	0.5
	介護3	1.8	2.0	1.6	9.1	1.9	0.8
	介護4	1.7	3.7	2.1	17.0	2.0	0.5
	介護5	1.2	4.0	1.0	18.3	0.8	2.3
	総数	7.7	11.4	7.7	46.6	8.2	6.8
登録者中認知症者の割合		41.6%	50.4%	19.0%	70.9%	15.4%	8.0%
登録者中要介護3以上の割合		40.5%	58.8%	42.1%	89.5%	23.8%	23.3%

② 世帯状況

各事業所に登録者の世帯状況について、事業所種別ごとの平均を図表4-22に示した。小規模多機能型居宅介護では「子供と同居」が最も多く平均8.3人であった。複合型サービスでは「1人暮らし」と「子供と同居」が多く、それぞれ平均9.7人であった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護では「1人暮らし」の人数が最も多く34.3人であった。通所介護では「子供と同居」が最も多く平均31.7人であった。訪問介護では「1人暮らし」が最も多く平均44.8人であった。

図表4-22 利用者・登録者の世帯状況

世帯状況 平均該当者数(人)	小規模多 機能型居 宅介護	複合型 サービス	定期巡 回・随時 対応型訪 問介護看 護	通所介護	訪問介護
事業所・施設数=	26	3	9	11	6
1人暮らし	6.1	9.7	34.3	10.1	44.8
配偶者と2人暮らし	2.5	3.0	2.3	6.9	15.8
子供と同居	8.3	9.7	3.0	31.7	17.0
その他	2.5	0.3	1.4	4.7	7.5

③ 住居の状況

各事業所に居宅サービス・地域密着型サービスにおける登録者の居住状況について、事業所種別ごとと平均該当者数を図4-23に示した。小規模多機能型居宅介護では「日常生活圏内」が最も多く平均11.4人であった。複合型サービスは「市町村内」が最も多く平均12.3人で、次いで「日常生活圏内」が平均11.3人であった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護では日常生活圏内で「隣接・近隣のサービス付き高齢者住宅共住者」が最も多く平均27.6人であった。通所介護では、「日常生活圏内」が最も多く平均31.3人で、次いで「市町村内」が平均19.8人であった。訪問介護では「市町村内」が最も多く平均50.3人で、次いで「日常生活圏内」が平均46.8人であった。

図表4-23 利用者・登録者の住居の状況

居住状況 平均該当者数(人)	小規模多 機能型居 宅介護	複合型 サービス	定期巡 回・随時 対応型訪 問介護看 護	通所介護	訪問介護
事業所・施設数=	26	3	9	11	6
住居:日常生活圏内自宅	11.4	11.3	17.4	31.3	46.8
内住居:サ高住	1.8	0.0	27.6	0.5	4.0
住居:市町村内	8.1	12.3	0.7	19.8	50.3
住居:市町村外	0.0	0.0	0.0	2.2	0.2

3) 事業所・施設における介護職員の状況

① 介護職員数

回答者の所属する事業所について、事業所種別ごとに介護職員数を図表4-24に示した。小規模多機能型居宅介護では平均介護職員数が11.5人で非常勤比率が39.1%であった。複合型サービスでは平均介護職員数が13人で非常勤比率が36.2%であった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護では平均介護職員数が54.9人で非常勤比率が64.5%であった。介護老人福祉施設では平均介護職員数が39.4人で非常勤比率が14.5%であった。通所介護では平均介護職員数が6.0人で非常勤比率が25.0%であった。訪問介護では平均介護職員数が16.7人で非常勤比率が62.9%であった。

図表4-24 介護職員数

平均人数(人)	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
事業所・施設数=	26	3	9	11	11	6
介護職員数	11.5	13.0	54.9	39.4	6.0	16.7
常勤職:専務	6.0	10.0	19.4	33.0	3.7	6.2
常勤職:兼務	1.0	1.7	0.0	0.6	0.8	0.0
非常勤職	4.5	4.7	35.4	5.7	1.5	10.5
常勤:専務のうち介護福祉士	3.0	5.3	13.4	21.8	1.9	5.0
常勤:兼務のうち介護福祉士	0.9	1.7	0.0	0.6	0.6	0.0
非常勤のうち介護福祉士	1.0	1.7	10.2	2.0	0.2	3.5
非常勤比率	39.1%	36.2%	64.5%	14.5%	25.0%	62.9%
常勤の介護福祉士保有率	55.7%	59.8%	69.1%	66.7%	55.6%	80.6%

(6) 結果2 回答した介護職員の属性

回答した介護職員の属性を図表4-25から図表4-29に示した。

1) 介護職員の基本属性

① 性別

図表4-25 性別

	男性	女性	不明
n=	192	535	26
小規模多機能型居宅介護	42	157	6
複合型サービス	10	13	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	20	76	6
介護老人福祉施設	112	210	12
通所介護	7	34	0
訪問介護	1	45	0

② 回答者の基本属性

図表4-26 回答者の基本属性

	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
平均回答職員数	7.8	10.3	11.1	32.6	4.2	8.0
平均年齢	43.6	40.2	43.9	38.2	43.9	51.6
平均経験月数	76	89.8	99.2	88.4	106.7	121.2
平均勤続年数	50.2	47.3	62.5	62.3	77.2	97.2
介護福祉士資格保有率	53.5%	70.4%	72.6%	74%	67.6%	58.1%

③ 現在の役職・職務

図表 4-27 現在の役職・職務

現在の役職・職務 (複数回答・就いている割合)	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効数	234	29	116	411	16	63
管理者	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護職リーダー	7.3%	13.8%	6.0%	14.1%	8.7%	4.8%
介護職サブリーダー	1.7%	0.0%	3.4%	5.6%	0.0%	0.0%
介護職員	88.5%	93.1%	81.9%	81.8%	87.0%	66.7%
生活相談員	0.4%	0.0%	0.9%	1.2%	17.4%	0.0%
機能訓練指導員	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
介護支援専門員	3.0%	6.9%	1.7%	1.9%	0.0%	0.0%
計画作成担当者	2.6%	6.9%	12.1%	0.7%	6.5%	4.8%
サービス提供責任者	0.4%	0.0%	18.1%	0.2%	0.0%	23.8%
その他	5.6%	0.0%	2.6%	1.7%	0.0%	12.7%

④ 現在の勤務形態

図表 4-28 現在の勤務形態

現在の勤務形態	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効	231	29	115	411	46	63
常勤(正社員)	58.4%	75.9%	73.0%	73.0%	54.3%	42.9%
常勤(契約・嘱託職員等)	14.7%	10.3%	11.3%	12.9%	26.1%	31.7%
非常勤職員	22.1%	13.8%	13.0%	10.9%	17.4%	17.5%
その他	4.8%	0.0%	2.6%	3.2%	2.2%	7.9%

⑤ 所有資格

図表 4-29 所有資格

所有資格	小規模多機能居宅介護	複合型サービス	定期巡回随時対応型訪問介護看護	介護老人福祉施設	通所介護	訪問介護
有効数	198	27	113	377	37	62
欠損値	43	4	9	47	9	2
合計	241	31	122	424	46	64
ヘルパー2級	56.6%	44.4%	61.9%	30.5%	56.8%	69.4%
ヘルパー1級	2.0%	11.1%	8.8%	3.4%	2.7%	8.1%
介護職員基礎研修	8.6%	3.7%	6.2%	9.3%	2.7%	0.0%
介護職員実務者研修	8.6%	0.0%	4.4%	3.2%	2.7%	1.6%
介護福祉士	53.5%	70.4%	72.6%	74.0%	67.6%	58.1%
社会福祉士	1.5%	0.0%	2.7%	1.9%	2.7%	0.0%
精神保健福祉士	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
准看護師	3.5%	0.0%	0.9%	0.3%	0.0%	0.0%
看護師	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
社会福祉主事	10.6%	0.0%	17.7%	13.5%	24.3%	1.6%
介護支援専門員	8.6%	22.2%	17.7%	5.6%	5.4%	8.1%
主任介護支援専門員	0.0%	3.7%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%

(7) 結果3 業務量の状況

1) 事業所種別ごとの平均的業務内容（小規模多機能型居宅介護との比較）

ここでは、小規模多機能型居宅介護事業所とそれ以外の事業所・施設種別との、業務量の違いを明らかにするために、業務量を検討した。

最初に記入された業務は、開始時間から終了時間までを業務の所要時間とした。次にその業務の終了時間が、日勤帯（8:30~17:30）か日勤帯以外（17:30~8:30）かを区別し、すべての業務について日勤帯・日勤帯以外の区別（勤務帯区分）を行った。

次に、事業所ごとに、そこに所属し回答した全職員の業務時間を事業所平均の総業務時間とし、勤務帯区分ごとに算出した上で、日勤帯の場合は540分（常勤の勤務時間）で、日勤帯以外の場合は900分（常勤の勤務時間）で除したものを、観察日における事業所の常勤換算人数とした。

これ以降のリストでは、各業務に示された時間（分）は、常勤者が1勤務あたりにその業務に従事する平均時間を表す。また%は、業務全体に占めるその業務の割合を表す。

小規模多機能型居宅介護については、さらに提供場所別の平均業務所要時間も示した。リストにならない業務内容は、含まれていなかったことを示す。日勤帯以外の時間帯については、訪問介護および通所介護はリストを作成しなかった。

① 全階層：日勤帯の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合

全階層を対象とした日勤帯における事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-30から図表4-32に示した。

図表4-30 日勤帯の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護の提供場所別）

小規模多機能型居宅介護事業所 n=30									
日勤 場所：自宅			日勤 場所：自宅外事業所外			日勤 場所：事業所内			
事業所平均の業務時間(分)		164.5	事業所平均の業務時間(分)		177.6	事業所平均の業務時間(分)		2003.5	
事業所平均の業務割合(%)		7.0%	事業所平均の業務割合(%)		7.6%	事業所平均の業務割合(%)		85.4%	
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%	
送迎	11.5	34.4%	送迎	20.6	56.8%	入浴介助	32.3	7.9%	
配膳・下膳	3.7	10.9%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	1.5	4.2%	排せつ介助	29.9	7.3%	
その他の生活支援	1.5	4.4%	その他の業務	1.3	3.5%	配膳・下膳	25.4	6.2%	
排せつ介助	1.2	3.6%	待機・仮眠・休憩	1.2	3.4%	挨拶・日常会話・話し相手	24.9	6.1%	
起居移動移乗(室内)	1.2	3.5%	その他の生活支援	1.2	3.2%	食事介助・水分摂取支援	22.3	5.5%	
服薬(確認・介助・指導)	1.1	3.4%	移動		2.6%	見守り	20.3	5.0%	
戸締まり、火の始末、防災	1.0	3.1%	買物代行		2.5%	介護記録作成	19.1	4.7%	
持ち物確認・荷物チェック	1.0	2.9%	相談(利用者家族等)		1.9%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	15.9	3.9%	
着替え介助	1.0	2.9%	挨拶・日常会話・話し相手		1.8%	レク参加	15.0	3.7%	
ごみの処理		2.8%	起居移動移乗(室外)		1.7%	待機・仮眠・休憩	13.8	3.4%	
居室等掃除		2.8%	持ち物確認・荷物チェック		1.3%	申し送り	13.0	3.2%	
ポータブルトイレ清掃		2.2%	戸締まり、火の始末、防災		1.3%	掃除・点検・後片付け	12.5	3.1%	
見守り		2.1%	その他の機関連携		1.3%	その他の業務	10.2	2.5%	
その他のADL支援		1.9%	会議への出席(地域ケア会議等)		1.1%	その他書類作成・記録	10.2	2.5%	
挨拶・日常会話・話し相手		1.8%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		1.1%	入浴・清拭準備	9.6	2.4%	
健康状態チェック(バイタル・血圧等)		1.7%	体調急変時の対応		1.0%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	9.2	2.2%	
起居移動移乗(室外)		1.4%	その他の医療的ケア		0.8%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	8.3	2.0%	
相談(利用者本人)		1.3%	食事介助・水分摂取支援		0.7%	着替え介助	8.0	2.0%	
買物代行		1.2%	ポータブルトイレ清掃		1.2%	起居移動移乗(室内)	7.6	1.9%	
洗濯支援		1.0%	服薬(確認・介助・指導)		0.7%	食事摂取量観察・記録	6.6	1.6%	
入浴・清拭準備		1.0%	排せつ介助		1.0%	服薬(確認・介助・指導)	6.0	1.5%	
調理代行		0.9%	散歩付き添い		0.9%	居室等掃除	5.2	1.3%	
洗濯代行		0.8%	申し送り		0.8%	その他のコミュニケーション	4.2	1.0%	
掃除・点検・後片付け		0.8%	医療機関との連絡調整		0.8%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.1	1.0%	
整理整頓		0.8%	家族へのサービス・支援		0.5%	身体機能向上訓練	4.0	1.0%	
その他のコミュニケーション		0.7%	起居移動移乗(室内)		0.4%	調理代行	3.9	1.0%	
食品の管理・整理		0.7%	地域住民との情報交換		0.4%	食品の管理・整理	3.7	0.9%	
入浴介助		0.7%	食品の管理・整理		0.3%	調理支援	3.6	0.9%	
食事介助・水分摂取支援		0.6%	配膳・下膳		0.3%	その他の生活支援	2.9	0.7%	
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		0.6%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)		0.3%	その他の機能訓練・アクティビティ	2.8	0.7%	
食事摂取量観察・記録		0.6%	相談(利用者本人)		0.3%	送迎	2.6	0.6%	
その他書類作成・記録		0.5%	健康相談、指導		0.3%	趣味活動(室内)支援	2.5	0.6%	
BPSDへの対応		0.4%	その他のコミュニケーション		0.3%	整理整頓	2.3	0.6%	
清拭		0.3%	金銭管理代行		0.2%	その他のADL支援	2.2	0.5%	
相談(利用者家族等)		0.2%	洗濯支援		0.2%	洗濯支援	2.2	0.5%	
調理支援		0.1%	ごみの処理		0.2%	起居移動移乗(室外)	2.0	0.5%	
移動		0.1%	掃除・点検・後片付け		0.2%	洗濯代行	1.9	0.5%	
			健康状態チェック(バイタル・血圧等)		0.1%	持ち物確認・荷物チェック	1.7	0.4%	
			手洗い		0.1%	事例検討・カンファレンス	1.7	0.4%	
						職員間業務調整	1.6	0.4%	
						相談(利用者家族等)	1.5	0.4%	
						その他の医療的ケア	1.5	0.4%	
						地域との交流、行事参加	1.4	0.3%	
						ごみの処理	1.3	0.3%	
						睡眠環境整備	1.3	0.3%	
						入眠・起床介助	1.1	0.3%	
						スタッフ教育・指導	1.0	0.2%	
						移動	1.0	0.2%	
						介護計画作成	1.0	0.2%	
						来訪者対応	0.2	0.2%	
						手洗い	0.2	0.2%	
						認知機能向上訓練	0.2	0.2%	
						ポータブルトイレ清掃	0.2	0.2%	
						他職種との連絡調整	0.2	0.2%	
						相談(利用者本人)	0.2	0.2%	
						部下への指示	0.2	0.2%	
						医療機関との連絡調整	0.2	0.2%	
						シフト作成及び変更	0.2	0.2%	
						BPSDへの対応	0.1	0.1%	
						体調急変時の対応	0.1	0.1%	
						生活機能向上訓練	0.1	0.1%	
						清拭	0.1	0.1%	
						給付事務	0.1	0.1%	
						健康相談、指導	0.1	0.1%	
						医療的処置(経管栄養、たんの吸引)	0.1	0.1%	
						採用面接選考	0.1	0.1%	
						戸締まり、火の始末、防災	0.0	0.0%	
						金銭管理代行	0.0	0.0%	
						通信支援(電話・FAX)	0.0	0.0%	
						イベント等企画	0.0	0.0%	
						ボランティア・実習生対応	0.0	0.0%	
						体位交換	0.0	0.0%	
						買物代行	0.0	0.0%	
						スタッフの相談	0.0	0.0%	
						金銭管理支援	0.0	0.0%	
不明		1.2%	不明		2.2%	不明		2.7%	

図表4-31 日勤帯の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護・複合型サービス・定期巡回・随時対応型訪問介護看護）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤全体			日勤			日勤		
事業所平均の業務時間(分)			事業所平均の業務時間(分)			事業所平均の業務時間(分)		
2345.6			2718.8			2415.7		
常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)		
4.9			5.0			4.5		
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
送迎	31.0	6.5%	入浴介助	49.5	9.2%	排せつ介助	42.0	7.8%
入浴介助	30.9	6.5%	排せつ介助	44.2	8.2%	移動	39.6	7.3%
排せつ介助	29.0	6.0%	送迎	35.1	6.5%	その他書類作成・記録	28.0	5.2%
配膳・下膳	27.2	5.7%	着替え介助	29.5	5.5%	居室等掃除	27.6	5.1%
挨拶・日常会話・話し相手	23.6	4.9%	見守り	27.9	5.2%	その他の業務	23.0	4.3%
食事介助・水分摂取支援	20.7	4.3%	配膳・下膳	26.6	4.9%	待機・仮眠・休憩	21.5	4.0%
見守り	19.7	4.1%	食事介助・水分摂取支援	25.7	4.8%	配膳・下膳	20.7	3.8%
介護記録作成	17.8	3.7%	入浴・清拭準備	21.0	3.9%	介護記録作成	18.6	3.4%
待機・仮眠・休憩	17.1	3.6%	待機・仮眠・休憩	18.9	3.5%	服薬(確認・介助・指導)	15.4	2.8%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	16.0	3.3%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	17.9	3.3%	入浴介助	14.4	2.7%
レク参加	13.8	2.9%	掃除・点検・後片付け	16.6	3.1%	食事介助・水分摂取支援	13.0	2.4%
掃除・点検・後片付け	13.0	2.7%	手洗い	14.8	2.7%	その他のコミュニケーション	12.1	2.2%
申し送り	12.5	2.6%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	13.2	2.4%	買物代行	11.4	2.1%
その他の業務	10.5	2.2%	介護記録作成	13.2	2.4%	調理支援	11.0	2.0%
入浴・清拭準備	9.8	2.0%	申し送り	12.9	2.4%	申し送り	10.9	2.0%
その他書類作成・記録	9.7	2.0%	起居移動移乗(室内)	12.5	2.3%	介護計画作成	9.9	1.8%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	9.3	1.9%	その他書類作成・記録	11.4	2.1%	その他のADL支援	9.8	1.8%
着替え介助	8.1	1.7%	挨拶・日常会話・話し相手	9.5	1.8%	起居移動移乗(室内)	9.3	1.7%
起居移動移乗(室内)	7.9	1.6%	その他の業務	9.4	1.7%	事例検討・カンファレンス	8.7	1.6%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	7.8	1.6%	居室等掃除	9.4	1.7%	シフト作成及び変更	8.6	1.6%
服薬(確認・介助・指導)	6.8	1.4%	食事摂取量観察・記録	9.2	1.7%	職員間業務調整	7.8	1.4%
食事摂取量観察・記録	6.6	1.4%	服薬(確認・介助・指導)	8.5	1.6%	掃除・点検・後片付け	7.8	1.4%
居室等掃除	5.5	1.1%	他職種との連絡調整	8.3	1.5%	相談(利用者本人)	7.2	1.3%
その他の生活支援	4.7	1.0%	レク参加	7.9	1.5%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	6.0	1.1%
食品の管理・整理	4.2	0.9%	その他のコミュニケーション	7.3	1.4%	他職種との連絡調整	5.5	1.0%
その他のコミュニケーション	4.2	0.9%	こみの処理	5.7	1.1%	調理代行	4.9	0.9%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.1	0.9%	イベント等企画	5.5	1.0%	他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	4.7	0.9%
調理代行	4.0	0.8%	洗濯代行	5.1	1.0%	清拭	4.1	0.8%
身体機能向上訓練	3.9	0.8%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	5.0	0.9%	入浴・清拭準備	4.1	0.8%
調理支援	3.4	0.7%	その他の医療的ケア	4.8	0.9%	その他の生活支援	4.1	0.8%
持ち物確認・荷物チェック	2.8	0.6%	身体機能向上訓練	4.6	0.9%	着替え介助	4.0	0.7%
洗濯代行	2.6	0.6%	食品の管理・整理	4.5	0.8%	送迎	3.9	0.7%
その他の機能訓練・アクティビティ	2.6	0.5%	相談(利用者本人)	4.0	0.7%	こみの処理	3.9	0.7%
起居移動移乗(室外)	2.6	0.5%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	3.7	0.7%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	3.7	0.7%
洗濯支援	2.5	0.5%	移動	3.3	0.6%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	3.1	0.6%
その他のADL支援	2.5	0.5%	生活機能向上訓練	3.1	0.6%	起居移動移乗(室外)	2.9	0.5%
整理整頓	2.4	0.5%	相談(利用者家族等)	3.0	0.6%	洗濯支援	2.8	0.5%
趣味活動(室内)支援	2.2	0.5%	その他のADL支援	2.2	0.4%	スタッフ教育・指導	2.7	0.5%
こみの処理	2.2	0.5%	趣味活動(室内)支援	2.0	0.4%	ポータブルトイレ清掃	2.5	0.5%
相談(利用者家族等)	2.0	0.4%	体位交換	1.7	0.3%	挨拶・日常会話・話し相手	2.4	0.4%
移動	1.7	0.4%	職員間業務調整	1.6	0.3%	持ち物確認・荷物チェック	2.4	0.4%
ポータブルトイレ清掃	1.6	0.3%	地域との交流, 行事参加	1.5	0.3%	食事摂取量観察・記録	2.2	0.4%
職員間業務調整	1.6	0.3%	その他の生活支援	1.4	0.3%	来訪者対応	1.9	0.3%
その他の医療的ケア	1.6	0.3%	整理整頓	1.2	0.2%	洗濯代行	1.8	0.3%
事例検討・カンファレンス	1.5	0.3%	清拭	1.1	0.2%	整理整頓	1.7	0.3%
戸締まり, 火の始末, 防災	1.5	0.3%	給付事務	1.0	0.2%	見守り	1.7	0.3%
買物代行	1.2	0.3%	介護計画作成	1.0	0.2%	医療機関との連絡調整	1.7	0.3%
地域との交流, 行事参加	1.2	0.3%	洗濯支援	0.1	0.1%	手洗い	1.6	0.3%
相談(利用者本人)	1.1	0.2%	起居移動移乗(室外)	0.1	0.1%	体調急変時の対応	1.6	0.3%
睡眠環境整備	1.1	0.2%	入眠・起床介助	0.1	0.1%	相談(利用者家族等)	1.5	0.3%
他職種との連絡調整	1.0	0.2%	部下への指示	0.1	0.1%	その他の医療的ケア	1.5	0.3%
入眠・起床介助	1.0	0.2%	睡眠環境整備	0.1	0.1%	イベント等企画	1.3	0.2%
BPSDへの対応	0.2	0.2%	散歩付き添い	0.0	0.0%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.3	0.2%
スタッフ教育・指導	0.2	0.2%	認知機能向上訓練	0.0	0.0%	部下への指示	1.2	0.2%
介護計画作成	0.2	0.2%				戸締まり, 火の始末, 防災	1.2	0.2%
来訪者対応	0.2	0.2%				散歩付き添い	1.0	0.2%
手洗い	0.2	0.2%				睡眠環境整備	1.0	0.2%
体調急変時の対応	0.2	0.2%				スタッフの相談	0.2	0.2%
認知機能向上訓練	0.2	0.2%				体位交換	0.1	0.1%
医療機関との連絡調整	0.2	0.2%				その他の機関間連携	0.1	0.1%
生活機能向上訓練	0.1	0.1%				通信支援(電話・FAX)	0.1	0.1%
部下への指示	0.1	0.1%				食品の管理・整理	0.1	0.1%
清拭	0.1	0.1%				健康相談, 指導	0.1	0.1%
シフト作成及び変更	0.1	0.1%				医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.0	0.0%
その他の機関間連携	0.1	0.1%				入眠・起床介助	0.0	0.0%
健康相談, 指導	0.1	0.1%						
会議への出席(地域ケア会議等)	0.1	0.1%						
給付事務	0.1	0.1%						
医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.1	0.1%						
採用面接選考	0.1	0.1%						
金銭管理代行	0.0	0.0%						
散歩付き添い	0.0	0.0%						
スタッフの相談	0.0	0.0%						
家族へのサービス・支援	0.0	0.0%						
地域住民との情報交換	0.0	0.0%						
通信支援(電話・FAX)	0.0	0.0%						
イベント等企画	0.0	0.0%						
ボランティア・実習生対応	0.0	0.0%						
体位交換	0.0	0.0%						
金銭管理支援	0.0	0.0%						
不明	9.0%		不明	1.8%		不明	12.2%	

図表4-32 日勤帯の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設・通所介護・訪問介護）

介護老人福祉施設 n=13			通所介護 n=10			訪問介護 n=8		
日勤			日勤			日勤		
施設平均の業務時間(分)		8738.5	事業所平均の業務時間(分)		2168.5	事業所平均の業務時間(分)		2160.4
常勤換算職員数(人)		16.2	常勤換算職員数(人)		4.0	常勤換算職員数(人)		4.0
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	67.9	12.6%	送迎	127.2	23.6%	居室等掃除	59.3	11.0%
食事介助・水分摂取支援	52.2	9.7%	入浴介助	39.0	7.3%	移動	49.3	9.1%
入浴介助	46.8	8.7%	排せつ介助	29.2	5.4%	その他書類作成・記録	27.9	5.2%
配膳・下膳	29.4	5.5%	レク参加	27.7	5.1%	待機・仮眠・休憩	25.5	4.7%
起居移動移乗(室内)	27.1	5.0%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	27.6	5.1%	排せつ介助	21.3	3.9%
待機・仮眠・休憩	22.2	4.1%	起居移動移乗(室内)	21.6	4.0%	調理支援	19.4	3.6%
見守り	20.9	3.9%	食事介助・水分摂取支援	21.0	4.0%	入浴介助	18.0	3.3%
食事摂取量観察・記録	16.6	3.1%	待機・仮眠・休憩	19.7	3.7%	入浴介助のADL支援	16.0	3.0%
介護記録作成	16.4	3.0%	配膳・下膳	18.4	3.4%	買物代行	15.2	2.8%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	15.8	2.9%	着替え介助	18.3	3.4%	介護記録作成	14.0	2.6%
掃除・点検・後片付け	13.2	2.4%	挨拶・日常会話・話し相手	15.5	2.9%	調理代行	14.0	2.6%
入浴・清拭準備	12.3	2.3%	掃除・点検・後片付け	14.3	2.7%	地域との交流、行事参加	13.4	2.5%
挨拶・日常会話・話し相手	12.2	2.3%	その他書類作成・記録	12.4	2.3%	着替え介助	12.7	2.4%
居室等掃除	9.6	1.8%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	11.0	2.2%	申し送り	11.8	2.2%
申し送り	9.1	1.7%	入浴・清拭準備	11.6	2.1%	その他の業務	10.8	2.0%
送迎	9.0	1.7%	申し送り	9.8	1.8%	ごみの処理	10.0	1.8%
着替え介助	8.9	1.7%	食事摂取量観察・記録	7.0	1.3%	職員間業務調整	7.7	1.4%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	7.9	1.5%	見守り	6.0	1.1%	洗濯支援	7.6	1.4%
服薬(確認・介助・指導)	6.6	1.2%	その他の機能訓練・アクティビティ	5.8	1.1%	掃除・点検・後片付け	7.4	1.4%
レク参加	6.6	1.2%	介護記録作成	5.6	1.0%	食事介助・水分摂取支援	7.4	1.4%
その他の生活支援	6.0	1.1%	持ち物確認・荷物チェック	5.5	1.0%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	6.4	1.2%
その他のADL支援	4.9	0.9%	その他のコミュニケーション	5.0	0.9%	清拭	6.4	1.2%
その他書類作成・記録	4.6	0.8%	戸締まり、火の始末、防災	4.1	0.8%	戸締まり、火の始末、防災	6.3	1.2%
その他のコミュニケーション	4.5	0.8%	その他の業務	3.5	0.6%	シフト作成及び変更	6.0	1.1%
その他の業務	4.5	0.8%	身体機能向上訓練	3.4	0.6%	ポータブルトイレ清掃	5.6	1.0%
食品の管理・整理	4.1	0.8%	趣味活動(室内)支援	3.3	0.6%	挨拶・日常会話・話し相手	5.4	1.0%
健康状態チェック(バイタル、血圧等)	4.0	0.7%	健康状態チェック(バイタル、血圧等)	3.3	0.6%	入浴・清拭準備	5.2	1.0%
ごみの処理	3.9	0.7%	BPSDへの対応	3.2	0.6%	整理整頓	5.1	1.0%
体位交換	3.8	0.7%	食品の管理・整理	3.1	0.6%	その他の生活支援	4.5	0.8%
清拭	3.3	0.6%	起居移動移乗(室外)	3.1	0.6%	起居移動移乗(室内)	4.4	0.8%
整理整頓	3.3	0.6%	調理支援	1.9	0.3%	手洗い	4.4	0.8%
入眠・起床介助	3.2	0.6%	その他のADL支援	1.6	0.3%	相談(利用者本人)	4.3	0.8%
身体機能向上訓練	3.2	0.6%	職員間業務調整	1.6	0.3%	送迎	4.2	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	3.2	0.6%	入眠・起床介助	1.5	0.3%	起居移動移乗(室外)	4.2	0.8%
持ち物確認・荷物チェック	3.1	0.6%	整理整頓	1.5	0.3%	配膳・下膳	4.1	0.8%
洗濯支援	2.8	0.5%	他職種との連絡調整	1.5	0.3%	相談(利用者家族等)	3.9	0.7%
起居移動移乗(室外)	2.7	0.5%	居室等掃除	1.4	0.3%	洗濯代行	3.9	0.7%
手洗い	2.6	0.5%	相談(利用者本人)	1.2	0.2%	体位交換	3.8	0.7%
他職種との連絡調整	2.3	0.4%	洗濯代行	1.1	0.2%	服薬(確認・介助・指導)	3.8	0.7%
会議への出席(地域ケア会議等)	2.0	0.4%	シフト作成及び変更	1.1	0.2%	健康状態チェック(バイタル、血圧等)	3.0	0.5%
ポータブルトイレ清掃	1.9	0.3%	事例検討・カンファレンス	1.0	0.2%	介護計画作成	3.0	0.5%
睡眠環境整備	1.9	0.3%	他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	1.0	0.2%	食事摂取量観察・記録	2.9	0.5%
その他の機能訓練・アクティビティ	1.7	0.3%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	0.2	0.2%	持ち物確認・荷物チェック	2.9	0.5%
事例検討・カンファレンス	1.7	0.3%	散歩付き添い	0.1	0.1%	他職種との連絡調整	2.8	0.5%
趣味活動(室内)支援	1.4	0.3%	ごみの処理	0.1	0.1%	他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	2.5	0.5%
移動	1.2	0.2%	服薬(確認・介助・指導)	0.1	0.1%	その他のコミュニケーション	2.3	0.4%
職員間業務調整	1.2	0.2%	睡眠環境整備	0.1	0.1%	スタッフ教育・指導	2.0	0.4%
洗濯代行	1.2	0.2%	洗濯支援	0.1	0.1%	来訪者対応	1.9	0.3%
生活機能向上訓練	1.1	0.2%	部下への指示	0.1	0.1%	見守り	1.6	0.3%
散歩付き添い	0.2	0.2%	給付事務	0.1	0.1%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.6	0.3%
部下への指示	0.1	0.1%	介護計画作成	0.1	0.1%	給付事務	1.4	0.3%
相談(利用者本人)	0.1	0.1%	移動	0.1	0.1%	スタッフの相談	1.4	0.3%
相談(利用者家族等)	0.1	0.1%	相談(利用者家族等)	0.0	0.0%	その他の機関連携	0.2	0.2%
イベント等企画	0.1	0.1%	手洗い	0.0	0.0%	医療機関との連絡調整	0.2	0.2%
認知機能向上訓練	0.1	0.1%				睡眠環境整備	0.1	0.1%
BPSDへの対応	0.1	0.1%				部下への指示	0.1	0.1%
その他の医療的ケア	0.1	0.1%				その他の機能訓練・アクティビティ	0.1	0.1%
シフト作成及び変更	0.1	0.1%						
医療機関との連絡調整	0.1	0.1%						
来訪者対応	0.1	0.1%						
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	0.1	0.1%						
健康相談、指導	0.1	0.1%						
医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.1	0.1%						
ボランティア・実習生対応	0.1	0.1%						
地域との交流、行事参加	0.1	0.1%						
調理代行	0.0	0.0%						
戸締まり、火の始末、防災	0.0	0.0%						
体調急変時の対応	0.0	0.0%						
介護計画作成	0.0	0.0%						
調理支援	0.0	0.0%						
ケアプラン検討会出席	0.0	0.0%						
その他の機関連携	0.0	0.0%						
スタッフの相談	0.0	0.0%						
金銭管理支援	0.0	0.0%						
金銭管理代行	0.0	0.0%						
洗腸摘便	0.0	0.0%						
スタッフ教育・指導	0.0	0.0%						
給付事務	0.0	0.0%						
家族へのサービス・支援	0.0	0.0%						
代筆代読	0.0	0.0%						
不明		6.4%	不明		5.6%	不明		8.7%

② 全階層：日勤帯以外の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合

全階層を対象とした日勤帯以外における事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-33から図表4-35に示した。

図表4-33 日勤帯以外の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護の提供場所別）

小規模多機能型居宅介護事業所 n=30								
日勤 場所：自宅			日勤以外 場所：自宅外事業所外			日勤以外 場所：事業所内		
事業所平均の業務時間(分)		64.8	事業所平均の業務時間(分)		22.3	事業所平均の業務時間(分)		749.4
事業所平均の業務割合(%)		7.7%	事業所平均の業務割合(%)		2.7%	事業所平均の業務割合(%)		89.6%
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
送迎	15.1	21.8%	送迎	19.6	81.8%	排せつ介助	90.9	11.3%
排せつ介助	11.1	15.9%	服薬(確認・介助・指導)	1.1	4.5%	掃除・点検・後片付け	67.6	8.4%
調理代行	4.1	5.9%	介護記録作成	1.1	4.5%	見守り	59.3	7.4%
入眠・起床介助	3.9	5.8%	掃除・点検・後片付け	1.1	4.5%	待機・仮眠・休憩	59.2	7.3%
配膳・下膳	3.8	5.5%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)			介護記録作成	52.1	6.5%
着替え介助	3.6	5.2%	買物代行			その他の業務	44.5	5.5%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	3.2	4.5%				洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	40.3	5.0%
見守り	2.5	3.8%				着替え介助	36.1	4.5%
服薬(確認・介助・指導)	2.3	3.3%				配膳・下膳	30.2	3.7%
体位交換	1.8	2.6%				食事介助・水分摂取支援	27.0	3.3%
その他の生活支援	1.5	2.1%				服薬(確認・介助・指導)	24.7	3.1%
ポータブルトイレ清掃	1.3	1.8%				その他の書類作成・記録	23.4	2.9%
洗濯支援	1.1	1.6%				入眠・起床介助	22.4	2.8%
待機・仮眠・休憩	1.1	1.5%				食事摂取量観察・記録	19.1	2.4%
清拭	1.0	1.5%				調理代行	18.3	2.3%
ごみの処理	1.0	1.5%				挨拶・日常会話・話し相手	14.3	1.8%
持ち物確認・荷物チェック						その他のADL支援	14.1	1.7%
起居移動移乗(室内)						イベント等企画	11.5	1.4%
食事介助・水分摂取支援						起居移動移乗(室内)	11.2	1.4%
相談(利用者本人)						睡眠環境整備	10.0	1.2%
戸締まり, 火の始末, 防災						健康状態チェック(バイタル・血圧等)	9.6	1.2%
睡眠環境整備						体位交換	9.5	1.2%
相談(利用者家族等)						申し送り	7.4	0.9%
食事摂取量観察・記録						傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	6.2	0.8%
その他のADL支援						洗濯支援	5.3	0.7%
整理整頓						介護計画作成	4.8	0.6%
挨拶・日常会話・話し相手						調理支援	4.3	0.5%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)						シフト作成及び変更	4.1	0.5%
						相談(利用者本人)	4.0	0.5%
						ごみの処理	3.9	0.5%
						食品の管理・整理	3.8	0.5%
						送迎	3.6	0.5%
						整理整頓	3.1	0.4%
						職員間業務調整	3.1	0.4%
						その他の生活支援	2.6	0.3%
						清拭	2.5	0.3%
						居室等掃除	2.2	0.3%
						行事・イベント・レクリエーション参加支援	2.2	0.3%
						手洗い	2.1	0.3%
						洗濯代行	1.7	0.2%
						その他のコミュニケーション	1.4	0.2%
						起居移動移乗(室外)	1.1	0.1%
						持ち物確認・荷物チェック	1.1	0.1%
						戸締まり, 火の始末, 防災	1.0	0.1%
						ポータブルトイレ清掃		0.1%
						入浴・清拭準備		0.1%
						スタッフの相談		0.1%
						来訪者対応		0.1%
						買物代行		0.1%
						その他の医療的ケア		0.1%
						他職種との連絡調整		0.0%
						通信支援(電話・FAX)		0.0%
						身体機能向上訓練		0.0%
						医療機関との連絡調整		0.0%
不明		7.7%	不明		0.0%	不明		4.3%

図表4-34 日勤帯以外の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護・複合型サービス・定期巡回・随時対応型訪問介護看護）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤以外 全体			日勤以外			日勤以外		
事業所平均の業務時間(分)		888.9	事業所平均の業務時間(分)		915.0	事業所平均の業務時間(分)		1481.3
常勤換算職員数(人)		1.0	常勤換算職員数(人)		1.0	常勤換算職員数(人)		1.6
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
挨拶・日常会話・話し相手	93.4	10.4%	見守り	167.6	18.6%	挨拶・日常会話・話し相手	188.8	21.0%
見守り	64.3	7.1%	挨拶・後片付け	151.4	16.8%	移動	71.6	8.0%
掃除・点検・後片付け	64.1	7.1%	介護記録作成	84.0	9.3%	服薬(確認・介助・指導)	65.7	7.3%
待機・仮眠・休憩	59.1	6.6%	起居移動移乗(室内)	60.9	6.8%	介護記録作成	50.1	5.6%
介護記録作成	57.1	6.3%	着替え介助	53.5	5.9%	食事介助・水分摂取支援	39.2	4.4%
その他の業務	43.2	4.8%	待機・仮眠・休憩	51.0	5.7%	その他書類作成・記録	34.7	3.9%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	41.1	4.6%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	43.4	4.8%	待機・仮眠・休憩	34.4	3.8%
送迎	38.1	4.2%	その他のADL支援	40.6	4.5%	その他のコミュニケーション	29.8	3.3%
配膳・下膳	37.9	4.2%	その他書類作成・記録	40.6	4.5%	配膳・下膳	29.7	3.3%
着替え介助	37.3	4.1%	食事摂取量観察・記録	34.2	3.8%	手洗い	25.1	2.8%
服薬(確認・介助・指導)	28.5	3.2%	配膳・下膳	25.0	2.8%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	24.8	2.8%
食事介助・水分摂取支援	26.5	2.9%	体位交換	18.9	2.1%	着替え介助	22.9	2.5%
入眠・起床介助	24.3	2.7%	食事介助・水分摂取支援	16.4	1.8%	起居移動移乗(室内)	21.7	2.4%
その他書類作成・記録	24.0	2.7%	手洗い	15.2	1.7%	その他の業務	16.6	1.8%
食事摂取量観察・記録	20.8	2.3%	服薬(確認・介助・指導)	13.3	1.5%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	16.4	1.8%
調理代行	20.7	2.3%	掃除・点検・後片付け	12.3	1.4%	入眠・起床介助	15.7	1.7%
挨拶・日常会話・話し相手	14.2	1.6%	送迎	11.7	1.3%	その他のADL支援	15.1	1.7%
その他のADL支援	14.0	1.6%	食品の管理・整理	7.4	0.8%	申し送り	15.1	1.7%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	12.9	1.4%	その他のコミュニケーション	7.4	0.8%	体位交換	13.2	1.5%
起居移動移乗(室内)	11.6	1.3%	その他の業務	7.4	0.8%	給付事務	10.0	1.1%
イベント等企画	10.8	1.2%	睡眠環境整備	5.5	0.6%	掃除・点検・後片付け	9.7	1.1%
睡眠環境整備	9.9	1.1%	洗濯代行	4.9	0.5%	その他の生活支援	8.8	1.0%
体位交換	9.3	1.0%	申し送り	4.9	0.5%	ごみの処理	8.8	1.0%
申し送り	7.0	0.8%	調理代行	3.7	0.4%	ポータブルトイレ清掃	8.4	0.9%
その他の生活支援	6.4	0.7%	起居移動移乗(室外)	2.5	0.3%	居室等掃除	8.1	0.9%
洗濯支援	6.0	0.7%	相談(利用者本人)	2.5	0.3%	食事摂取量観察・記録	7.6	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.8	0.6%	相談(利用者家族等)	2.5	0.3%	起居移動移乗(室外)	7.0	0.8%
介護計画作成	4.6	0.5%	挨拶・日常会話・話し相手	2.5	0.3%	見守り	6.8	0.8%
相談(利用者本人)	4.4	0.5%	その他の生活支援	1.8	0.2%	その他の医療的ケア	6.6	0.7%
調理支援	4.0	0.4%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	1.6	0.2%	戸締まり, 火の始末, 防災	6.4	0.7%
ごみの処理	4.0	0.4%	清拭	1.4	0.2%	清拭	5.2	0.6%
シフト作成及び変更	3.9	0.4%	入眠・起床介助	1.2	0.1%	挨拶・日常会話・話し相手	4.3	0.5%
ポータブルトイレ清掃	3.6	0.4%	職員間業務調整	1.2	0.1%	送迎	4.1	0.5%
食品の管理・整理	3.5	0.4%	戸締まり, 火の始末, 防災	0.1%	0.1%	他職種との連絡調整	2.9	0.3%
整理整頓	3.2	0.4%	その他の医療的ケア	0.1%	0.1%	シフト作成及び変更	2.8	0.3%
職員間業務調整	2.9	0.3%				介護計画作成	2.4	0.3%
清拭	2.6	0.3%				調理支援	2.3	0.3%
居室等掃除	2.5	0.3%				傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	2.1	0.2%
手洗い	2.2	0.2%				職員間業務調整	1.7	0.2%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	2.0	0.2%				その他の機関連携	1.1	0.1%
持ち物確認・荷物チェック	1.9	0.2%				睡眠環境整備	1.1	0.1%
洗濯代行	1.6	0.2%				相談(利用者本人)	0.1%	0.1%
戸締まり, 火の始末, 防災	1.5	0.2%				その他の機能訓練・アクティビティ	0.1%	0.1%
その他のコミュニケーション	1.3	0.1%				洗濯代行	0.0%	0.0%
起居移動移乗(室外)	1.3	0.1%				洗濯支援	0.0%	0.0%
その他の医療的ケア	1.0	0.1%				整理整頓	0.0%	0.0%
入浴・清拭準備	0.1%	0.1%				通信支援(電話・FAX)	0.0%	0.0%
スタッフの相談	0.1%	0.1%				入浴介助	0.0%	0.0%
来訪者対応	0.1%	0.1%						
買物代行	0.1%	0.1%						
相談(利用者家族等)	0.0%	0.0%						
他職種との連絡調整	0.0%	0.0%						
通信支援(電話・FAX)	0.0%	0.0%						
身体機能向上訓練	0.0%	0.0%						
医療機関との連絡調整	0.0%	0.0%						
不明		6.2%	不明		0.0%	不明		5.3%

図表4-35 日勤帯以外の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設）

小規模多機能(再掲) n=30			介護老人福祉施設 n=13		
日勤以外 全体			日勤以外		
事業所平均の業務時間(分)			施設平均の業務時間(分)		
常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)		
業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	93.4	10.4%	排せつ介助	158.5	17.6%
見守り	64.3	7.1%	食事介助・水分摂取支援	80.5	8.9%
掃除・点検・後片付け	64.1	7.1%	配膳・下膳	61.5	6.8%
待機・仮眠・休憩	59.1	6.6%	介護記録作成	60.3	6.7%
介護記録作成	57.1	6.3%	体位交換	59.8	6.6%
その他の業務	43.2	4.8%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	53.5	5.9%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	41.1	4.6%	待機・仮眠・休憩	43.1	4.8%
送迎	38.1	4.2%	見守り	42.7	4.7%
配膳・下膳	37.9	4.2%	起居移動移乗(室内)	40.5	4.5%
着替え介助	37.3	4.1%	食事摂取量観察・記録	36.5	4.1%
服薬(確認・介助・指導)	28.5	3.2%	着替え介助	33.8	3.7%
食事介助・水分摂取支援	26.5	2.9%	入眠・起床介助	29.1	3.2%
入眠・起床介助	24.3	2.7%	服薬(確認・介助・指導)	29.0	3.2%
その他書類作成・記録	24.0	2.7%	掃除・点検・後片付け	21.1	2.3%
食事摂取量観察・記録	20.8	2.3%	申し送り	17.0	1.9%
調理代行	20.7	2.3%	その他書類作成・記録	13.6	1.5%
挨拶・日常会話・話し相手	14.2	1.6%	その他のADL支援	11.1	1.2%
その他のADL支援	14.0	1.6%	その他の業務	9.8	1.1%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	12.9	1.4%	洗濯支援	7.4	0.8%
起居移動移乗(室内)	11.6	1.3%	その他の生活支援	6.9	0.8%
イベント等企画	10.8	1.2%	介護計画作成	6.6	0.7%
睡眠環境整備	9.9	1.1%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.6	0.6%
体位交換	9.3	1.0%	食品の管理・整理	5.4	0.6%
申し送り	7.0	0.8%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	5.3	0.6%
その他の生活支援	6.4	0.7%	手洗い	5.0	0.6%
洗濯支援	6.0	0.7%	ポータブルトイレ清掃	3.9	0.4%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.8	0.6%	ごみの処理	3.6	0.4%
介護計画作成	4.6	0.5%	清拭	3.6	0.4%
相談(利用者本人)	4.4	0.5%	起居移動移乗(室外)	3.6	0.4%
調理支援	4.0	0.4%	睡眠環境整備	3.3	0.4%
ごみの処理	4.0	0.4%	整理整頓	3.0	0.3%
シフト作成及び変更	3.9	0.4%	洗濯代行	2.8	0.3%
ポータブルトイレ清掃	3.6	0.4%	挨拶・日常会話・話し相手	2.5	0.3%
食品の管理・整理	3.5	0.4%	居室等掃除	2.0	0.2%
整理整頓	3.2	0.4%	他職種との連絡調整	1.8	0.2%
職員間業務調整	2.9	0.3%	体調急変時の対応	1.6	0.2%
清拭	2.6	0.3%	医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	1.3	0.1%
居室等掃除	2.5	0.3%	イベント等企画	1.2	0.1%
手洗い	2.2	0.2%	その他のコミュニケーション	1.0	0.1%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	2.0	0.2%	調理支援	1.0	0.1%
持ち物確認・荷物チェック	1.9	0.2%	代筆代読	1.0	0.1%
洗濯代行	1.6	0.2%	戸締まり、火の始末、防災		0.1%
戸締まり、火の始末、防災	1.5	0.2%	職員間業務調整		0.1%
その他のコミュニケーション	1.3	0.1%	BPSDへの対応		0.1%
起居移動移乗(室外)	1.3	0.1%	送迎		0.0%
その他の医療的ケア	1.0	0.1%	相談(利用者本人)		0.0%
入浴・清拭準備	0.1%	0.1%	スタッフの相談		0.0%
スタッフの相談	0.1%	0.1%	移動		0.0%
来訪者対応	0.1%	0.1%	入浴・清拭準備		0.0%
買物代行	0.1%	0.1%	その他の医療的ケア		0.0%
相談(利用者家族等)	0.0%	0.0%	相談(利用者家族等)		0.0%
他職種との連絡調整	0.0%	0.0%			
通信支援(電話・FAX)	0.0%	0.0%			
身体機能向上訓練	0.0%	0.0%			
医療機関との連絡調整	0.0%	0.0%			
不明		6.2%	不明		1.7%

③ 一般介護職員：日勤帯の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合（一般介護職員・日勤）

一般介護職員を対象として日勤帯以外における一般介護職員・事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-36から図表4-38に示した。

図表4-36 日勤帯一般介護職員の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護提供場所別）

小規模多機能型居宅介護事業所 n=30								
日勤 一般介護職員 場所:自宅		日勤 一般介護職員 場所:自宅外事業所外		日勤 一般介護職員 場所:事業所内				
事業所平均の業務時間(分)		142.8	事業所平均の業務時間(分)		130.2	事業所平均の業務時間(分)		1581.8
事業所平均の業務割合(%)		7.7%	事業所平均の業務割合(%)		7.0%	事業所平均の業務割合(%)		85.3%
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
送迎	11.9	31.8%	送迎	19.9	58.5%	入浴介助	35.1	8.5%
配膳・下膳	4.6	12.4%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	2.0	5.8%	排せつ介助	30.1	7.3%
その他の生活支援	1.5	4.1%	その他の業務	1.6	4.8%	挨拶・日常会話・話し相手	27.6	6.7%
排せつ介助	1.5	3.9%	その他の生活支援	1.2	3.7%	配膳・下膳	26.7	6.5%
戸締まり、火の始末、防災	1.3	3.5%	移動	1.1	3.1%	食事介助・水分摂取支援	23.2	5.8%
ごみの処理	1.2	3.2%	待機・仮眠・休憩	1.0	3.1%	見守り	22.7	5.5%
服薬(確認・介助・指導)	1.2	3.1%	挨拶・日常会話・話し相手	2.5%	7.5%	介護記録作成	19.4	4.7%
着替え介助	1.1	3.1%	戸締まり、火の始末、防災	1.8%	5.4%	レク参加	15.5	3.8%
起居移動移乗(室内)	1.1	3.0%	買物代行	1.7%	5.1%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	15.4	3.7%
持ち物確認・荷物チェック	1.1	2.9%	会議への出席(地域ケア会議等)	1.5%	4.6%	申し送り	13.2	3.2%
居室等掃除	1.1	2.9%	相談(利用者家族等)	1.4%	4.3%	待機・仮眠・休憩	12.6	3.1%
見守り	1.1	2.9%	体調急変時の対応	1.4%	4.3%	掃除・点検・後片付け	12.5	3.0%
ポータブルトイレ清掃		2.4%	食事介助・水分摂取支援	1.0%	3.0%	その他の業務	11.8	2.9%
挨拶・日常会話・話し相手		1.9%	ポータブルトイレ清掃	0.9%	2.7%	入浴・清拭準備	10.2	2.5%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)		1.9%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	0.8%	2.4%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	8.9	2.1%
その他のADL支援		1.9%	排せつ介助	0.8%	2.4%	着替え介助	8.4	2.0%
相談(利用者本人)		1.5%	散歩付き添い	0.8%	2.4%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、髪髪)	8.2	2.0%
入浴・清拭準備		1.1%	持ち物確認・荷物チェック	0.7%	2.1%	起居移動移乗(室内)	7.6	1.8%
買物代行		1.1%	その他の医療的ケア	0.6%	1.8%	食事摂取量観察・記録	7.3	1.8%
洗濯支援		1.1%	服薬(確認・介助・指導)	0.5%	1.5%	服薬(確認・介助・指導)	5.9	1.4%
調理代行		1.0%	食品の管理・整理	0.4%	1.2%	その他書類作成・記録	5.6	1.4%
洗濯代行		0.9%	配膳・下膳	0.4%	1.2%	居室等掃除	5.6	1.4%
掃除・点検・後片付け		0.9%	相談(利用者本人)	0.4%	1.2%	その他のコミュニケーション	5.2	1.2%
整理整頓		0.9%	健康相談・指導	0.4%	1.2%	調理代行	5.0	1.2%
起居移動移乗(室外)		0.9%	その他のコミュニケーション	0.4%	1.1%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.4	1.1%
食品の管理・整理		0.8%	金銭管理代行	0.3%	0.9%	調理支援	3.8	0.9%
入浴介助		0.8%	洗濯支援	0.3%	0.8%	その他の生活支援	3.2	0.8%
食事摂取量観察・記録		0.6%	ごみの処理	0.3%	0.8%	身体機能向上訓練	3.1	0.8%
その他のコミュニケーション		0.6%	掃除・点検・後片付け	0.3%	0.8%	食品の管理・整理	2.7	0.6%
食事介助・水分摂取支援		0.5%	起居移動移乗(室内)	0.2%	0.6%	整理整頓	2.5	0.6%
BPSDへの対応		0.5%	起居移動移乗(室外)	0.1%	0.3%	その他の機能訓練・アクティビティ	2.5	0.6%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		0.4%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	0.1%	0.3%	趣味活動(室内)支援	2.4	0.6%
清拭		0.3%	手洗い	0.3%	0.8%	その他のADL支援	2.2	0.5%
相談(利用者家族等)		0.3%	その他のADL支援	0.3%	0.8%	起居移動移乗(室外)	2.2	0.5%
その他書類作成・記録		0.3%	その他書類作成・記録	0.3%	0.8%	送迎	2.1	0.5%
移動		0.1%				洗濯支援	2.1	0.5%
手洗い		0.0%				持ち物確認・荷物チェック	2.1	0.5%
						洗濯代行	2.1	0.5%
						事例検討・カンファレンス	2.0	0.5%
						職員間業務調整	1.6	0.4%
						ごみの処理	1.5	0.4%
						地域との交流、行事参加	1.2	0.3%
						睡眠環境整備	1.2	0.3%
						移動	1.2	0.3%
						入眠・起床介助	1.0	0.2%
						その他の医療的ケア	1.0	0.2%
						手洗い	1.0	0.2%
						ポータブルトイレ清掃	0.2%	
						相談(利用者本人)	0.2%	
						体調急変時の対応	0.2%	
						認知機能向上訓練	0.1%	
						BPSDへの対応	0.1%	
						生活機能向上訓練	0.1%	
						相談(利用者家族等)	0.1%	
						健康相談・指導	0.1%	
						他職種との連絡調整	0.1%	
						医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.1%	
						清拭	0.1%	
						戸締まり、火の始末、防災	0.1%	
						金銭管理代行	0.1%	
						介護計画作成	0.0%	
						イベント等企画	0.0%	
						来訪者対応	0.0%	
						ボランティア・実習生対応	0.0%	
						体位交換	0.0%	
						買物代行	0.0%	
						医療機関との連絡調整	0.0%	
						部下への指示	0.0%	
						通信支援(電話・FAX)	0.0%	
						金銭管理支援	0.0%	
不明		1.4%	不明		1.4%	不明		3.1%

図表4-37 日勤帯一般介護職員の平均業務所要時間の割合（複合型サービス・定期巡回・随時対応型）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤 一般介護職員 全体			日勤 一般介護職員			日勤 一般介護職員		
事業所平均の業務時間(分)		2069.1	事業所平均の業務時間(分)		1620.0	事業所平均の業務時間(分)		1347.0
常勤換算職員数(人)		3.8	常勤換算職員数(人)		3.0	常勤換算職員数(人)		2.5
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
入浴介助	36.9	6.8%	入浴介助	69.6	12.9%	排せつ介助	50.8	9.4%
送迎	34.9	6.5%	排せつ介助	38.4	7.1%	移動	36.0	6.7%
配膳・下膳	33.3	6.2%	着替え介助	37.6	7.0%	居室等掃除	30.8	5.7%
排せつ介助	32.8	6.1%	見守り	37.1	6.9%	配膳・下膳	27.8	5.1%
挨拶・日常会話・話し相手	29.8	5.5%	待機・仮眠・休憩	28.7	4.9%	その他書類作成・記録	26.8	5.0%
食事介助・水分摂取支援	24.4	4.5%	入浴・清拭準備	25.4	4.7%	待機・仮眠・休憩	23.2	4.3%
見守り	24.2	4.5%	掃除・点検・後片付け	24.6	4.6%	入浴介助	23.0	4.3%
介護記録作成	20.3	3.8%	食事介助・水分摂取支援	24.1	4.5%	介護記録作成	22.5	4.2%
待機・仮眠・休憩	18.5	3.4%	手洗い	22.4	4.1%	調理支援	16.7	3.1%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	17.5	3.2%	配膳・下膳	20.9	3.9%	服薬(確認・介助・指導)	16.4	3.0%
レク参加	16.3	3.0%	送迎	20.1	3.7%	その他の業務	16.4	3.0%
掃除・点検・後片付け	14.6	2.7%	起居移動移乗(室内)	18.7	3.5%	食事介助・水分摂取支援	12.7	2.3%
その他の業務	13.9	2.6%	申し送り	16.7	3.1%	起居移動移乗(室内)	11.3	2.1%
申し送り	13.9	2.6%	介護記録作成	16.2	3.0%	買物代行	11.0	2.0%
入浴・清拭準備	10.7	2.0%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	12.9	2.4%	申し送り	9.7	1.8%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	10.3	1.9%	その他のコミュニケーション	10.6	2.0%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	7.4	1.4%
着替え介助	9.6	1.8%	食事摂取量観察・記録	9.8	1.8%	事例検討・カンファレンス	6.6	1.2%
起居移動移乗(室内)	9.3	1.7%	居室等掃除	8.4	1.6%	調理代行	6.5	1.2%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	8.7	1.6%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	7.5	1.4%	その他のADL支援	5.7	1.1%
食事摂取量観察・記録	8.1	1.5%	イベント等企画	7.5	1.4%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	5.6	1.0%
服薬(確認・介助・指導)	7.4	1.4%	ごみの処理	6.8	1.3%	入浴・清拭準備	5.0	0.9%
居室等掃除	6.6	1.2%	その他書類作成・記録	6.7	1.2%	清拭	4.5	0.8%
その他の生活支援	5.9	1.1%	挨拶・日常会話・話し相手	6.2	1.1%	ごみの処理	4.4	0.8%
その他書類作成・記録	5.7	1.1%	洗濯代行	5.8	1.1%	起居移動移乗(室外)	4.4	0.8%
調理代行	5.7	1.1%	移動	5.5	1.0%	洗濯支援	4.2	0.8%
その他のコミュニケーション	5.5	1.0%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	5.4	1.0%	掃除・点検・後片付け	4.2	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.9	0.9%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.3	1.0%	相談(利用者本人)	3.6	0.7%
食品の管理・整理	3.9	0.7%	服薬(確認・介助・指導)	4.6	0.8%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	3.5	0.6%
調理支援	3.9	0.7%	生活機能向上訓練	4.6	0.8%	送迎	3.4	0.6%
身体機能向上訓練	3.7	0.7%	その他のADL支援	3.7	0.7%	持ち物確認・荷物チェック	3.3	0.6%
持ち物確認・荷物チェック	3.4	0.6%	身体機能向上訓練	3.7	0.7%	来訪者対応	3.1	0.6%
整理整頓	3.0	0.6%	趣味活動(室内)支援	3.4	0.6%	挨拶・日常会話・話し相手	2.9	0.5%
その他のADL支援	2.9	0.5%	その他の医療的ケア	2.6	0.5%	手洗い	2.8	0.5%
ごみの処理	2.9	0.5%	レク参加	2.5	0.5%	体調急変時の対応	2.6	0.5%
洗濯支援	2.7	0.5%	その他の業務	2.5	0.5%	その他の生活支援	2.4	0.5%
起居移動移乗(室外)	2.7	0.5%	地域との交流、行事参加	2.5	0.5%	洗濯代行	2.3	0.4%
洗濯代行	2.5	0.5%	その他の生活支援	2.3	0.4%	食事摂取量観察・記録	2.3	0.4%
その他の機能訓練・アクティビティ	2.5	0.5%	清拭	1.9	0.3%	見守り	2.2	0.4%
趣味活動(室内)支援	2.4	0.5%	職員間業務調整	1.9	0.3%	介護計画作成	2.2	0.4%
移動	2.4	0.4%	他職種との連絡調整	1.5	0.3%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	2.0	0.4%
戸締まり、火の始末、防災	2.2	0.4%	洗濯支援	0.2	0.0%	整理整頓	2.0	0.4%
ポータブルトイレ清掃	2.0	0.4%	入眠・起床介助	0.2	0.0%	着替え介助	1.9	0.3%
事例検討・カンファレンス	2.0	0.4%	睡眠環境整備	0.1	0.1%	ポータブルトイレ清掃	1.9	0.3%
職員間業務調整	1.7	0.3%	散歩付き添い	0.1	0.1%	散歩付き添い	1.8	0.3%
相談(利用者本人)	1.5	0.3%				睡眠環境整備	1.8	0.3%
地域との交流、行事参加	1.2	0.2%				戸締まり、火の始末、防災	1.4	0.3%
睡眠環境整備	1.2	0.2%				その他のコミュニケーション	1.3	0.2%
その他の医療的ケア	1.2	0.2%				医療機関との連絡調整	1.3	0.2%
体調急変時の対応	1.1	0.2%				体位交換	1.1	0.2%
買物代行	1.1	0.2%				その他の医療的ケア	0.1	0.1%
相談(利用者家族等)	1.0	0.2%				その他の機関連携	0.1	0.1%
入眠・起床介助	1.0	0.2%				職員間業務調整	0.1	0.1%
手洗い	0.2	0.0%				入眠・起床介助	0.0	0.0%
BPSDへの対応	0.1	0.0%						
清拭	0.1	0.0%						
認知機能向上訓練	0.1	0.0%						
健康相談、指導	0.1	0.0%						
他職種との連絡調整	0.1	0.0%						
会議への出席(地域ケア会議等)	0.1	0.0%						
生活機能向上訓練	0.1	0.0%						
医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.1	0.0%						
金銭管理代行	0.1	0.0%						
散歩付き添い	0.0	0.0%						
介護計画作成	0.0	0.0%						
イベント等企画	0.0	0.0%						
来訪者対応	0.0	0.0%						
ボランティア・実習生対応	0.0	0.0%						
体位交換	0.0	0.0%						
医療機関との連絡調整	0.0	0.0%						
部下への指示	0.0	0.0%						
通信支援(電話・FAX)	0.0	0.0%						
金銭管理支援	0.0	0.0%						
不明		8.7%	不明		0.5%	不明		16.9%

図表4-38 日勤帯一般介護職員の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設・通所介護・訪問介護）

介護老人福祉施設 n=13			通所介護 n=10			訪問介護 n=8		
日勤 一般介護職員			日勤 一般介護職員			日勤 一般介護職員		
施設平均の業務時間(分)		6438.2	事業所平均の業務時間(分)		1513.0	事業所平均の業務時間(分)		1102.5
常勤換算職員数(人)		11.9	常勤換算職員数(人)		2.8	常勤換算職員数(人)		2.0
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	68.4	12.7%	送迎	101.9	18.9%	居室等掃除	85.5	15.8%
食事介助・水分摂取支援	51.4	9.5%	入浴介助	48.1	8.9%	移動	53.4	9.9%
入浴介助	48.8	9.0%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	34.8	6.4%	待機・仮眠・休憩	33.3	6.2%
配膳・下膳	30.1	5.6%	排せつ介助	33.3	6.2%	排せつ介助	29.5	5.5%
起居移動移乗(室内)	28.7	5.3%	レク参加	32.7	6.1%	買物代行	21.2	3.9%
待機・仮眠・休憩	22.5	4.2%	起居移動移乗(室内)	26.5	4.9%	調理代行	19.9	3.7%
見守り	22.4	4.2%	待機・仮眠・休憩	24.9	4.6%	入浴介助	19.1	3.5%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	17.7	3.3%	食事介助・水分摂取支援	24.1	4.5%	調理支援	16.7	2.9%
食事摂取量観察・記録	16.9	3.1%	着替え介助	19.6	3.6%	ごみの処理	14.6	2.7%
介護記録作成	16.2	3.0%	配膳・下膳	17.1	3.2%	介護記録作成	14.5	2.7%
掃除・点検・後片付け	13.1	2.4%	掃除・点検・後片付け	16.6	3.1%	申し送り	14.3	2.6%
挨拶・日常会話・話し相手	12.6	2.3%	挨拶・日常会話・話し相手	16.5	3.1%	洗濯支援	13.5	2.5%
入浴・清拭準備	12.5	2.3%	申し送り	11.7	2.2%	掃除・点検・後片付け	11.6	2.2%
居室等掃除	10.1	1.9%	その他書類作成・記録	10.3	1.9%	戸締まり、火の始末、防災	10.8	2.0%
着替え介助	8.7	1.6%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	10.0	1.8%	ボータブルトイレ清掃	10.3	1.9%
送迎	8.4	1.6%	入浴・清拭準備	9.2	1.7%	着替え介助	10.2	1.9%
申し送り	8.2	1.5%	食事摂取量観察・記録	7.5	1.4%	清拭	9.3	1.7%
レク参加	7.8	1.5%	その他の機能訓練・アクティビティ	7.1	1.3%	職員間業務調整	9.2	1.7%
その他の生活支援	6.9	1.3%	持ち物確認・荷物チェック	6.5	1.2%	整理整頓	9.1	1.7%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	6.8	1.3%	見守り	6.0	1.1%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	9.1	1.7%
服薬(確認・介助・指導)	6.5	1.2%	戸締まり、火の始末、防災	4.9	0.9%	その他のADL支援	8.3	1.5%
その他のADL支援	5.9	1.1%	その他の業務	4.8	0.9%	食事介助・水分摂取支援	8.1	1.5%
その他のコミュニケーション	5.1	0.9%	BPSDへの対応	4.6	0.8%	その他書類作成・記録	7.8	1.4%
ごみの処理	4.0	0.7%	食品の管理・整理	4.5	0.8%	入浴・清拭準備	7.4	1.4%
体位交換	3.8	0.7%	趣味活動(室内)支援	4.5	0.8%	服薬(確認・介助・指導)	7.2	1.3%
清拭	3.6	0.7%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	3.9	0.7%	洗濯代行	6.4	1.2%
食品の管理・整理	3.5	0.7%	身体機能向上訓練	3.5	0.6%	その他の生活支援	6.1	1.1%
その他の業務	3.5	0.6%	介護記録作成	3.4	0.6%	配膳・下膳	6.0	1.1%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	3.4	0.6%	その他のコミュニケーション	3.2	0.6%	その他の業務	5.7	1.1%
身体機能向上訓練	3.2	0.6%	起居移動移乗(室外)	2.8	0.5%	挨拶・日常会話・話し相手	5.6	1.0%
持ち物確認・荷物チェック	3.0	0.6%	調理支援	2.7	0.5%	手洗い	4.8	0.9%
入眠・起床介助	2.9	0.5%	整理整頓	2.1	0.4%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	4.7	0.9%
整理整頓	2.9	0.5%	居室等掃除	2.0	0.4%	介護計画作成	4.6	0.9%
起居移動移乗(室外)	2.8	0.5%	その他のADL支援	1.8	0.3%	持ち物確認・荷物チェック	4.4	0.8%
その他書類作成・記録	2.7	0.5%	洗濯代行	1.6	0.3%	食事摂取量観察・記録	3.4	0.6%
洗濯支援	2.7	0.5%	入眠・起床介助	1.4	0.3%	送迎	3.4	0.6%
手洗い	2.4	0.4%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.2	0.2%	起居移動移乗(室内)	3.3	0.6%
睡眠環境整備	2.1	0.4%	散歩付き添い	1.1	0.2%	体位交換	1.8	0.3%
ボータブルトイレ清掃	2.0	0.4%	相談(利用者本人)	0.1	0.1%	医療機関との連絡調整	1.5	0.3%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	2.0	0.4%	睡眠環境整備	0.1	0.1%	睡眠環境整備	1.4	0.3%
他職種との連絡調整	1.7	0.3%	洗濯支援	0.1	0.1%	見守り	1.4	0.3%
会議への出席(地域ケア会議等)	1.5	0.3%	職員間業務調整	0.0	0.0%	スタッフ教育・指導	1.2	0.2%
洗濯代行	1.5	0.3%	移動	0.0	0.0%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	0.2	0.1%
その他の機能訓練・アクティビティ	1.2	0.2%	手洗い	0.0	0.0%	その他の機能訓練・アクティビティ	0.1	0.1%
趣味活動(室内)支援	1.1	0.2%				他職種との連絡調整	0.0	0.0%
事例検討・カンファレンス	1.0	0.2%				部下への指示	0.0	0.0%
移動	0.2	0.2%						
散歩付き添い	0.2	0.2%						
生活機能向上訓練	0.2	0.2%						
職員間業務調整	0.2	0.2%						
イベント等企画	0.1	0.1%						
その他の医療的ケア	0.1	0.1%						
医療機関との連絡調整	0.1	0.1%						
認知機能向上訓練	0.1	0.1%						
来訪者対応	0.1	0.1%						
地域との交流、行事参加	0.1	0.1%						
戸締まり、火の始末、防災	0.1	0.1%						
相談(利用者家族等)	0.0	0.0%						
相談(利用者本人)	0.0	0.0%						
介護計画作成	0.0	0.0%						
BPSDへの対応	0.0	0.0%						
体調急変時の対応	0.0	0.0%						
調理支援	0.0	0.0%						
調理代行	0.0	0.0%						
ボランティア・実習生対応	0.0	0.0%						
医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.0	0.0%						
部下への指示	0.0	0.0%						
洗腸摘便	0.0	0.0%						
その他の機関連携	0.0	0.0%						
家族へのサービス・支援	0.0	0.0%						
代筆代読	0.0	0.0%						
健康相談、指導	0.0	0.0%						
不明		6.7%	不明		0.0%	不明		3.6%

④ 日勤帯以外の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合（一般介護職員・日勤以外）

日勤帯以外における事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-39から図表4-41に示した。

図表4-39 日勤帯以外一般介護職員の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護・提供場所別）

小規模多機能型居宅介護事業所 n=30																	
日勤帯以外 一般介護職員 場所: 自宅			日勤以外 一般介護職員 場所: 自宅外事業所外			日勤以外 一般介護職員 場所: 事業所内											
事業所平均の業務時間(分)			50.1			事業所平均の業務時間(分)			12.8			事業所平均の業務時間(分)			624.8		
事業所平均の業務割合(%)			7.3%			事業所平均の業務割合(%)			1.9%			事業所平均の業務割合(%)			90.9%		
業務内容		分	%	業務内容		分	%	業務内容		分	%						
送迎		9.8	20.0%	送迎		7.2	78.1%	排せつ介助		53.5	11.7%						
排せつ介助		5.3	14.6%	服薬(確認・介助・指導)				待機・仮眠・休憩		37.5	8.2%						
入眠・起床介助		2.5	6.7%	介護記録作成				見守り		36.3	7.9%						
配膳・下膳		2.3	6.3%	掃除・点検・後片付け				掃除・点検・後片付け		34.5	7.5%						
着替え介助		2.3	6.2%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)				その他の業務		28.5	6.2%						
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)		1.7	4.5%	買物代行				介護記録作成		28.0	6.1%						
服薬(確認・介助・指導)		1.6	4.3%	着替え介助				洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)		21.6	4.7%						
調理代行		1.4	3.9%	体位交換				着替え介助		21.1	4.6%						
その他の生活支援		1.0	2.8%	清拭				配膳・下膳		17.0	3.8%						
見守り				排せつ介助				服薬(確認・介助・指導)		14.3	3.1%						
洗濯支援				入眠・起床介助				食事介助・水分摂取支援		13.5	2.9%						
体位交換				調理代行				その他書類作成・記録		13.5	2.9%						
待機・仮眠・休憩				見守り				入眠・起床介助		11.8	2.6%						
持ち物確認・荷物チェック				ごみの処理				食事摂取量観察・記録		11.2	2.4%						
起居移動移乗(室内)								調理代行		11.0	2.4%						
ポータブルトイレ清掃								イベント等企画		7.8	1.7%						
清拭								起居移動移乗(室内)		7.3	1.6%						
睡眠環境整備								挨拶・日常会話・話し相手		7.1	1.5%						
ごみの処理								その他のADL支援		6.9	1.5%						
戸締まり, 火の始末, 防災								体位交換		5.1	1.1%						
整理整頓								睡眠環境整備		5.0	1.1%						
相談(利用者家族等)								健康状態チェック(バイタル・血圧等)		5.0	1.1%						
挨拶・日常会話・話し相手								申し送り		4.6	1.0%						
健康状態チェック(バイタル・血圧等)								傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		4.1	0.9%						
買物代行								洗濯支援		3.5	0.8%						
掃除・点検・後片付け								介護計画作成		3.3	0.7%						
								調理支援		2.4	0.5%						
								ごみの処理		2.0	0.4%						
								整理整頓		1.8	0.4%						
								相談(利用者本人)		1.6	0.4%						
								食品の管理・整理		1.6	0.3%						
								送迎		1.5	0.3%						
								居室等掃除		1.5	0.3%						
								清拭		1.4	0.3%						
								職員間業務調整		1.2	0.3%						
								その他のコミュニケーション		1.0	0.2%						
								手洗い		0.2	0.0%						
								持ち物確認・荷物チェック		0.2	0.0%						
								戸締まり, 火の始末, 防災		0.1	0.0%						
								入浴・清拭準備		0.1	0.0%						
								その他の生活支援		0.1	0.0%						
								ポータブルトイレ清掃		0.1	0.0%						
								スタッフの相談		0.1	0.0%						
								来訪者対応		0.1	0.0%						
								その他の医療的ケア		0.1	0.0%						
								洗濯代行		0.1	0.0%						
								起居移動移乗(室外)		0.0	0.0%						
								買物代行		0.0	0.0%						
								医療機関との連絡調整		0.0	0.0%						
不明			7.0%	不明			0.0%	不明			4.9%						

図表4-40 日勤帯以外一般介護職員の平均業務所要時間の割合（複合型サービス・定期巡回・随時対応型）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤以外 一般介護職員 全体			日勤以外 一般介護職員			日勤以外 一般介護職員		
事業所平均の業務時間(分)		736.9	事業所平均の業務時間(分)		1620.0	事業所平均の業務時間(分)		910.7
常勤換算職員数(人)		1.4	常勤換算職員数(人)		3.0	常勤換算職員数(人)		1.7
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	56.8	10.9%	見守り	122.8	22.7%	排せつ介助	140.7	26.1%
見守り	41.8	7.7%	排せつ介助	78.4	14.5%	服薬(確認・介助・指導)	47.2	8.7%
待機・仮眠・休憩	39.9	7.4%	待機・仮眠・休憩	39.1	7.2%	移動	30.9	5.7%
掃除・点検・後片付け	35.2	6.5%	その他のADL支援	31.1	5.8%	介護記録作成	24.8	4.6%
介護記録作成	33.0	6.1%	その他書類作成・記録	31.1	5.8%	手洗い	23.9	4.4%
その他の業務	28.5	5.3%	介護記録作成	30.5	5.6%	配膳・下膳	19.9	3.7%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	23.8	4.4%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	28.1	5.2%	食事介助・水分摂取支援	19.7	3.7%
着替え介助	23.7	4.4%	食事摂取量観察・記録	24.8	4.6%	待機・仮眠・休憩	16.8	3.1%
配膳・下膳	22.9	4.2%	着替え介助	23.1	4.3%	着替え介助	16.6	3.1%
送迎	21.6	4.0%	起居移動移乗(室内)	18.4	3.4%	その他書類作成・記録	15.2	2.8%
服薬(確認・介助・指導)	16.6	3.1%	配膳・下膳	17.7	3.3%	起居移動移乗(室内)	13.5	2.5%
調理代行	15.0	2.8%	体位交換	14.5	2.7%	その他の業務	12.4	2.3%
入眠・起床介助	14.3	2.6%	食事介助・水分摂取支援	12.6	2.3%	入眠・起床介助	12.3	2.3%
食事介助・水分摂取支援	13.5	2.5%	手洗い	11.6	2.2%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	11.6	2.2%
その他書類作成・記録	13.5	2.5%	送迎	9.0	1.7%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	10.9	2.0%
食事摂取量観察・記録	11.6	2.1%	服薬(確認・介助・指導)	8.8	1.6%	掃除・点検・後片付け	7.5	1.4%
イベント等企画	7.8	1.4%	食品の管理・整理	5.7	1.0%	居室等掃除	7.5	1.4%
起居移動移乗(室内)	7.8	1.4%	その他のコミュニケーション	5.7	1.0%	ごみの処理	7.2	1.3%
挨拶・日常会話・話し相手	7.2	1.3%	睡眠環境整備	4.2	0.8%	見守り	6.1	1.1%
その他のADL支援	6.9	1.3%	洗濯代行	3.8	0.7%	その他の生活支援	6.1	1.1%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	6.3	1.2%	掃除・点検・後片付け	3.8	0.7%	食事摂取量観察・記録	5.4	1.0%
体位交換	5.8	1.1%	その他の業務	3.8	0.7%	その他のADL支援	5.2	1.0%
睡眠環境整備	5.4	1.0%	調理代行	2.8	0.5%	戸締まり, 火の始末, 防災	4.9	0.9%
申し送り	4.6	0.8%	起居移動移乗(室外)	1.9	0.3%	その他の医療的ケア	4.7	0.9%
洗濯支援	4.2	0.8%	その他の生活支援	1.4	0.3%	ポータブルトイレ清掃	4.6	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.1	0.8%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	1.3	0.2%	起居移動移乗(室外)	4.0	0.7%
介護計画作成	3.3	0.6%	清拭	1.1	0.2%	送迎	4.0	0.7%
調理支援	2.4	0.5%	入眠・起床介助	0.2	0.0%	清拭	3.9	0.7%
その他の生活支援	2.4	0.4%	申し送り	0.2	0.0%	体位交換	3.5	0.7%
ごみの処理	2.3	0.4%	戸締まり, 火の始末, 防災	0.1	0.0%	挨拶・日常会話・話し相手	3.4	0.6%
ポータブルトイレ清掃	2.0	0.4%	その他の医療的ケア	0.1	0.0%	申し送り	2.9	0.5%
整理整頓	2.0	0.4%				傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.8	0.3%
居室等掃除	1.8	0.3%				相談(利用者本人)	0.2	0.0%
清拭	1.8	0.3%				その他の機能訓練・アクティビティ	0.1	0.0%
相談(利用者本人)	1.6	0.3%				睡眠環境整備	0.1	0.0%
食品の管理・整理	1.6	0.3%				他職種との連絡調整	0.1	0.0%
持ち物確認・荷物チェック	1.3	0.2%				洗濯代行	0.1	0.0%
職員間業務調整	1.2	0.2%				調理支援	0.0	0.0%
その他のコミュニケーション	0.2	0.0%				洗濯支援	0.0	0.0%
戸締まり, 火の始末, 防災	0.2	0.0%				入浴介助	0.0	0.0%
手洗い	0.2	0.0%						
入浴・清拭準備	0.1	0.0%						
スタッフの相談	0.1	0.0%						
来訪者対応	0.1	0.0%						
買物代行	0.1	0.0%						
その他の医療的ケア	0.1	0.0%						
洗濯代行	0.1	0.0%						
起居移動移乗(室外)	0.0	0.0%						
相談(利用者家族等)	0.0	0.0%						
医療機関との連絡調整	0.0	0.0%						
不明			不明		0.5%	不明		6.9%

図表4-41 日勤帯以外一般介護職員の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設）

小規模多機能(再掲) n=30			介護老人福祉施設 n=13		
日勤以外 一般介護職員 全体			日勤以外 一般介護職員		
事業所平均の業務時間(分)		736.9	施設平均の業務時間(分)		2781.8
常勤換算職員数(人)		1.4	常勤換算職員数(人)		5.2
業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	58.8	10.9%	排せつ介助	94.4	17.5%
見守り	41.8	7.7%	食事介助・水分摂取支援	48.0	8.9%
待機・仮眠・休憩	39.9	7.4%	配膳・下膳	38.7	7.2%
掃除・点検・後片付け	35.2	6.5%	体位交換	37.2	6.9%
介護記録作成	33.0	6.1%	介護記録作成	34.7	6.4%
その他の業務	28.5	5.3%	待機・仮眠・休憩	29.7	5.5%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	23.8	4.4%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	28.2	5.2%
着替え介助	23.7	4.4%	見守り	23.9	4.4%
配膳・下膳	22.9	4.2%	起居移動移乗(室内)	23.8	4.4%
送迎	21.6	4.0%	食事摂取量観察・記録	21.1	3.9%
服薬(確認・介助・指導)	16.6	3.1%	着替え介助	19.4	3.6%
調理代行	15.0	2.8%	入眠・起床介助	17.9	3.3%
入眠・起床介助	14.3	2.6%	服薬(確認・介助・指導)	16.3	3.0%
食事介助・水分摂取支援	13.5	2.5%	掃除・点検・後片付け	16.2	3.0%
その他書類作成・記録	13.5	2.5%	申し送り	11.0	2.0%
食事摂取量観察・記録	11.6	2.1%	その他書類作成・記録	8.4	1.6%
イベント等企画	7.8	1.4%	その他のADL支援	6.6	1.2%
起居移動移乗(室内)	7.8	1.4%	その他の生活支援	5.2	1.0%
挨拶・日常会話・話し相手	7.2	1.3%	洗濯支援	5.2	1.0%
その他のADL支援	6.9	1.3%	その他の業務	5.1	1.0%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	6.3	1.2%	介護計画作成	4.4	0.8%
体位交換	5.8	1.1%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	4.1	0.8%
睡眠環境整備	5.4	1.0%	食品の管理・整理	3.6	0.7%
申し送り	4.6	0.8%	起居移動移乗(室外)	3.1	0.6%
洗濯支援	4.2	0.8%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	3.1	0.6%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.1	0.8%	ポータブルトイレ清掃	2.1	0.4%
介護計画作成	3.3	0.6%	ごみの処理	2.0	0.4%
調理支援	2.4	0.5%	睡眠環境整備	1.9	0.3%
その他の生活支援	2.4	0.4%	洗濯代行	1.8	0.3%
ごみの処理	2.3	0.4%	他職種との連絡調整	1.6	0.3%
ポータブルトイレ清掃	2.0	0.4%	居室等掃除	1.5	0.3%
整理整頓	2.0	0.4%	整理整頓	1.4	0.3%
居室等掃除	1.8	0.3%	調理支援	0.2%	0.2%
清拭	1.8	0.3%	挨拶・日常会話・話し相手	0.2%	0.2%
相談(利用者本人)	1.6	0.3%	イベント等企画	0.2%	0.2%
食品の管理・整理	1.6	0.3%	体調急変時の対応	0.2%	0.2%
持ち物確認・荷物チェック	1.3	0.2%	清拭	0.1%	0.1%
職員間業務調整	1.2	0.2%	戸締まり, 火の始末, 防災	0.1%	0.1%
その他のコミュニケーション	0.2%	0.2%	手洗い	0.1%	0.1%
戸締まり, 火の始末, 防災	0.2%	0.2%	職員間業務調整	0.1%	0.1%
手洗い	0.2%	0.2%	スタッフの相談	0.1%	0.1%
入浴・清拭準備	0.1%	0.1%	その他のコミュニケーション	0.0%	0.0%
スタッフの相談	0.1%	0.1%	医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.0%	0.0%
来訪者対応	0.1%	0.1%	送迎	0.0%	0.0%
買物代行	0.1%	0.1%	入浴・清拭準備	0.0%	0.0%
その他の医療的ケア	0.1%	0.1%	BPSDへの対応	0.0%	0.0%
洗濯代行	0.1%	0.1%	その他の医療的ケア	0.0%	0.0%
起居移動移乗(室外)	0.0%	0.0%			
相談(利用者家族等)	0.0%	0.0%			
医療機関との連絡調整	0.0%	0.0%			
不明		8.7%	不明		2.1%

⑤ リーダー層：日勤帯の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合（リーダー層・日勤）

日勤帯以外における事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-42から図表4-44に示した。

図表4-42 日勤帯リーダー層の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護・提供場所別）

リーダー層 小規模多機能型居宅介護事業所 n=30											
日勤: 場所: 自宅			日勤 場所: 自宅外事業所外			日勤 場所: 事業所内					
事業所平均の業務時間(分)			10.7			35.9			286.1		
事業所平均の業務割合(%)			3.2%			10.8%			86.0%		
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%			
送迎	11.1	73.4%	送迎	29.9	58.9%	その他書類作成・記録	35.8	8.9%			
居室等掃除	1.2	7.8%	その他の機関間連携	3.2	6.3%	排せつ介助	35.6	8.8%			
服薬(確認・介助・指導)		4.7%	特機・仮眠・休憩	2.8	5.6%	入浴介助	32.1	7.9%			
起居移動移乗(室内)		3.1%	相談(利用者家族等)	2.1	4.2%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	23.1	5.7%			
持ち物確認・荷物チェック		3.1%	持ち物確認・荷物チェック	1.9	3.7%	介護記録作成	20.9	5.2%			
着替え介助		1.6%	起居移動移乗(室外)	1.6	3.2%	特機・仮眠・休憩	18.4	4.5%			
食事介助・水分摂取支援		1.6%	その他の生活支援	1.4	2.8%	挨拶・日常会話・話し相手	17.4	4.3%			
排せつ介助		1.6%	医療機関との連絡調整	1.2	2.3%	食事介助・水分摂取支援	16.0	4.0%			
調理支援		1.6%	家族へのサービス・支援	1.2	2.3%	申し送り	11.9	2.9%			
洗濯支援		1.6%	地域住民との情報交換	1.1	2.1%	配膳・下膳	11.4	2.8%			
申し送り		0.0%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.4	2.8%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 塗薬)	9.9	2.4%			
移動		0.0%	申し送り	1.4	2.8%	身体機能向上訓練	9.7	2.4%			
			移動	0.3	0.6%	掃除・点検・後片付け	8.4	2.1%			
						入浴・清拭準備	9.2	2.3%			
						相談(利用者家族等)	8.2	2.0%			
						着替え介助	8.0	2.0%			
						見守り	7.7	1.9%			
						スタッフ教育・指導	7.1	1.7%			
						その他の業務	7.0	1.7%			
						レク参加	6.8	1.7%			
						健康状態チェック(バイタル・血圧等)	6.1	1.5%			
						起居移動移乗(室内)	5.8	1.4%			
						介護計画作成	5.7	1.4%			
						その他の機能訓練・アクティビティ	5.6	1.4%			
						来訪者対応	5.3	1.3%			
						食事摂取量観察・記録	5.1	1.3%			
						部下への指示	4.7	1.2%			
						シフト作成及び変更	4.5	1.1%			
						傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	3.5	0.9%			
						居室等掃除	3.0	0.7%			
						地域との交流, 行事参加	2.8	0.7%			
						職員間業務調整	2.8	0.7%			
						その他のADL支援	2.7	0.7%			
						服薬(確認・介助・指導)	2.6	0.6%			
						給付事務	2.6	0.6%			
						送迎	2.5	0.6%			
						趣味活動(室内)支援	2.5	0.6%			
						他職種との連絡調整	2.3	0.6%			
						洗濯支援	2.1	0.5%			
						採用面接選考	2.1	0.5%			
						入眠・起床介助	2.0	0.5%			
						認知機能向上訓練	1.9	0.5%			
						清拭	1.6	0.4%			
						整理整頓	1.6	0.4%			
						その他の生活支援	1.4	0.3%			
						医療機関との連絡調整	1.4	0.3%			
						BPSDへの対応	1.4	0.3%			
						その他のコミュニケーション	0.2	0.2%			
						生活機能向上訓練	0.2	0.2%			
						事例検討・カンファレンス	0.2	0.2%			
						ごみの処理	0.2	0.2%			
						相談(利用者本人)	0.2	0.2%			
						起居移動移乗(室外)	0.2	0.2%			
						通信支援(電話・FAX)	0.2	0.2%			
						食品の管理・整理	0.2	0.2%			
						スタッフの相談	0.1	0.1%			
						移動	0.1	0.1%			
						手洗い	0.1	0.1%			
不明			不明		5.6%	不明		1.5%			

図表4-43 日勤帯リーダー層の平均業務所要時間の割合（複合型サービス・定期巡回・随時対応型）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤 リーダー層 全提供場所			日勤 リーダー層			日勤 リーダー層		
事業所平均の業務時間(分)		382.2	事業所平均の業務時間(分)		873.8	事業所平均の業務時間(分)		909.3
常勤換算職員数(人)		0.7	常勤換算職員数(人)		1.6	常勤換算職員数(人)		1.7
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
送迎	20.4	8.6%	送迎	64.9	12.0%	移動	47.4	8.8%
その他書類作成・記録	17.2	7.3%	排せつ介助	49.4	9.2%	排せつ介助	32.2	6.0%
排せつ介助	16.6	7.0%	食事介助・水分摂取支援	34.0	6.3%	その他書類作成・記録	31.6	5.9%
入浴介助	15.3	6.5%	配膳・下膳	33.6	6.2%	介護計画作成	23.2	4.3%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	11.7	5.0%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	24.7	4.6%	その他の業務	23.1	4.3%
待機・仮眠・休憩	10.8	4.6%	その他の業務	24.7	4.6%	居室等掃除	21.9	4.1%
介護記録作成	10.0	4.3%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	24.5	4.5%	待機・仮眠・休憩	19.6	3.6%
挨拶・日常会話・話し相手	7.7	3.3%	他職種との連絡調整	23.2	4.3%	シフト作成及び変更	19.1	3.5%
食事介助・水分摂取支援	7.5	3.2%	その他書類作成・記録	23.2	4.3%	職員間業務調整	17.8	3.3%
申し送り	5.5	2.3%	着替え介助	22.0	4.1%	その他のADL支援	17.7	3.3%
入浴・清拭準備	5.3	2.2%	挨拶・日常会話・話し相手	18.0	3.3%	介護記録作成	15.9	2.9%
配膳・下膳	5.2	2.2%	入浴介助	17.4	3.2%	服薬(確認・介助・指導)	15.5	2.9%
掃除・点検・後片付け	4.7	2.0%	服薬(確認・介助・指導)	13.3	2.5%	掃除・点検・後片付け	14.6	2.7%
相談(利用者家族等)	4.5	1.9%	食品の管理・整理	12.7	2.4%	申し送り	14.5	2.7%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	4.3	1.8%	見守り	12.4	2.3%	買物代行	13.9	2.6%
身体機能向上訓練	4.2	1.8%	相談(利用者本人)	12.4	2.3%	相談(利用者本人)	13.8	2.6%
着替え介助	3.6	1.5%	レク参加	10.8	2.0%	配膳・下膳	13.7	2.5%
見守り	3.4	1.4%	入浴・清拭準備	10.4	1.9%	食事介助・水分摂取支援	13.7	2.5%
スタッフ教育・指導	3.1	1.3%	その他の医療的ケア	10.0	1.9%	事例検討・カンファレンス	13.5	2.5%
その他の業務	3.1	1.3%	食事摂取量観察・記録	9.3	1.7%	他職種との連絡調整(アールエス・エルエス)	12.4	2.3%
レク参加	3.0	1.3%	相談(利用者家族等)	9.3	1.7%	他職種との連絡調整	12.4	2.3%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	2.7	1.1%	待機・仮眠・休憩	9.3	1.7%	スタッフ教育・指導	7.1	1.3%
起居移動移乗(室内)	2.5	1.1%	居室等掃除	8.5	1.6%	起居移動移乗(室内)	5.5	1.0%
介護計画作成	2.5	1.0%	申し送り	7.0	1.3%	送迎	5.4	1.0%
その他の機能訓練・アクティビティ	2.4	1.0%	掃除・点検・後片付け	6.2	1.1%	着替え介助	5.3	1.0%
食事摂取量観察・記録	2.4	1.0%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	5.6	1.0%	その他の生活支援	4.9	0.9%
来訪者対応	2.3	1.0%	手洗い	4.6	0.9%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	4.5	0.8%
部下への指示	2.0	0.9%	その他のコミュニケーション	3.1	0.6%	調理支援	4.4	0.8%
シフト作成及び変更	2.0	0.8%	介護記録作成	3.1	0.6%	入浴介助	4.3	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.9	0.8%	給付事務	3.1	0.6%	相談(利用者家族等)	4.0	0.7%
居室等掃除	1.8	0.8%	介護計画作成	3.1	0.6%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	4.0	0.7%
服薬(確認・介助・指導)	1.8	0.7%	イベント等企画	3.1	0.6%	ポータブルトイレ清掃	3.8	0.7%
洗濯支援	1.4	0.6%	職員間業務調整	1.6	0.3%	ごみの処理	3.8	0.7%
BPSDへの対応	1.4	0.6%	起居移動移乗(室内)	1.5	0.3%	入浴・清拭準備	3.6	0.7%
その他の機関連携	1.4	0.6%	起居移動移乗(室外)	1.5	0.3%	調理代行	3.5	0.6%
その他のADL支援	1.4	0.6%	整理整頓	1.5	0.3%	部下への指示	3.3	0.6%
起居移動移乗(室外)	1.2	0.5%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.5	0.3%	その他の医療的ケア	3.0	0.5%
その他の生活支援	1.2	0.5%	部下への指示	1.4	0.3%	医療機関との連絡調整	2.5	0.5%
地域との交流、行事参加	1.2	0.5%	生活機能向上訓練	1.3	0.2%	食事摂取量観察・記録	2.4	0.4%
職員間業務調整	1.2	0.5%	身体機能向上訓練	0.1%	0.1%	スタッフの相談	2.2	0.4%
医療機関との連絡調整	1.1	0.5%	認知機能向上訓練	0.1%	0.1%	挨拶・日常会話・話し相手	2.1	0.4%
給付事務	1.1	0.5%				清拭	1.6	0.3%
趣味活動(室内)支援	1.1	0.5%				通信支援(電話・FAX)	1.6	0.3%
持ち物確認・荷物チェック	1.0	0.4%				整理整頓	1.6	0.3%
他職種との連絡調整	1.0	0.4%				持ち物確認・荷物チェック	1.4	0.3%
採用面接選考	0.4%	0.4%				洗濯代行	1.3	0.2%
入眠・起床介助	0.4%	0.4%				洗濯支援	1.2	0.2%
認知機能向上訓練	0.3%	0.3%				見守り	1.2	0.2%
清拭	0.3%	0.3%				食品の管理・整理	1.1	0.2%
整理整頓	0.3%	0.3%				起居移動移乗(室外)	0.2%	0.2%
家族へのサービス・支援	0.2%	0.2%				イベント等企画	0.2%	0.2%
食品の管理・整理	0.2%	0.2%				その他のコミュニケーション	0.2%	0.2%
地域住民との情報交換	0.2%	0.2%				戸締まり、火の始末、防災	0.1%	0.1%
その他のコミュニケーション	0.2%	0.2%				その他の機関連携	0.1%	0.1%
生活機能向上訓練	0.2%	0.2%				健康相談、指導	0.1%	0.1%
事例検討・カンファレンス	0.2%	0.2%				傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	0.1%	0.1%
ごみの処理	0.2%	0.2%				体位交換	0.1%	0.1%
相談(利用者本人)	0.2%	0.2%				来訪者対応	0.1%	0.1%
通信支援(電話・FAX)	0.1%	0.1%				医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	0.1%	0.1%
買物代行	0.1%	0.1%				体調急変時の対応	0.1%	0.1%
調理支援	0.1%	0.1%						
移動	0.1%	0.1%						
スタッフの相談	0.1%	0.1%						
調理代行	0.0%	0.0%						
手洗い	0.0%	0.0%						
不明		8.6%	不明		2.1%	不明		6.3%

図表4-44 日勤帯リーダー層の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設・通所介護・訪問介護）

介護老人福祉施設 n=13			通所介護 n=10			訪問介護 n=8		
日勤 リーダー層			日勤 リーダー層			日勤 リーダー層		
施設平均の業務時間(分)		1848.3	事業所平均の業務時間(分)		655.5	事業所平均の業務時間(分)		927.6
常勤換算職員数(人)		3.4	常勤換算職員数(人)		1.2	常勤換算職員数(人)		1.7
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	68.7	12.7%	送迎	185.6	34.4%	その他書類作成・記録	53.5	9.9%
食事介助・水分摂取支援	54.5	10.1%	配膳・下膳	21.4	4.0%	移動	47.0	8.7%
入浴介助	41.5	7.7%	入浴介助	20.2	3.7%	地域との交流、行事参加	31.3	5.8%
起居移動移乗(室内)	26.0	4.8%	排せつ介助	19.7	3.6%	その他のADL支援	27.5	5.1%
配膳・下膳	21.7	4.0%	その他書類作成・記録	17.3	3.2%	調理支援	25.1	4.6%
待機・仮眠・休憩	20.8	3.9%	入浴・清拭準備	17.0	3.2%	居室等掃除	21.7	4.0%
見守り	18.2	3.4%	レク参加	16.1	3.0%	待機・仮眠・休憩	19.9	3.7%
食事摂取量観察・記録	17.8	3.3%	食事介助・水分摂取支援	15.7	2.9%	その他の業務	18.4	3.4%
介護記録作成	15.8	2.9%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	15.5	2.9%	入浴介助	16.9	3.1%
入浴・清拭準備	13.8	2.6%	着替え介助	15.3	2.8%	介護記録作成	15.3	2.8%
申し送り	12.7	2.4%	挨拶・日常会話・話し相手	13.2	2.4%	排せつ介助	13.5	2.5%
掃除・点検・後片付け	12.3	2.3%	行事・イベント・レクリエーション参加支援	10.9	2.0%	着替え介助	13.2	2.4%
着替え介助	11.7	2.2%	介護記録作成	10.7	2.0%	申し送り	10.4	1.9%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	10.1	1.9%	起居移動移乗(室内)	10.3	1.9%	相談(利用者本人)	10.1	1.9%
挨拶・日常会話・話し相手	9.9	1.8%	その他のコミュニケーション	9.1	1.7%	シフト作成及び変更	9.5	1.8%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	9.5	1.8%	掃除・点検・後片付け	9.1	1.7%	買物代行	8.7	1.6%
その他書類作成・記録	9.2	1.7%	待機・仮眠・休憩	7.8	1.4%	起居移動移乗(室外)	8.6	1.6%
送迎	8.1	1.5%	見守り	6.2	1.1%	食事介助・水分摂取支援	7.5	1.4%
服薬(確認・介助・指導)	7.4	1.4%	食事摂取量観察・記録	5.8	1.1%	職員間業務調整	7.0	1.3%
居室等掃除	6.2	1.2%	申し送り	5.4	1.0%	他職種との連絡調整	6.3	1.2%
食品の管理・整理	6.1	1.1%	他職種との連絡調整	4.9	0.9%	ごみの処理	5.9	1.1%
整理整頓	5.2	1.0%	職員間業務調整	4.7	0.9%	挨拶・日常会話・話し相手	5.9	1.1%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	5.1	0.9%	起居移動移乗(室外)	3.7	0.7%	他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	5.8	1.1%
他職種との連絡調整	4.6	0.8%	シフト作成及び変更	3.5	0.6%	その他のコミュニケーション	5.0	0.9%
その他の業務	4.5	0.8%	持ち物確認・荷物チェック	3.3	0.6%	手洗い	4.5	0.8%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.2	0.8%	事例検討・カンファレンス	3.3	0.6%	来訪者対応	4.4	0.8%
事例検討・カンファレンス	4.2	0.8%	他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	3.3	0.6%	起居移動移乗(室内)	4.2	0.8%
体位交換	4.1	0.8%	身体機能向上訓練	3.2	0.6%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	4.2	0.8%
ごみの処理	3.9	0.7%	その他の機能訓練・アクティビティ	2.7	0.5%	相談(利用者家族等)	4.0	0.7%
会議への出席(地域ケア会議等)	3.9	0.7%	ごみの処理	2.5	0.5%	清拭	3.9	0.7%
その他の機能訓練・アクティビティ	3.7	0.7%	相談(利用者本人)	2.5	0.5%	掃除・点検・後片付け	3.3	0.6%
その他のコミュニケーション	3.5	0.7%	戸締まり、火の始末、防災	2.3	0.4%	入浴・清拭準備	3.2	0.6%
清拭	3.4	0.6%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	1.9	0.3%	給付事務	3.2	0.6%
手洗い	3.2	0.6%	入眠・起床介助	1.6	0.3%	スタッフ教育・指導	3.2	0.6%
洗濯支援	3.1	0.6%	服薬(確認・介助・指導)	1.6	0.3%	スタッフの相談	3.2	0.6%
起居移動移乗(室外)	3.1	0.6%	その他のADL支援	1.2	0.2%	食事摂取量観察・記録	2.7	0.5%
持ち物確認・荷物チェック	2.9	0.5%	部下への指示	1.2	0.2%	その他の生活支援	2.5	0.5%
部下への指示	2.8	0.5%	給付事務	1.2	0.2%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	2.5	0.5%
移動	2.6	0.5%	介護計画作成	1.2	0.2%	配膳・下膳	2.4	0.4%
その他の生活支援	2.6	0.5%	移動	0.2%	体位交換	2.4	0.4%	
その他のADL支援	2.3	0.4%	趣味活動(室内)支援	0.1%	その他の機関連携	2.2	0.4%	
相談(利用者本人)	2.3	0.4%	相談(利用者家族等)	0.1%	見守り	2.1	0.4%	
入眠・起床介助	2.2	0.4%	その他の業務	0.1%	洗濯支援	1.6	0.3%	
相談(利用者家族等)	2.2	0.4%			持ち物確認・荷物チェック	1.5	0.3%	
身体機能向上訓練	2.2	0.4%			介護計画作成	1.5	0.3%	
職員間業務調整	2.2	0.4%			健康状態チェック(バイタル・血圧等)	1.3	0.2%	
シフト作成及び変更	2.1	0.4%			調理代行	1.2	0.2%	
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	2.0	0.4%			整理整頓	1.1	0.2%	
ポータブルトイレ清掃	1.8	0.3%			部下への指示	1.1	0.2%	
レク参加	1.7	0.3%			ポータブルトイレ清掃	0.1%	0.1%	
生活機能向上訓練	1.6	0.3%			戸締まり、火の始末、防災	0.1%	0.1%	
BPSDへの対応	1.6	0.3%			服薬(確認・介助・指導)	0.1%	0.1%	
健康相談、指導	1.5	0.3%			医療機関との連絡調整	0.0%	0.0%	
睡眠環境整備	1.3	0.2%						
趣味活動(室内)支援	1.2	0.2%						
医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	1.0	0.2%						
散歩付き添い	0.2%	0.2%						
イベント等企画	0.1%	0.1%						
ボランティア・実習生対応	0.1%	0.1%						
来訪者対応	0.1%	0.1%						
ケアプラン検討会出席	0.1%	0.1%						
調理代行	0.1%	0.1%						
スタッフの相談	0.1%	0.1%						
金銭管理支援	0.1%	0.1%						
金銭管理代行	0.1%	0.1%						
洗濯代行	0.1%	0.1%						
医療機関との連絡調整	0.1%	0.1%						
その他の医療的ケア	0.1%	0.1%						
その他の機関間連携	0.1%	0.1%						
体調急変時の対応	0.1%	0.1%						
認知機能向上訓練	0.0%	0.0%						
給付事務	0.0%	0.0%						
不明		5.7%	不明		10.3%	不明		14.2%

⑥ リーダー層：日勤帯以外の事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合（リーダー層・日勤以外）

日勤帯以外における事業所種別ごとの平均業務所要時間の割合を図表4-45から図表4-47に示した。なお、小規模多機能型居宅介護については、さらに提供場所別の平均業務所要時間も示した。

図表4-45 日勤帯以外リーダー層の平均業務所要時間の割合（小規模多機能型居宅介護・提供場所別）

小規模多機能型居宅介護事業所 n=30									
日勤以外 リーダー層 場所：自宅			日勤以外 リーダー層 場所：自宅外事業所外			日勤以外 リーダー層 場所：事業所内			
事業所平均の業務時間(分)		5.0	事業所平均の業務時間(分)		2.0	事業所平均の業務時間(分)		75.8	
事業所平均の業務割合(%)		6.0%	事業所平均の業務割合(%)		2.4%	事業所平均の業務割合(%)		91.6%	
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%	
排せつ介助	10.5	20.8%	送迎	20.3	100.0%	掃除・点検・後片付け	141.8	18.4%	
食事介助・水分摂取支援	6.4	12.8%				介護記録作成	67.7	8.8%	
ポータブルトイレ清掃	6.4	12.8%				排せつ介助	60.6	7.9%	
相談(利用者本人)	6.4	12.8%				洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	50.1	6.5%	
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	4.4	8.7%				シフト作成及び変更	38.9	5.1%	
配膳・下膳	4.1	8.1%				着替え介助	37.6	4.9%	
食事摂取量観察・記録	3.0	6.0%				食事介助・水分摂取支援	36.6	4.7%	
ごみの処理	3.0	6.0%				待機・仮眠・休憩	35.5	4.6%	
その他のADL支援	2.7	5.4%				その他のADL支援	30.5	4.0%	
戸締まり、火の始末、防災	2.7	5.4%				挨拶・日常会話・話し相手	27.1	3.5%	
清拭	1.4	2.7%				その他の業務	25.4	3.3%	
						配膳・下膳	23.7	3.1%	
						行事・イベント・レクリエーション参加支援	20.3	2.6%	
						その他書類作成・記録	18.6	2.4%	
						服薬(確認・介助・指導)	15.9	2.1%	
						睡眠環境整備	15.2	2.0%	
						健康状態チェック(バイタル・血圧等)	15.2	2.0%	
						入眠・起床介助	13.2	1.7%	
						体位交換	12.9	1.7%	
						見守り	12.9	1.7%	
						職員間業務調整	12.5	1.6%	
						食品の管理・整理	11.8	1.5%	
						食事摂取量観察・記録	10.2	1.3%	
						洗濯代行	10.2	1.3%	
						起居移動移乗(室内)	5.1	0.7%	
						整理整頓	5.1	0.7%	
						相談(利用者本人)	3.4	0.4%	
						他職種との連絡調整	3.4	0.4%	
						申し送り	3.4	0.4%	
						通信支援(電話・FAX)	2.4	0.3%	
						ポータブルトイレ清掃	1.7	0.2%	
						身体機能向上訓練	1.7	0.2%	
						傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.0	0.1%	
不明			不明			不明			

図表4-46 日勤帯以外リーダー層の平均業務所要時間の割合（複合型サービス・定期巡回・随時対応型）

小規模多機能(再掲) n=30			複合型サービス n=4			定期巡回・随時対応型訪問介護看護 n=11		
日勤以外 リーダ層 全体			日勤以外 リーダ層			日勤以外 リーダ層		
事業所平均の業務時間(分)		88.6	事業所平均の業務時間(分)		873.8	事業所平均の業務時間(分)		468.0
常勤換算職員数(人)		0.1	常勤換算職員数(人)		1.6	常勤換算職員数(人)		0.9
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
掃除・点検・後片付け	141.7	15.7%	排せつ介助	135.8	25.2%	移動	72.5	13.4%
排せつ介助	71.0	7.9%	介護記録作成	122.3	22.6%	排せつ介助	67.1	12.4%
介護記録作成	70.2	7.8%	起居移動移乗(室内)	101.9	18.9%	介護記録作成	39.3	7.3%
洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	56.7	6.3%	着替え介助	64.5	11.9%	その他書類作成・記録	34.0	6.3%
食事介助・水分摂取支援	42.6	4.7%	見守り	20.4	3.8%	待機・仮眠・休憩	32.6	6.0%
その他書類作成・記録	38.9	4.3%	掃除・点検・後片付け	20.4	3.8%	服薬(確認・介助・指導)	32.0	5.9%
シフト作成及び変更	38.9	4.3%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	18.7	3.5%	食事介助・水分摂取支援	30.6	5.7%
着替え介助	37.7	4.2%	申し送り	10.2	1.9%	洗面等, 身体整容(口腔清潔, 洗顔, 整髪)	23.5	4.3%
待機・仮眠・休憩	35.5	3.9%	相談(利用者本人)	6.8	1.3%	申し送り	21.3	3.9%
その他のADL支援	33.3	3.7%	相談(利用者家族等)	6.8	1.3%	給付事務	18.9	3.5%
配膳・下膳	27.8	3.1%	挨拶・日常会話・話し相手	6.8	1.3%	配膳・下膳	17.5	3.2%
挨拶・日常会話・話し相手	27.1	3.0%	その他の業務	6.8	1.3%	その他のADL支援	17.0	3.2%
その他の業務	25.4	2.8%	食事摂取量観察・記録	5.1	0.9%	体位交換	13.0	2.4%
送迎	20.3	2.3%	配膳・下膳	5.1	0.9%	起居移動移乗(室内)	12.5	2.3%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	20.3	2.3%	服薬(確認・介助・指導)	5.1	0.9%	着替え介助	10.2	1.9%
服薬(確認・介助・指導)	18.3	2.0%	職員間業務調整	3.4	0.6%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	9.7	1.8%
食事摂取量観察・記録	15.7	1.7%						
睡眠環境整備	15.2	1.7%						
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	15.2	1.7%						
入眠・起床介助	13.1	1.5%						
体位交換	12.7	1.4%						
見守り	12.7	1.4%						
職員間業務調整	12.4	1.4%						
食品の管理・整理	11.8	1.3%						
洗濯代行	10.2	1.1%						
相談(利用者本人)	9.6	1.1%						
ポータブルトイレ清掃	8.0	0.9%						
起居移動移乗(室内)	5.1	0.6%						
整理整頓	5.1	0.6%						
他職種との連絡調整	3.4	0.4%						
申し送り	3.4	0.4%						
ごみの処理	3.0	0.3%						
戸締まり, 火の始末, 防災	2.8	0.3%						
通信支援(電話・FAX)	2.3	0.3%						
身体機能向上訓練	1.7	0.2%						
清拭	1.3	0.1%						
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		0.1%						
不明		3.2%	不明			不明	3.4%	

図表4-47 日勤帯以外リーダー層の平均業務所要時間の割合（介護老人福祉施設）

小規模多機能(再掲) n=30			介護老人福祉施設 n=13		
日勤以外 リーダー層 全体			日勤以外 リーダー層		
事業所平均の業務時間(分)		88.63	施設平均の業務時間(分)		1127.1
常勤換算職員数(人)		0.1	常勤換算職員数(人)		2.1
業務内容	分	%	業務内容	分	%
掃除・点検・後片付け	141.7	15.7%	排せつ介助	93.6	17.3%
排せつ介助	71.0	7.9%	食事介助・水分摂取支援	47.1	8.7%
介護記録作成	70.2	7.8%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	41.4	7.7%
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	56.7	6.3%	介護記録作成	41.3	7.6%
食事介助・水分摂取支援	42.6	4.7%	配膳・下膳	32.3	6.0%
その他書類作成・記録	38.9	4.3%	見守り	32.0	5.9%
シフト作成及び変更	38.9	4.3%	体位交換	29.9	5.5%
着替え介助	37.7	4.2%	起居移動移乗(室内)	25.8	4.8%
特養・仮眠・休憩	35.5	3.9%	食事摂取量観察・記録	25.5	4.7%
その他のADL支援	33.3	3.7%	着替え介助	21.5	4.0%
配膳・下膳	27.8	3.1%	服薬(確認・介助・指導)	21.0	3.9%
挨拶・日常会話・話し相手	27.1	3.0%	特養・仮眠・休憩	17.9	3.3%
その他の業務	25.4	2.8%	入眠・起床介助	17.4	3.2%
送迎	20.3	2.3%	手洗い	10.0	1.9%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	20.3	2.3%	その他書類作成・記録	8.7	1.6%
服薬(確認・介助・指導)	18.3	2.0%	その他のADL支援	7.2	1.3%
食事摂取量観察・記録	15.7	1.7%	申し送り	6.6	1.2%
睡眠環境整備	15.2	1.7%	掃除・点検・後片付け	5.6	1.0%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	15.2	1.7%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	4.6	0.8%
入眠・起床介助	13.1	1.5%	その他の業務	4.4	0.8%
体位交換	12.7	1.4%	介護計画作成	3.3	0.6%
見守り	12.7	1.4%	洗濯支援	3.2	0.6%
職員間業務調整	12.4	1.4%	挨拶・日常会話・話し相手	3.2	0.6%
食品の管理・整理	11.8	1.3%	整理整頓	2.9	0.5%
洗濯代行	10.2	1.1%	睡眠環境整備	2.5	0.5%
相談(利用者本人)	9.6	1.1%	食品の管理・整理	2.4	0.4%
ポータブルトイレ清掃	8.0	0.9%	清拭	2.4	0.4%
起居移動移乗(室内)	5.1	0.6%	医療的処置(経管栄養・たんの吸引)	2.2	0.4%
整理整頓	5.1	0.6%	ごみの処理	2.1	0.4%
他職種との連絡調整	3.4	0.4%	代筆代読	2.1	0.4%
申し送り	3.4	0.4%	その他の生活支援	2.1	0.4%
ごみの処理	3.0	0.3%	洗濯代行	1.7	0.3%
戸締まり、火の始末、防災	2.8	0.3%	その他のコミュニケーション	1.7	0.3%
通信支援(電話・FAX)	2.3	0.3%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	1.6	0.3%
身体機能向上訓練	1.7	0.2%	体調急変時の対応	1.5	0.3%
清拭	1.3	0.1%	ポータブルトイレ清掃	0.9	0.2%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)		0.1%	BPSDへの対応	0.9	0.2%
			居室等掃除		0.2%
			職員間業務調整		0.0
			相談(利用者本人)		0.0
			移動		0.0
			イベント等企画		0.0
			送迎		0.0
			入浴・清拭準備		0.0
			相談(利用者家族等)		0.0
			その他の医療的ケア		0.0
			戸締まり、火の始末、防災		0.0
不明		3.2%	不明		0.9%

(8) 業務量の分析と比較

1) 小規模多機能型居宅介護とそれ以外の事業所・施設との比較

小規模多機能型居宅介護と、それ以外の事業所・施設との比較を行うことで、業務内容の違いを検討する。

① 小規模多機能型居宅介護と定期巡回随時対応型訪問介護看護との業務時間の違い

定期巡回との比較を図表4-48に示した。定期巡回随時対応型訪問介護看護と比べると、小規模多機能型居宅介護では、レクリエーションやアクティビティの参加とその支援を通して、機能訓練の要素を持った活動の支援が行われていた。また地域との交流や話し相手、見守りなどのように、短時間では終わらないような、支援が可能であることも特徴であった。

一方、買い物代行や調理支援、居室の清掃など、利用者の自宅での生活の支援が小規模では少ない状況がうかがわれた。

図表4-48 小規模多機能型居宅介護と定期巡回随時対応型訪問介護看護との比較

定期巡回随時対応型訪問介護看護ではやっていない業務		
業務内容	小規模多機能	
	分	%
レク参加	15.6	2.9%
身体機能向上訓練	4.4	0.8%
その他の機能訓練・アクティビティ	3.0	0.5%
趣味活動(室内)支援	2.5	0.5%
地域との交流、行事参加	1.4	0.3%
BPSDへの対応	1.0	0.2%

定期巡回では実施割合が低く小規模では実施割合が高い業務		
送迎		
挨拶・日常会話・話し相手		
見守り		
行事・イベント・レクリエーション参加支援		
レク参加		
入浴・清拭準備		

小規模多機能型居宅介護ではやっていない業務		
業務内容	定期巡回	
	分	%
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	4.7	0.9%

小規模では実施割合が低く定期巡回では実施割合が高い業務		
移動		
居室等掃除		
買物代行		
調理支援		
介護計画作成		

② 小規模多機能型居宅介護と介護老人福祉施設との業務時間の違い

介護老人福祉施設との比較を図表4-49に示した。

介護老人福祉施設では買い物代行、挨拶や話し相手、行事への参加支援、レク参加等が小規模多機能型居宅介護よりも実施割合が低かった。小規模多機能型居宅介護では、利用者とのコミュニケーションが多く行われ、また生活に欠かせない買物についても代行していることがわかった。一方、利用者の食事量の摂取についての観察記録、整容関係や居室内の清掃については、小規模多機能型居宅介護では業務時間割合が少なかった。

小規模多機能型居宅介護では、コミュニケーションを中心とした利用者の支援が行われているのに対して、介護老人福祉施設では整容や居室の清掃、食事量の観察など、同じ生活支援であっても、直接介護や環境整備とその記録などに多くの時間が割かれていると考えられる。

図表4-49 小規模多機能型居宅介護と介護老人福祉施設との比較

介護老人福祉施設ではやっていない業務		
業務内容	小規模多機能	
	分	%
買物代行	1.4	0.3%
介護老人福祉施設では実施割合が低く小規模では実施割合が高い業務		
送迎		
挨拶・日常会話・話し相手		
行事・イベント・レクリエーション参加支援		
レク参加		
その他の業務		
その他書類作成・記録		
小規模では実施割合が低く介護老人福祉施設では実施割合が高い業務		
起居移動移乗(室内)		
食事摂取量観察・記録		
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)		
居室等掃除		
その他のADL支援		

③ 小規模多機能型居宅介護と通所介護との業務時間の違い

通所介護との比較を図表4-50に示した。

小規模多機能型居宅介護では、通所介護と異なり、調理代行や買い物代行、ポータブルトイレの清掃といった生活の支援、また地域との交流や行事の参加に加えて、分類されない多くの生活支援や医療的ケアが行われていた。一方、着替えや整容、戸締り等の確認などのように、通所に出かける前と考えられる業務は、小規模では少ない時間しか行われていなかった。

通所介護と比べると、小規模多機能型居宅介護では、地域、医療、多様な生活支援が求められると考えられる。

図表4-50 小規模多機能型居宅介護と通所介護との比較

通所介護ではやっていない業務		
業務内容	小規模多機能	
	分	%
その他の生活支援	5.4	1.0%
調理代行	4.5	0.8%
ポータブルトイレ清掃	1.8	0.3%
その他の医療的ケア	1.8	0.3%
買い物代行	1.4	0.3%
地域との交流、行事参加	1.4	0.3%
スタッフ教育・指導	1.0	0.2%

通所介護では実施割合が低く小規模では実施割合が高い業務
見守り
介護記録作成
その他の業務
服薬(確認・介助・指導)

小規模多機能型居宅介護ではやっていない業務		
業務内容	通所介護	
	分	%
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	1.0	0.2%

小規模では実施割合が低く通所介護では実施割合が高い業務
着替え介助
洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)
戸締まり、火の始末、防災

④ 小規模多機能型居宅介護と訪問介護との業務時間の違い

訪問介護との比較を図表4-51に示した。

訪問介護とは多くの相違点があることが明らかになった。利用者の自宅で実施されている買物、調理、洗濯、清掃、戸締り、などは訪問介護で実施時間が長く行われていたが、生活支援の中でも、傾聴や話し相手などのコミュニケーションを用いたかかわりや、食事量や健康状態のチェック、食事介助や水分摂取のような身体的ケアが小規模多機能型居宅介護には含まれていることが示された。業務の内容からは、小規模多機能型居宅介護では、要介護度の高い利用者が含まれていることがうかがえ、より重度者に必要な医療的ケアのニーズにも応えているものと思われる。またBPSDへの対応や入眠・起床にも援助を行っている点も訪問介護とは大きく異なっており、小規模多機能型居宅介護がよりケアの難しい利用者も受け入れうる可能性を示唆していると思われる。

また、訪問介護で上がっていたシフト作成や職員間の業務調整が、訪問介護で多く、小規模多機能型居宅介護では少ない時間しかかかっていなかった。小規模多機能型居宅介護では、多様な支援を包括的に提供可能であるが、訪問介護と異なり、「通い」の際の利用者の様子をほかのスタッフと共有しやすい状況があったり、また時間を基準にサービスを提供する訪問介護と違って、利用者の全体像をどの職員も把握している可能性があることなどから、むしろ調整に時間をかけなくても、利用者像を理解しやすいという可能性もあるだろう。事例検討やカンファレンスを行っていることも、訪問介護とでは大きな違いであった。

図表 4-51 小規模多機能型居宅介護と訪問介護との比較

訪問介護ではやっていない業務		
業務内容	小規模多機能	
	分	%
行事・イベント・レクリエーション参加支援	18.1	3.3%
レク参加	15.6	2.9%
食品の管理・整理	4.8	0.9%
身体機能向上訓練	4.4	0.8%
趣味活動(室内)支援	2.5	0.5%
その他の医療的ケア	1.8	0.3%
事例検討・カンファレンス	1.7	0.3%
入眠・起床介助	1.1	0.2%
BPSDへの対応	1.0	0.2%

訪問介護では実施割合が低く小規模では実施割合が高い業務
送迎
配膳・下膳
挨拶・日常会話・話し相手
食事介助・水分摂取支援
見守り
入浴・清拭準備
健康状態チェック(バイタル・血圧等)
食事摂取量観察・記録
その他のコミュニケーション
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)
その他の機能訓練・アクティビティ

小規模多機能型居宅介護ではやっていない業務		
業務内容	訪問介護	
	分	%
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等)	2.5	0.5%

小規模では実施割合が低く訪問介護では実施割合が高い業務
居室等掃除
移動
その他書類作成・記録
調理支援
その他のADL支援
買物代行
調理代行
地域との交流、行事参加
ごみの処理
職員間業務調整
洗濯支援
清拭
戸締まり、火の始末、防災
シフト作成及び変更
手洗い

⑤ その他

小規模多機能型居宅介護の介護職員全体の日勤帯では、85.4%の時間を事業所内で過ごしており、自宅への訪問時間は、業務全体のうちの7.0%にとどまっていた。他の事業所・施設種別と比べると、入浴介助や排せつ介助が時間の多くを占めている点では大差はないが、小規模多機能型居宅介護では、業務の種類が多いことが特徴であった。

日勤帯以外の時間では、小規模多機能型居宅介護では排泄、送迎、掃除・点検・片づけ、見守りに多くの時間が割かれていた。また日勤帯では少なかった、服薬が上位に挙がっていた。小規模多機能型居宅介護では9割以上の時間が事業所内での業務であった。

ほかの事業所・施設と比べると、小規模多機能型居宅介護の一般介護職員は日勤帯以外でも業務の種類が多かった。図表4-52に日勤帯以外における小規模多機能型居宅介護と定期巡回、訪問介護との業務出現の組み合わせを示した。身体ケアやADL支援など共通の業務も多いが、訪問では送迎の時間がなく見守りを行っていないのに対して、小規模や定期巡回は行っていた。しかし、定期巡回では調理の代行は行っていなかった。また、通いの機能を持つ小規模多機能型居宅介護は、日勤帯以外でも、イベント企画の業務がある点は、定期巡回、訪問介護のいずれとも異なる特徴であった。

したがって小規模多機能型居宅介護は、基本的ケアに加え、日常的な見守りを日勤帯以外にも行うことで、利用者の生活を、点ではなく線でみることができ、かつ必要に応じて、生活支援を直接行うことも可能であることがわかる。

図表4-52 日勤帯以外における各事業所の業務内容における共通点と相違点

小規模・定期巡回・訪問で共通
排せつ介助 洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪) 着替え介助 配膳・下膳 服薬(確認・介助・指導) 入眠・起床介助 食事介助・水分摂取支援 食事摂取量観察・記録
小規模・定期巡回であり、訪問でない業務
見守り 待機・仮眠・休憩 掃除・点検・後片付け 介護記録作成 その他の業務 送迎 その他書類作成・記録
小規模・訪問であり、定期巡回でない業務
調理代行
小規模にのみある業務
イベント等企画

リーダー層についてみると、小規模多機能型居宅介護においては、リーダー層も事業所内で業務にあたるのが最も多く、86.0%の時間を当てていたが、事業所の外での業務も10.8%あり、その内容を見ると、利用者への生活支援に加えて、家族への対応や地域住民との情報交換に時間を割いていた。小規模多機能型居宅介護のリーダー層と訪問介護のリーダー層は、業務項目の多さという点では

似た傾向を示した。小規模の場合は送迎が、また訪問介護の場合は移動が日中の時間を占めていた。介護老人福祉施設のリーダー層は、業務の種類が最も多かった。しかし日中の多くの時間を、リーダー層であっても排泄と食事介助に充てていた。

2) 特色ある小規模多機能型居宅介護における業務量

本項では、小規模多機能型居宅介護において、ケアの困難度が高いと考えられる高齢者を多くケアしている小規模多機能型居宅介護が、どのような事業所特性および職員特性を持つのか、また業務達成度にそれらがどのように影響しているのかを明らかにし、地域包括ケアの実現に向けて求められる介護職員のコンピテンシーやその育成環境について検討する。

① 分析前の処理：事業所のケア難易度の指標化（ケア難易度指標の作成）

小規模多機能型居宅介護において、地域での利用者の生活を支える在宅サービスとして機能するためには、できるだけ訪問を多く行い、より高い要介護度や認知症度の利用者の在宅生活を支えることが重要であると思われる。そこでケアの難易度の指標として3つの条件を指標化した。

条件1 訪問サービスの頻度：1日の平均訪問利用者／登録者総数

条件2 利用者の要介護度割合：要介護3以上／登録者総数

条件3 利用者の認知症割合：認知症自立度3以上／登録者総数

上記の3指標に基づいて、指標の高さによって、その分布から等サイズになるようにそれぞれ3分類した。この分類を用いたときに、それぞれもっとも指標が高いグループ（上位33.3%）を、それぞれ訪問が多い事業所、要介護度が高い事業所、認知症度が高い事業所と操作的に定義した。なお、上位25%の基準値を図表4-53に示した。

図表4-53 特色のある小規模多機能型居宅介護の抽出基準

特色	抽出基準	指標化
条件1 訪問頻度が高い事業所	訪問利用者の割合=20%以上	1日の平均訪問利用者／登録者総数
条件2 要介護度が高い事業所	高い要介護度の利用者の割合=40%以上	要介護3以上／登録者総数
条件3 認知症度が高い事業所	認知症利用者の割合=40%以上	認知症自立度3以上／登録者総数

② ケア難易度の高い事業所に勤務する職員の抽出

次に、職員調査の回答者それぞれが所属する事業所のケア難易度指標を職員それぞれの所属事業所のケア難易度指標とした。この指標を用いて、ケア難易度の高い要介護者をケアしている事業所に勤務している職員を抽出した。

それぞれの事業所数、職員数を図表4-54に示した。

図表 4-54 ケア難易度の高い事業所

特色	対象事業所数	職員数
条件1 訪問頻度が高い事業所	6	300
条件2 要介護度が高い事業所	3	343
条件3 認知症度が高い事業所	6	350

③ 特色ある小規模多機能型居宅介護における日勤帯の業務量の特徴

特色ある小規模多機能型居宅介護における日勤帯の業務量を図表 4-55 に示した。

訪問頻度の高い事業所では、配膳・下膳に日勤帯の 11.5% を使っており、また食品の管理・整理や、調理代行や調理支援、すなわち食事に関する支援を中心に行っていた。

認知症者が多い事業所では、送迎が 6.9% の時間を使っていた。小規模多機能型居宅介護全体でも送迎はもっとも多い割合であったことから、多くの小規模多機能型居宅介護では、日勤帯は通いに業務の中心をおき、特に認知症の利用者が多い場合には、通いの機能が中心となって利用されていると考えられる。一方、重度者が多い事業所では、食事介助・水分摂取の支援、着替え介助・排せつ介助・入浴介助などの ADL 支援に関する業務が多くを占めた。また、重度者が多い事業所では、事例検討・カンファレンスに 1.6% の時間が充てられていた。

② 特色ある小規模多機能型居宅介護における日勤帯以外の業務量の特徴

特色ある小規模多機能型居宅介護における日勤帯以外の業務量を図表4-56に示した。

重度者が多い事業所では、身体的ケアに加えて、健康状態のチェックが上位に含まれていた。認知症者が多い事業所では、記録に多くの時間が割かれていた。また、洗濯の支援はほかの事業所では上位に入っていないため、認知症者の多い事業所で特徴的にみられるケアであると考えられる。

図表4-56 特色のある小規模多機能型居宅介護における日勤帯以外の業務量

小規模多機能(再掲) n=30			訪問が多い小規模多機能 n=6			重度者が多い小規模多機能 n=3			認知症者が多い小規模多機能 n=6		
日勤以外 全体			日勤以外			日勤以外			日勤以外		
事業所平均の業務時間(分)			事業所平均の業務時間(分)			事業所平均の業務時間(分)			施設平均の業務時間(分)		
888.9			891.7			1070.0			1015.0		
常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)			常勤換算職員数(人)		
1.0			1.0			1.2			1.1		
業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%	業務内容	分	%
排せつ介助	88.4	10.4%	排せつ介助	104.0	11.8%	排せつ介助	198.6	22.1%	排せつ介助	88.3	10.9%
見守り	64.3	7.1%	その他・仮睡・休憩	91.7	10.2%	その他・仮睡	188.6	20.4%	排泄	87.9	9.8%
掃除・点検・後片付け	64.1	7.1%	掃除・点検・後片付け	88.1	7.8%	入浴・起床介助	43.8	4.0%	介護記録作成	75.7	8.4%
排せつ介助	58.1	6.6%	見守り	52.6	5.8%	配膳・下膳	43.7	4.0%	排せつ介助	64.7	7.2%
介護記録作成	57.1	6.3%	調理代行	50.7	5.6%	掃除・点検・後片付け	43.1	4.8%	見守り	60.2	6.7%
その他の業務	49.2	4.8%	イベント等企画	43.7	4.8%	排せつ介助	43.1	4.8%	掃除・点検・後片付け	52.6	5.9%
洗濯等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	41.1	4.0%	その他書類作成・記録	42.9	4.8%	見守り	42.1	4.7%	その他の業務	47.3	5.3%
送迎	38.1	4.2%	介護記録作成	42.1	4.7%	食事介助・水分摂取支援	38.8	4.1%	その他のADL支援	41.7	4.6%
配膳・下膳	37.9	4.2%	その他の業務	40.4	4.5%	食事摂取量観察・記録	32.7	3.6%	配膳・下膳	34.4	3.8%
着替介助	37.3	4.1%	服薬(確認・介助・指導)	34.1	3.8%	着替介助	29.1	3.2%	食事介助・水分摂取支援	27.8	3.1%
服薬(確認・介助・指導)	28.5	3.2%	洗濯等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	32.6	3.8%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	28.4	2.9%	着替介助	24.9	2.8%
食事介助・水分摂取支援	28.5	2.9%	着替介助	28.7	3.0%	服薬(確認・介助・指導)	21.6	2.4%	服薬(確認・介助・指導)	24.9	2.8%
入浴・起床介助	24.3	2.7%	配膳・下膳	28.7	3.0%	介護記録作成	21.0	2.3%	洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪)	23.8	2.8%
その他書類作成・記録	24.0	2.7%	入浴・起床介助	25.2	2.8%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	19.6	2.2%	睡眠環境整備	22.7	2.5%
食事摂取量観察・記録	20.8	2.3%	起居姿勢管理(室内)	23.3	2.6%	体位交換	16.8	1.9%	調理代行	20.0	2.3%
調理代行	20.7	2.3%	健康状態チェック(バイタル・血圧等)	16.2	1.8%	その他書類作成・記録	16.8	1.9%	体位交換	18.8	2.1%
挨拶・日常会話・話し相手	14.2	1.6%	食事摂取量観察・記録	14.3	1.6%	送迎	12.6	1.4%	洗濯支援	17.7	2.0%
その他のADL支援	14.0	1.6%	調理支援	11.8	1.3%	調理代行	8.4	0.9%	介護計画作成	17.7	2.0%
健康状態チェック(バイタル・血圧等)	12.9	1.4%	挨拶・日常会話・話し相手	10.5	1.2%	整理整頓	7.0	0.8%	その他書類作成・記録	16.6	1.8%
起居移動移乗(室内)	11.6	1.3%	清拭	9.7	1.1%	スタッフの相談	5.6	0.6%	食事摂取量観察・記録	13.5	1.5%
イベント等企画	10.8	1.2%	送迎	9.3	1.0%	睡眠環境整備	4.2	0.5%	挨拶・日常会話・話し相手	11.6	1.3%
睡眠環境整備	9.9	1.1%	体位交換	8.4	0.9%	職員間業務調整	4.2	0.5%	起居移動移乗(室内)	11.5	1.3%
体位交換	9.3	1.0%	ごみの処理	8.0	0.9%	起居移動移乗(室内)	3.2	0.4%	相談(利用者本人)	10.3	1.1%
申し送り	7.0	0.8%	その他の生活支援	8.0	0.9%	起居移動移乗(室外)	2.5	0.3%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	8.9	1.0%
その他の生活支援	6.4	0.7%	申し送り	7.6	0.8%	その他のADL支援	1.4	0.2%	イベント等企画	8.9	1.0%
洗濯支援	6.0	0.7%	居室等掃除	7.1	0.8%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	1.4	0.2%	職員間業務調整	8.4	0.9%
傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.8	0.6%	睡眠環境整備	5.6	0.6%				入浴・起床介助	8.1	0.9%
介護計画作成	4.6	0.5%	傾聴(不安軽減等目的を持ったもの)	5.0	0.6%				健康状態チェック(バイタル・血圧等)	6.3	0.7%
相談(利用者本人)	4.4	0.5%	食事介助・水分摂取支援	3.6	0.4%				持ち物確認・荷物チェック	5.9	0.7%
調理支援	4.0	0.4%	ポータブルトイレ清掃	3.4	0.4%				食品の管理・整理	4.4	0.5%
ごみの処理	4.0	0.4%	その他のADL支援	3.4	0.4%				手洗い	4.4	0.5%
シフト作成及び変更	3.9	0.4%	洗濯支援	2.5	0.3%				整理整頓	3.7	0.4%
ポータブルトイレ清掃	3.6	0.4%	戸締まり、火の始末、防災	2.1	0.2%				戸締まり、火の始末、防災	3.3	0.4%
食品の管理・整理	3.5	0.4%	持ち物確認・荷物チェック	1.7	0.2%				入浴・清拭準備	2.2	0.2%
整理整頓	3.2	0.4%						居室等掃除	2.2	0.2%	
職員間業務調整	2.9	0.3%						来訪者対応	2.2	0.2%	
清拭	2.6	0.3%						ポータブルトイレ清掃	1.7	0.2%	
居室等掃除	2.5	0.3%						起居移動移乗(室外)	1.3	0.1%	
手洗い	2.2	0.2%						洗濯代行	1.1	0.1%	
行事・イベント・レクリエーション参加支援	2.0	0.2%						通信支援(電話・FAX)	1.0	0.1%	
持ち物確認・荷物チェック	1.9	0.2%									
洗濯代行	1.6	0.2%									
戸締まり、火の始末、防災	1.5	0.2%									
その他のコミュニケーション	1.3	0.1%									
起居移動移乗(室外)	1.3	0.1%									
その他の医療的ケア	1.0	0.1%									
入浴・清拭準備	0.1	0.1%									
スタッフの相談	0.1	0.1%									
来訪者対応	0.1	0.1%									
買物代行	0.1	0.1%									
相談(利用者家族等)	0.0	0.0%									
他職種との連絡調整	0.0	0.0%									
通信支援(電話・FAX)	0.0	0.0%									
身体機能向上訓練	0.0	0.0%									
医療機関との連絡調整	0.0	0.0%									
不明	6.2%		不明	6.4%		不明	3.4%		不明		

3 まとめ

本章では、業務量の事業所種別による比較と、特徴のある小規模多機能型居宅介護における比較を通して、包括的なケアに必要な業務を明らかにし、そのために必要な能力を考察する。

第一に、小規模多機能型居宅介護は、多機能であるべく介護職員が多様な業務を遂行している特徴があった。他の事業所と比べると、行う業務の種類が多いことが特徴であり、介護職員が従来以上に多様な業務を担う必要があることがわかった。一方で、小規模多機能型居宅介護の日勤帯における利用者の自宅での業務を、訪問介護と比較すると、訪問介護で行っている業務の種類の方が多かった。このことは小規模多機能型居宅介護における訪問の機能が、訪問介護と比べてもいまだ十分とはいえない状況を示している可能性もある。一方で、日勤帯の事業所内での業務を、通所介護と比較した場合には、明らかに小規模多機能型居宅介護における業務の種類が多かった。つまり小規模多機能型居宅介護における通い機能では、従来の通所介護とは異なり、より包括的で、小規模多機能の趣旨に沿った支援が徐々に実践されはじめていると考えることができるが、訪問機能について、明確な差が認められず、むしろ訪問介護の方が多様な業務を担っている現状であるといえる。小規模多機能型居宅介護における訪問機能を、今後いっそう地域包括ケアの視点にたった支援に、ブラッシュアップさせていくためには、訪問を多く行っている小規模多機能型居宅介護で必要とされている能力や技術を検討していく必要がある。そこで、訪問を多く行っている事業所の業務量の特徴を検討したところ、訪問を多く行っている事業所では、食事に関する支援が丁寧に行われていることが明らかになった。つまり、在宅での生活を支援するうえでは、自宅での食生活への支援が不可欠であり、それを維持するためには直接的な食事介助や調理代行だけではなく、できるだけ在宅生活を自分で維持できるように、自律に向けた調理支援や、冷蔵庫の中が不衛生になっていないかをチェックする、などのように、食品の管理・整理といったきめ細やかな配慮が必要とされていた。

したがって第二に、在宅での生活を支える上での訪問の機能は、食生活の維持が重要であること、また単に栄養摂取という観点からではなく、自立を見通して自分で食生活を維持できるように、背後から支援するようなかかわりが必要であることが考えられた。

第三に、重度の利用者を多くかかえる小規模多機能型居宅介護では、事例検討が多く行われており、また健康状態のチェックも多く行われていた。医療依存度の高い重度の利用者のケアにおいては、医療的ケアも不可欠となってくるであろう。また、事例検討やカンファレンスを通して、相互に情報交換することも必然的に求められる。このようなチームとして働く意識や、医療的ケアの知識・技術が、重度者をケアするうえでは必要であると考えられる。

最後に、地域包括ケアを実践するために必要なリーダーの能力として、他の機関や地域との連携以前の情報交換やお付き合いが円滑にできることが必要であることが示唆された。小規模多機能型居宅介護のリーダー層は、他の事業所・施設に比べて、事業所内にとどまらず、事業所外でも時間を過ごしており、その中には、地域との情報交換も含まれていた。その地域での利用者の継続的な生活を支援するためには、必要が生じてから連携するのではなく、日ごろからの近所づきあいや交流を円滑に行うような、コミュニケーションスキルは必須であろう。

第5章 ヒアリング調査

1. 目的

施設・事業所調査、職員調査、業務量調査を受けて、小規模多機能型居宅介護にも比較的ケアの困難度の高い利用者を受け入れつつ、業務達成度が高い優良な事業所があることが明らかになってきた。達成度の高く、かつケア困難度の高い事業所に所属し、評価の高い介護職員（リーダー職または管理者1名と一般介護職員1名）に対しヒアリングを行うこととした。

小規模多機能型居宅介護における介護職員に必要な能力やスキル、地域包括ケアや自立をめざした支援を実践する上で重要だと思われる介護職員に求められる能力やコンピテンシー、またそれらの育成等を明らかにすることを目的として、半構造化面接を行った。

2. 方法

(1) ヒアリング内容

ヒアリングの目的にあわせて、インタビューガイドを作成した。主な内容は図表5-1のとおりであった。

図表5-1 主なヒアリング内容

-
- 事業所の理念
 - 地域密着型サービスで求められる介護職員の能力・スキル
 - 能力・スキルの詳細
 - 利用者との良好なコミュニケーションに必要な能力・スキル
 - 自立支援をめざした見通しを持ったケアに必要な能力・スキル
 - 地域包括ケアに必要な能力・スキル
 - 人材育成と教育
 - (一般介護職員) どのように現在の能力・スキルを身につけたか
 - 今後、ケアについて学びたいこと
 - 現在の研修・人材育成の課題
 - (リーダー層) 小規模多機能型居宅介護事業所における人材育成の方法
 - (または定期巡回随時対応型訪問介護看護)
 - 現在の研修・人材育成の課題
-

(2) ヒアリング依頼先の選出と依頼

ヒアリングの実施に先立ち、全国事業所・施設調査ならびに全国介護職員調査の結果から、第4章に示した多優良事業所の3指標を参考に、ヒアリング候補となる小規模多機能型居宅介護事業所リストを作成した。このうち、回答した職員数が一定以上あることを条件として、さらに絞り込み、最終的に候補となった事業所については、ホームページ等で公開されている事業所情報を参考にして、ヒアリング先を選定した。なお、定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、小規模多機能型居宅介護との比較のために1施設においてヒアリングを行うこととした。

ヒアリングの依頼にあたっては、まず事業所の法人理事や代表者に口頭で説明して了解を得た。次に各事業所でヒアリングを行う際には、ヒアリング対象者にも調査の趣旨説明、途中辞退できること、研究成果の公開、データの目的外使用の禁止等、研究倫理に関する各項を説明したうえで、協力を得られた場合には、承諾書に署名を求めた。

(3) ヒアリングの実施

ヒアリングは、平成27年1月から3月に、ヒアリング対象者の所属する事業所において行われた。インタビュアーは、学識経験者および介護職員から昇格して現在管理者層にある者が担当した。

3. 結果

(1) 小規模多機能型居宅介護事業所：社会福祉法人京都老人福祉協会 醍醐の家 ほっこり

1) 事業所の概要

「醍醐の家 ほっこり」を運営する社会福祉法人京都老人福祉協会は、法人全体で、多くの地域密着型サービスを展開しており、法人内研修や人事交流、異動により介護職員の人材育成と質の高いケアの実践と標準化に努めている。

同じ建物の2階に認知症対応型共同生活介護（グループホーム）があり、1階で通所介護、居宅支援事業所、小規模多機能型居宅介護「醍醐の家ほっこり」が入っている。小規模多機能型居宅介護では、「住み慣れた地域でゆったり寄り添い、ひだまりのような醍醐の家」を目指している。法人全体としても、当該地域のみを事業対象として、住み慣れた地域での事業展開を行っている。

2) 対象者A（リーダー層）

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

利用者を見ることができない時間の様子を考える想像力

グループホームや施設では、利用者を誰かが常に見守ることが求められるのに対して、小規模多機能型居宅介護は在宅サービスであり、利用者が自宅で過ごすことを支援することが必要である。そのため、そばで見守るのではなく、利用者が職員の前にはいない時間帯にどのように過ごしているかを想像する力が職員に必要である。

コミュニケーションとチームとの連携

利用者を直接見守れない時間がある在宅サービスでは、見守れない時間の生活の様子を想像することが必要だが、一人での観察や想像では断片的なのでチームで共有することが大切。自分が観察したことや想像したことを、他の職員に積極的に伝える必要がある。そういう意味でのコミュニケーションとチーム連携の意識が必要である。だからこそ、チーム内の風通しが比較的よいのかもしれない。

対人スキルと一般常識

仕事を始めるまでに対人スキルや一般常識は必要。それ以外のことは入職してからでも身に着けることができる。

② 人材育成について

「中堅の壁」を超える人材育成

3年目あたりに、目標がわからなくなって停滞感が出てくる。それを超えてもらいたい。長くこの業界で働いてもらいたい。そのためには、仕事の中で新しい気づきがあったときに、それをやりがいとできるといいと思う。小規模多機能型居宅介護でのやりがいがある。

先回りした気づきができない職員の教育は具体的な指示の積み重ね

利用者を取りまく地域に自分からアプローチできるようになるために、できない人には細かく、こうしたほうがよいと指導する。指導者が丁寧に言ってあげないといけない。それにどのような態度をとるかは、その人の力で、スタッフ一人一人の目標は異なっているのではないかと。

3) 対象者 B (一般介護職員)

特養 4 年弱の経験後、現法人の別の小規模多機能型居宅介護に勤務。実務経験ルートで介護福祉士取得。福祉系大学卒。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

利用者とのコミュニケーション＝食事・睡眠・排せつの状態把握と心理的把握

利用者の自宅での、食事・睡眠・排せつの様子を、利用者とのコミュニケーションから知ることが必要になる。直接観察できないので、コミュニケーションが重要。また、利用者に不安じゃないか、寂しくないか、などの利用者の気持ちを小規模多機能型居宅介護ではたずねるが、特養ではたずねようという発想がない。利用者の心理的状态を重視していると感じる。

情報を取りに行くためのコミュニケーション（同僚や他機関、地域資源と）

利用者が自宅で暮らしているので、自分の観察だけで利用者の様子がわかるわけではない。同僚と情報交換を頻繁にするほか、利用者のことを知る方法があまりないので、コミュニケーションが頻繁になる。利用者の生活を継続するために、介護職員が自分から利用者の地域の関係者や関係機関に連絡を取り、情報共有を図ることも多い。情報を自分ら取りに行くことが必要になる。

社会人としての基本的な態度（マナー、敬語など）

特養では、介護職員の基本的な対象は、利用者であり、利用者家族とは挨拶程度のかかわりしかないが、小規模多機能では、家族から情報をもらったり、こちらから利用者の様子を伝えたり、家族とは距離がずっと近く、やりとりも頻繁。家族に対して失礼な態度をとっていないか、きちんとした敬語を使っているかについて気を付けることが必要。

言われたこと・決められたことを確実に実行する力

小規模多機能では臨機応変さが求められるが、最初からできるわけではない。言われたことや決められたことをまず確実に実行する力が必要であり、そこには、基本介護技術も必要になる。

② 人材育成と教育

寝たきり者が少ないので小規模多機能では基本介護技術は学びにくい

特養は利用者の介護度が高いので、介護技術は学ぶことができ、それがあつての今の小規模多機能の仕事だと思う。そうでなければ、小規模多機能での仕事は「御用聞き」になってしまう危険性もある。小規模多機能で介護度や重い認知症の人にかかわる場合には、経験のない介護職員は大変。

職員同士の細かな情報交換は必要なことだと先輩から伝えることが必要

小規模多機能では、職員が訪問先で不安なこと、わからないことがあれば、すぐに事業所に連絡して確認するが、それが「よくないこと」「未熟なこと」と認識している若手もいる。中堅以上でも、情報交換しながらやっていくものだというのを先輩から伝えていくことは必要だと思う。

事業所内の全体研修はシフトの関係で開催しにくい

基本的な介護や医療の知識は、小規模だけで行う必要性は低く、個々に研修に参加すればよい。ひもときシート、センター方式、ライフサポートプラン、など小規模多機能型居宅介護で特に活用できる手法は、本当は事業所全体で研修を受けたほうがよいと思うが、シフトの関係で開催しにくい。

医療的知識がもっと必要と感じる

一人で、利用者の家に訪問に行ったときに、顔色や体調から、深刻なものかどうか、受診が必要かどうか、そういう判断ができる程度の医療的な知識を身に着けたいと思う。

(2) 小規模多機能型居宅介護事業所：社会福祉法人京都福祉サービス協会 地域密着型サービスセンター welcome やまの家

1) 事業所の概要

「自由なひとりひとりがつながり、絆を紡ぐよりどこかでありたい」のスローガンのもと、小規模多機能型居宅介護事業所のほかに、地域との交流スペースや保育事業も併設し、地域の中での生活の継続性を重視したケアが実践されている。立ち上げ時より、多くの学識経験者や NPO 関係者等の意見を反映し、地域の誰でも歓迎できる事業所として地域づくりを意識して開設された。

2) 対象者 C (リーダー層)

福祉系短期大学卒業後、実務経験にて介護福祉士取得。介護老人福祉施設、通所介護事業所での勤務経験がある。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

臨機応変な対応を楽しめること

自分と違うものを受け入れない人とそれほど抵抗なく受け入れる人がいる。変化に対応していってよいサービスなので、決まりきったやり方をせず、自分で考えてやっていくことに面白さを感じられること。

自分の価値観ではなく利用者の価値観を認めること

自分の価値観から抜けられず、利用者に自分の価値を当てはめてしか理解できないと、利用者の望む生活を第一と考えることは難しい。利用者自身が自分の生活を変えようと思わない限り、利用者の生活の継続を第一に考える。

職員間のコミュニケーションをとる能力

小規模多機能型居宅介護では、利用者の考え方や生き方を重視するので、迷うことも多く職員が一人で判断するよりも、困ったらすぐに職員相互に相談しあうことがとても重要だと考えている。そのため、職員間でコミュニケーションをとりあうことができる必要がある。

利用者が「自立して生活したい」と思うことを目標にした支援に専門性がある (自立支援)

機能訓練にしても、単に平行棒で歩けるようになるだけではただの修行。自宅で暮らしたい、と活力をもって生きていこうという意欲を、引き出すことがケアの専門性であって、そこに自立支援の意味があるのだと思う。

御用聞きではなくアセスメントして安全な方向に動機づける専門性が小規模多機能で必要

利用者の考え方を尊重する一方で、そのままでは健康が維持できないとアセスメントされるときには、こちらから安全を優先して行動を変えさせるのではなく、利用者自身が行動を変えようと思うようにかかわってゆくのがケアの専門性で、小規模多機能ではそういう専門性が必要だと思う。

家族が「施設」と言い出さないように、見通して在宅生活をできるだけ継続させる

② 人材育成と教育

利用者の「生活を支える視点」の教育は難しい

介護技術は、学ぶほうも学びたいと思っており、教えるほうも教える方法を知っているのでいくらでも現場で指導できる。でも、利用者を第一に考える視点や生活を支える視点を教えるのは難しい。

援助方法を先輩から後輩に伝えることに小規模多機能型居宅介護は限界がある

通所介護や特養と異なり、小規模多機能型居宅介護では、個々の職員がそれぞれに活動しているため、利用者へのかかわり方について、後輩が先輩をそばで常に見るということができないので、学びにくい。

3) 対象者 D(一般介護職員)

入職前 1 年間に福祉施設（高齢者と障害者の入所施設・通所施設）の事務職員の経験。自宅で認知症の祖母の介護をしていたが仕事としては経験がなく入職。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

個人で考えて動くこと

だいたい一人で訪問に行くので、行った先での状況判断を自分でする能力がある。家族との会話でも、利用者との会話でも、ひとりでこなすので責任がある。また訪問介護と異なり、訪問先でやること（行為）がきめられているわけではない。訪問介護ならば掃除ならば掃除と決まっているが、小規模では必要があれば、「掃除はこのくらいにしておいて買物行ってくる」ということも可能。事業所の相談の電話をするにしても、自分で考えて動くことはずいぶん多いと思う。

② 人材育成と教育

介護技術がないと入職時の不安が増幅される

コミュニケーションが大事だとは思いますが、特に入職時に何もスキルがないと、よりどころなく不安。最初は利用者の状態像を自分がかかめていないのに、早い時期から一人になってしまうことも多い（夕方の時間帯など）。そういう時に、利用者の状態像がわからないのでどこまで見守ったり、手を貸したりすればいいのかの加減がわからないことに加えて、ケアの技術がないので、どうやって手を貸したりすればいいのかもわからず、二重に不安になる。

わからないことを教えてひとつひとつ教えてもらった

自分は先輩に「間違っていたら教えてください」と伝えて繰り返し、間違っているところは指摘してもらえた。一度ではわからないことも多い。自分に合わせて指導してもらえたのはすごくよかった。

(3) 小規模多機能型居宅介護事業所：特定非営利活動法人コレクティブ 小規模多機能ホームきなっせ

1) 事業所の概要

地域密着型サービスの制度実施前の平成11年より、地域の中で普通に認知症の人が暮らすことを目的に、宅老所として先駆的に事業を展開している。

要介護度が非常に高い利用者を多くケアした経験や、多数のターミナルケアの実践があるなど、小規模多機能型居宅介護として豊富な実践の積み重ねがある。小規模全国連絡会の代表の運営する施設であり、日頃から質の高いサービス内容を発信している。

2) 対象者E（リーダー層）

特養での経験を経て現職。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

利用者にあわせた時間を共にできることが楽しいと思えること

時間で管理された特養などとは異なり、小規模多機能型居宅介護ではその人の過ごし方に時間をあわせてゆく。それを楽しいと思えること。それになじめないとやめてしまう。

利用者も含めたチームで動くという意識

一人が何か失敗したとしてもその人ひとりの責任ではなく、チーム全体が考えてゆく。また利用者の担当がはっきり決まっているということもなく、チーム全体で利用者のことを把握していく。そうすることで、夜間や病院の受診時でも、利用者に対応したり、医師や看護師に状況を伝えることができる。ひとりひとりの職員が、担当と関係なく利用者のことをよく知っていることが理想である。

専門性よりも「利用者と寄り添う」姿勢を持っていること

専門性は時に害になることもある。専門性にこだわるとその見え方でした見えなくなる。専門性を持ちつつも、「普通感覚」を持ち、利用者が普通の生活を送ることができるように一緒に過ごしていくことが重要。

重度の利用者には医療的知識と医療職との相互の情報共有が必要

重度の利用者が多く登録していた時は大変ではあったが、チームでその都度話し合いを重ね、振り返れば重度の利用者のケアによって、多くのことを学んできた。ターミナルケアでは利用者を取りまく関係者すべてと対等に意見を言い合える関係を作ることが求められるので、これからは医療職や医療機関から情報をもらったり、地域からもっと情報をもらうなどが課題だと考えている。

② 人材育成と教育

施設経験があると「寄り添う」ことが理解しにくい

施設経験があると介護技術があるという点ではよいこともあるが、介護技術はあとからいくらでも学んでいくことができる。それよりも施設経験によって、利用者に寄り添っていくという考え方がなかなか理解されず、経験が弊害になることもある。経験のない人の方が、寄り添うという考え方をそのまま理解してくれる。

知識の研修も大事だが、利用者から学ぶ姿勢が最も大切

研修も大切だが、それよりも、目の前の利用者の反応から何をすればよいかを自分で学んでいく姿勢が大切。

3) 対象者 F (一般介護職員)

仕事ではなく、個人的にケアの経験がある。ヘルパー2 級を取得し、最初にグループホームでの経験、その後今の事業所に。介護福祉士の資格取得。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

コミュニケーションをとること

コミュニケーションのやり方は人それぞれだと思うが、コミュニケーションをとらないのはよくない。コミュニケーションは最初からできる人もいるが、そうでない人も経験でかわることがある。自分の場合は、生き方を変えたことがコミュニケーションが変わるきっかけになったと考えている。コミュニケーションをとることが好きじゃなくても、困らないようには経験でなると思う。

家族とのコミュニケーションでは方針は管理者などの仕事

家族とも特別なコミュニケーションが必要なわけではない。家族が不適切なケアをしているときは、こうしたほうがよいなどの示唆はするが、それ以降はケアマネジャーの仕事と思う。家族が利用者の医師に反して施設を考えている場合の家族へのかかわりもケアマネジャーの仕事だと思う。

観察する力

利用者への対応について、これからその人に起こりそうな変化を予見して、あらかじめそれを回避できるような観察する力が必要。あるいは、何かが起きてしまったら、すぐに対応するためにも、何か起きそうだということを察知できる観察力が必要だと思う。場合によってはそれが事故につながることもある。

介護技術の基本を学んでいること

標準的な介護技術は、そのままでは個々の利用者に使ってもうまくいかないが、知らなければそれを用いて、利用者に合わせることもできない。介護技術の基本は大切。

② 人材育成と教育

よいところを伸ばしてゆく指導

職員にも個性があり、その個性にあわせて伸ばせるところを伸ばしてゆくことで、責任感も生まれ、不足していた点まで伸びてゆくということがある。

後輩のよくないケアには、やり方を伝えるのではなく、自分で別のやり方を考えるような問いかけをする

後輩のよくないケアに気付いた時は、声をかけるが、よいやり方を教えるということはない。良いやり方は状況に応じて違うので、今のはよくないけどほかのやり方があったのではないかと伝えて、本人に考えてもらうことが大切だと思う。

経験からの学びは自分が困ることから

ただ単に月日を重ねればよいのではなく、経験として積み重ねることが必要。ただもっとも経験として身に付くのは自分が困ることによる。いくら他人が指摘したりして自分で考えても、結局は職員自身が困らない限り、なかなか学んでいけないのではないかな。

(4) 小規模多機能型居宅介護事業所：株式会社浪漫 共生ホームよかあんべ

1) 事業所の概要

全国小規模多機能型居宅介護字御者連絡会の理事の施設であり、全国研修会等で小規模多機能に求められる運営理念として、本人の存在感がそこにある暮らしを大切にして運営されている。介護度が高い人を介護しているほか、小規模多機能サービス開始以前から、地域での暮らしを支援する事業展開を行っている。

2) 対象者 G (リーダー層)

介護福祉士の専門学校卒後、療養型病院、老人保健施設などを経て、現在の事業所に勤務。認知症指導者研修修了、作業療法士、介護福祉士の資格保有。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

当たり前のこと（常識やマナーなど）ができること

小学生で学ぶような基本的な生活習慣やマナーなどを持っていてほしい。それがないと、現場に出たときに結局誰かがそのしりぬぐいをしなければいけない。それが大切なのは、それができていない環境が利用者にとって、不適切であるから。

基本介護技術

やはり基本の介護技術はどのような介護の業態でも必要だと思う。ただし、技術や専門性は新しい知識を取り入れることの弊害になったり、専門性ということでそれに頼って新しい学びがなくなったりすることがあるので注意が必要。場合によっては基本介護技術がなくても、利用者の生活を大切にするようなセンスを持っているほうがいいことも。技術はもちろん基本なのであったほうがいいが、仕事を始めてから学んでいくこともできる。

学び続けようとする意欲・成長しようとする姿勢

ケアは、ケアする人が成長してゆくことが必要で、自分が学ぶ姿勢をやめてしまったらケアはできない。経験していく中で、教育段階で学んだ介護概論などに重要な意味があることに気付くためには、学ぶ意欲が必要。

対外的な交渉力や主張する力・毅然とした態度

小規模多機能型居宅介護では、キャリアの浅いうちから家族に説明したり、家族に安心してもらえるようにかかわったりする必要がある。また地域の中で利用者の様子について発言したり、交渉したりする機会も多い。単に利用者に寄り添っていただけではなく、きちんと対外的に第三者に信頼されるような態度で交渉力や主張する力を持っていること。

② 人材育成と教育

利用者を中心に考えるという価値は未経験者の方が共有しやすい

介護を効率よく手際よくやるのではなく、ひとつひとつ丁寧に意味を考え、利用者を中心にしかかわるという価値を大切にしており、それを職員には共有してもらいたい。こうした理念は、経験のない人の方が受け入れやすい。

利用者の生活の場としての事業所で教育を同時に行うことの難しさ

小規模の事業所は、利用者にとっては生活の場。利用者が暮らすところで、職員に指導したい場面があったとしても、業務指導することは利用者にとっては緊張につながると思うと、なかなか指導でき

ず、教育機会を逃してしまうこともある。

在籍する職員全体で事業所としての能力のバランスをとる

介護技術に長けていたり、利用者の気持ちを的確に把握したりと、職員によって能力や得意なことが異なる。そのため、事業所全体として発揮できる能力のバランスがとれるように採用段階で配慮することがある。

3) 対象者 H (一般介護職員)

直前まで製造業現業職。介護の仕事は未経験で現在の事業所に入職。高齢者介護の仕事はずっとやりたい仕事だった。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

介護の手際だけではなくコミュニケーションを大切にすること

自分の親に手際だけのケアはいや。寂しいと言ったらできるだけそばにいられるようにする。それができる小規模多機能でよかったと思う。最初は介護だけすると思っていたらそうではなかった。

その人の思いに合わせること

今日は何をするという決まりはない。思いを知ることができるようにいつも考えている。沈黙も最初は気まずくて何か話さなければと思ったが、沈黙にも大切な意味があるとわかってから、仕事が面白いと思えるようになった。

自分で考えて動くこと

一人で訪問に行って、そこで自分一人で判断することも多い。ただ決まった介護をすればいいのではない。訪問する時間や、そこで行われるかかわりも、自分にまかされている。そういう楽しさがある。

② 人材育成と教育

経験がないので教えてもらったことはそのまま吸収する

経験がない分、新しく教えてもらうことはそのまま吸収する。他の経験者はどうしてもそれまでに身につけた介護技術が染みついている、新しく良い方法を研修で学んでも、元のやり方に戻ってしまう。

認知症の人への見通しをもったかかわりが今後の課題

認知症の人に対して、少し先を予見してかかわることが難しく、不穏になってから後手後手に対応してしまう。先輩の中には、自分のかかわりが利用者の不穏を招くことに気付いていた先輩がいて、すごいと思う。今後の課題。

丁寧なコミュニケーションとケア

手際ではなく丁寧なかかわりを、もし先輩ができればそこは外さずに伝えていきたいと思う。

(5) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：社会福祉法人射水万葉会 天正寺サポートセンター

1) 事業所の概要

天正寺サポートセンターは小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、認知症対応型通所介護などを行っている。スローガンは「底なしの親切・喜び」であり、その人の喜びを自分の喜びにしていく、という理念でケアが行われています。訪問系サービスの規模が大きいので、求められる介護職員像の標準モデルを描きやすい。また、24時間定時随時と夜間対応型の2種類を展開している。職員教育に力を入れており、キャリアパスが明確などの特徴がある。

小規模多機能型居宅介護事業所との比較として定期巡回・随時対応型訪問介護看護における職員の能力や教育について把握する目的で、定期巡回・随時対応型訪問介護看護と夜間対応型訪問介護のリーダー層2名からヒアリングを行った。

2) 対象者I・J（定期巡回・随時対応型訪問介護看護および夜間対応型訪問介護のリーダー層）

対象者Iは定期巡回・随時対応型訪問介護看護の所属。訪問系の経験が長く複数の事業所の経験がある。介護福祉士・介護支援専門員。対象者Jは夜間対応型訪問介護の所属。介護福祉士・介護支援専門員。医療法人での勤務を経て、現在の法人に入職し、複数の事業の経験がある。

① 地域密着型サービスに必要な介護職員の能力・スキル

裁量がある分現場で判断する決断力や判断力が必要

訪問介護は訪問して、介護職員が行う行為が決められているが、定期巡回の場合は、現場の裁量が大きく、判断をしたり、自分で情報をとることが必要になる。

利用者の自立のためにも利用者の要望を聞きすぎて、地域との関係性を断絶させないようにする

利用者が地域の中で暮らすということは、利用者の地域や家族との関係を継続させるということ。一般論だが、訪問介護の経験があると、事業所の利用者獲得という背景があつてつい利用者のいうことは何でも聞きすぎるといった傾向がある場合が多いように思う。しかしそれでは、利用者と地域や家族との関係を断ってしまうことになる。それまで家族や近所の人がやってくれていたことを断ち切ってしまつては、地域での生活の支援にならないということを、介護職員にはわかってもらうことが必要だと思っている。

誰が行っても均質で継続しうるケアの提供

人と人とのつながりよりも、人と事業所とのつながりが大切だと思う。深いつながりを求める職員も多いが、それでは継続的な支援はできない。誰が行っても大丈夫なように支援を継続させることが重要。ケアを提供する人の誰かがやりすぎてしまうと、利用者からみて好きな職員と嫌な職員ができてしまうので、そういうことが起こらないように、介護職員にはよく理解してもらいたい。

社会の中で生きていく上でのモラルやルールを身に着けていること

イレギュラーな対応が必要になった時に、介護保険の制度の中だけで考えていると、臨機応変な対応ができなくて、おかしいと感じているのに何も対応しないでやり過ごすようなことが起きてしまう。そこで、そのままではいけない、という常識的な感覚がないと、自分の裁量で判断するということが難しいように思う。採用時にそういうことが身につけているかどうかはわからないことも多

いが、ふつうは入職してからでも身につけていくものと思う。といっても経験で自然に身に付く人と、1つ1つ教えていって初めて身に付くひとがいる。

コミュニケーション能力

その人の生活にできるだけ踏み込まずに、その人らしい生活を維持していくような支援。自宅で生活するからには、他人である我々があまり生活に踏み込まないことが重要だと考える。

確実な介護技術の実践

手早く介護ができるということよりも、確実に尿漏れしない、確実に転倒しない座位の保持、のよう
に確実であることが重要。半年もすればふつうはそれなりに技術的には定型的な訪問はできるよう
になると思う。それまでは誰かが同行している。

受容と傾聴はただ聞くだけではなく、その人のやり方を尊重するという

例えばおむつじゃなくて、ふんどしを使いたい、という利用者がいたときに、まずは利用者が、「ふ
んどしを使いたい」ということを受け止めていくのが受容。しかし学校で習ってきた傾聴と受容を、
ただ単に相手の話を聞いているだけ、と理解している場合も多い。思いに応えればそれが支援だと思
っている人もいる。

利用者の立場にたって利用者が喜んでい

法人理念もそうだが、やはり、近所の人が利用者に何かよくしてくれたり、利用者が何かができるよ
うになったり、そのような利用者にとってのうれしい変化を、介護職員自身もうれしいと感じて喜べ
ることが大切でその積み重ねだと思う。上司から褒められてうれしいとか、利用者から感謝されてう
れしい、というのではなく、利用者が家族に「ありがとう」と言って亡くなったという話を聞いて、
うれしいと感じたりすること。

② 人材育成と教育

やりすぎないケアの教育

ミーティングや個別の指導、行ったケアをひとつひとつ説明して、理解してもらいたいと思う。
しかしどうしても変わってくれない人もいる。その人は、自分が行っているような、利用者の要望を
すべてそのまま聞き入れてしまうようなケアが本当はよいケアだと信じているので変わらないのでは
ないかと思う。場合によっては、定期巡回という制度がなぜできたのか、ということも含めて丁寧に
説明して、理解を図っていく。それがリーダーの仕事だと思う。

技術は施設で身につけるとよいが、そのまま在宅ですべて適用可能ではない

施設経験がある人の介護はやはり違うと感じる。淡々と手早くこなせる。それは悪いことではない
し、よいことと思う。最初から定期随時でいると、手早い介護は身に付きにくい。ただし、施設でみ
いに着けた介護技術がそのまま在宅でも通用するかというとそうでもない。例えば、おむつひとつに
してもそれぞれ使っているものが違う。施設ならば、こちらの慣れているおむつを使ってもらおうとい
う発想になるが、在宅ではその人が使いたいというおむつに、こちらが慣れてゆくことが必要。

利用者の方の些細な変化に気付くのに2年以上かかる

普段からその人を良く観察すること。それで初めて変化に気付くことができるが経験2年でもまだ足
りないのではないかと。先輩が、気づきのポイントのようなものを示してくれるとよい。

医療や身体についての知識の習得

病気のことや身体機能のことなどは基本的なこととして知識をもっておいてもらいたい。

4. まとめ

以上のヒアリング調査から、小規模多機能型居宅介護に必要な介護職員に必要な能力・スキルと、介護職員の人材育成・教育について以下にまとめた。

(1) 小規模多機能型居宅介護に必要な能力・スキル

① 包括的な在宅サービスという業務形態から求められる能力・スキル

小規模多機能型居宅介護は、包括的、在宅サービスという2つの特徴がある。このことから、包括的であるという点では従来の通所介護や訪問介護と異なり、在宅サービスという点では介護老人福祉施設とは異なっている。そして、包括的に在宅生活を支えるということは、あくまで在宅を中心に生活を送る利用者の、見えない日常生活を想像することが、介護職員に求められることになる。そのため以下のような能力が必要である。

図表5-1 包括的な在宅サービスという業務形態から求められる介護職員の能力・スキル

必要な能力・スキル	補足説明
想像力・推測する力	利用者を観察できない在宅での暮らしをどのように送っているかを考えることができる
コミュニケーション力	利用者と、家族と、同僚と。
チームケア感覚	同僚と利用者情報を日常的にやりとりする
発言力・対外交渉力	地域へ、同僚へ。キャリアの早い段階から必要とされる

② 地域での生活の継続を目指すために必要な能力・スキル

小規模多機能型居宅介護を含めて、地域密着型サービスは、利用者が地域でできるだけ長く生活することを支援してゆくことを目指している。その際、利用者のそれまでの生活スタイルを維持しつつ、介護度が徐々に上がってきたときでも、できるだけ安全に暮らすことを支援できる能力やスキルが求められる。

図表5-2 地域での生活の継続を目指すために必要な介護職員の能力・スキル

必要な能力・スキル	補足説明
利用者を中心に考えるケア観	
基本ケア技術	手早くできることは大切ではあるが、仕事の効率優先ではなく、その人に合わせたケアを確実に行うことができること。
利用者の意欲を引き出す力	生きる活力を引き出し、安全行動を利用者自ら取りたくなるようなかわり。
家族から信頼される振る舞いや対応	家族が、利用者の在宅生活をあきらめないように予見し、協力を引き出す。

③ 見通しをもったケアに必要な能力・スキル

在宅生活では、何かが起きてから対応するのではなく、あらかじめ生じそうなことを予見し、それを回避しようとする手だてをあらかじめとっておくようなケアの方法が必要である。

図表 5-3 見通しをもったケアに必要な介護職員の能力・スキル

必要な能力・スキル	補足説明
利用者の生活を見通す力	時間経過によってどう変化するか（重度化など） 環境変化によってどう変化するか（認知症など）

（２） 小規模多機能型居宅介護で課題のある能力・スキル

① 入職前に持っていてほしい知識・技能・態度

入職前に介護職員に持っていてほしいとヒアリングで指摘された、知識や技能、態度について図表 5-4 に示した。

図表 5-4 入職前に持っていてほしい介護職員の知識・技能・態度

必要な能力・スキル	補足説明
ケア技術	それだけでよいわけではないが、基本として必要。
常識や礼儀	特に認知症の人の環境を整える点で重要。
指示を守って業務を行う態度	
自分で考えて動くことができる	業務の裁量が大きいので、早い段階から自分で判断できること
「普通の人」としての感覚	専門性によって「普通感覚」を忘れないこと
問題意識を持つ	常に内省的であること
学び続ける意欲や態度	

② 現在の人材育成に不足していること

医療とケア技術については、知識の不足感を介護職員が感じていた。図表 5-5 に現在の人材育成に不足していることを示した。

図表 5-5 現在の人材育成に不足していること

必要な能力・スキル	補足説明
医療的知識	今後、利用者が重度化したり、ターミナルケアでは必須。
基本ケア技術	小規模多機能型居宅介護では、一人で訪問するなど先輩の様子を見る機会が少ないので、学ぶ機会が少なくなってしまう。
介護度が高い人へのケア技術	現在の小規模多機能型居宅介護では寝たきりなど重度の利用者は少なく、介護度の高い人へのケアの経験が積みにくい。

第6章 まとめと提言

1 調査結果の概要

(1) 小規模多機能型居宅介護における業務内容の構造（職員調査の結果から）

業務遂行と達成に関する質問項目について、小規模多機能型居宅介護の介護職員を対象として因子分析によって、構造を明らかにすることで特徴を明確にした。その結果、一般介護職員で7因子、リーダー層で4因子を抽出し、それぞれの因子ごとに負荷量が高い項目を所属項目として採用した（図表6-1）。さらに、各因子について、因子の表す意味と因子名について、項目作成時に作成した大分類・中分類・小分類およびWHOの慢性疾患ケアのためのコンピテンシーをもとに検討し、以下のように命名した。

<一般介護職員を対象とした尺度（リーダー層でも分析）>

- A 1：安全・健康に向けた基本的ケア
- A 2：観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア
- A 3：継続的支援のためのコミュニケーション
- A 4：生活機能向上の働きかけ
- A 5：安心に向けた穏やかなコミュニケーション
- A 6：事業所内情報交換
- A 7：自立への働きかけ

<リーダー層のみを対象とした尺度>

- B 1：自立の見通しを持った支援計画
- B 2：地域との交流と提案
- B 3：効果的な人材育成
- B 4：終末期ケアにおける連携

図表6-1 (再掲) 採択された業務遂行の項目 (A1~7およびB1~4は因子をあらわす)

項目		
一般介護職員の業務遂行	A1	入浴や排泄の際に転倒しないよう環境を確認する 入浴や排泄の介護の前に、利用者の様子をよく観察する 手際よくオムツを交換する 食事の際に、うまく呑み込んでいるかを確認しながら介助する 利用者の苦痛がないよう、スムーズに移乗を行う 入浴の際に、皮膚の状態から病気や異常の有無を確認する 本人のペースや希望に沿って入浴や食事の介護をする
	A2	介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に発見する 認知症の利用者が普段と異なる様子のときは、その原因を探す 認知症の人が今の生活をできる限り自立して続けられるよう、工夫して支援し続ける 担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く 介護記録を分かりやすい表現で正確に書く 自分のかかわりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する 利用者の家族と良好な信頼関係を形成する
	A3	現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める 介護が受け入れてもらえない時でも、何度でも受け入れてもらえるように工夫して関わり続ける 機能向上や自立できることについて、見通しを持ちながら支援する 介護をする前に利用者の意思や希望の確認をする 介護の方法や内容について本人が選択できる場合には選んでもらう 意欲のない利用者に対して、やる気を高めるように声をかける
	A4	できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する。 利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする
	A5	認知症の利用者の不安を低減させるために、穏やかな表情や動作をする 認知症の利用者が介護を拒否するときでも、怒ったり困ったりしないでかかわり続ける 利用者に安心してもらえるように穏やかな態度で声をかける
	A6	事業所・施設内の介護職どうしで利用者の状態について日頃から情報交換する 事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する
	A7	利用者が自分でできそうなことは、自分で行うように励ます 利用者が少し頑張ればできることは、利用者が自分で行えるように支援する
リーダー職の業務遂行	B1	支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する 支援の計画に沿った介護が実践されているかを確認する 利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する 利用者の情報をまとめて、生活を続ける上での課題と対策を明らかにする 認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する
	B2	地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する
	B3	介護職員の育成計画を作成する 部下と面談して目標を定め、客観的に部下を評価する 部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る 先輩が理解できるように、ていねいに現場での指導を行う
	B4	終末期にある利用者の全身状態を、医療職と連携して情報共有する 終末期にある利用者の意志を、家族や医療関係者と協力して尊重して支援する

(2) 小規模多機能型居宅介護における業務遂行率（職員調査の結果から）

小規模多機能型居宅介護の介護業務の現状について、介護職員調査における「遂行率」を指標に検討した（図表6-2）。小規模多機能型居宅介護で遂行率が低い項目を検討したところ以下のようであり、今後充実していく課題と考えられる。

<小規模多機能型居宅介護の遂行率が低かった項目>

- ・地域との情報交換や連携等に関する項目
- ・人材育成に関する項目
- ・終末期ケアにおける連携に関する項目

また、小規模多機能型居宅介護での業務遂行の特徴を明確にするために、業務遂行率が、小規模多機能型居宅介護において、①介護老人福祉施設より5%以上高い項目、②通所介護、訪問介護のいずれかより5%以上高い項目、③定期巡回・随時対応型訪問介護看護と5%以上差があった項目を検討した。一般介護職員向け項目で明らかになった7つの因子に関連する項目は、いずれかの事業所・施設と異なる遂行率を示しており、小規模多機能型居宅介護の特徴を表していると考えられる。

①小規模多機能型居宅介護の遂行率が介護老人福祉施設より5%以上高い項目

<一般介護職員>

- ・楽しめるようなレクリエーション等を企画・実施すること
 - ・利用者の地域での暮らしに関して先の見通しをもつこと
- ※通所サービスおよび地域でのサービスの性質を反映した項目が該当した。

<リーダー層>

- ・地域での情報交換や交流に関すること

②小規模多機能型居宅介護の遂行率が、通所介護または訪問介護より5%以上高い項目

<一般介護職員>

- ・観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケアの項目
- ・継続的支援のためのコミュニケーションの項目
- ・生活機能向上への働きかけの項目（とくに訪問介護と大きな差）
- ・事業所内情報交換の項目

<リーダー層>

- ・地域の他機関や医療との情報交換や交流、連携に関する項目
- ・認知症ケアについて先の見通しをもった支援計画の提案や見直し
- ・終末期ケアにおける連携に関する項目

③小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護の間で差が大きい項目

<一般介護職員>：小規模多機能型居宅介護の方が5%以上高い項目のみ

- ・生活機能向上への働きかけの項目
- ・健康・安全のための基本的ケアの項目
- ・観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケアの項目

<リーダー層>

●小規模多機能型居宅介護の方が高い項目

- ・ 地域の機関や医療との関わりに関する項目
- ・ 人材育成計画
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の方が高い項目
- ・ 家族との連携・情報共有に関する項目
- ・ 終末期における医療連携
- ・ 地域での会議への出席・発言
- ・ 見通しや希望を重視した支援計画

図表6-2 (再掲) 各事業所・施設における業務遂行率

業務遂行の65項目		業務遂行率(回答者のうち、業務を行っていると回答した者の割合)															
		小規模多機能型居宅介護		複合型サービス		定期巡回・随時対応型訪問介護看護		介護老人福祉施設		通所介護		訪問介護					
		一般介護職員	リーダー	一般介護職員	リーダー	一般介護職員	リーダー	一般介護職員	リーダー	一般介護職員	リーダー	一般介護職員	リーダー				
		1298	319	34	7	116	77	1117	393	139	69	243	128				
小規模多機能型居宅介護事業所の一般介護職員による業務遂行率の高い項目(因子分析の対象項目)	●A5 利用者に安心してもらえるように穏やかな態度で声をかける	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	99.6%	99.0%	99.3%	100.0%	99.2%	96.1%				
	○利用者が自分でうまくできたときに、一緒に喜ぶ	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	99.2%	98.7%	100.0%	100.0%	97.9%	96.1%				
小規模多機能型居宅介護事業所の一般介護職員による業務遂行率の低い項目(因子分析の対象項目)	■B1 利用者の情報を家族と共有し、必要に応じて家族から情報収集する	91.8%	91.8%	82.4%	100.0%	82.8%	90.9%	78.7%	79.1%	80.6%	91.3%	75.3%	90.6%				
	■B2 地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	67.7%	67.1%	32.4%	57.1%	25.9%	72.7%	53.0%	71.0%	25.2%	46.4%	25.1%	60.2%				

●業務遂行率のまとめ

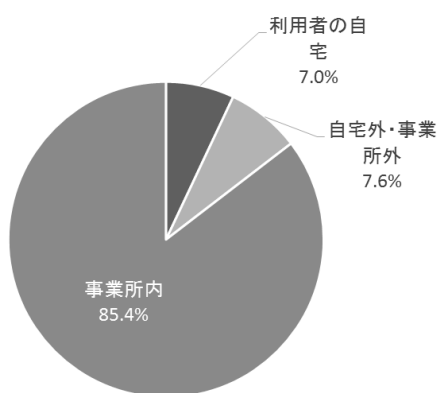
以上を総合すると、前述の因子にあてはめると、小規模多機能型居宅介護の介護職員の業務内容は、居宅における統合的サービスの特性を生かし、以下のような点についての取り組みが特徴的であると考えられる。

- ・ 観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア
- ・ 継続的支援のためのコミュニケーション
- ・ 生活機能向上の働きかけ
- ・ 事業所内情報交換
- ・ 自立の見通しを持った支援計画
- ・ 地域との交流と提案（特徴でもあり、今後さらに充実が必要）
- ・ 効果的な人材育成（今後さらに充実が必要）
- ・ 終末期ケアにおける連携（今後さらに充実が必要）

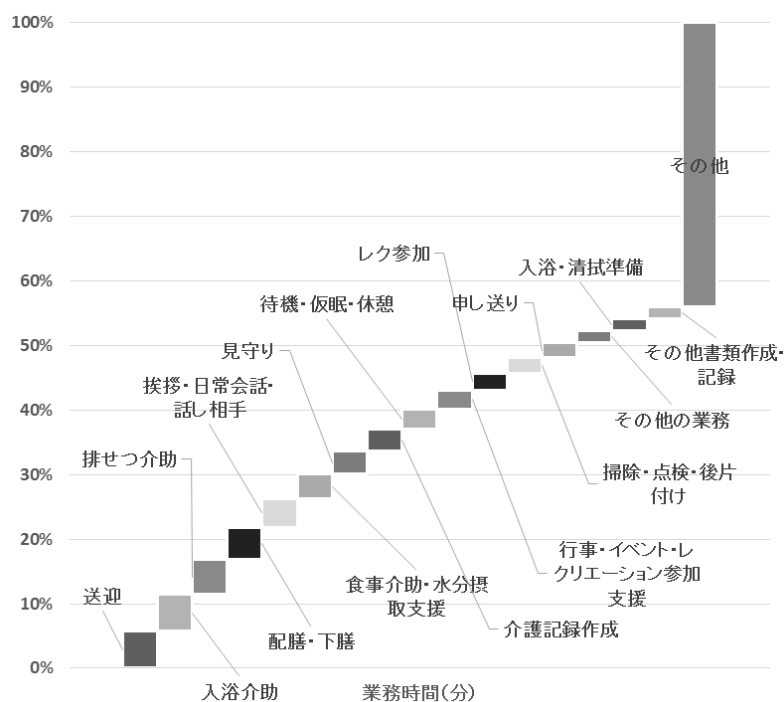
（3）小規模多機能型居宅介護の業務内容（業務量調査の結果から）

小規模多機能型居宅介護の日勤帯は、1事業所1日平均で39時間5.6分の業務量があり、これは常勤換算すると4.9人に相当した。この業務の提供場所別の内訳を図表6-3、6-4に示した。

なお、日勤帯以外の時間は、1事業所1日平均で888.9分であり、常勤換算で約1名分の業務量に相当した。業務内容は、排泄、送迎、掃除・点検・片づけ、見守り、服薬が上位に挙がっていた。



図表6-3 日勤帯小規模多機能型居宅介護の業務提供場所比率



図表6-4 日勤帯小規模多機能型居宅介護の業務内容（常勤者1名あたり平均業務時間）

＜全体としての業務量・内容の特徴＞

- ・日勤帯であっても 85.4%の時間を事業所内の業務にあてている
- ・業務内容としては、送迎、入浴、排せつ、配膳下膳などの基本的介護が上位
- ・挨拶、話し相手、レクリエーション参加や見守りなどの多様な業務が含まれている
- ・利用者の自宅での業務時間割合が 7.0%にとどまり、今後の課題であると考えられる。

次に小規模多機能型居宅介護の業務の特徴を明確にするために、日勤帯の業務内容および時間について、他事業所・施設と比較した結果を図表 6-5 に示した。なお、太字は該当の事業所・施設で出現していなかったものを示し、その他は常勤一人当たりで換算した勤務時間内での割合で 2%以上の違いがある項目を抽出した。

図表 6-5 小規模多機能型居宅介護と他事業所・施設で業務時間に違いがある項目

小規模多機能型居宅介護が多く行っている業務

小規模多機能型居宅介護が少ない業務

定期巡回随時対応型訪問介護看護
レク参加 身体機能向上訓練 その他の機能訓練・アクティビティ 趣味活動(室内)支援 地域との交流、行事参加 BPSDへの対応 送迎 挨拶・日常会話・話し相手 見守り 行事・イベント・レクリエーション参加支援 レク参加 入浴・清拭準備

定期巡回随時対応型訪問介護看護
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等) 移動 居室等掃除 買物代行 調理支援 介護計画作成

介護老人福祉施設
買物代行 送迎 挨拶・日常会話・話し相手 行事・イベント・レクリエーション参加支援 レク参加 その他の業務 その他書類作成・記録

介護老人福祉施設
起居移動移乗(室内) 食事摂取量観察・記録 洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪) 居室等掃除 その他のADL支援

通所介護
その他の生活支援 調理代行 ポータブルトイレ清掃 その他の医療的ケア 買物代行 地域との交流、行事参加 スタッフ教育・指導 見守り 介護記録作成 その他の業務 服薬(確認・介助・指導)

通所介護
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等) 着替え介助 洗面等、身体整容(口腔清潔、洗顔、整髪) 戸締まり、火の始末、防災

訪問介護
行事・イベント・レクリエーション参加支援 レク参加 食品の管理・整理 身体機能向上訓練 趣味活動(室内)支援 その他の医療的ケア 事例検討・カンファレンス 入眠・起床介助 BPSDへの対応 送迎 配膳・下膳 挨拶・日常会話・話し相手 食事介助・水分摂取支援 見守り 入浴・清拭準備 健康状態チェック(バイタル・血圧等) 食事摂取量観察・記録 その他のコミュニケーション 傾聴(不安軽減等目的を持ったもの) その他の機能訓練・アクティビティ

訪問介護
他機関との連絡調整(サービス担当者会議等) 居室等掃除 移動 その他書類作成・記録 調理支援 その他のADL支援 買物代行 調理代行 地域との交流、行事参加 ごみの処理 職員間業務調整 洗濯支援 清拭 戸締まり、火の始末、防災 シフト作成及び変更 手洗い

＜小規模多機能型居宅介護の業務量の特徴＞

- ・統合的サービスの性質を反映して、介護老人福祉施設と最も差異が少ない。
- ・ただし、基本介護を行う時間が施設よりは少ないことで、基本ケアのスキルを身につける機会が不足している可能性。
- ・地域との交流を行う時間は他の事業所より多い。職員に地域に溶け込み、連携する能力が必要。
- ・機能向上を目指す活動は全般として多いが、レク参加、趣味活動支援、行事参加等が多い。もし、今後もこの機能を重視するならば、通所と訪問が連携した生活機能向上への取り組みが課題。
- ・調理や買物について、「代行」ではなく、「支援」ととどまっている。利用者の属性の影響もあるが、見通しを持って、自立支援の観点からの支援が行われている可能性がある。

（４）業務の項目別遂行率・達成率

職員調査における業務遂行と業務量の調査によって、小規模多機能型居宅介護の介護職員の遂行すべき業務内容の特徴が明確になった。つぎに、業務遂行について、「うまくできた」について自己評価ではあるが、業務の達成について調べて結果を概観する。なお、「業務達成率」としては、各項目において、「行った」と回答した人のなかで、「3 どちらかといえうまくできた」または「4 うまくできた」と回答した人の割合を指標とした。

その結果として、小規模多機能型居宅介護の業務達成の状況をみるために、遂行率が高いが達成率が低い項目を図表6-6に示した。その結果から得られた今後の課題は以下の通りである。

＜一般介護職員における今後の課題＞

生活機能の向上・・・居宅での生活を支える生活機能向上を図ること

観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア・・・生活上の課題の発見・予測

継続的支援のためのコミュニケーション・・・困難さの理解と対応による居宅生活の継続支援

＜リーダー層における今後の課題＞

効果的な人材育成・・・育成計画の作成と目標・評価の客観性

地域との交流・提案・・・地域包括支援センター、医療機関との連携、地域ケア会議の出席と発言

図表6-6（再掲） 小規模多機能居宅介護事業所において遂行率と達成率の差が大きい業務の項目

業務遂行の65項目		一般介護職員		リーダー層	
		遂行率	達成率	遂行率	達成率
一般介護職員 の業務	●A4 利用者が今よりも円滑に身の回りのことを自分で行うために必要な機能訓練を提案する	82.3%	47.3%	95.0%	60.7%
	●A4 利用者のこれまでの生活像について丁寧に聴き、生活の目標を明らかにする	80.0%	48.5%	94.4%	64.8%
	●A3 利用者が地域で暮らすために困難なことについて、先の見通しを持ちながら支援を進める	85.5%	54.1%	97.8%	67.3%
	●A2 介護記録や事故報告書から、介護や職場の課題を的確に発見する	84.9%	55.8%	96.9%	70.9%
	○ 利用者が食べたいものを聞きながら食事の介助をする	93.9%	57.8%	93.4%	64.4%
	●A3 現状では利用者の生活への希望が満たせない時でも、あきらめずに希望に沿えるよう工夫し続ける	95.6%	60.9%	100.0%	74.9%
	●A4 利用者が楽しめるようなレクリエーションやアクティビティを企画・実施する	91.4%	61.6%	93.4%	72.1%
	●A4 自分のかかわりが、認知症の利用者にどのような変化を与えるか予測しながら介護する	91.7%	62.5%	97.2%	83.5%
	●A2 認知症の利用者が普段と異なる様子のときは、その原因を探す	92.9%	63.1%	97.5%	83.9%
	●A2 担当している利用者について、よりよい介護の方法を職場内で提案する	86.5%	66.8%	97.2%	84.5%
	●A3 機能向上や自立できることについて、見通しを持ちながら支援する	96.6%	67.7%	98.7%	79.4%
	●A4 できるだけ利用者が体力を維持できるよう、体を動かす活動を取り入れる	93.6%	69.2%	97.5%	79.4%
	●A3 介護が受け入れてもらえない時でも、何度でも受け入れてもらえるように工夫して関わり続ける	95.4%	69.4%	98.7%	77.1%
	●A3 意欲のない利用者に対して、やる気を高めるように声をかける	99.1%	69.5%	99.4%	75.4%
	●A2 認知症の利用者が生活の中でできるだけ失敗しないですむように、環境を整える	91.8%	70.8%	98.1%	81.5%
	●A2 介護記録を分かりやすい表現で正確に書く	94.7%	71.1%	96.2%	83.1%
	●A5 認知症の利用者が介護を拒否するときでも、怒ったり困ったりしないでかかわり続ける	96.9%	72.1%	98.4%	83.4%
	○ 事業所・施設の理念の内容を理解し、実践する	95.1%	73.5%	97.8%	83.7%
	●A2 認知症の人が今の生活をできる限り自立して続けられるよう、工夫して支援し続ける	94.4%	75.4%	97.8%	87.2%
	●A2 事故やヒヤリハットの報告書を書式にしたがって正確にわかりやすく書く	80.7%	76.2%	88.1%	88.3%
●A6 事業所・施設内の他の専門職と利用者の状態について日頃から情報交換する	84.4%	76.8%	94.7%	88.7%	
○ 楽しく食事を摂ることができるように、雰囲気配慮する	97.8%	77.3%	98.1%	84.7%	
○ 本人が自分で身の回りのことをできるように環境を整える	96.3%	78.6%	98.7%	84.1%	
リーダー層 の業務	■B3 介護職員の育成計画を作成する	22.1%	41.6%	58.0%	48.6%
	□ 地域の住民と日頃から顔見知りになり情報交換する	65.0%	40.4%	89.0%	51.4%
	■B3 部下と面談して目標を定め、客観的に部下を評価する	15.9%	47.1%	52.0%	56.0%
	■B2 利用者の介護について、地域ケア会議等の外部の会議で発言・主張する	37.0%	45.0%	58.9%	58.0%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と利用者の状態について日頃から情報交換する	31.6%	48.0%	67.4%	60.0%
	■B2 地域包括支援センターや市町村と日頃から交流を持つ	31.6%	49.8%	67.1%	61.7%
	■B2 地域の医療機関と、日頃から交流を持つ	43.3%	50.1%	74.3%	62.0%
	□ 認知症の利用者のBPSDが生じないように、あらかじめ状況を改善する	63.4%	47.8%	89.0%	64.8%
	□ 地域行事や集まりに利用者が参加できるように支援する	62.8%	63.3%	83.4%	65.4%
	□ 地域の医療機関と、利用者の状態について日頃から情報交換する	47.5%	56.1%	79.0%	67.1%
	■B3 部下が勉強会や研修会に参加する機会を作る	18.3%	51.9%	62.1%	68.2%
	■B1 認知症の利用者に、今後生じる生活上の課題を予測して支援計画を作成する	38.9%	52.4%	71.2%	68.7%
	■B3 後輩が理解できるように、ていねいに現場での指導を行う	59.3%	65.8%	90.0%	69.0%
	■B1 支援の計画に沿った介護が実践されているかを確認する	71.4%	57.8%	94.0%	69.3%
	■B1 支援計画の目標の達成度を評価し、計画を見直す、または見直しを提案する	65.1%	51.2%	90.3%	69.4%
■B1 利用者の生活への希望をできるだけかなえるような支援計画を作成する	55.0%	53.9%	82.4%	71.5%	
□ 事業所・施設の中で、利用者の介護に関するカンファレンスを企画・実施する	37.5%	65.6%	79.0%	71.8%	
■B1 利用者の情報をまとめて、生活を続ける上での課題と対策を明らかにする	74.9%	49.9%	94.4%	72.8%	

(5) 業務達成度と背景要因の関連

1) 背景要因の整理

背景要因と業務達成度との関係を包括的に明らかにするため、小規模多機能型居宅介護事業所の一般介護職員を対象として、背景要因のうち、それ以外の背景要因からの影響や、今回検討した以外の要因から影響を受けやすいと考えられる「仕事への態度」に含まれる項目以外の、背景要因の尺度得点を用いた主成分分析（主因子法バリマックス回転）を行い、結果から、経験学習と達成動機、他者志向の共感、仕事に対する基本的態度、職場での支援・教育、内発的動機づけ、自己志向の共感、外発的動機傾向、曖昧さの受容、の8変数にまとめて合成得点を算出した。まとめられた変数と含まれた項目を図表6-7に示した。この8変数の合成得点を用いて、業務達成度を目的変数とする重回帰分析を階層別に行った。

図表6-7（再掲） 背景要因尺度得点の因子分析によるカテゴリ化

経験学習 経験学習_具体的経験 経験学習_内省的経験 成長学習への動機づけ 曖昧さ享受 経験学習_抽象的概念化 達成動機	職場での支援・教育 関係性支援 有能さ支援 自律性支援 教育機会 内発的動機づけ 同一化的調整 内発的動機づけ 共有経験得点
他者志向の共感 対同僚他者志向 対同僚情動伝搬 対利用者他者志向 対利用者情動伝搬 対同僚視点取得 対利用者視点取得	自己志向の共感 対同僚自己志向 対利用者自己志向 曖昧さ不安 共有不全経験得点
仕事に対する基本的態度 職場コンプライアンス チーム意識 仕事への誠実さ	外発的動機づけ傾向 外的調整 取入れ的調整 曖昧さの受容 曖昧さ受容 曖昧さ排除(反転)

2) 背景要因と業務の達成度との関係

事業所・施設の種類ごとに、一般介護職員とリーダー層の2群に分けて、因子別に合計得点を算出した「業務達成度」と背景要因の関係を検討するために、業務達成度を目的変数、背景要因（8因子に整理して合成得点を求めたもの）を説明変数とした重回帰分析を行った。

ここでは、小規模多機能型居宅介護における業務達成度と背景要因の関係について、結果を抽出して、図示化した結果を図表6-8、6-9に示した。

結果を要約すると以下の通りである。なお、表中の◎は、標準偏回帰係数（ β ）が $p < .05$ で有意、△は β が $p > .05$ ではあるが、 $\beta > 0.1$ （+：正の影響、-：負の影響）を表す。

<業務達成度に正の影響を持つ要因>

- 「仕事に対する基本的態度」：チーム意識を持ち、仕事に誠実に取り組む人
 一般介護職員、リーダー層ともすべての業務達成度に影響
- 「経験学習と達成動機」：仕事の経験を自分で省察し、目標を達成しようという意欲が強い
 一般介護職員：事業所内情報交換以外で業務達成度に影響
 リーダー層：質の高いケアに関する業務達成度（自立、見通し、コミュニケーション）に影響
- 「職場での支援・教育」：職場での教育機会が多く、内発性を高める支援も多い
 一般介護職員：基本的ケア以外で業務達成度に影響
 リーダー層：リーダー業務も含め、すべての業務達成度に影響
- 「他者志向の共感」：他者の様子を見て、その人の視点に立って感じていることを推測する傾向
 リーダー層でいくつかの業務達成度に正の影響

<業務達成度に負の影響を持つ要因>

業務達成度に負の影響がある：その背景要因が強い人ほど該当の業務達成度が低い傾向にある

- 「自己志向の共感」：自分ならばこう感じるという「自己の視点」による共感を示す傾向
 一般介護職員：生活機能向上・自立への働きかけ以外で業務達成度に負の影響
 リーダー層：見通しをもった認知症ケア、2種類のコミュニケーション、自立への働きかけ、地域との交流・提案について負の影響
- 「曖昧さの受容」：曖昧さがあることを受け入れ、解決しないでおく傾向
 一般介護職員：基本的ケア、2種類のコミュニケーション、自立への働きかけで負の影響
 リーダー層：地域との交流・提案に対して負の影響

図表 6-8 小規模多機能型居宅介護の一般介護職員の重回帰分析結果

一般介護職員		安全・健康を維持する基本的ケア	記録・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ
	経験学習と達成動機	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎		+◎
	他者志向の共感				-◎		+◎	
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育		+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	内発的動機づけ							
	自己志向の共感	-◎	-◎	-◎		-◎	-◎	
	外発的動機傾向			+◎	+◎			
	曖昧さの受容	-◎		-◎	-◎			-◎
	R2=	0.254	0.331	0.249	0.212	0.282	0.172	0.133

図表6-9 小規模多機能型居宅介護のリーダー層の重回帰分析結果

リーダー層		安全・健康を維持する基本的ケア	記録・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア	継続的支援のためのコミュニケーション	生活機能向上への働きかけ	安心に向けた穏やかなコミュニケーション	事業所内情報交換	自立への働きかけ
	経験学習と達成動機		+◎	+◎	+△	+◎		
	他者志向の共感	+◎	+◎			+◎	+◎	
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+◎	+△
	内発的動機づけ							
	自己志向の共感		-◎	-◎		-◎		-◎
	外発的動機傾向							
	曖昧さの受容							-△
	R2=	0.330	0.526	0.415	0.302	0.416	0.243	0.193

リーダー層		自立の見通しを持った支援計画	地域との交流と提案	効果的な人材育成	終末期ケアにおける連携
	経験学習と達成動機	+◎			+△
	他者志向の共感		+△		
	仕事に対する基本的態度	+◎	+◎	+◎	+◎
	職場での支援・教育	+◎	+◎	+◎	+◎
	内発的動機づけ				+△
	自己志向の共感		-◎		
	外発的動機傾向	-△			
	曖昧さの受容		-◎		
	R2=	0.277	0.275	0.256	0.286

(6) ヒアリング調査の結果

1) ヒアリングの要約

- ・ 包括的な在宅サービスでありながら、利用者と接する時間が限られているという業務形態
 - 想像力・推測する力（利用者を観察できないときにどうしているかを考える）
 - コミュニケーション力
 - チームケア感覚、同僚と利用者情報を共有
 - 発言力・対外的交渉力（地域へ、同僚へ：早い段階から必要とされる）
- ・ 本人の自宅・地域で、その人の生活を継続していくことを支援する
 - 利用者を中心に考えるケア観
 - 基本的ケア＝手早くできることは必要だが、仕事の効率の観点ではなく、その人に合わせたケアをていねいに行うこと
- ・ 在宅生活を続ける、ということ自体が自立支援そのものである
 - 家族等に、利用者の自立支援ということを知ってもらえることが大切（自己決定と安全とのはざま）
- ・ 見通しをもったケアが必要となる
 - 自分や同僚の業務の見通しではなく、利用者の生活に対する見通しが必要
 - 認知症の人へのかかわりでは、「この先に何が起こるか」を考えることが必要

・最初に持っていてほしい知識・技能・態度

ケア技術（介護の技術は仕事の中で身に付くという意見と基本が大切という意見あり）

常識や礼儀を持っていること（当たり前のこと）

指示や言われたことは守って業務を行う

自分で考えて動く

「普通の人」の感覚

問題意識を常に持っていること

学び続ける意欲や態度

・現在の人材育成に不足していること

医療的知識の不足感

基本ケア技術の不足感（見よう見まねでよいのか不安・先輩の様子を見る機会も少ない）

介護度の高い人へのケアの経験（小規模ではなかなか積めない）

・定期巡回・随時対応型居宅介護との違い

利用者との距離感について、小規模多機能型居宅介護では近いことが大切とされていることが多いが、ヒアリング先の定期巡回では誰でも仕事として利用者に接して、だれが訪問しても同じ効果が得られるようにすることが必要だと考えていた。自立支援を無視して何でもいろいろやってくれる職員を気に入るような状況が起きてしまうと、一定の方針を持った支援が難しく、利用者の自立を損ねてしまう。

2) ヒアリングから得られた小規模多機能型居宅介護に必要な能力・スキル

想像力・推測する力：利用者を直接観察できないときにどうしているかを考える

コミュニケーション力：利用者、同僚とも

発言力・対外交渉力：地域へ・同僚へ。自分の意見を述べる。

チームケア感覚：チーム意識を持った行動（目標や業務を共有する必要がある）

利用者のことを中心に考えるケア観：自立支援にもつながる

基本的ケア技術：丁寧で確実、利用者の支援に立つ

自立支援：在宅生活の継続

見通しをもった支援：利用者の生活や将来の見通しを持って、ケアする力を身に着けたい。

家族から信頼される振る舞いや対応：家族が利用者の在宅生活をあきらめないように、信頼を得て協力を引き出す。

不足している能力・スキル・知識とその育成の課題

医療的ケアへの不安→研修に自費で参加している人もいるが、不十分な印象。

基本的ケア技術の不足→一人での業務も多く、ケア技術を学ぶ機会が少ない。

介護度が高い人へのケア技術への不安→利用者が重度化すると、重度の人のケアの経験を積むことができているので不安。

2 まとめと提言

以上のように多角的な調査結果から、小規模多機能型居宅介護のような統合型の在宅サービスにおいて、求められる業務内容と遂行や達成の状況およびそれを支える背景的要因について明らかにしてきた。その結果をもとに「要介護（認知症を含む）になっても、自宅・地域で暮らし続けられること」を目標とした支援のあり方とそれを支える高度な介護人材に求められる能力、それを養成しうる教育課程についての提言をまとめる。

目標：要介護（認知症を含む）になっても、自宅・地域で暮らし続けられること

【支援の方針】

パーソンセンタードケア（尊厳の保持）

健康行動変容のサポート

セルフマネジメント支援

効果的なコミュニケーション

プロアクティブアプローチ

協働の重視（利用者・家族・地域・他の支援者）

統合的支援の実現：目標の共有，情報交換，チーム意識

質の向上への取り組み

成果・プロセスの測定・評価（計画・評価）

学習による変化（人材育成の重要性）

エビデンスの実践への反映（ケア会議，事例検討等の重視）

認知症者・重度者を支えるケア

適切な知識・ケア手法の反映

【重視する支援の方法】

<一般職員～>

安全・健康に向けた基本的ケア

観察・アセスメントによる見通しを持った認知症ケア

継続的支援のためのコミュニケーション

安心に向けた穏やかなコミュニケーション

自立への働きかけ

生活機能向上の働きかけ

事業所内情報交換


<中堅～リーダー層>

自立の見通しを持った支援計画

地域との交流と提案

効果的な人材育成

終末期ケアにおける連携


【ケアを支える基本的能力】**経験学習**

具体的経験、内省的経験、抽象的概念化等

仕事への態度

仕事への誠実さ、チーム意識、職場コンプライアンス

他者志向の共感

他者視点の取得、自己志向からの転換

【ケアを支える職場環境】

職場での教育機会・内発的動機づけ支援

- 地域における支援を行う統合的なケアサービスにおいては、以上のような能力をもち、行動が可能なケア職員を各事業所に配置することが必要となる。
- そのためには、地域包括ケアに携わるケア職員の専門的教育を行い、その配置について一定の評価を行うことが必須であると考えられる。
- 以上の結果で明らかになったように背景にはケアという仕事に対するとらえ方、自ら経験学習を積んでいく学習姿勢、他者への理解等を基盤として必要とするものである。
- そのため、実務者向けの研修で修得が可能な内容とは想定しがたく、理念の理解と背景として必要とする能力開発、専門的な知識・技術を修得できる教育課程が必要であると考えられる。
- 以下は、大学あるいは専門職大学院を念頭に置き、必要と考えられる専門教育の科目を挙げたものである。

【対象者像】

- 専門職大学院にて実施する場合には、介護福祉士、看護師、社会福祉士等の資格を保持し、1, 2年の実務経験を有する者
- 大学教育として実施する場合には、他の資格取得のための課程と並行することも考えられる。

【目標とする人物像】

- 地域における統合的ケアを実践的に推進していく人材
 - 職務への使命感, 身体・心理・ケアに関する知識,
 - ケア計画の立案・評価, 地域における交渉・連携, 職種間連携のパイプ役
 - 職場における教育の計画・実践

【求められる知識・技能】

＜基本理念の理解＞

地域包括ケアの基本的理念

仕事や学習への態度形成

＜ケアを支える総合的知識（含 老化に関する理解）＞

身体の構造・生理機能に関する基本的知識

疾病に関する基本的知識

心理に関する基本的知識

＜ケアの知識と技術＞

心身の変化に応じた（利用者に負担を与えない）標準的ケア技術

認知症に関する知識・ケア技術

生活行為・生活機能に関する知識・技術

リハビリテーション・機能訓練に関する知識・技術

コミュニケーション・他者理解に関する知識・技術

＜チームと教育に関する知識・技術＞

組織やチーム行動に関する知識・技術

人材育成・教育に関する知識・技術